

---

# 武蔵村山市民意識調査

---

## 報告書

平成 21 年 9 月  
武蔵村山市



# 武蔵村山市民意識調査 報告書

## 目次

### 第1章 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 回収結果	2
4 報告書の見方	3

### 第2章 市民意識調査結果

1 調査結果の概要	5
2 回答者の属性	7
3 集計結果	11
(1) 市の将来像	11
(2) 生活環境の満足度	16
(3) 市のまちづくり施策	26
(4) 土地利用	28
(5) 都市基盤整備	33
(6) 大規模農地の活用	41
(7) 定住意向	43
(8) 産業振興	53
(9) 環境	58
(10) 安全安心（防災、消防、防犯、交通安全等）	63
(11) 消費生活	68
(12) 高齢者施策	72
(13) 障害者施策	77
(14) 子育て施策	82
(15) 社会保障制度	87
(16) 生涯学習	91
(17) 教育	96
(18) コミュニティ・交流	101
(19) 男女共同参画	110
(20) 市民参加	167
(21) 市民協働	170
(22) 行政評価	175
(23) 広域行政	182

(24) 情報公開	187
(25) インターネット上での行政手続	192
(26) 自由意見	197

### 第3章 資料編

1 武蔵村山市民意識調査票	221
---------------	-----

# 第 1 章 調査の概要

---



# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本市では、平成 22 年度をもって計画期間が満了となる第3次長期総合計画と、平成 21 年度をもって計画期間が満了となる男女共同参画計画（男女 YOU&I プラン）について、それぞれ次期の計画を策定することとなっている。

本調査では、これらの策定にあたり、より市民ニーズに即した計画とするため、生活環境や市の施策・事業に関して、市民の意識や要望を把握する事を目的としてアンケート調査を実施した。

## 2. 調査の方法

### (1) 調査地域及び対象者

本調査の調査地域は、武蔵村山市全域とし、住民基本台帳から等間隔無作為抽出した市内在住の 15 歳以上の男女 2,000 人とする。

### (2) 調査期間

平成 21 年 2 月 1 日（日）～平成 21 年 2 月 22 日（日）

### (3) 配布・回収方法

郵送による配布・回収。

### (4) 調査項目

#### 1) 回答者の属性

回答者の属性について、以下の設問を設けた。

- |                   |                     |            |         |
|-------------------|---------------------|------------|---------|
| 1. 性別             | 2. 年代               | 3. 居住年数    | 4. 居住地区 |
| 5. 住居形態           | 6. 職業               | 7. 勤務先・通学先 |         |
| 8. 勤務先・通学先までの交通手段 | 9. 最寄りの駅・バス停までの交通手段 |            |         |

#### 2) 市民意識調査

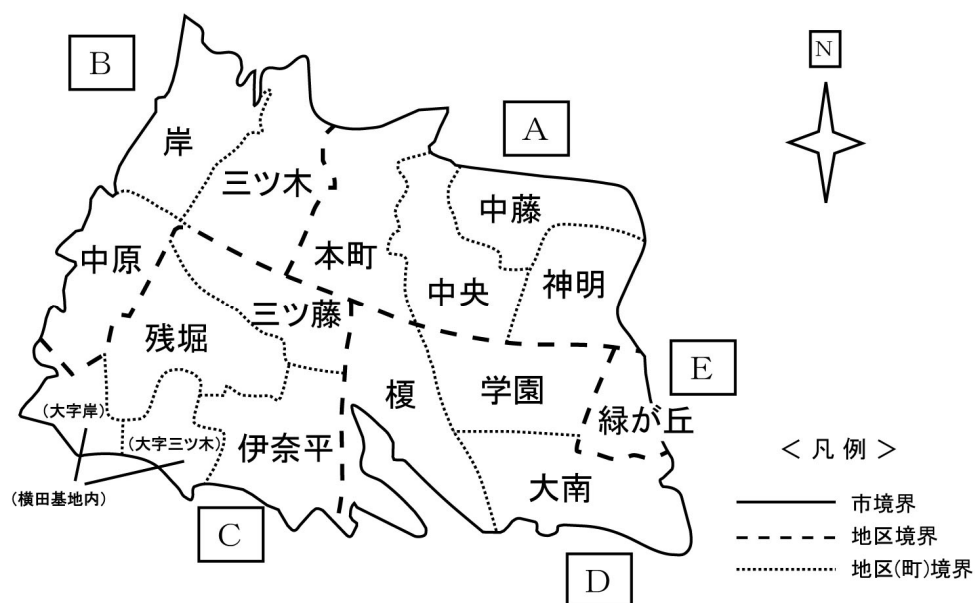
市民の生活環境や市の施策・事業について、以下の設問を設けた。

- |                    |             |               |
|--------------------|-------------|---------------|
| 1. 市の将来像           | 2. 生活環境の満足度 | 3. 市のまちづくり施策  |
| 4. 土地利用            | 5. 都市基盤整備   | 6. 大規模農地の活用   |
| 7. 定住意向            | 8. 産業振興     | 9. 環境         |
| 10. 安全安心           | 11. 消費生活    | 12. 高齢者施策     |
| 13. 障害者施策          | 14. 子育て施策   | 15. 社会保障制度    |
| 16. 生涯学習           | 17. 教育      | 18. コミュニティ・交流 |
| 19. 男女共同参画         | 20. 市民参加    | 21. 市民協働      |
| 22. 行政評価           | 23. 広域行政    | 24. 情報公開      |
| 25. インターネット上での行政手続 |             |               |

### 3. 回収結果

回収結果については、全体の対象者数 2,000 のうち、有効回収数は 746 (37.3%) であった。

項目	対象者数	有効回収数	有効回収率(%)
A地区	380	160	42.1
中藤	73	32	43.8
神明	102	41	40.2
中央	98	46	46.9
本町	107	41	38.3
B地区	316	118	37.3
三ツ木	105	43	41.0
岸	82	24	29.3
中原	129	51	39.5
C地区	427	148	34.7
残堀	155	54	34.8
伊奈平	134	47	35.1
三ツ藤	138	47	34.1
D地区	667	257	38.5
榎	72	21	29.2
学園	182	64	35.2
大南	413	172	41.6
E地区	210	62	29.5
緑が丘	210	62	29.5
不明	—	1	—
合計	2,000	746	37.3





#### 4. 報告書の見方

- ①比率は全て百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分比の合計が100%にならないことがある。
- ②基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- ③1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- ④図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- ⑤この調査の標本誤差は以下の式によって得られる。

##### ◆標本誤差

今回のように15歳以上の市民全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことを言う。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差  
N = 母数集団  
n = 比率算出の基数（サンプル）  
P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (P) 基数 (N)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
746 人	±2.20	±2.93	±3.36	±3.59	±3.66
600	±2.45	±3.27	±3.74	±4.00	±4.08
400	±3.00	±4.00	±4.58	±4.90	±5.00
200	±4.24	±5.67	±6.68	±6.93	±7.07

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} = 1$  として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

##### <注/この表の見方>

例えば、問16の回答者は746人で、武蔵村山市に今後も「住みたいと思う」との答えが60.5%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.59以内（56.91～64.09%）である」とみることができる。



## 第 2 章 市民意識調査結果

---



## 第2章 市民意識調査結果

### 1. 調査結果の概要

#### (1) 市の将来像、生活環境の満足度、まちづくり施策への要望

市の将来像については、「生活環境と自然環境が調和したまち」、「安全安心で健やかなまち」がそれぞれ50%を超える結果となっている。

武蔵村山市での生活・暮らしについては、「満足とじている割合（満足している、どちらかといえば満足している）」は約40%、「不満とじている割合（不満である、どちらかといえば不満である）」は約30%となっている。生活環境の項目別にみると、「日常の交通の便利さ」や「道路・交通の安全さ」、「道路の整備状況」等の項目において、満足度が低くなっている。

また、まちづくり施策への要望として、「モノレールの導入」が極めて高い割合で望まれている。

#### (2) 土地利用、都市基盤整備等

今後の土地利用については、「緑地を保全した緑豊かな土地利用」が約60%を占め、自然環境に配慮した土地利用計画が強く望まれている。

また、今後の都市基盤整備については、「モノレールの早期開通」が約70%、「歩道の整備、歩車道の分離、車両の交通規制などの交通安全対策」が約50%となっており、道路・交通環境に関わる都市基盤整備が望まれている。特に、駅までの交通手段の円滑化について、極めて高い割合で整備・取り組みの要望が多くなっている。

#### (3) 定住意向

今後の定住意向については、「住みたいと思う」が約60%を占め、「住みたいと思わない」が約10%となっている。

住みたいと思う理由としては、「家や土地を持っているから」、「緑が多く、自然環境がよいから」、「地域に愛着があるから」等の理由が多くを占めており、住みたいと思わない理由としては、「生活に不便だから」、「通勤・通学に不便だから」、「市に発展性がなく、将来に期待できないから」等の理由が多くなっている。

#### (4) 少子高齢化対策等

高齢者施策としては、「高齢者に対する医療制度」、「高齢者にやさしい交通機関や施設、道路・歩道の整備」に関する要望が多く、障害者の自立支援施策としては、「誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備」に関する要望が多い。子育て支援施策としては、「子どもの医療費助成・児童手当など、子育てをする世代への経済的支援」に関する要望が多くなっている。

また、社会保障制度については、「保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービスの水準は維持、向上させるべき」、「保険料負担（支払）を許容できる範囲内にとどめるためには、受けるサービスの水準の抑制も仕方がない」との回答がそれぞれ約30%を占め、ほぼ同等の割合となっている。

#### (5) コミュニティ・交流

自治会については、「重要である（とても重要である、どちらかといえば重要である）」との回答が約50%を占め、自治会の加入状況としては、「加入している」、「加入していない」がそれぞれ約50%を占め、ほぼ同等の割合となっている。

自治会に加入しない理由としては、「いずれ役員・当番を務めることとなり、面倒である」等の意見が最も多くみられる。

## (6) 男女共同参画

男女平等については、全体として、社会的に男性が優遇されていると感じており、女性優遇を感じている割合は低くなっている。

また、女性が職業を持つことについては、「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」と考えている人が約45%と半数近くを占めている。

男女共同参画社会の実現に向けた施策としては、「保育所、学童クラブなどの子育て支援施設」や「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスによる女性の負担軽減」、「市政への女性市民の参画・登用の促進（審議会など）」等の取り組みが高い割合で求められている。

DVについては、全体として認知度は高く、あるべきでないとの認識が高いものの、DV経験者の中には、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」等の理由から『どこ（誰）にも相談しなかった』との回答がみられる。また、DVをなくすための施策として、「被害者を保護する体制を充実する」、「暴力をふるう加害者への対策を進める」、「相談機関を充実させる」等の取り組みが求められている。

ワーク・ライフ・バランスについては、「言葉も内容も知らない」との回答が50%を超え、認知度は低い結果となっている。また、ワーク・ライフ・バランスの推進によるプラス効果としては、「安心して子どもを産み育てることができる環境の形成」、「仕事と家庭の両立環境や子育て環境の整備」等の効果が考えられている。

## (7) 市民参加・市民協働

今後の行政への関わりについて、「行政が主催する活動の場に参加したり、行政の募集に応じてボランティアとして活動する」、「行政の活動に対して監視・評価を行う」が約15%となっている。また、「わからない」が約20%と高い割合を示している。

市民協働については、市民協働の参加意向は「特になし」が約40%と最も高い割合を示している。

## (8) 行政評価・情報公開等

行政評価については、「行政評価を知らない」との回答が約75%を占め、行政評価における認知度は極めて低くなっている。

情報公開については、「市報・広報誌」のサービスの充実を求める割合が約80%と極めて高くなっている。

インターネット上での行政手続におけるサービスの充実については、「各種証明書発行の申請」が約50%、「各種公共施設の予約」、「各種イベントの申し込み」がそれぞれ約40%を占め、高い割合を示している。

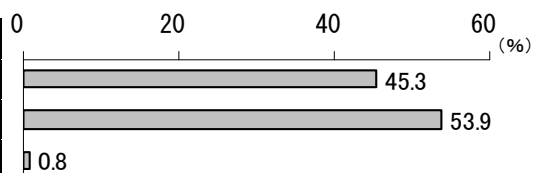
## 2. 回答者の属性

回答者の属性の集計結果を以下に示す。

### 問1 あなたの性別はどちらですか。

項目	回答数	構成比(%)
(1)男	338	45.3
(2)女	402	53.9
(3)無回答	6	0.8
計	746	100.0

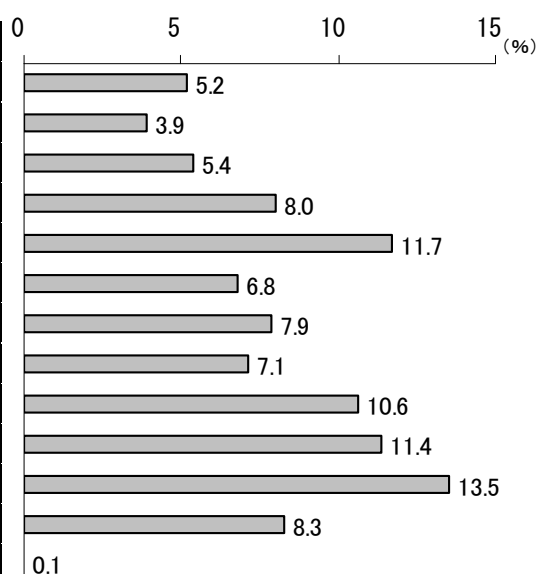
※有効回収数 746 をもとに構成比を算出。



### 問2 あなたは、何歳ですか。

項目	回答数	構成比(%)
(1)15～19歳	39	5.2
(2)20～24歳	29	3.9
(3)25～29歳	40	5.4
(4)30～34歳	60	8.0
(5)35～39歳	87	11.7
(6)40～44歳	51	6.8
(7)45～49歳	59	7.9
(8)50～54歳	53	7.1
(9)55～59歳	79	10.6
(10)60～64歳	85	11.4
(11)65～69歳	101	13.5
(12)70歳以上	62	8.3
(13)無回答	1	0.1
計	746	100.0

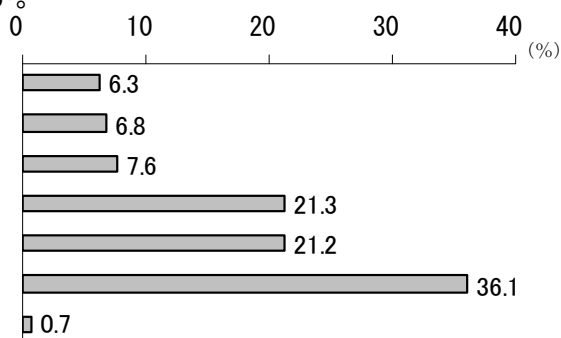
※有効回収数 746 をもとに構成比を算出。



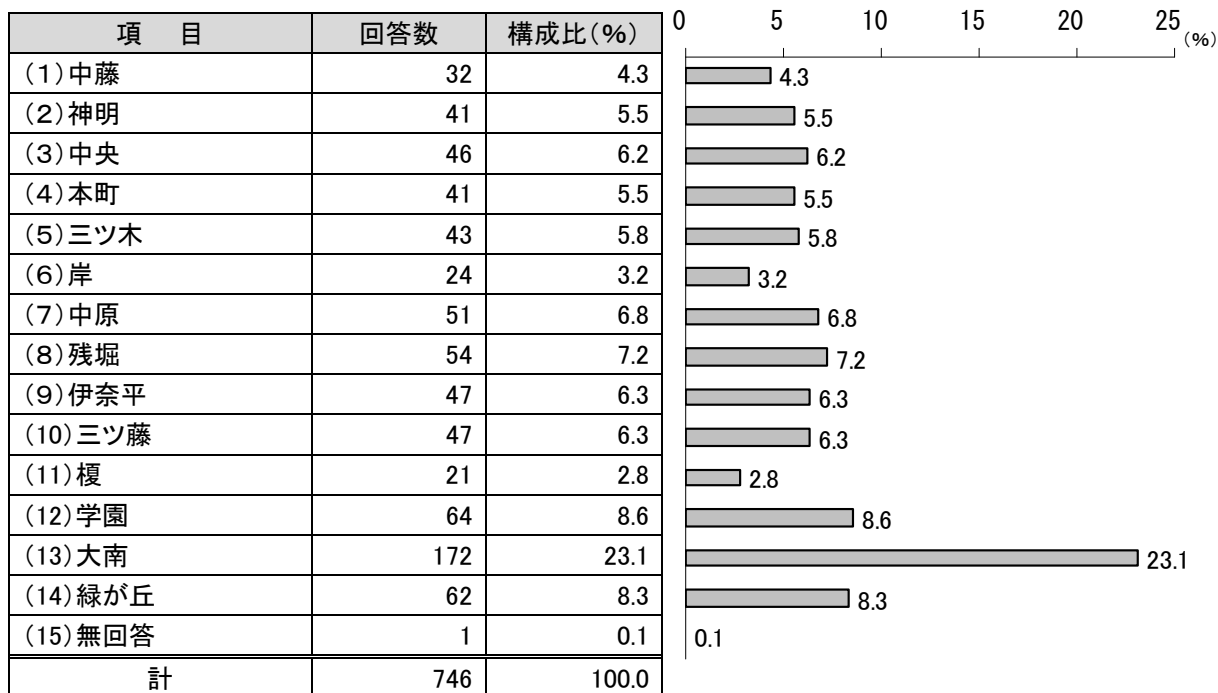
### 問3 あなたは、武蔵村山市に住んで何年になりますか。

項目	回答数	構成比(%)
(1)2年未満	47	6.3
(2)2年以上5年未満	51	6.8
(3)5年以上10年未満	57	7.6
(4)10年以上20年未満	159	21.3
(5)20年以上30年未満	158	21.2
(6)30年以上	269	36.1
(7)無回答	5	0.7
計	746	100.0

※有効回収数 746 をもとに構成比を算出。

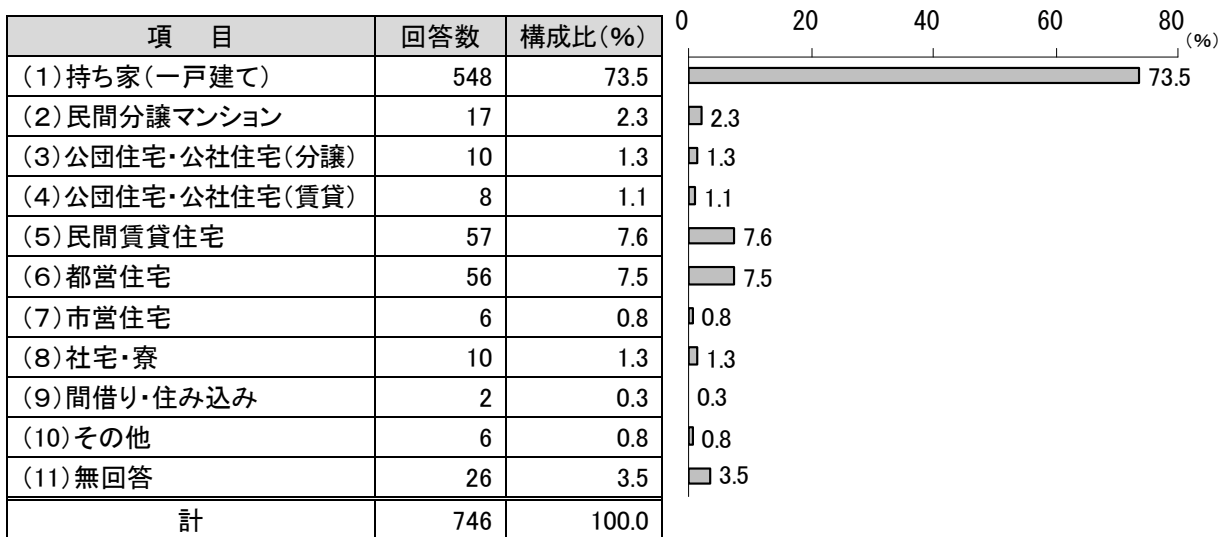


問4 あなたがお住まいの地区は次のうちどれにあてはまりますか。



※有効回収数 746 をもとに構成比を算出。

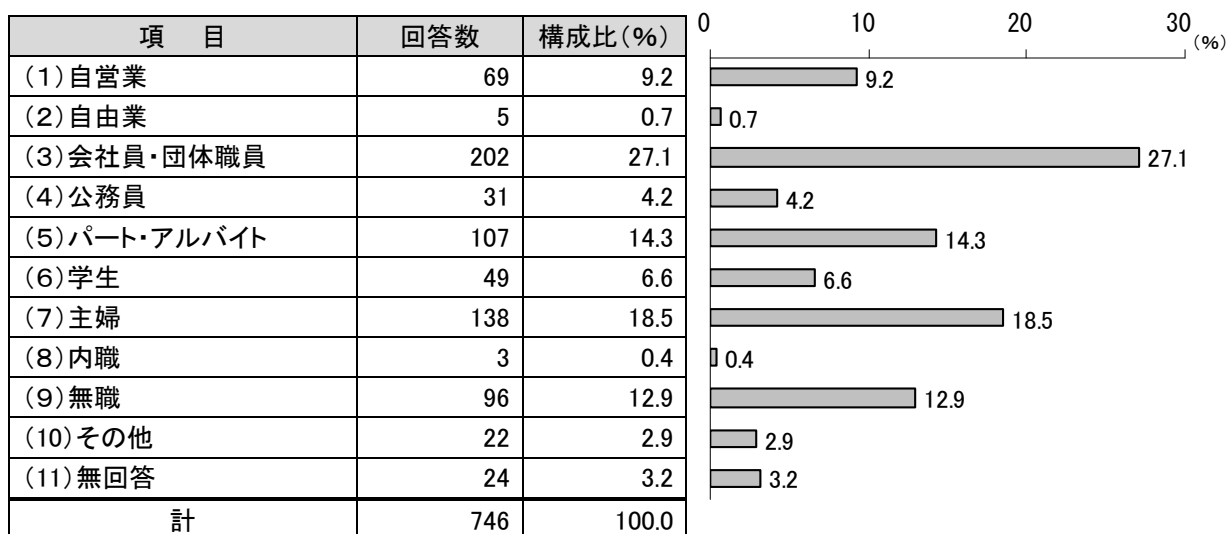
問5 あなたのお住まいは次のうちどれにあてはまりますか。



※有効回収数 746 をもとに構成比を算出。



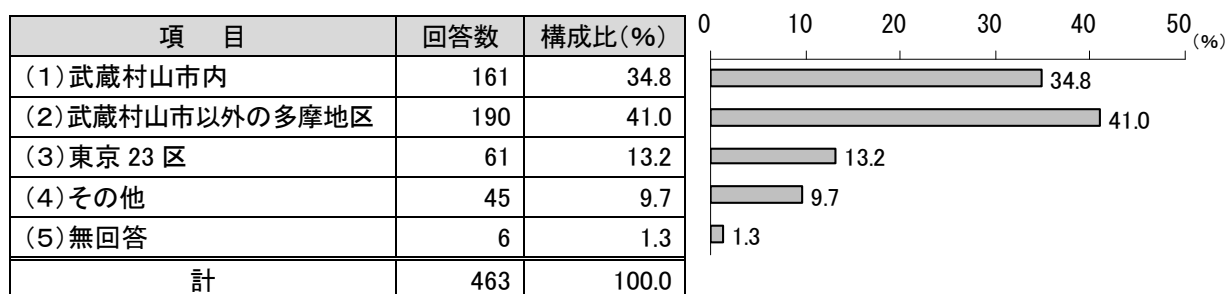
問6 あなたの職業は次のうちどれにあてはまりますか。



※有効回収数 746 をもとに構成比を算出。

(問6で(1)～(6)とお答えの方に)

問6- (1) あなたの勤め先または通学先はどこですか。

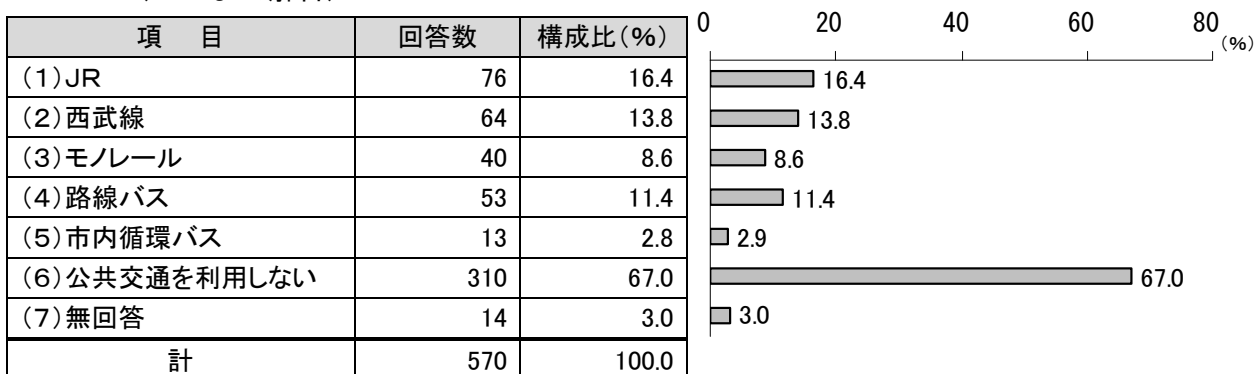


※問6で(1)～(6)の回答者 463 をもとに構成比を算出。

(問6で(1)～(6)とお答えの方に)

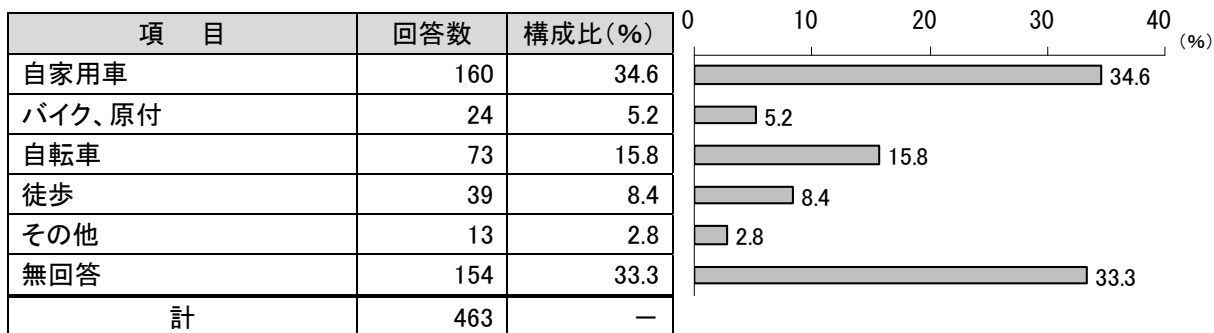
問6- (2) あなたは、勤め先または通学先までの交通手段として何を利用していますか。

(2つまで解答)



※問6で(1)～(6)の回答者 463 をもとに構成比を算出。

問7 勤め先または通学先まで、「公共交通を利用しない方」及び「公共交通を利用する方の最寄駅（もしくはバス停）まで」の交通手段は何ですか。



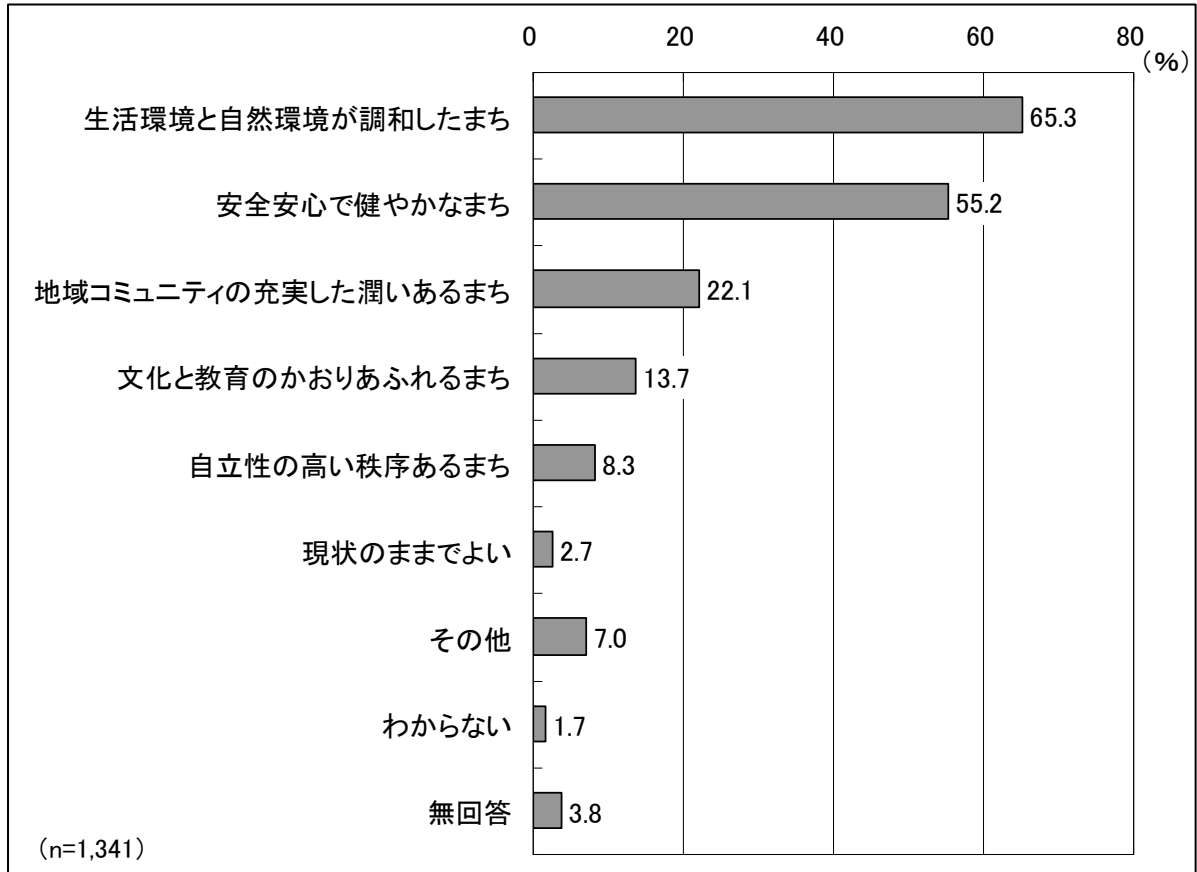
※問6で(1)～(6)の回答者463をもとに構成比を算出。

### 3. 集計結果

#### (1) 市の将来像

問8 今後武蔵村山市がどのように発展するのが望ましいと思いますか。(2つまで回答)

◆望ましい市の将来像：「生活環境と自然環境が調和したまち」が65%、「安全安心で健やかなまち」が55%



望ましい市の将来像について、「生活環境と自然環境が調和したまち」が65.3%と最も多く、次いで「安全安心で健やかなまち」が55.2%となっている。

「生活環境と自然環境が調和したまち」については、男性が女性を約8%上回っており、男性・女性ともほとんどの年齢で50%以上の割合を占め、特に、男性の15～19歳、60～64歳では80%以上を示している。また、居住年数別、居住地区別にみても、いずれの居住年数、地区でも50%以上を示している。

「安全安心で健やかなまち」については、性別で大きな差はなく、男性の70歳以上、女性の15～19歳、25～29歳、55～59歳で65%以上を示している。また、居住年数別、居住地区別にみても、いずれの居住年数、地区でも50%以上を示している。

「地域コミュニティの充実した潤いのあるまち」については、性別で大きな差はなく、男性の65～69歳、女性の70歳以上で35%以上を示している。居住年数別では、2年未満、2年以上5年未満が25%以上、居住地区別では、D地区が25%以上を示している。

「文化と教育のかおりあふれるまち」については、性別で大きな差はなく、男性の40～44歳、70歳以上、女性の25～29歳で20%以上を示している。居住年数別では、2年未満、2年以上5年未満が15%以上、居住地区別では、D地区が15%以上を示している。

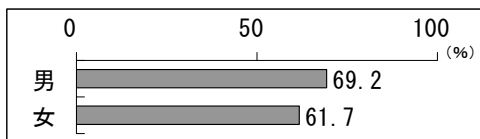
「自立性の高い秩序あるまち」については、性別で大きな差はなく、男性の20～24歳で30%以上を示している。居住年数別では、2年以上5年未満が15%以上、居住地区別では、A地区が10%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

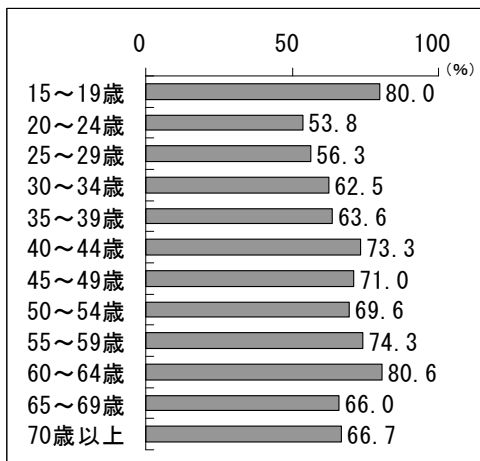
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位5項目）

□生活環境と自然環境が調和したまち

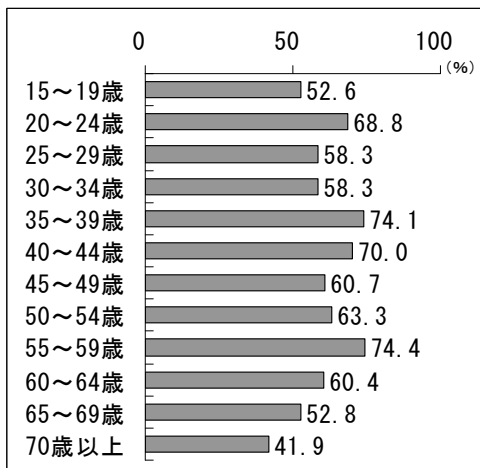
・性別



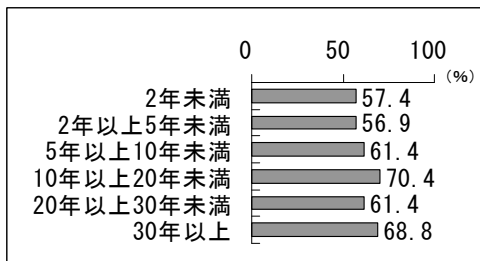
・男性×年齢別



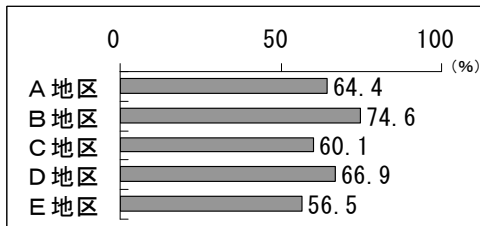
・女性×年齢別



・居住年数別

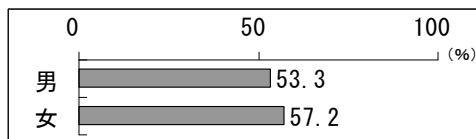


・居住地区別

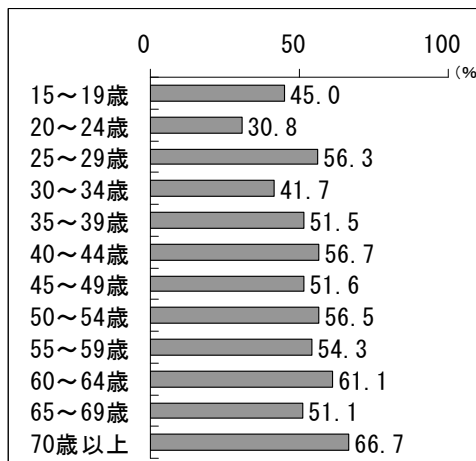


□安全安心で健やかなまち

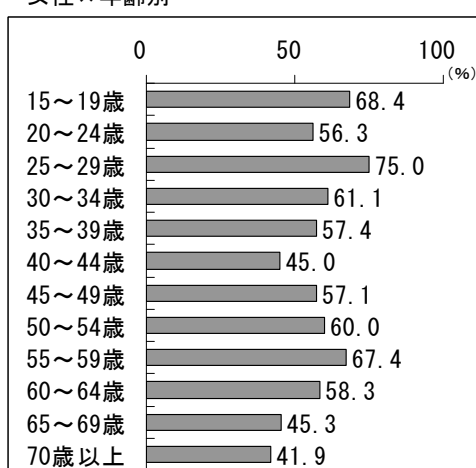
・性別



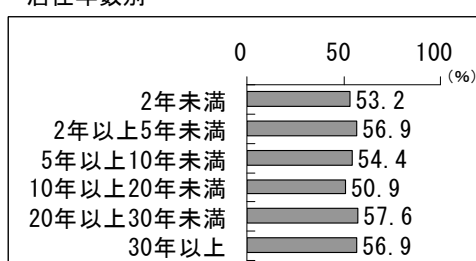
・男性×年齢別



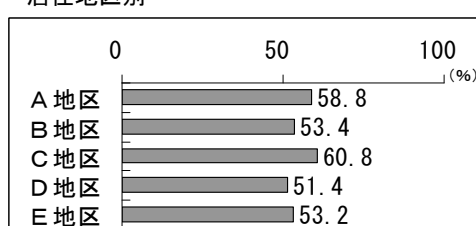
・女性×年齢別



・居住年数別



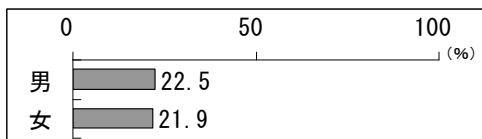
・居住地区別



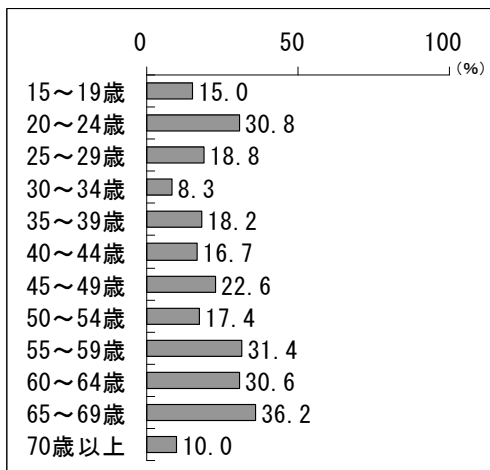
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□地域コミュニティの充実した潤いあるまち

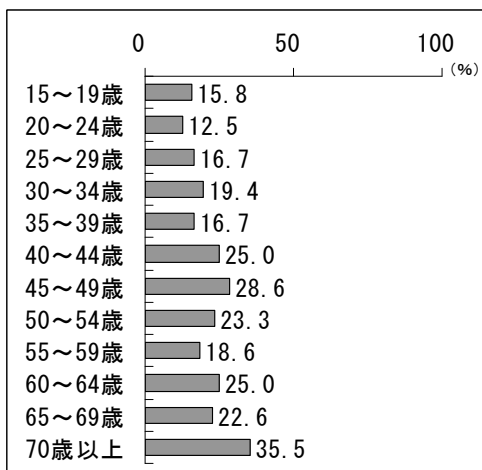
・性別



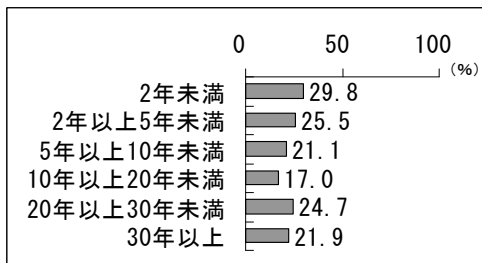
・男性×年齢別



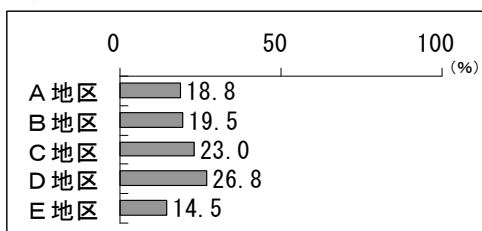
・女性×年齢別



・居住年数別

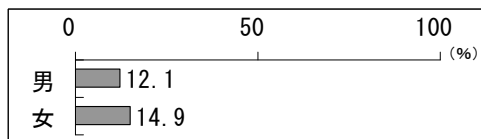


・居住地区別

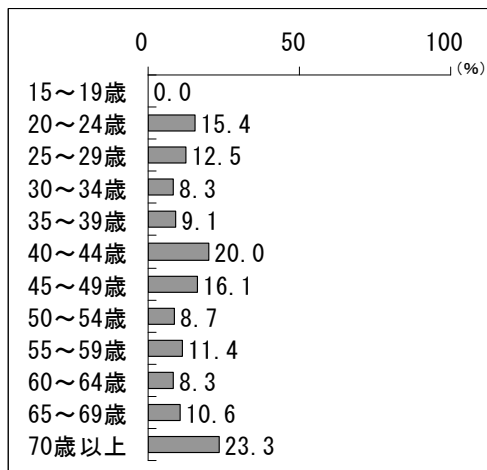


□文化と教育のかおりあふれるまち

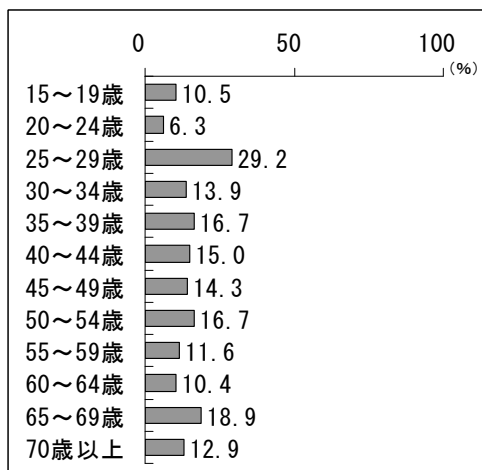
・性別



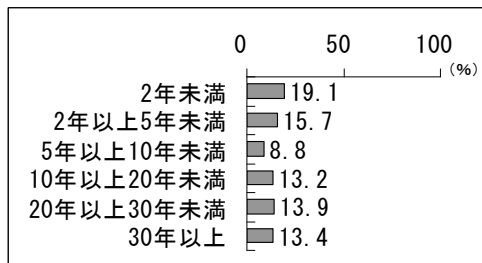
・男性×年齢別



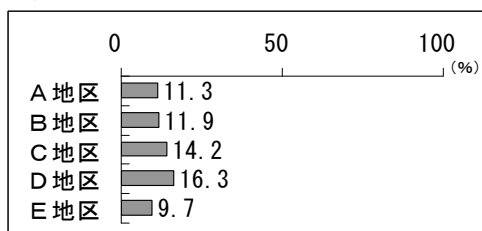
・女性×年齢別



・居住年数別



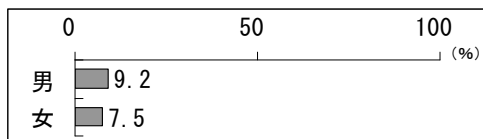
・居住地区別



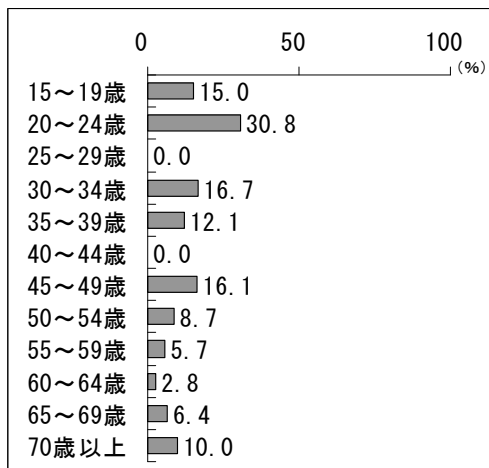
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□自立性の高い秩序あるまち

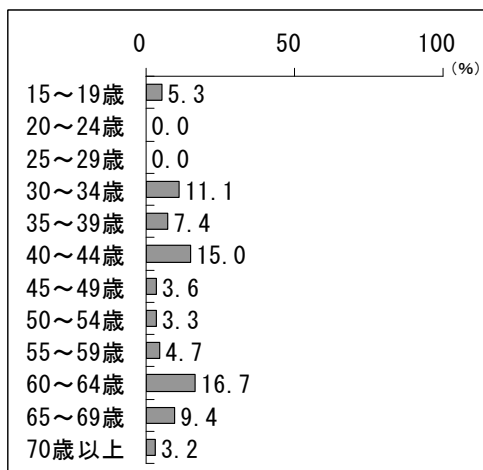
・性別



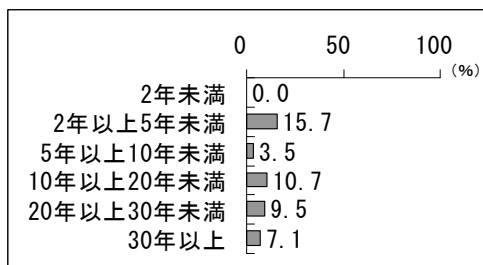
・男性×年齢別



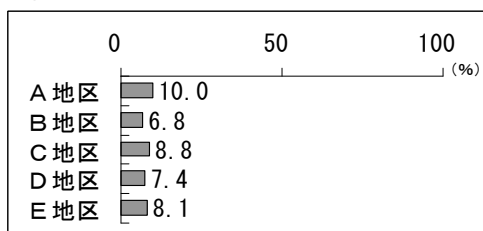
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別

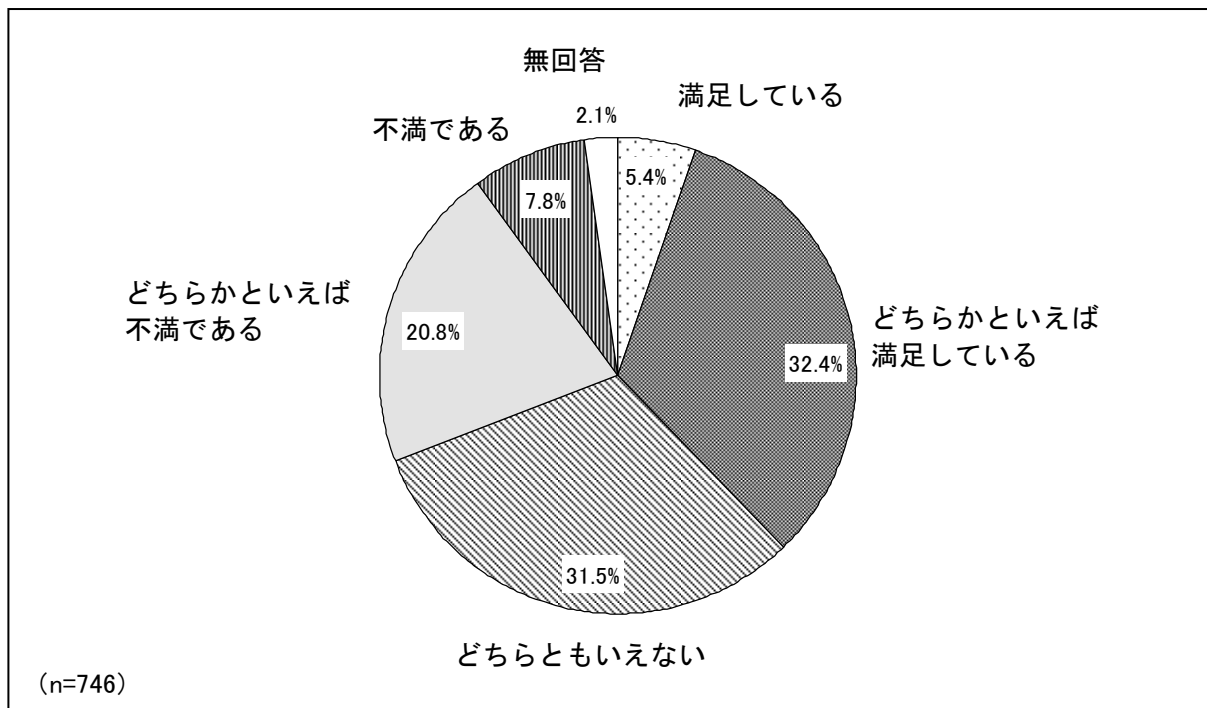


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(2) 生活環境の満足度

問9 武蔵村山市での生活・暮らしについて、あなたはどのように感じていますか。

◆生活・暮らしの満足度：《満足》が38%、《不満》が29%



武蔵村山市での生活・暮らしについて、「満足と感じている割合（満足、どちらかといえば満足）」は37.8%、「不満と感じている割合（不満、どちらかといえば不満）」は28.6%となっている。一方、「どちらともいえない」が31.5%となっている。

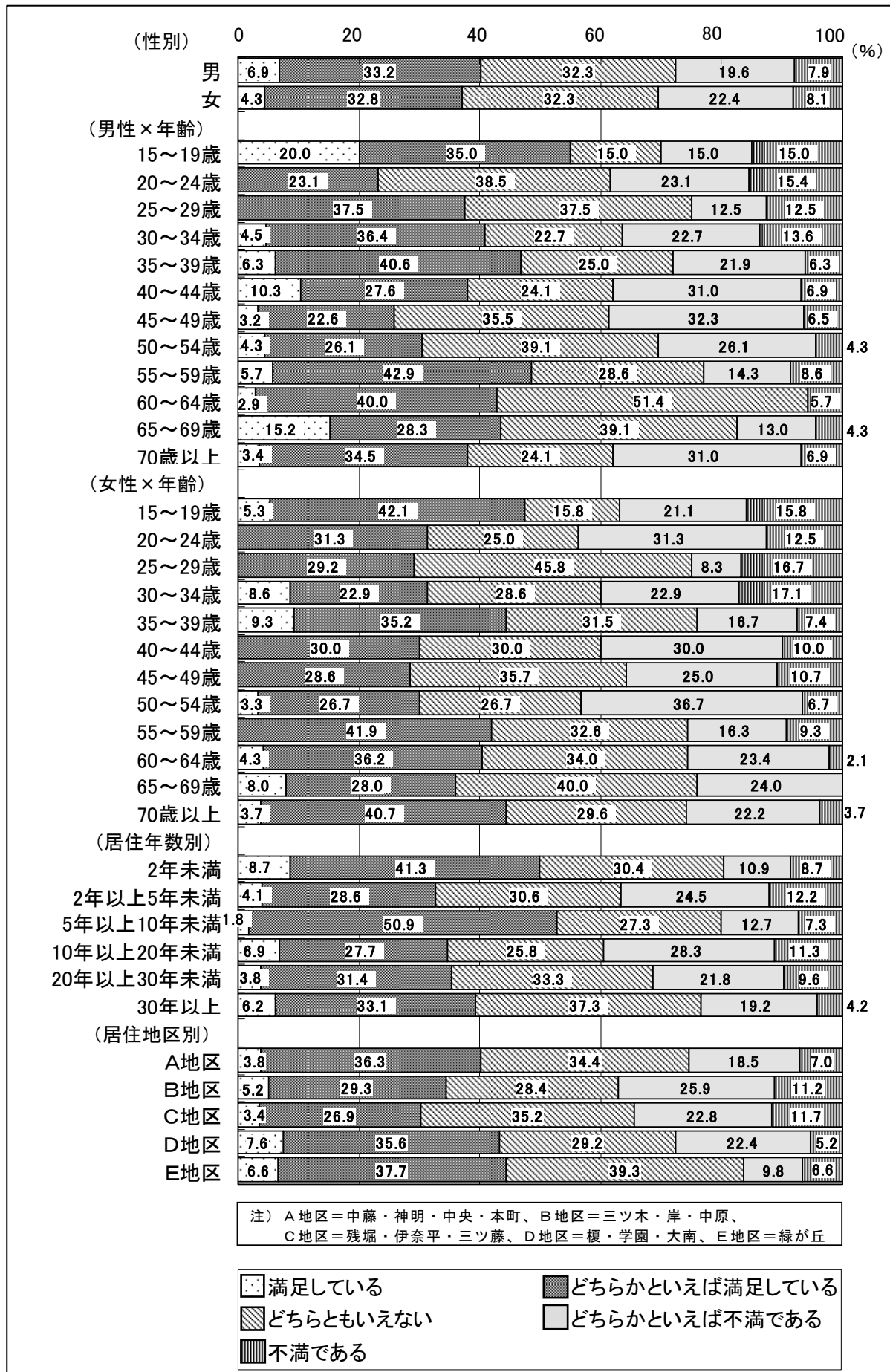
若干ではあるが、女性より男性の方が「満足と感じている割合（満足、どちらかといえば満足）」が高く、男性では15～19歳、35～39歳、55～59歳、女性では15～19歳、35～39歳、70歳以上で満足度が高くなっている。

また、居住年数別では、2年未満及び5年以上10年未満の満足度が高くなっており、居住地区別では、D地区、E地区において、他地区より満足度が高くなっている。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

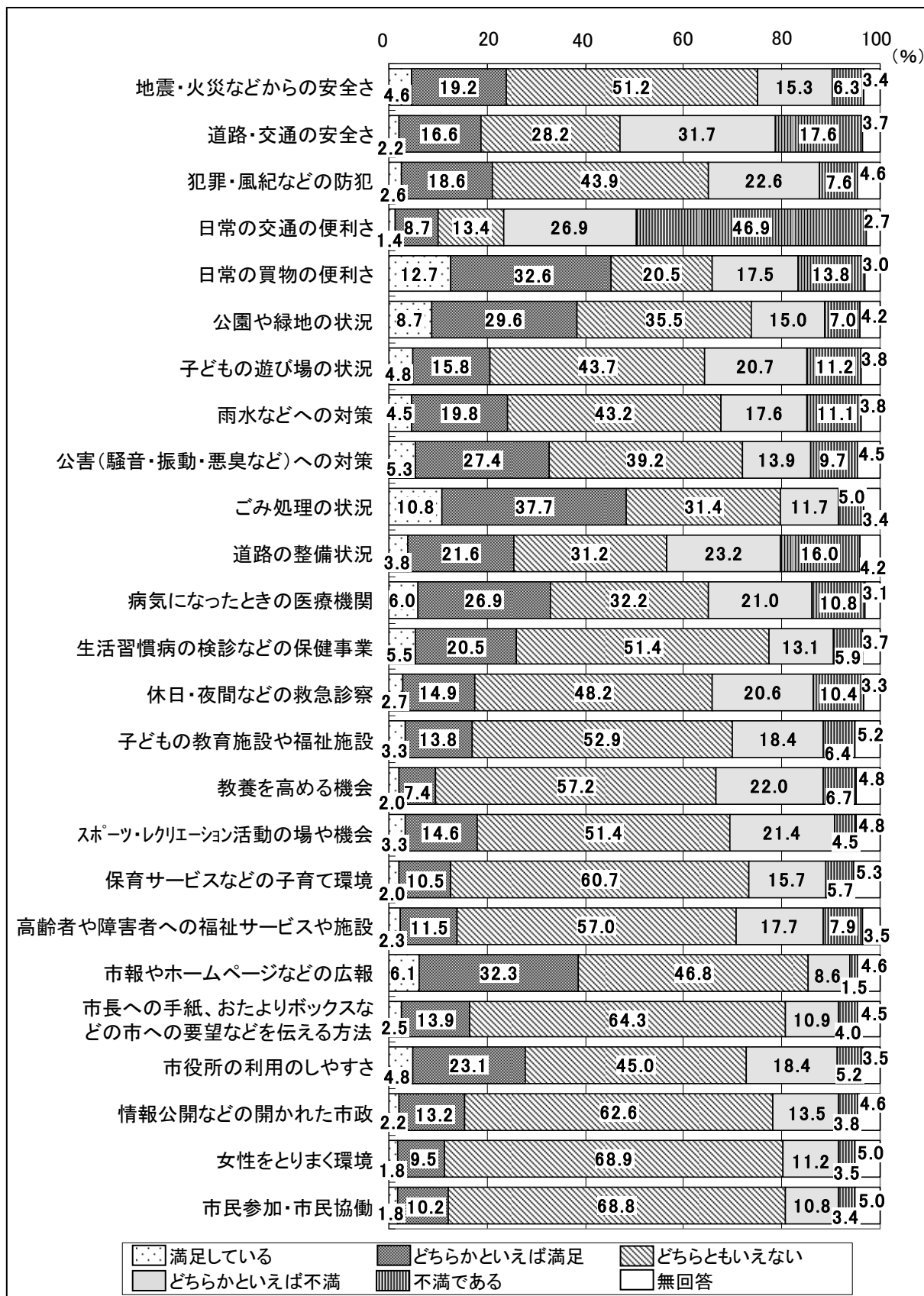


■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別



問10 あなたの暮らしをとりまく身近な生活環境について、あなたはどのように感じていますか。

◆身近な生活環境の満足度: <<満足>>は「ごみ処理の状況」49%、「日常の買物の便利さ」45%、<<不満>>は「日常の交通の便利さ」74%



身近な生活環境について、『満足（満足、どちらかといえば満足）』と感じている割合が高い項目は、「ごみ処理の状況」が48.5%、「日常の買物の便利さ」が45.3%、「市報やホームページなどの広報」が38.4%となっている。

一方、『不満（不満、どちらかといえば不満）』と感じている割合が高い項目は、「日常の交通の便利さ」が73.8%、「道路・交通の安全さ」が49.3%、「道路の整備状況」が39.2%となっている。

### ■地区別加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} & \{ \text{「満足している」の回答者数} \times (+2 \text{点}) \\ & + \{ \text{「どちらかといえば満足」の回答者数} \times (+1 \text{点}) \\ & + \{ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times (0 \text{点}) \\ & + \{ \text{「どちらかといえば不満」の回答者数} \times (\Delta 1 \text{点}) \\ & + \{ \text{「不満である」の回答者数} \times (\Delta 2 \text{点}) \end{aligned}}{\text{回答者数}}$$

この算出方法では、評価点は+2点～△2点の間に分布し、中間点の0点を境に、+2点に近くなるほど満足度は高くなり、△2点に近くなるほど不満足度が高くなる。

上位5位	下位5位	選択項目	全体	A地区	B地区	C地区	D地区	E地区
		地震・火災などの安全さ	0.00	0.07	0.02	△ 0.09	0.04	△ 0.18
	②	道路・交通の安全さ	△ 0.48	△ 0.50	△ 0.48	△ 0.66	△ 0.44	△ 0.19
		犯罪・風紀などの防犯	△ 0.15	△ 0.04	△ 0.12	△ 0.12	△ 0.16	△ 0.58
	①	日常の交通の便利さ	△ 1.13	△ 1.31	△ 1.33	△ 1.41	△ 0.92	△ 0.47
	④	日常の買物の便利さ	0.14	△ 0.25	△ 0.19	0.25	0.44	0.28
	③	公園や緑地の状況	0.18	0.07	0.42	0.08	0.22	0.09
		子供の遊び場の状況	△ 0.19	△ 0.25	△ 0.04	△ 0.25	△ 0.18	△ 0.26
		雨水などへの対策	△ 0.12	0.01	0.11	△ 0.09	△ 0.31	△ 0.13
		公害(騒音・振動・悪臭など)への対策	0.05	0.23	0.19	△ 0.23	0.10	△ 0.20
	①	ごみ処理の状況	0.38	0.34	0.54	0.36	0.35	0.36
	③	道路の整備状況	△ 0.27	△ 0.37	△ 0.03	△ 0.47	△ 0.27	0.02
		病気になったときの医療機関	△ 0.03	△ 0.09	△ 0.11	△ 0.20	0.19	△ 0.26
	⑤	生活習慣病の検診などの保健事業	0.08	0.12	0.08	△ 0.06	0.13	0.05
	⑤	休日・夜間などの救急診察	△ 0.21	△ 0.13	△ 0.36	△ 0.31	△ 0.13	△ 0.26
		子どもの教育施設や福祉施設	△ 0.12	△ 0.14	△ 0.15	△ 0.24	△ 0.05	0.04
	④	教養を高める機会	△ 0.26	△ 0.15	△ 0.24	△ 0.33	△ 0.28	△ 0.27
		スポーツ・レクリエーション活動の場や機会	△ 0.10	△ 0.06	0.07	△ 0.20	△ 0.13	△ 0.14
		保育サービスなどの子育て環境	△ 0.14	△ 0.11	△ 0.15	△ 0.27	△ 0.09	△ 0.02
		高齢者や障害者への福祉サービスや施設	△ 0.19	△ 0.15	△ 0.28	△ 0.33	△ 0.07	△ 0.20
	②	市報やホームページなどの広報	0.35	0.39	0.29	0.18	0.42	0.42
		市長への手紙、おたよりボックスなどの市への要望などを伝える方法	△ 0.00	0.01	△ 0.02	△ 0.02	0.01	0.00
		市役所の利用のしやすさ	0.03	0.06	0.09	△ 0.03	0.02	0.07
		情報公開などの開かれた市政	△ 0.03	△ 0.05	△ 0.12	△ 0.03	△ 0.00	0.03
		女性を取り巻く環境	△ 0.05	△ 0.01	△ 0.13	△ 0.10	0.00	△ 0.09
		市民参加・市民協働	△ 0.04	△ 0.03	△ 0.04	△ 0.13	0.00	△ 0.02
		平均評価点	△ 0.09	△ 0.09	△ 0.08	△ 0.19	△ 0.05	△ 0.08

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

市全体の加重平均で、上位と下位の5項目は次の通りとなっている。

□上位5項目

- ①ごみ処理の状況 (0.38点)
- ②市報やホームページなどの広報 (0.35点)
- ③公園や緑地の状況 (0.18点)
- ④日常の買物の便利さ (0.14点)
- ⑤生活習慣病の検診などの保健事業 (0.08点)

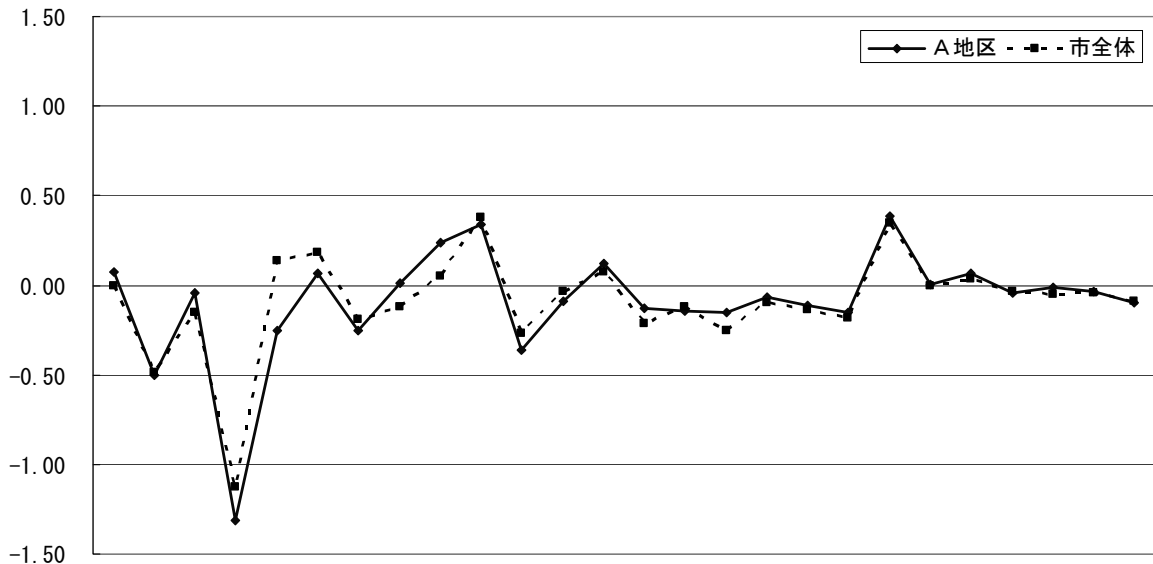
□下位5項目

- ①日常の交通の便利さ (△1.13点)
- ②道路・交通の安全さ (△0.48点)
- ③道路の整備状況 (△0.27点)
- ④教養を高める機会 (△0.26点)
- ⑤休日・夜間などの救急診察 (△0.21点)

■ A地区（中藤・神明・中央・本町）の生活環境の満足度

平均評価は、市全体と同じく△0.09 となっているが、「犯罪・風紀などの防犯」、「雨水などへの対策」、「公害（騒音・振動・悪臭など）への対策」、「教養を高める機会」等の項目について若干上回っている。

市全体	△0.09
A地区	△0.09

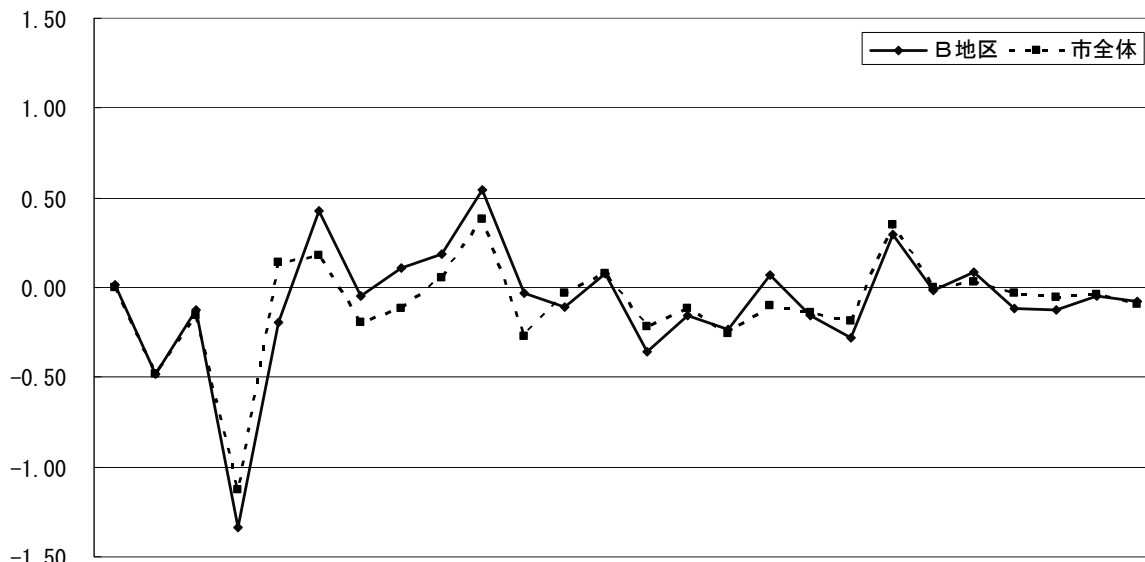


- 総合評価
- 市民参加・市民協働
- 女性を取り巻く環境
- 情報公開などの開かれた市政
- 市役所の利用のしやすさ
- 市長への手紙、おたよりボックスなどの市への要望などを伝える方法
- 市報やホームページなどの広報
- 高齢者や障害者への福祉サービスや施設
- 保育サービスなどの子育て環境
- スポーツ・レクリエーション活動の場や機会
- 教養を高める機会
- 子どもの教育施設や福祉施設
- 休日・夜間などの救急診察
- 生活習慣病の検診などの保健事業
- 病気になるったときの医療機関
- 道路の整備状況
- ごみ処理の状況
- 公害（騒音・振動・悪臭など）への対策
- 雨水などへの対策
- 子供の遊び場の状況
- 公園や緑地の状況
- 日常の買物の便利さ
- 日常の交通の便利さ
- 犯罪・風紀などの防犯
- 道路・交通の安全さ
- 地震・火災などの安全さ

■ B地区（三ツ木・岸・中原）の生活環境の満足度

平均評価は、市全体に比べ+0.01となっている。市全体よりも、「公園や緑地の状況」や「子供の遊び場の状況」、「雨水などへの対策」、「公害（騒音・振動・悪臭など）への対応」、「ごみ処理の状況」、「道路の整備状況」、「スポーツ・レクリエーション活動の場や機会」、等の項目で上回っている。

市全体	△0.09
B地区	△0.08



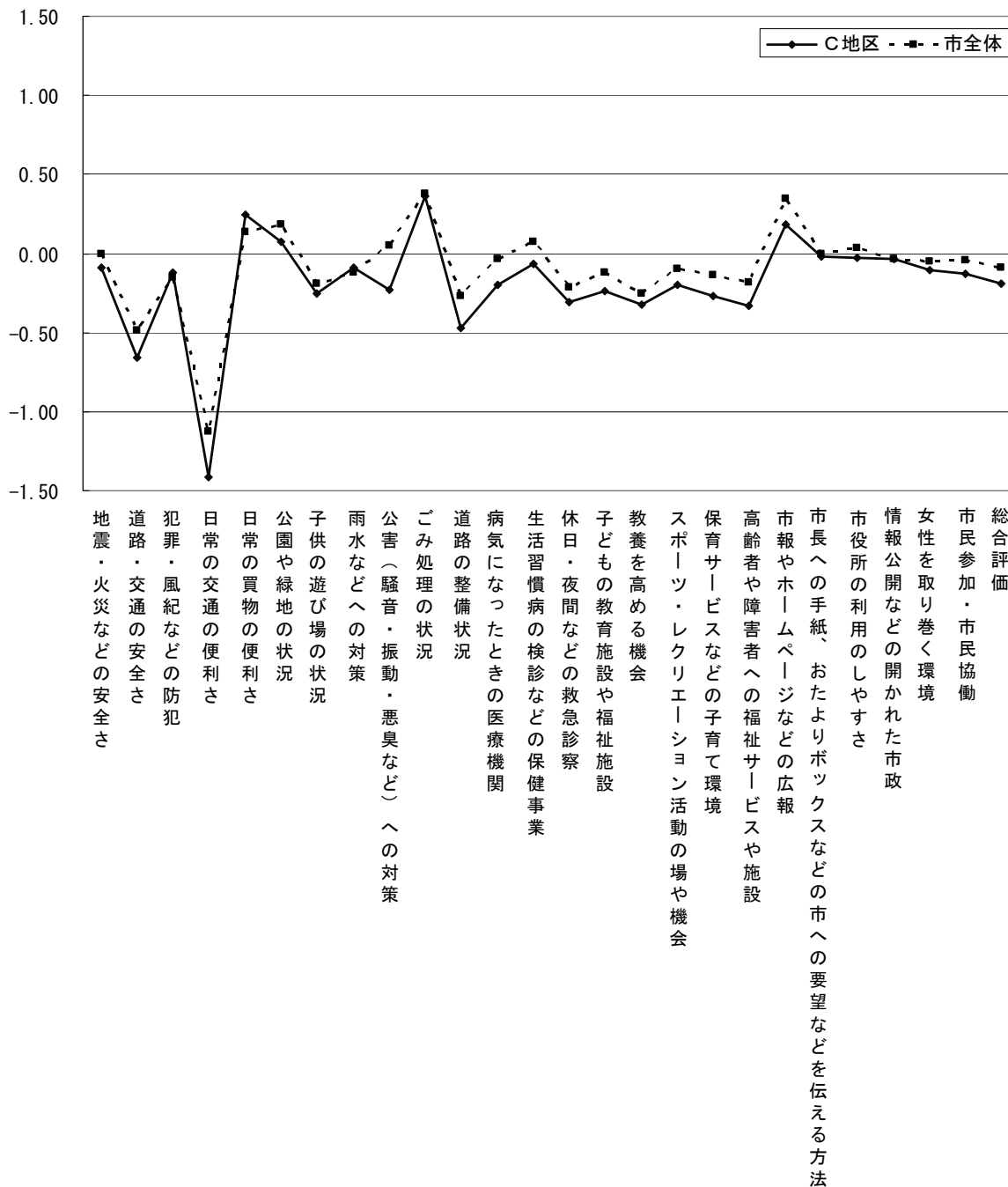
- 総合評価
- 市民参加・市民協働
- 女性を取り巻く環境
- 情報公開などの開かれた市政
- 市役所の利用のしやすさ
- 市長への手紙、おたよりボックスなどの市への要望などを伝える方法
- 市報やホームページなどの広報
- 高齢者や障害者への福祉サービスや施設
- 保育サービスなどの子育て環境
- スポーツ・レクリエーション活動の場や機会
- 教養を高める機会
- 子どもの教育施設や福祉施設
- 休日・夜間などの救急診察
- 生活習慣病の検診などの保健事業
- 病気になるたときの医療機関
- 道路の整備状況
- ごみ処理の状況
- 公害（騒音・振動・悪臭など）への対策
- 雨水などへの対策
- 子供の遊び場の状況
- 公園や緑地の状況
- 日常の買物の便利さ
- 日常の交通の便利さ
- 犯罪・風紀などの防犯
- 道路・交通の安全性
- 地震・火災などの安全性

■ C地区（残堀・伊奈平・三ツ藤）の生活環境の満足度

平均評価は、市全体に比べ△0.10 となっており、他地区と比較して最も低くなっている。また、ほとんどの項目において、市全体より下回っている。

市全体よりも、「日常の買物の便利さ」等の項目が上回っている。

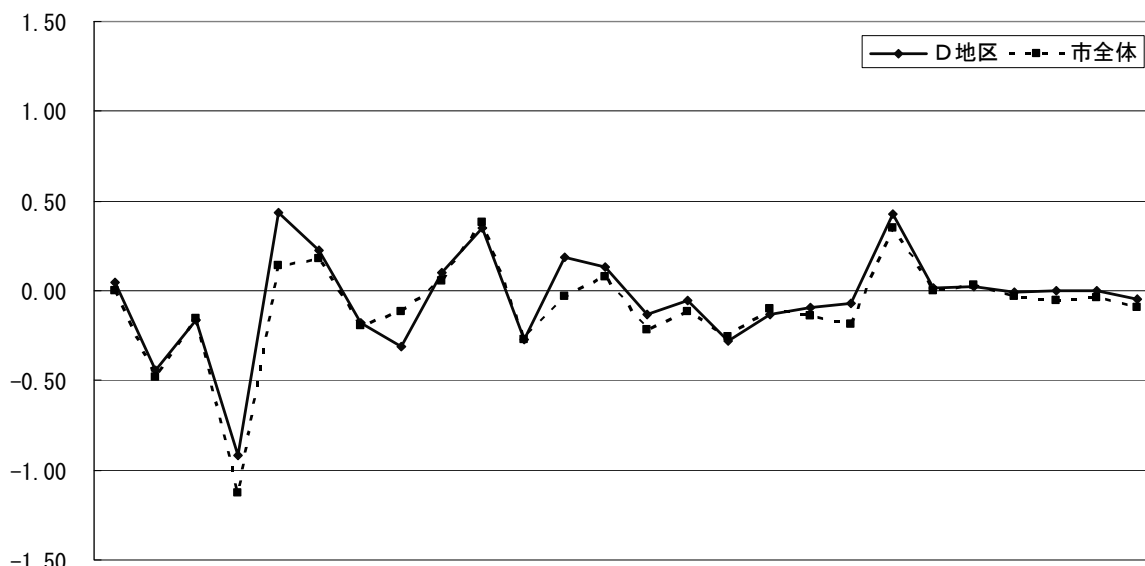
市全体	△0.09
C地区	△0.19



■ D地区（榎・学園・大南）の生活環境の満足度

平均評価は、市全体に比べ+0.04 となっている。市全体より上回っているものは、「日常の交通の便利さ」、「日常の買物の便利さ」、「病気になったときの医療機関」、「高齢者や障害者への福祉サービスや施設」等の項目である。

市全体	△0.09
D地区	△0.05



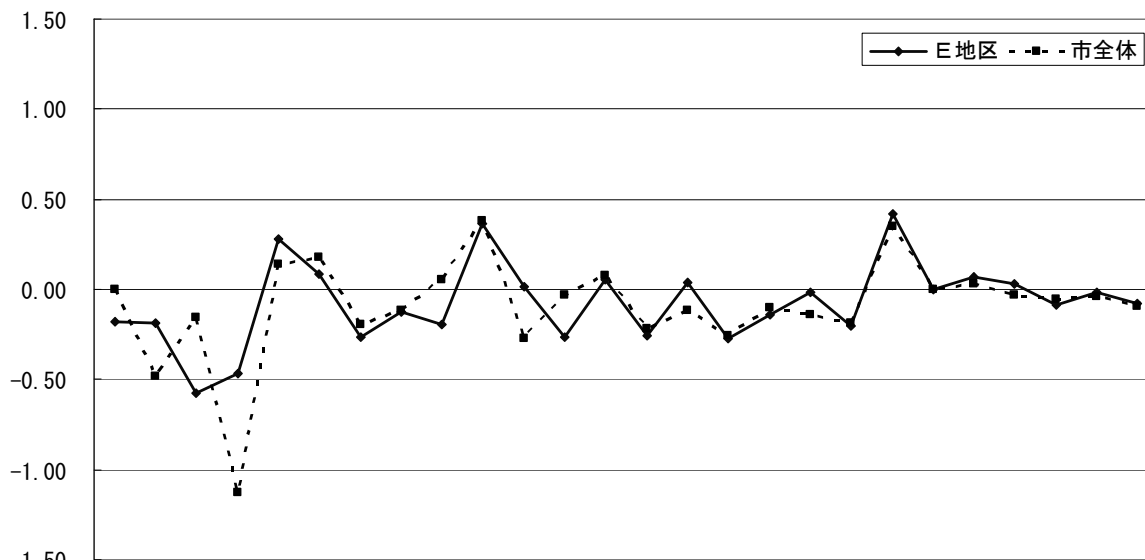
- 総合評価
- 市民参加・市民協働
- 女性を取り巻く環境
- 情報公開などの開かれた市政
- 市役所の利用のしやすさ
- 市長への手紙、おたよりボックスなどの市への要望などを伝える方法
- 市報やホームページなどの広報
- 高齢者や障害者への福祉サービスや施設
- 保育サービスなどの子育て環境
- スポーツ・レクリエーション活動の場や機会
- 教養を高める機会
- 子どもの教育施設や福祉施設
- 休日・夜間などの救急診察
- 生活習慣病の検診などの保健事業
- 病気になったときの医療機関
- 道路の整備状況
- ごみ処理の状況
- 公害（騒音・振動・悪臭など）への対策
- 雨水などへの対策
- 子供の遊び場の状況
- 公園や緑地の状況
- 日常の買物の便利さ
- 日常の交通の便利さ
- 犯罪・風紀などの防犯
- 道路・交通の安全性
- 地震・火災などの安全性



■ E地区（緑が丘）の生活環境の満足度

平均評価は、市全体に比べ+0.01 となっている。市全体より上回っているものは、「道路・交通の安全さ」、「日常の交通の便利さ」、「日常の買物の便利さ」、「道路の整備状況」、「子どもの教育施設や福祉施設」、「保育サービスなどの子育て環境」等の項目である。

市全体	△0.09
E地区	△0.08

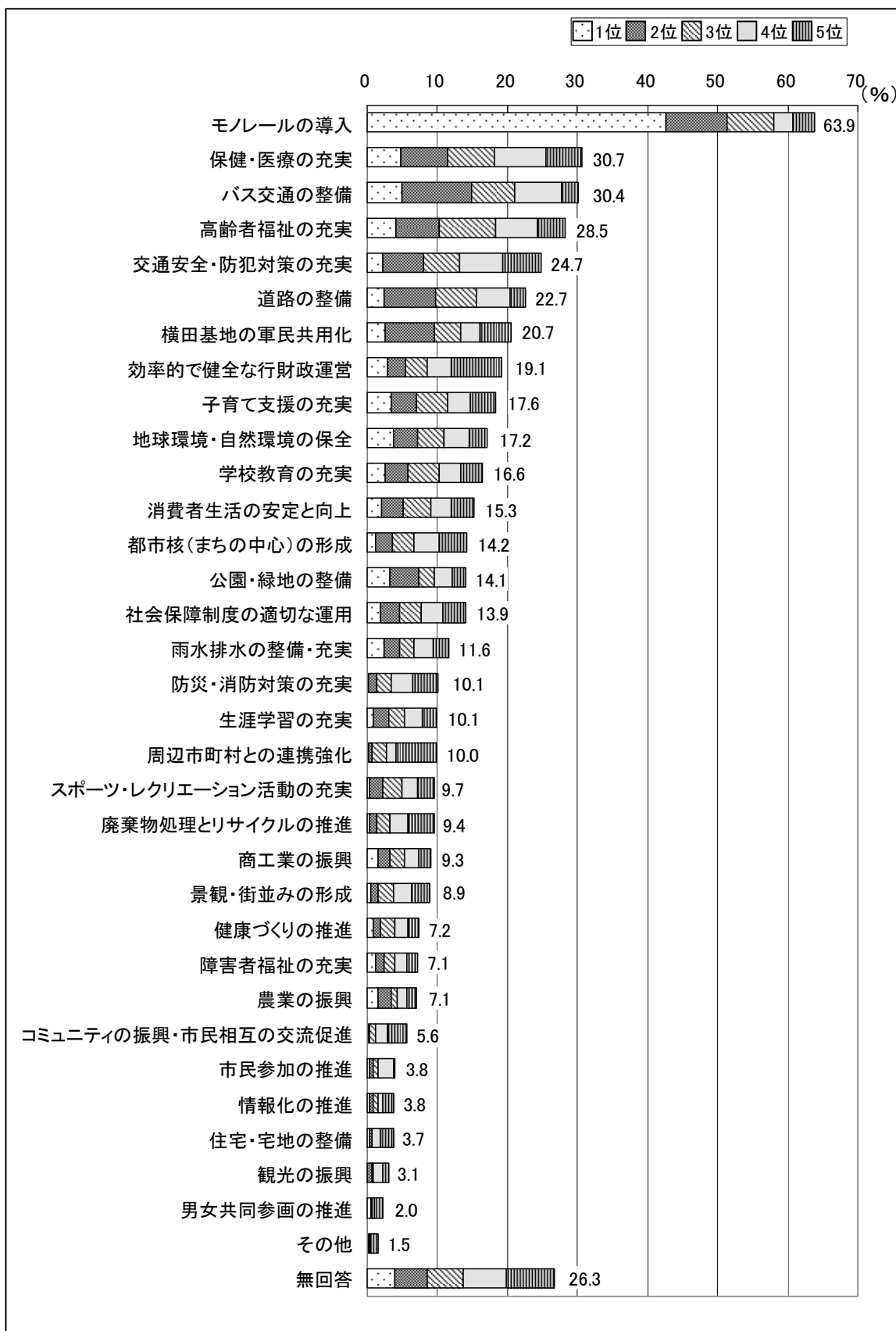


- 総合評価
- 市民参加・市民協働
- 女性を取り巻く環境
- 情報公開などの開かれた市政
- 市役所の利用のしやすさ
- 市長への手紙、おたよりボックスなどの市への要望などを伝える方法
- 市報やホームページなどの広報
- 高齢者や障害者への福祉サービスや施設
- 保育サービスなどの子育て環境
- スポーツ・レクリエーション活動の場や機会
- 教養を高める機会
- 子どもの教育施設や福祉施設
- 休日・夜間などの救急診察
- 生活習慣病の検診などの保健事業
- 病気になるたときの医療機関
- 道路の整備状況
- ごみ処理の状況
- 公害（騒音・振動・悪臭など）への対策
- 雨水などへの対策
- 子供の遊び場の状況
- 公園や緑地の状況
- 日常の買物の便利さ
- 日常の交通の便利さ
- 犯罪・風紀などの防犯
- 道路・交通の安全さ
- 地震・火災などの安全さ

(3) 市のまちづくり施策

問11 武蔵村山市は住みよいまちづくりを目指して、さまざまな施策に取り組んでいますが、あなたが特に力を入れて欲しいと望まれることは何ですか。(要望の強いものを高い順に5つ回答)

◆要望の高い市のまちづくり施策：「モノレールの導入」が64%



要望の高い市のまちづくり施策として、「モノレールの導入」が 63.9%を占め、突出した結果となっている。次いで「保健・医療の充実」が 30.7%、「バス交通の整備」が 30.4%、「高齢者福祉の充実」が 28.5%となっている。

上位5施策を居住地区別にみると、「モノレールの導入」は全ての地区で1位を占めている。そのほか、「バス交通の整備」、「高齢者福祉の充実」、「保健医療の充実」、「効率的で健全な行財政運営」などが上位に挙げられている。

### ■居住地区別（上位5施策）

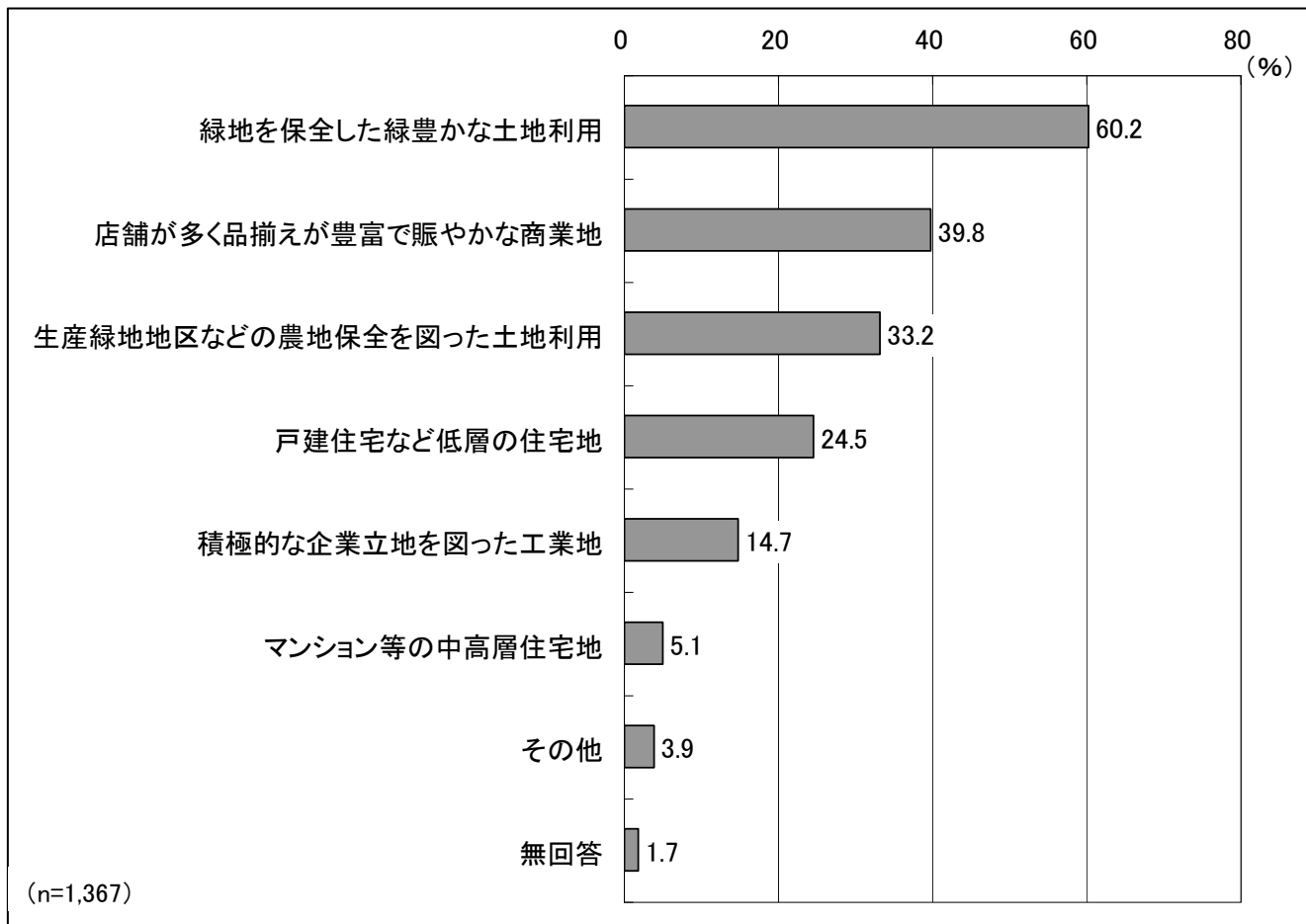
	重点施策				
	1位	2位	3位	4位	5位
A地区	モノレールの導入	バス交通の整備	高齢者福祉の充実	交通安全・防犯対策の充実	保健・医療の充実
	60.5%	13.5%	8.5%	7.8%	7.2%
B地区	モノレールの導入	横田基地の軍民共用化	高齢者福祉の充実	保健・医療の充実	効率的で健全な行財政運営
	54.0%	12.4%	12.4%	13.3%	7.3%
C地区	モノレールの導入	道路の整備	バス交通の整備	保健・医療の充実	効率的で健全な行財政運営
	47.2%	12.3%	10.9%	11.1%	9.5%
D地区	モノレールの導入	バス交通の整備	高齢者福祉の充実	交通安全・防犯対策の充実	効率的で健全な行財政運営
	33.1%	11.7%	7.3%	6.9%	8.2%
E地区	モノレールの導入	保健・医療の充実	・交通安全・防犯対策の充実 ・高齢者福祉の充実	・バス交通の整備 ・保健・医療の充実	・効率的で健全な行財政運営 ・消費者の生活と安全の向上
	23.2%	12.5%	9.1%	9.6%	12.0%

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

(4) 土地利用

問12 あなたは、今後、武蔵村山市内の土地利用をどのように推進していくべきと思いますか。(2つまで回答)

◆望ましい今後の土地利用：「緑地を保全した緑豊かな土地利用」が60%



望ましい今後の土地利用について、「緑地を保全した緑豊かな土地利用」が 60.2%と最も多く、次いで「店舗が多く品揃えが豊富で賑やかな商業地」が 39.8%、「生産緑地地区などの農地保全を図った土地利用」が 33.2%となっている。

「緑地を保全した緑豊かな土地利用」については、男性・女性とも60%以上を示しており、特に、男性の25～29歳、女性の30～34歳、40～44歳で70%以上を示している。居住年数別では2年未満、2年以上5年未満、10年以上20年未満で60%以上、

居住地区別では、A地区、B地区、D地区で60%以上を示している。

「店舗が多く品揃えが豊富で賑やかな商業地」については、男性・女性で大きな違いはないが、男性の15～19歳、女性の45～49歳で55%以上を示している。居住年数別では、2年以上5年未満で45%以上、居住地区別では、E地区で60%以上を示している。

「生産緑地地区などの農地保全を図った土地利用」については、女性が男性を約6%上回っており、女性の55～59歳、60～64歳で45%以上を示している。居住年数別では、2年以上5年未満、20年以上30年未満、30年以上で35%以上、居住地区別では、B地区、E地区で35%以上を示している。

「戸建住宅など低層の住宅地」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の50～54歳、55～59歳で45%以上を示している。居住年数別では、2年未満、10年以上20年未満、20年以上30年未満で25%以上、居住地区別では、A地区で30%以上を示している。

「積極的な企業立地を図った工業地」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、女性の60～64歳で25%以上を示している。居住年数別では、5年以上10年未満、30年以上が15%以上、居住地区別では、B地区、C地区が15%以上を示している。

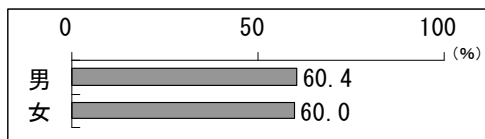
「マンション等の中高層住宅地」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳で20%以上を示している。居住年数別では、2年以上5年未満、5年以上10年未満、10年以上20年未満、20年以上30年未満が5%以上、居住地区別では、A地区、C地区、E地区が5%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

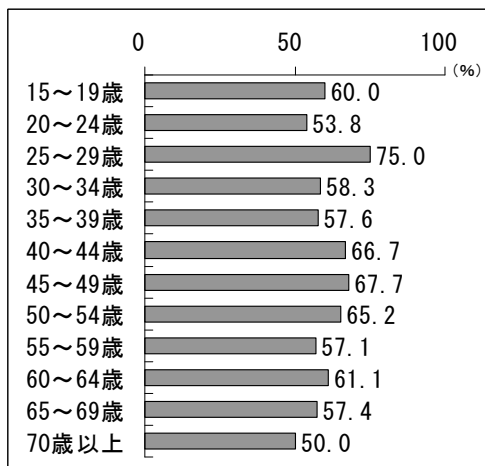
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位6項目）

□緑地を保全した緑豊かな土地利用

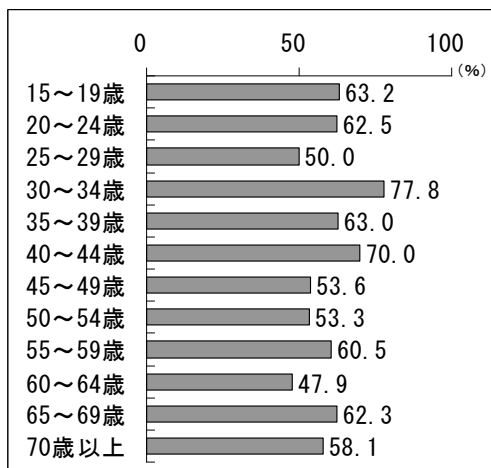
・性別



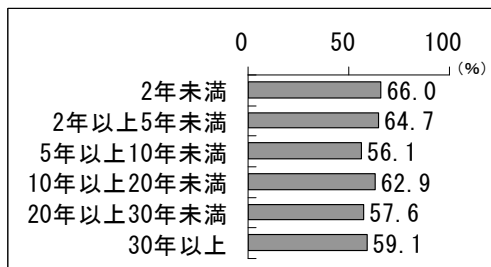
・男性×年齢別



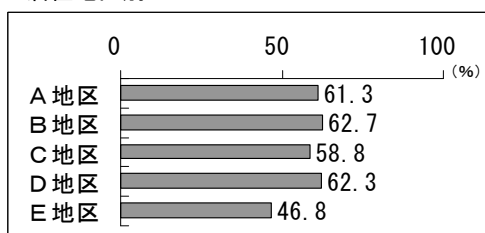
・女性×年齢別



・居住年数別

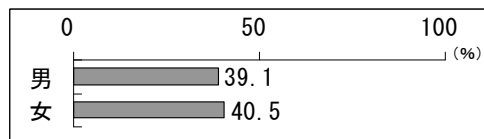


・居住地区別

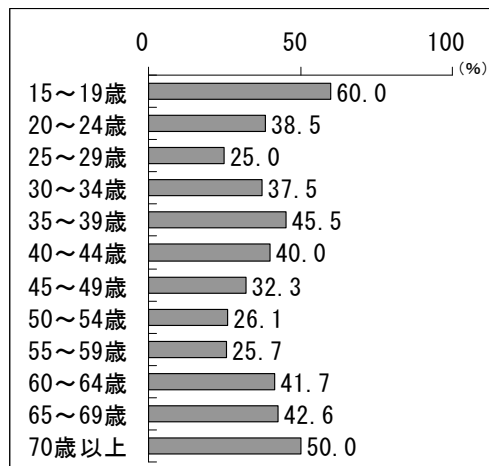


□店舗が多く品揃えが豊富で賑やかな商業地

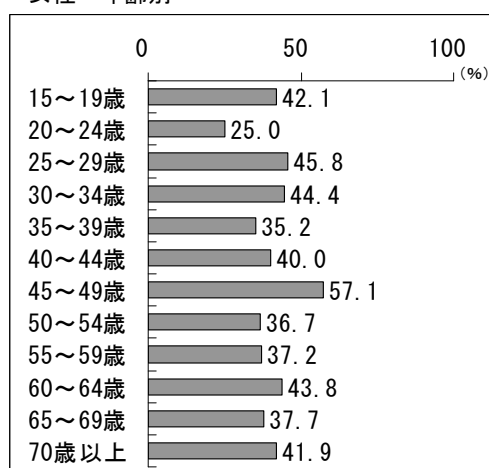
・性別



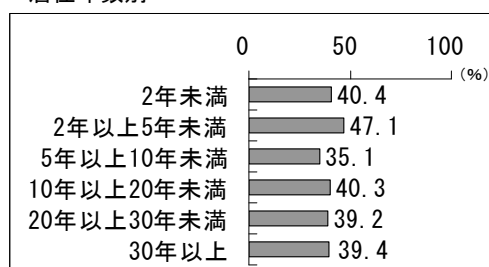
・男性×年齢別



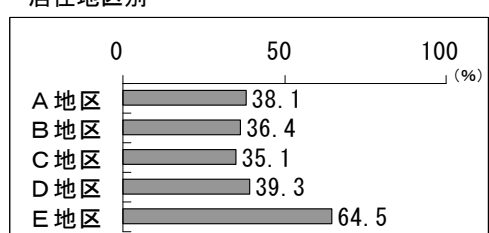
・女性×年齢別



・居住年数別



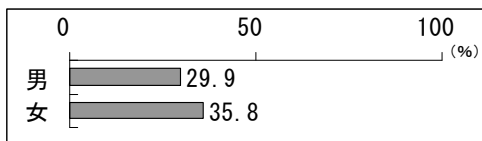
・居住地区別



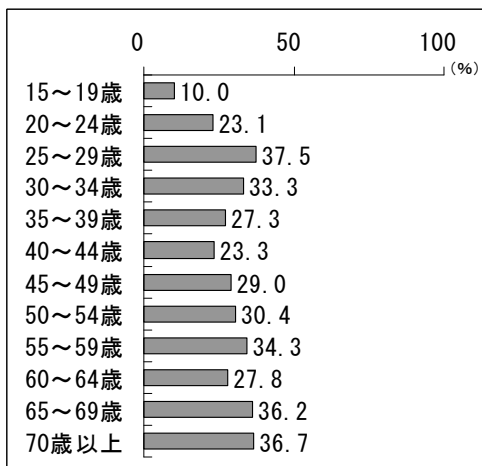
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□生産緑地地区などの農地保全を図った土地利用

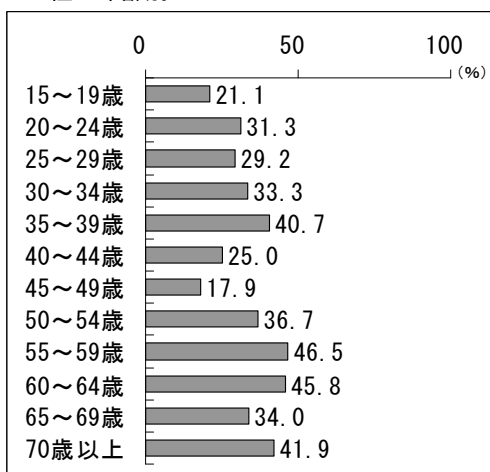
・性別



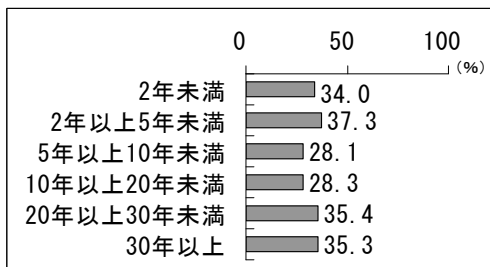
・男性×年齢別



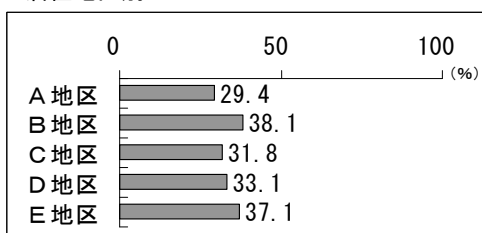
・女性×年齢別



・居住年数別

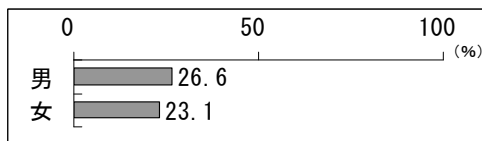


・居住地区別

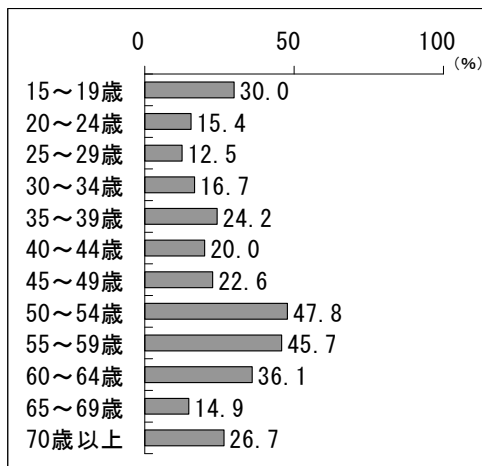


□戸建住宅など低層の住宅地

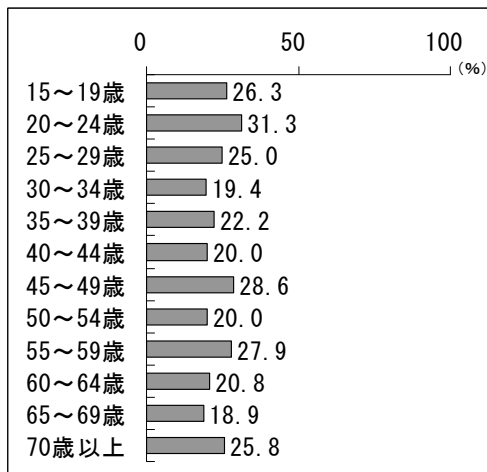
・性別



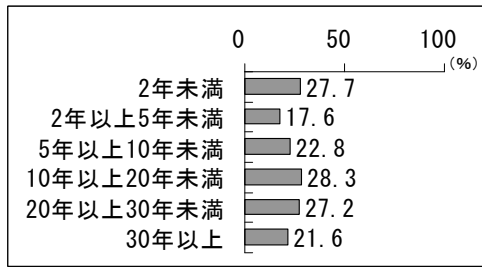
・男性×年齢別



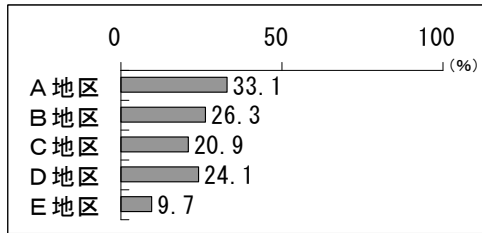
・女性×年齢別



・居住年数別



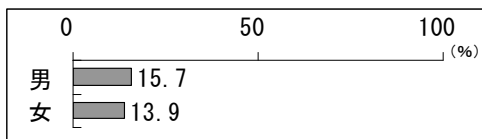
・居住地区別



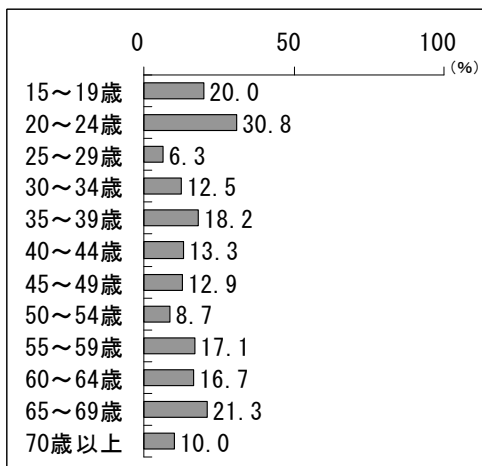
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□積極的な企業立地を図った工業地

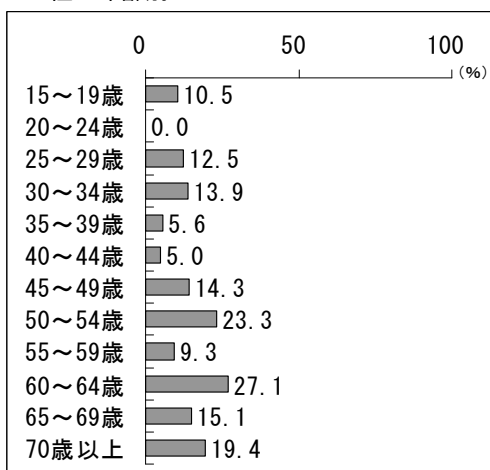
・性別



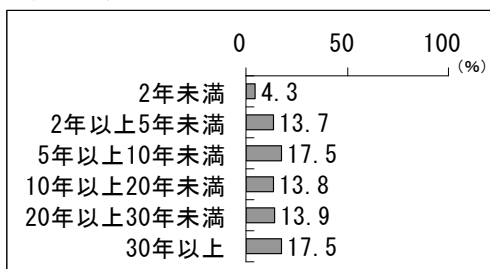
・男性×年齢別



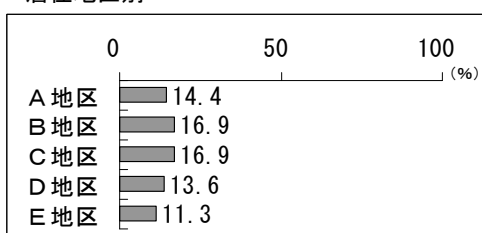
・女性×年齢別



・居住年数別

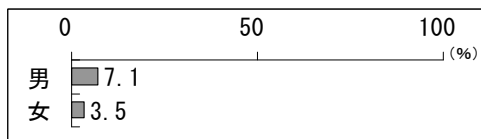


・居住地区別

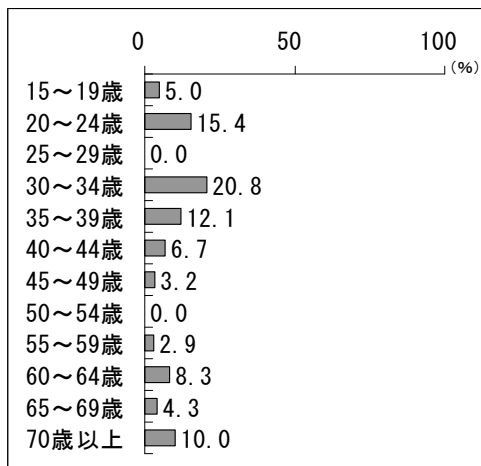


□マンション等の中高層住宅地

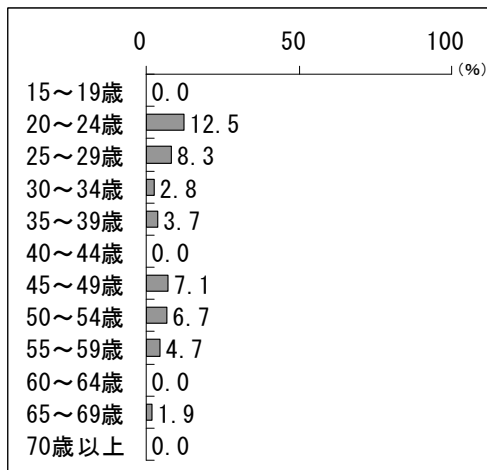
・性別



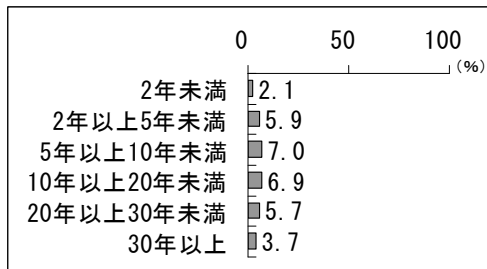
・男性×年齢別



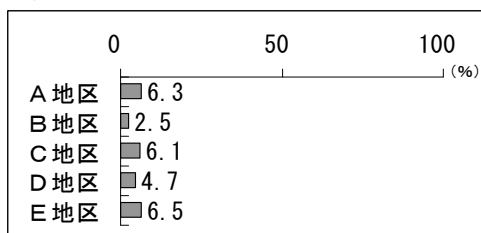
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別



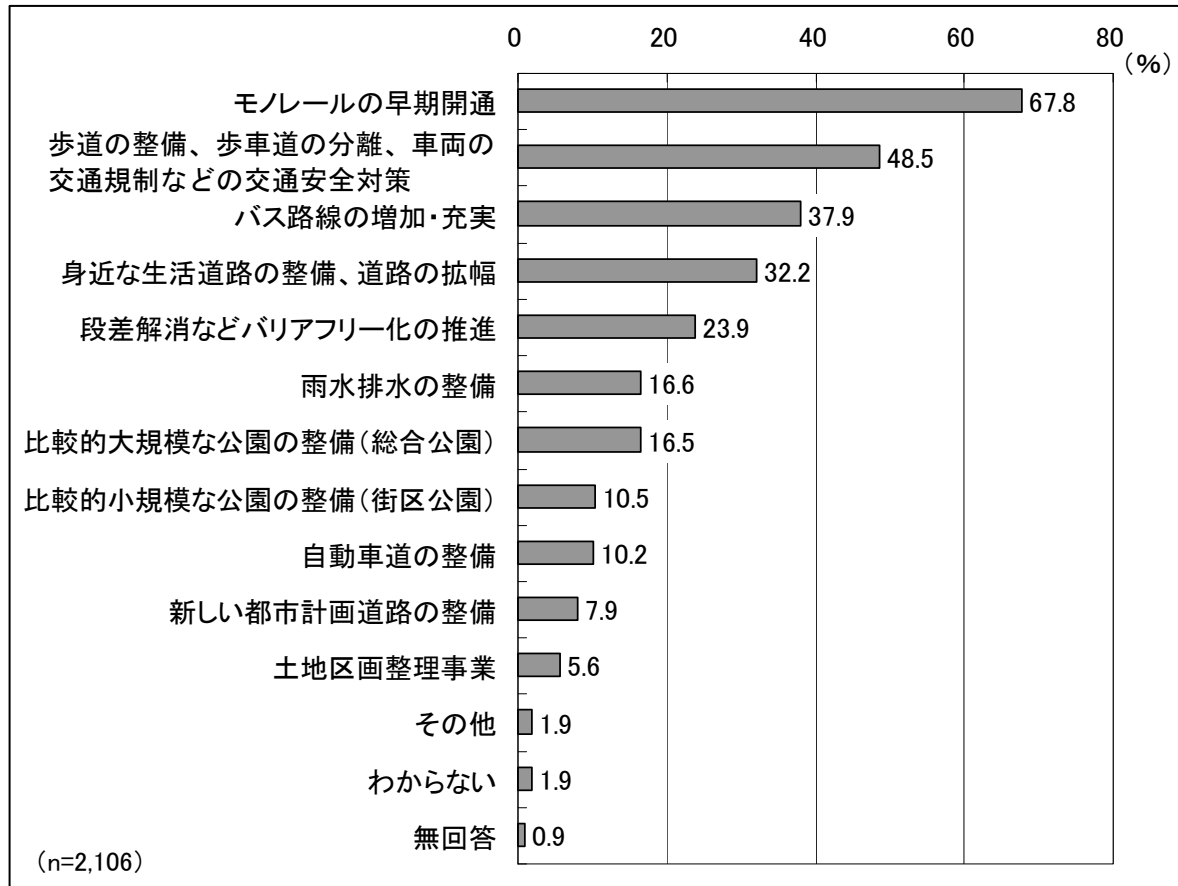
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘



## (5) 都市基盤整備

問 13 あなたは、今後どのような都市基盤整備を推進していくべきと思いますか。(3つまで回答)

◆推進すべき都市基盤整備：「モノレールの早期開通」が68%



推進すべき都市基盤整備について、「モノレールの早期開通」が 67.8%、次いで「歩道の整備、歩車道の分離、車両の交通規制などの交通安全対策」が 48.5%、「バス路線の増加・充実」が 37.9%、「身近な生活道路の整備、道路の拡幅」が 32.2%となっており、交通に関わる都市基盤整備が望まれている。

「モノレールの早期開通」については、男性・女性とも65%以上を示しており、特に男性の40～44歳、女性の40～44歳で80%以上を示している。また、居住年数別では、20年以上30年未満で70%以上、居住地区別では、A地区、B地区で80%以上を示している。

「歩道の整備、歩車道の分離、車両の交通規制などの交通安全対策」については、男性が女性を約5%上回っており、特に、男性の70歳以上で70%以上を示している。また、居住年数別では、10年以上20年未満、20年以上30年未満が50%以上、居住地区別では、A地区、C地区が50%以上を示している。

「バス路線の増加・充実」については、女性が男性を約8%上回っており、男性の15～19歳、30～34歳、女性の20～24歳、25～29歳、30～34歳で50%以上を示している。また、居住年数別では、2年以上5年未満、5年以上10年未満が45%以上、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で35%以上を示している。

「身近な生活道路の整備、道路の拡幅」については、男性が女性を5%上回っており、男性の45～49歳、60～64歳、女性の55～59歳で45%以上を示している。また、居住年数別では、5年以上10年未満で35%以上、居住地区別ではD地区で35%以上を示している。

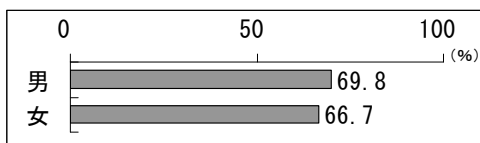
「段差解消などバリアフリー化の推進」については、女性が男性を約11%上回っており、特に、女性の50～54歳で40%以上を示している。また、居住年数別では、2年以上5年未満、20年以上30年未満、30年以上で25%以上、居住地区別ではE地区で40%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

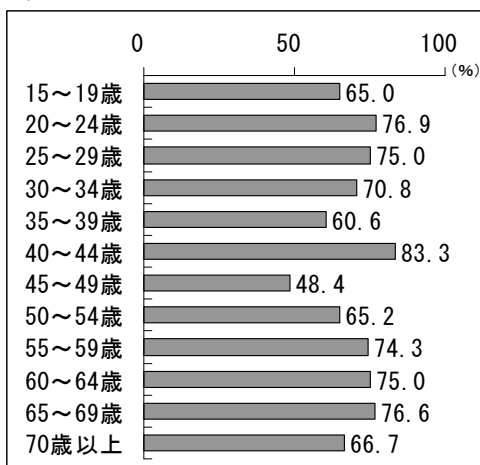
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位5項目）

□モノレールの早期開通

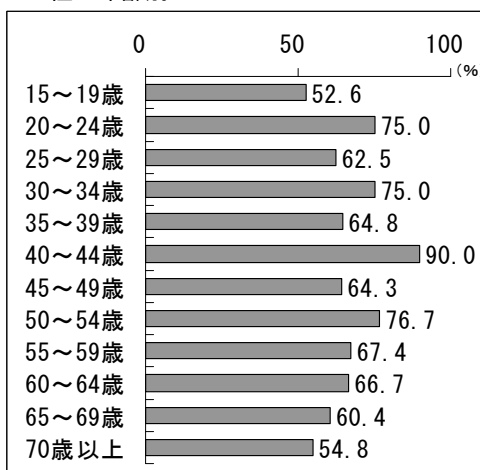
・性別



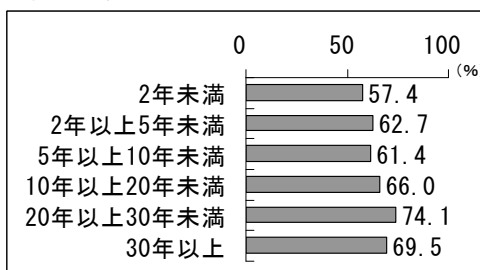
・男性×年齢別



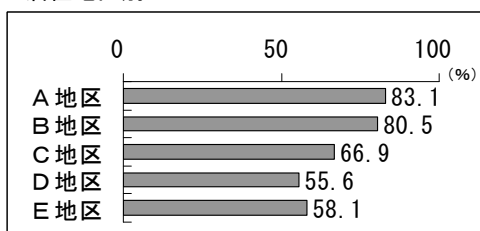
・女性×年齢別



・居住年数別

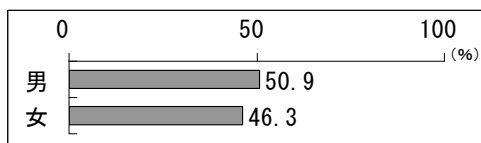


・居住地区別

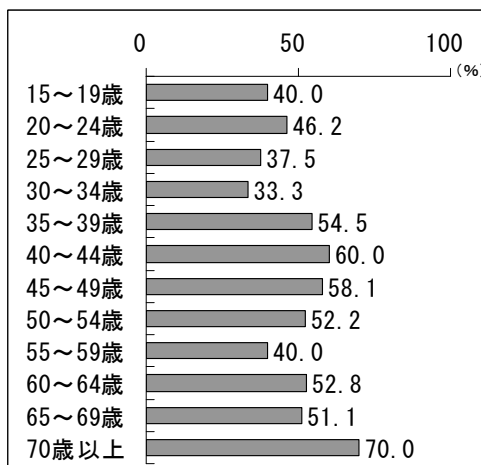


□歩道の整備、歩車道の分離、車両の交通規制などの交通安全対策

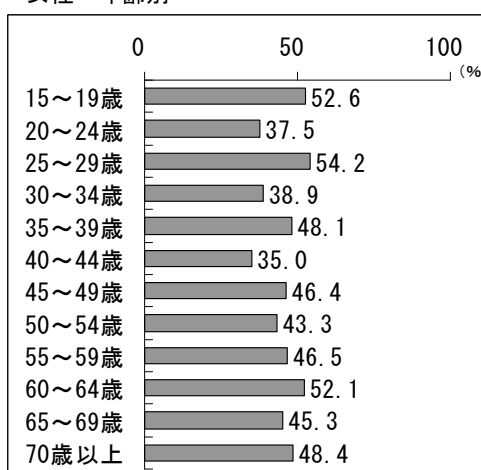
・性別



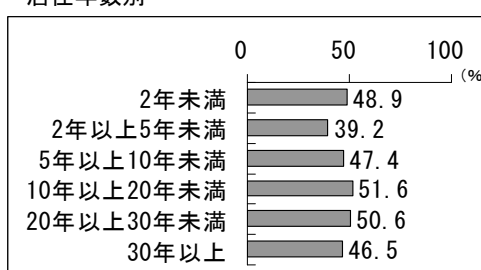
・男性×年齢別



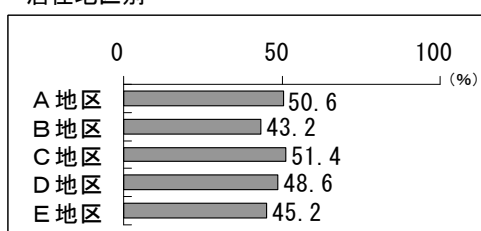
・女性×年齢別



・居住年数別



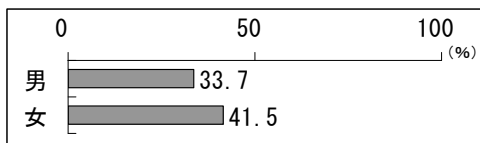
・居住地区別



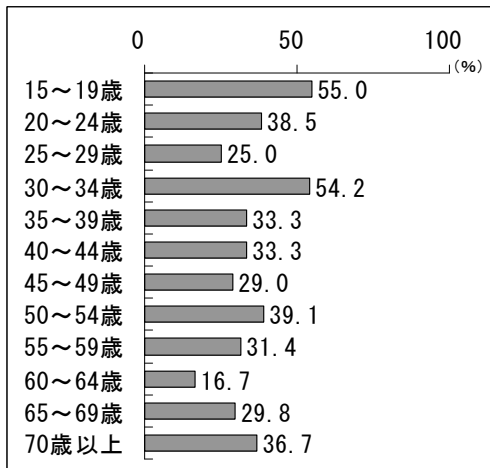
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□バス路線の増加・充実

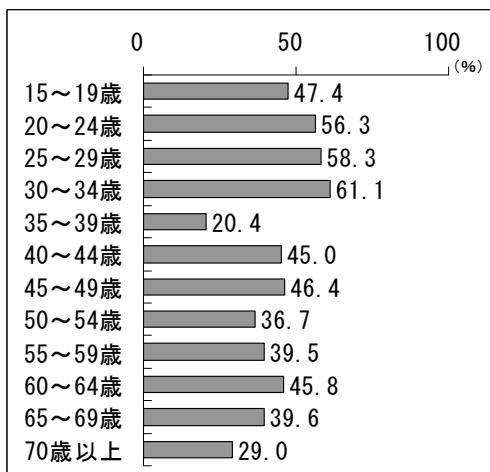
・性別



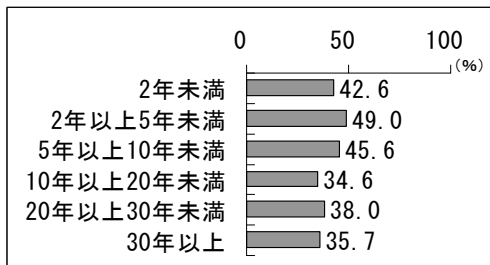
・男性×年齢別



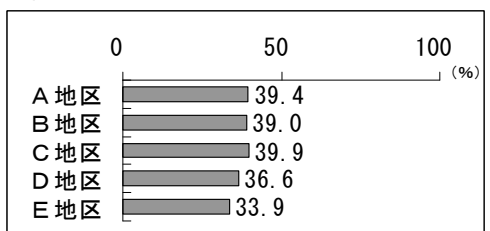
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別

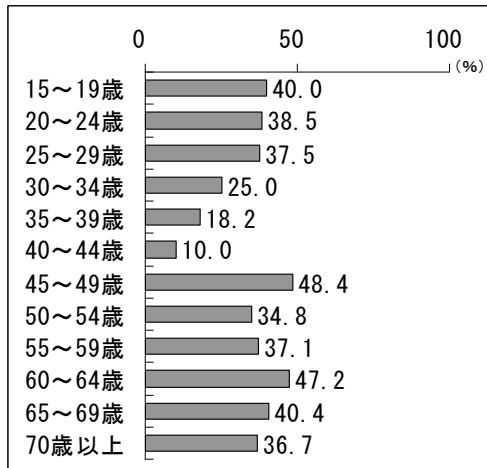


□身近な生活道路の整備、道路の拡幅

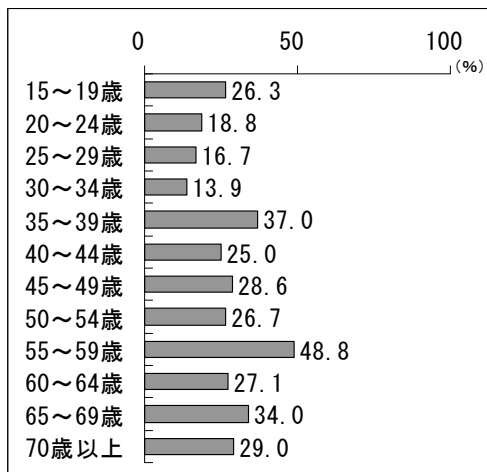
・性別



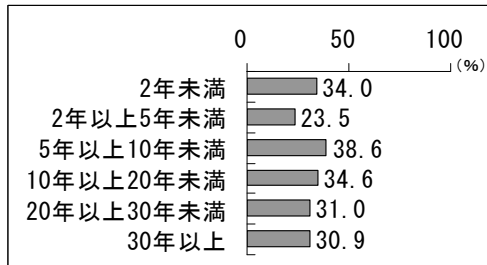
・男性×年齢別



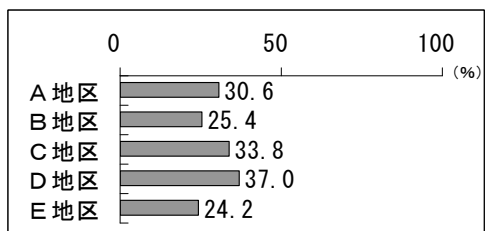
・女性×年齢別



・居住年数別



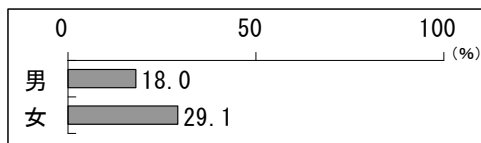
・居住地区別



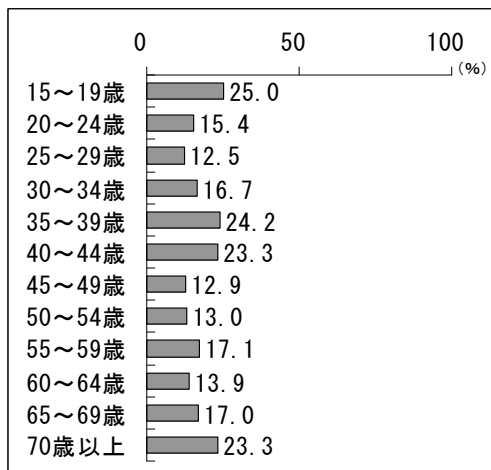
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□段差解消などバリアフリー化の推進

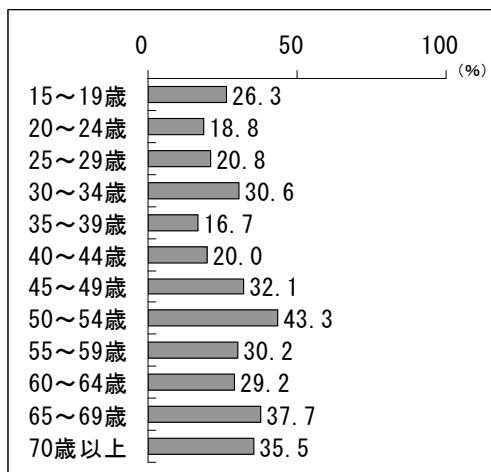
・性別



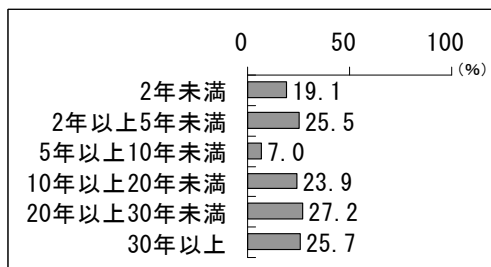
・男性×年齢別



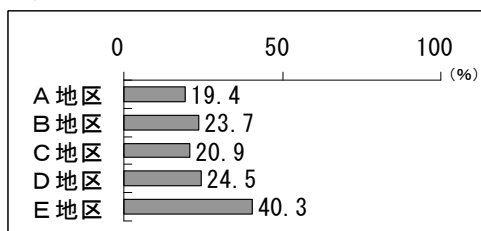
・女性×年齢別



・居住年数別



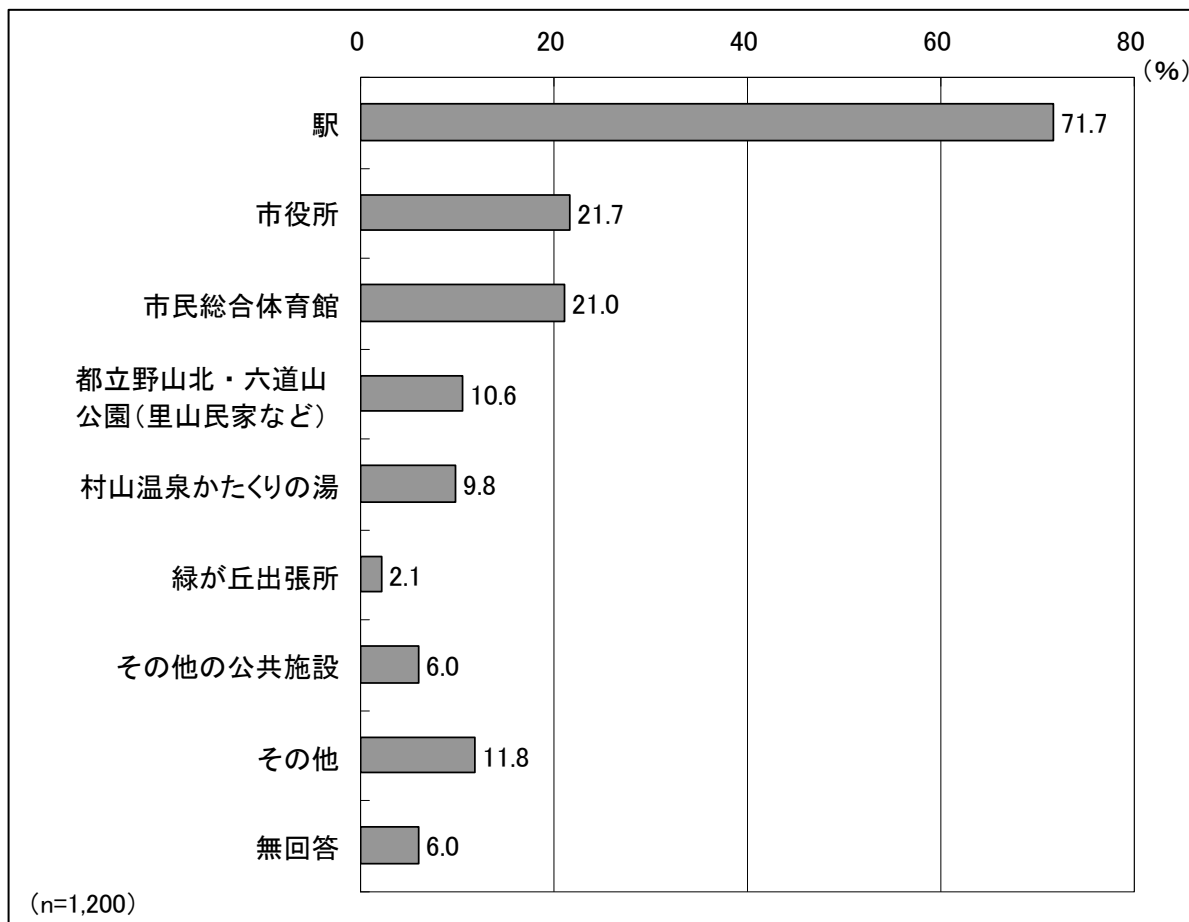
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

問 14 あなたのお住まいからどこまでの交通手段を円滑にしてほしいですか。(2つまで回答)

◆円滑にしてほしい交通手段：「駅」までが72%



円滑にしてほしい交通手段として、「駅」までが 71.7%と極めて高く、次いで「市役所」までが 21.7%、「市民総合体育館」までが 21.0%となっている。

「駅」については、男性・女性で大きな違いはみられないが、特に、男性の 30～34 歳、女性の 30～34 歳、45～49 歳で 85%以上を示している。また、居住地区別では、A 地区、B 地区、C 地区で 80%以上を示している。

「市役所」については、男性・女性で大きな違いはみられないが、男性の 20～24 歳、25～29 歳、70 歳以上、女性の 25～29 歳で 35%以上を示している。また、居住地区別では、E 地区で 40%以上を示している。

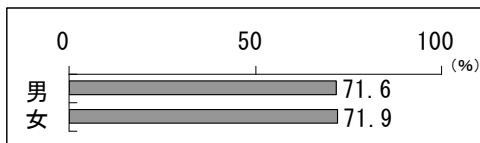
「市民総合体育館」については、男性・女性で大きな違いはみられないが、男性の 15～19 歳で 45%以上を示している。居住地区別では、A 地区、D 地区で 25%以上を示している。

注) A 地区=中藤・神明・中央・本町、B 地区=三ツ木・岸・中原、  
C 地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D 地区=榎・学園・大南、E 地区=緑が丘

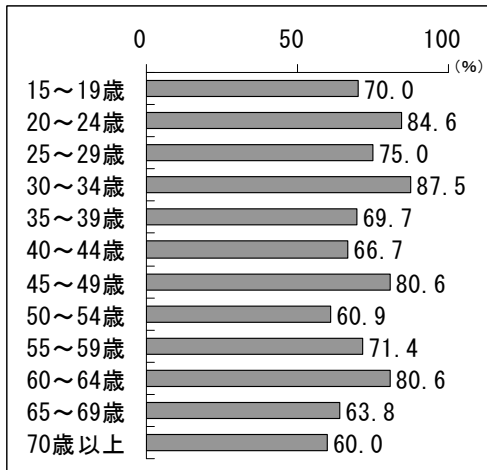
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位3項目）

□駅

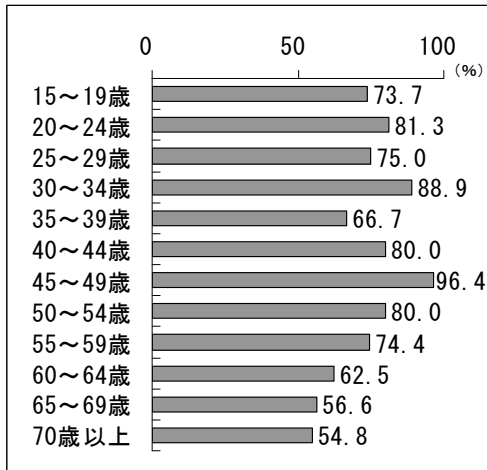
・性別



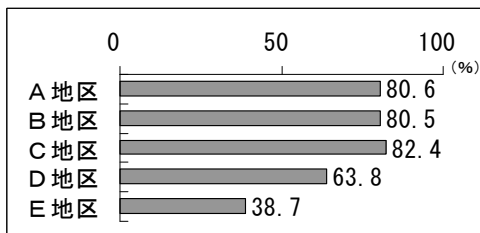
・男性×年齢別



・女性×年齢別

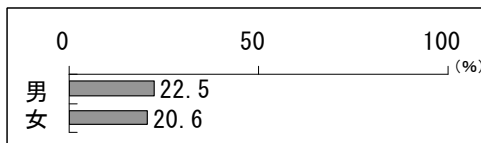


・居住地区別

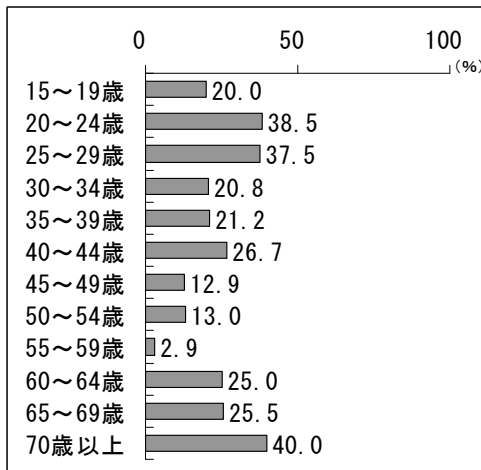


□市役所

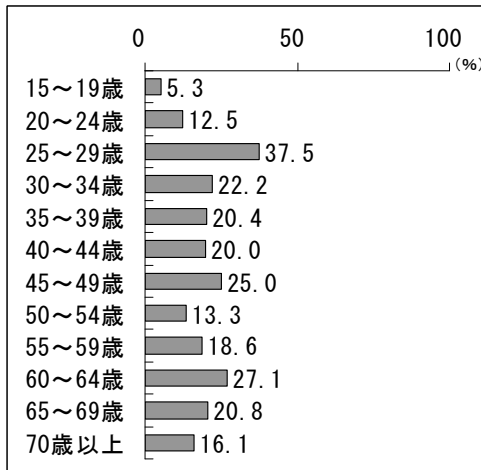
・性別



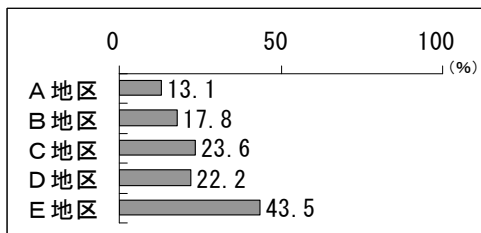
・男性×年齢別



・女性×年齢別



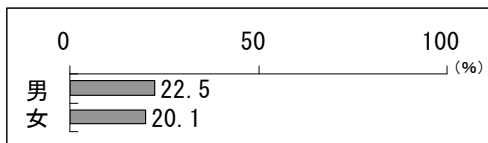
・居住地区別



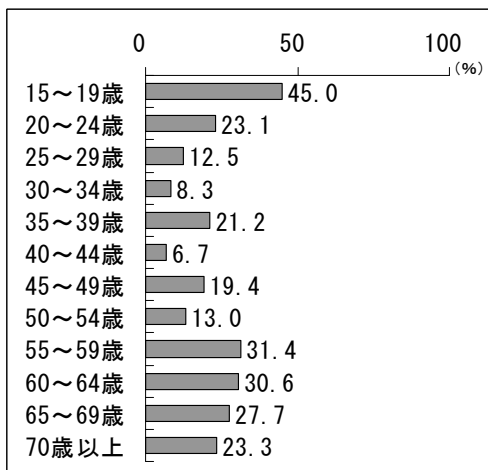
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□市民総合体育館

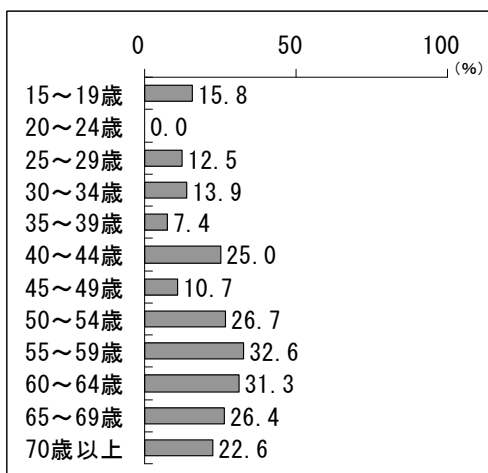
・性別



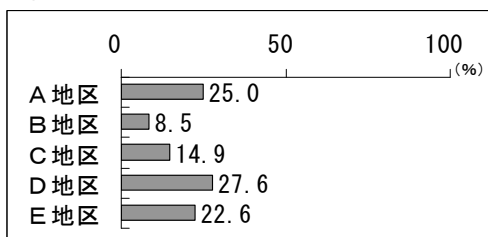
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別



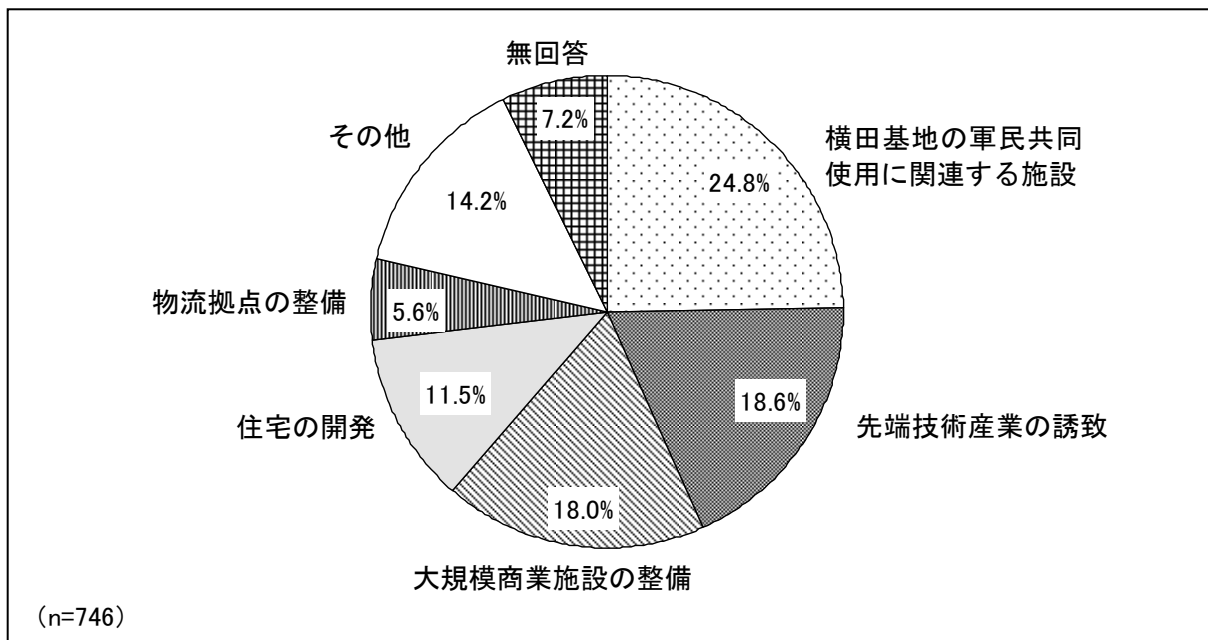
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘



(6) 大規模農地の活用

問 15 残堀・中原地区には、広大な市街化調整区域内農地約 56ha（大規模農地）があり、優良農地として保全されていますが、今後のまちづくりの進展に伴い、開発等が必要となった場合、どのように活用したらよいと思いますか。

◆希望する大規模農地の活用：「横田基地の軍民共同使用に関連する施設」が 25%



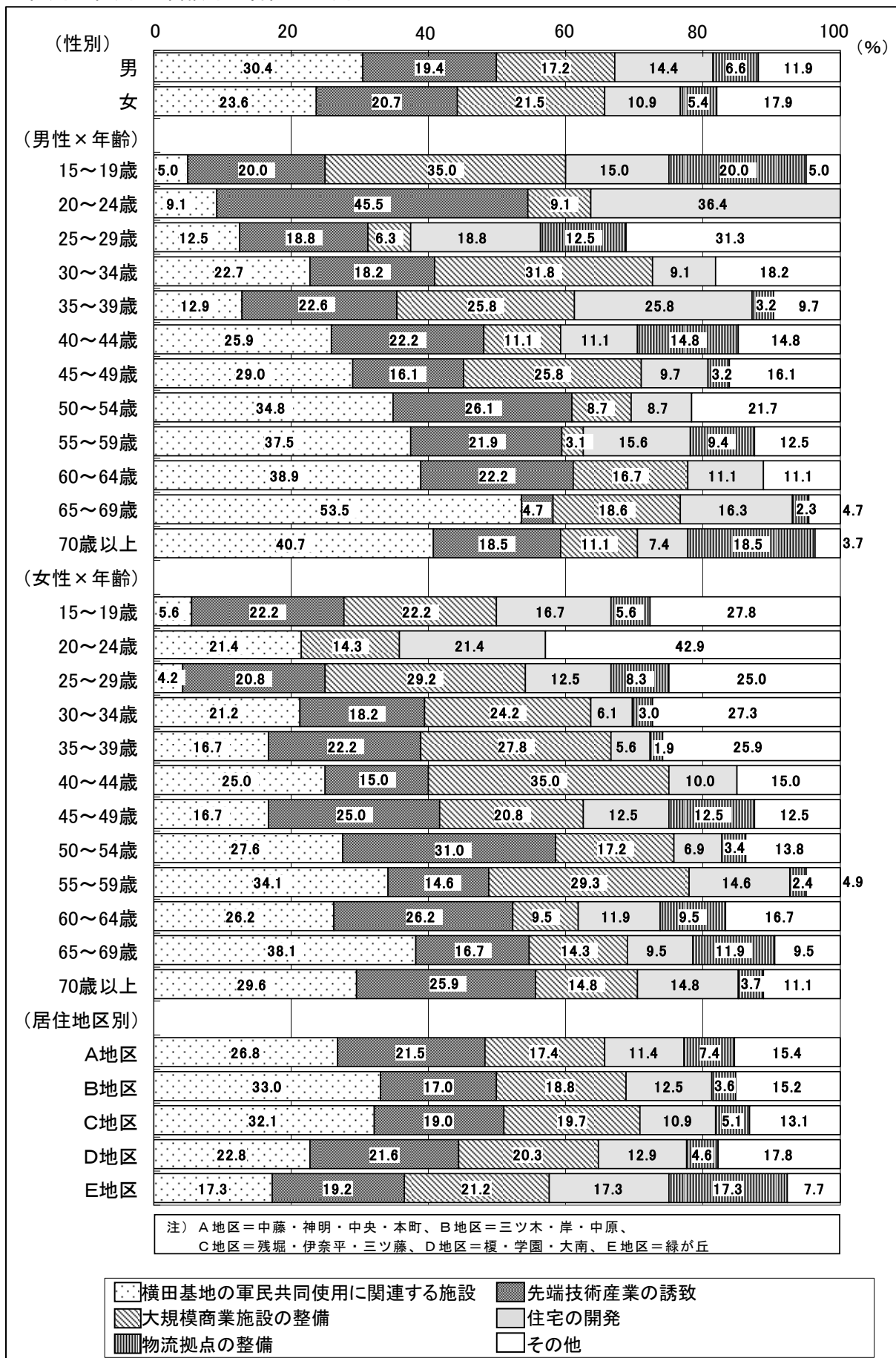
残堀・中原地区の今後の農地活用については、横田基地に近接していることもあり、「横田基地の軍民共同使用に関連する施設」が 24.8%と最も多く、次いで「先端技術産業の誘致」が 18.6%、「大規模商業施設の整備」が 18.0%となっている。

男性・女性とも、年齢が上がるにしたがって「横田基地の軍民共同使用に関連する施設」の要望の割合が高くなっている。また、男性の 20～24 歳では「先端技術産業の誘致」が 45.5%、女性の 40～44 歳では「大規模商業施設の整備」が 35.0%と他に比べ突出した割合を示している。

また、居住地区別にみると、A地区、B地区、C地区、D地区では「横田基地の軍民共同使用に関連する施設」、E地区では「大規模商業施設の整備」の割合が高くなっている。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

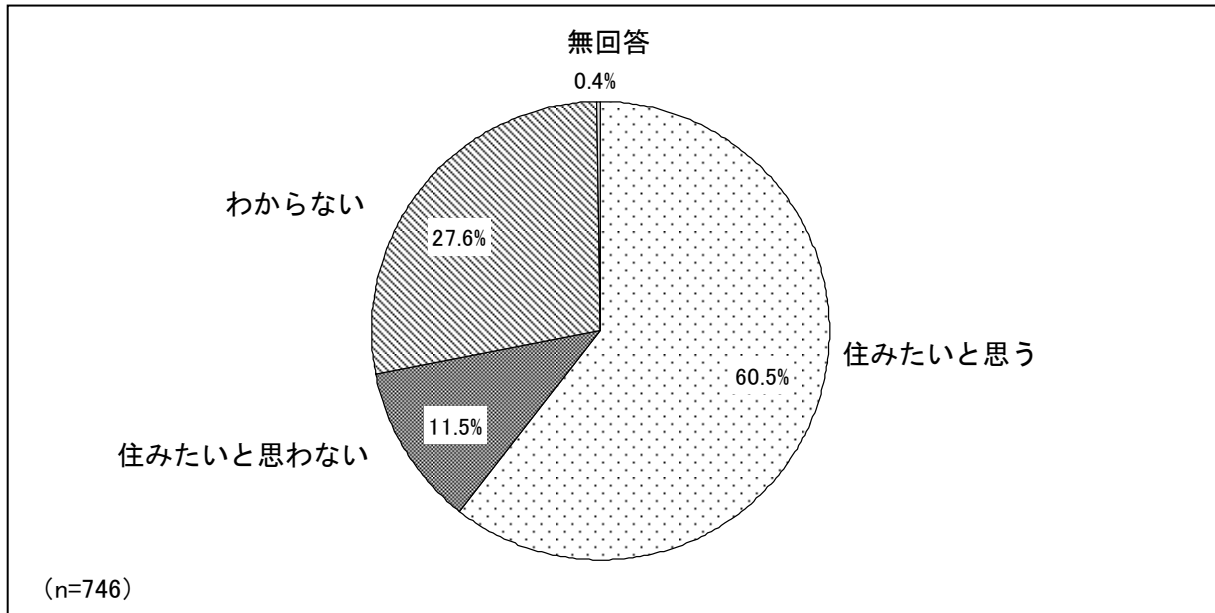
■性別／性別・年齢別／居住地区別



## (7) 定住意向

問16 あなたは、今後も武蔵村山市に引き続き住みたいと思いますか。

◆定住意向：「住みたいと思う」が61%、「住みたいと思わない」が12%



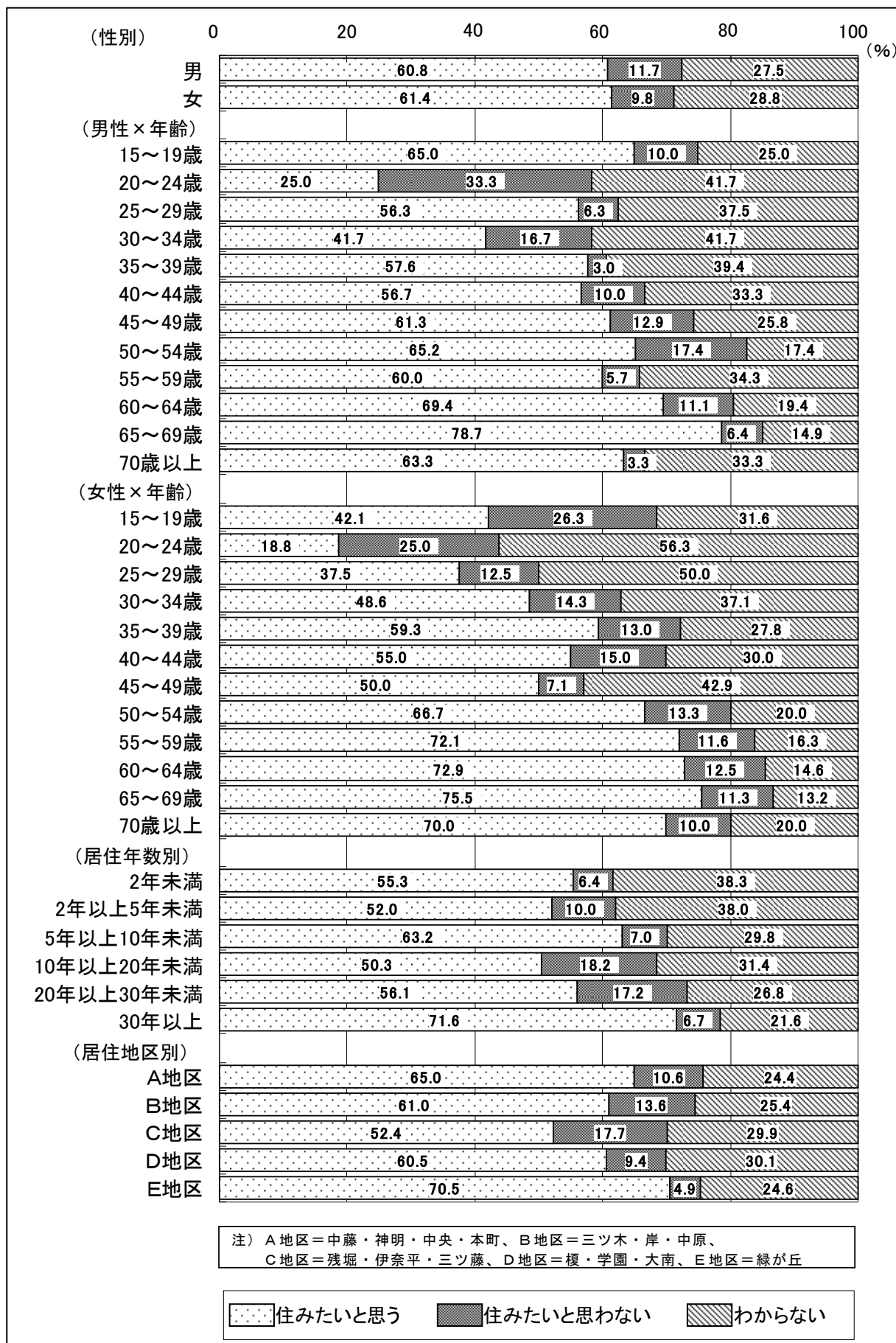
今後の定住意向として、「住みたいと思う」が60.5%を占め、「住みたいと思わない」は11.5%となっている。また、「わからない」が27.6%となっている。

男性・女性とも、「住みたいと思う」割合が60%以上を示し、「住みたいと思わない」割合は15%以下となっている。男性・女性とも、基本的には年齢が上がるにしたがって、「住みたいと思う」割合が高くなる傾向がみられるが、20～24歳では、「住みたいと思わない」割合が「住みたいと思う」割合を上回っている。

居住年数及び居住地区別では、いずれにおいても「住みたいと思う」が50%以上を示しているが、特に、居住年数別では30年以上で70%以上、居住地区別ではE地区で70%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

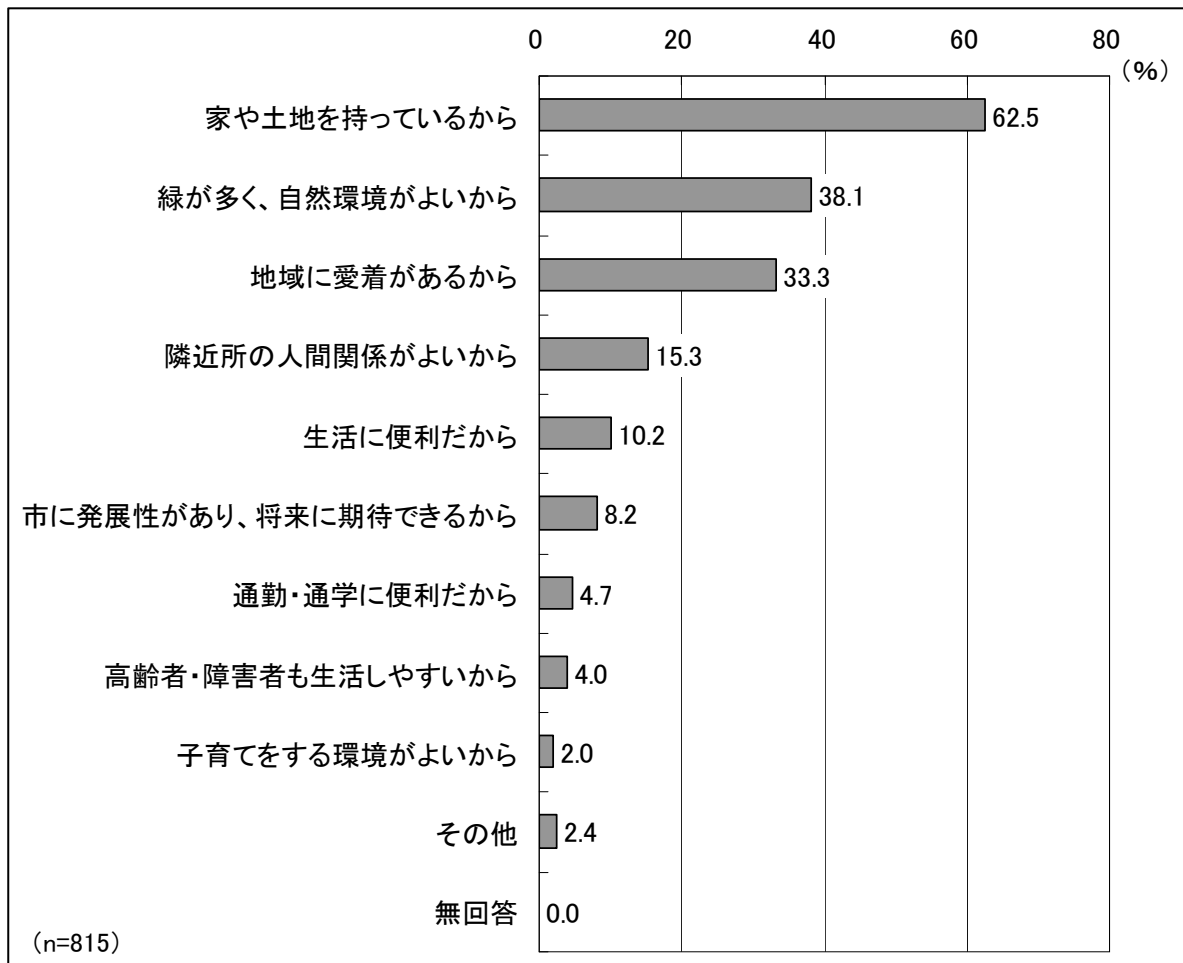
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別



(問16で「1」とお答えの方に)

問16- (1) あなたが住みたいと思う理由は何ですか。(2つまで回答)

◆住みたいと思う理由：「家や土地を持っているから」が63%



住みたいと思う理由としては、「家や土地を持っているから」が 62.5%、「緑が多く、自然環境がよいから」が 38.1%、「地域に愛着があるから」が 33.3%となっている。

「家や土地を持っているから」については、男性が女性を約5%上回っており、男性の20～24歳、50～54歳、55～59歳で80%以上を示している。また、居住年数別では、2年以上5年未満、30年以上で65%以上、居住地区別では、B地区で40%以上を示している。

「緑が多く、自然環境がよいから」については、男性が女性を約8%上回り、男性の50～54歳、60～64歳、女性の15～19歳、40～44歳、50～54歳で50%以上を示している。また、居住年数別では、2年以上5年未満、20年以上30年未満、30年以上で40%以上、居住地区別では、B地区、E地区で25%以上を示している。

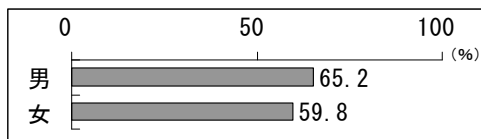
「地域に愛着があるから」については、男性・女性で大きな違いはないが、男性の15～19歳、30～34歳、女性の20～24歳で60%以上を示している。また、居住年数別では、30年以上で40%以上、居住地区別では、E地区で25%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、 C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘
--

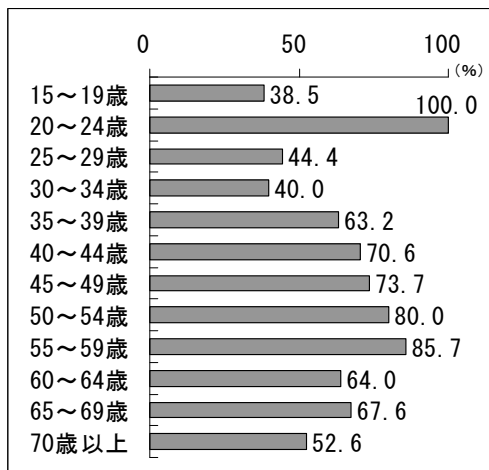
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位3項目）

□家や土地を持っているから

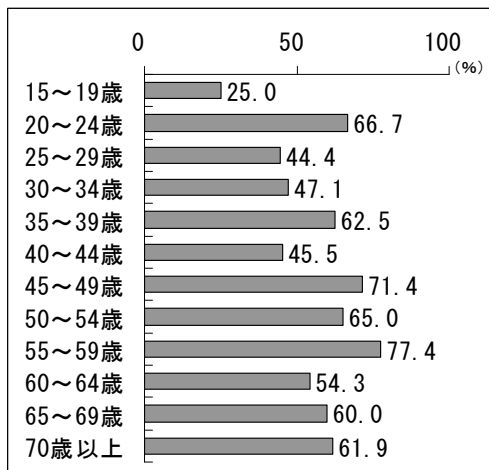
・性別



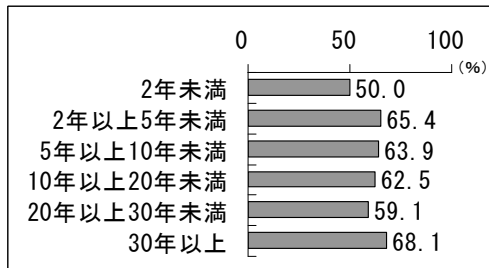
・男性×年齢別



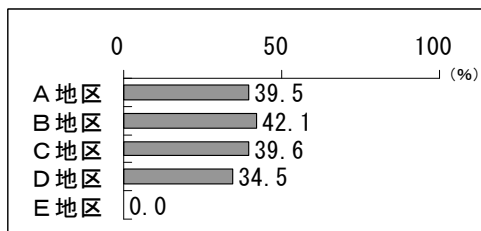
・女性×年齢別



・居住年数別

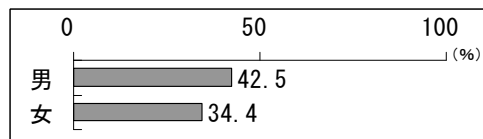


・居住地区別

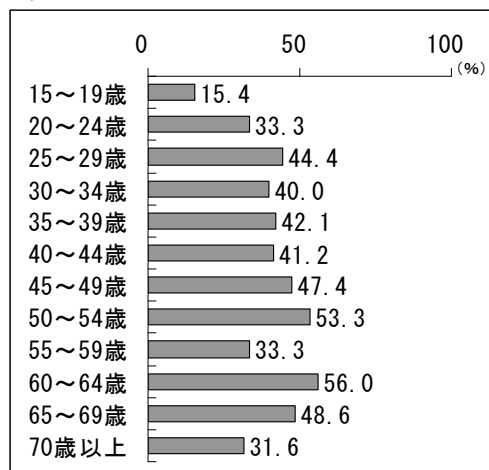


□緑が多く、自然環境がよいから

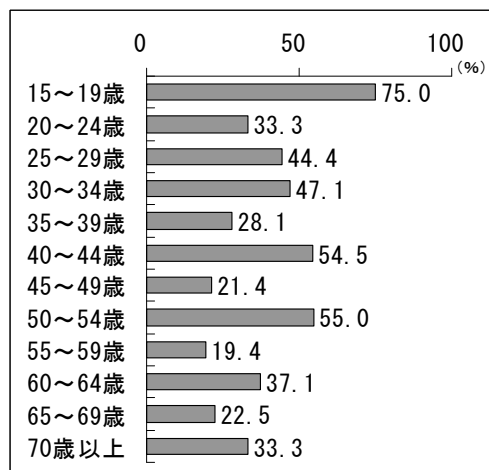
・性別



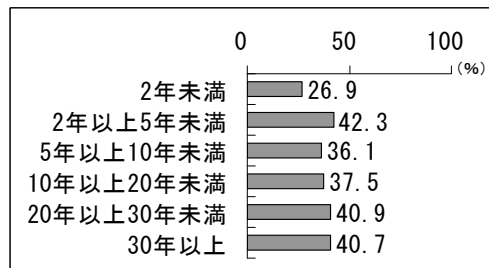
・男性×年齢別



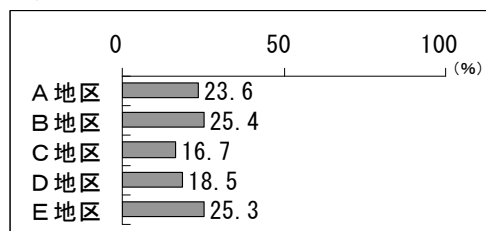
・女性×年齢別



・居住年数別



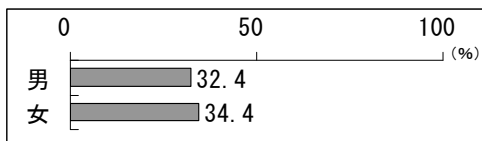
・居住地区別



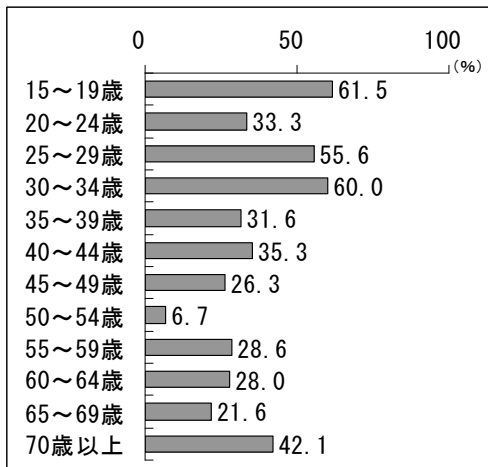
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□地域に愛着があるから

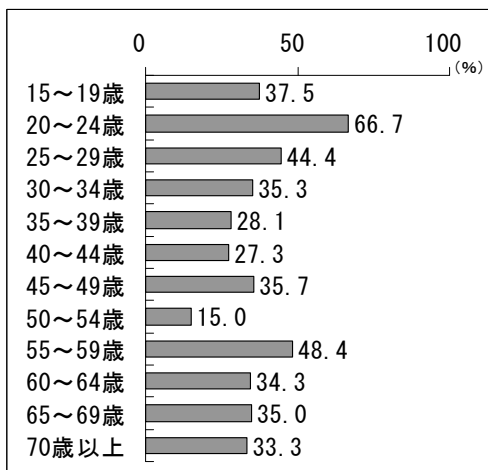
・性別



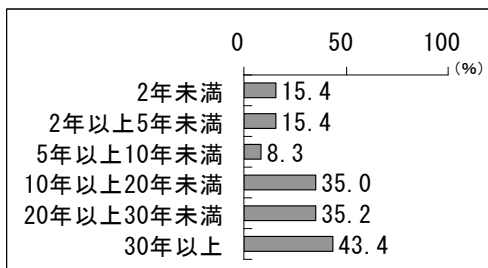
・男性×年齢別



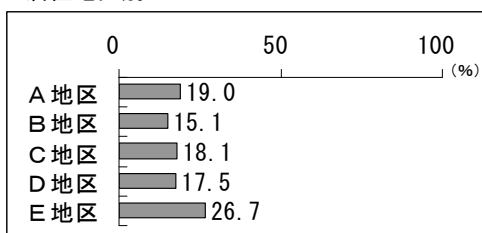
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別



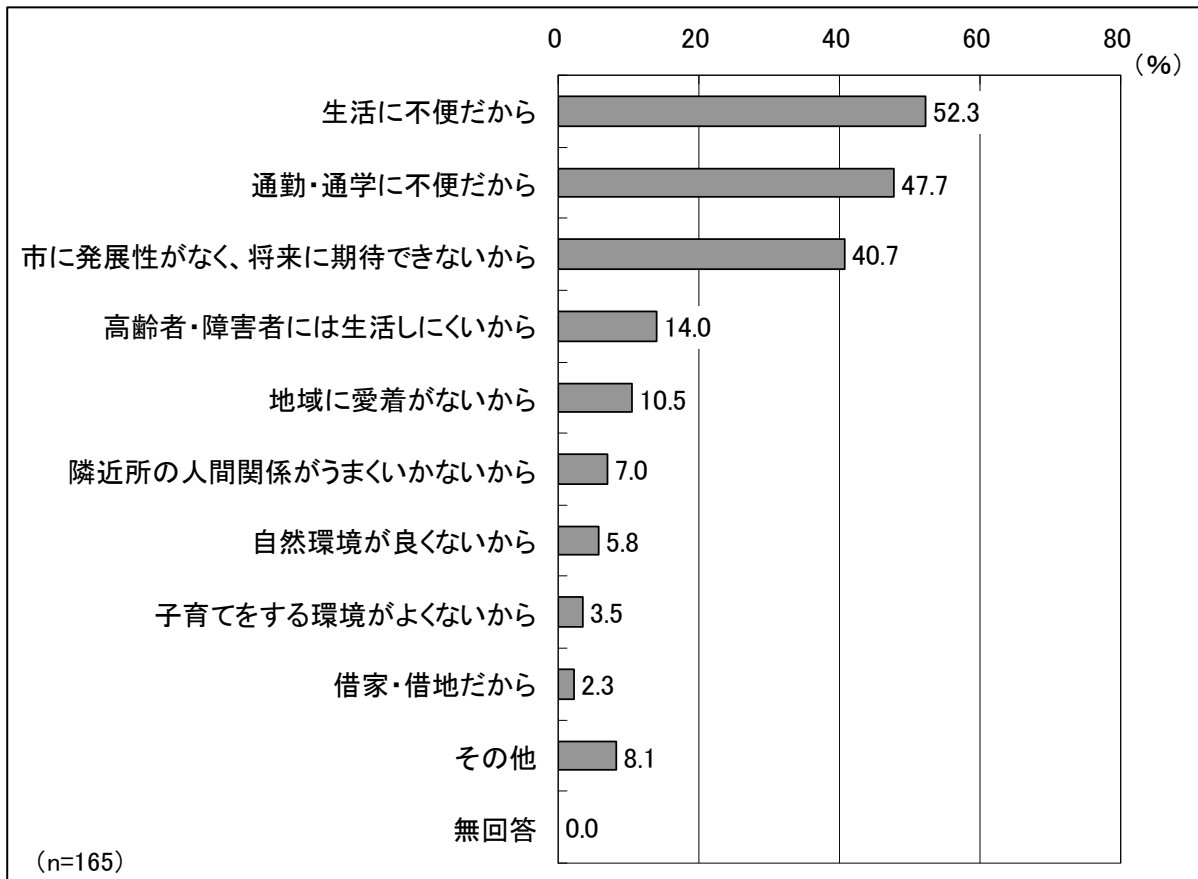
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘



(問16で「2」とお答えの方に)

問16- (2) あなたが住みたいと思わない理由は何ですか。(2つまで回答)

◆住みたいと思わない理由：「生活に不便だから」が52%



住みたいと思わない理由として、「生活に不便だから」が52.3%、「通勤・通学に不便だから」が47.7%、「市に発展性がなく、将来に期待できないから」が40.7%となっており、日常生活面での利便性に対する不満が高いことがわかる。

「生活に不便だから」については、女性が男性を約16%上回り、男性の55～59歳、70歳以上、女性の45～49歳、50～54歳で50%以上を示している。また、居住年数別では、2年未満、5年以上10年未満で65%以上、居住地区別では、A地区、B地区で60%以上を示している、

「通勤・通学に不便だから」については、男性が女性を約11%上回り、男性の25～29歳、35～39歳、40～44歳、女性の20～24歳、25～29歳で50%以上を示している。また、居住年数別では、5年以上10年未満が75%以上、居住地区別では、A地区が80%以上を示している。

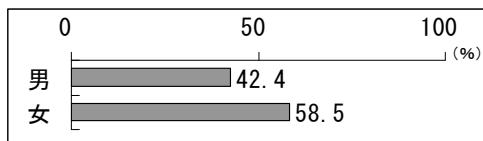
「市に発展性がなく、将来に期待できないから」については、男性が女性を17.5%上回り、男性の25～29歳、35～39歳、女性の15～19歳で40%以上を示している。また、居住年数別では、2年以上5年未満で60%以上、居住地区別では、A地区、D地区で45%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

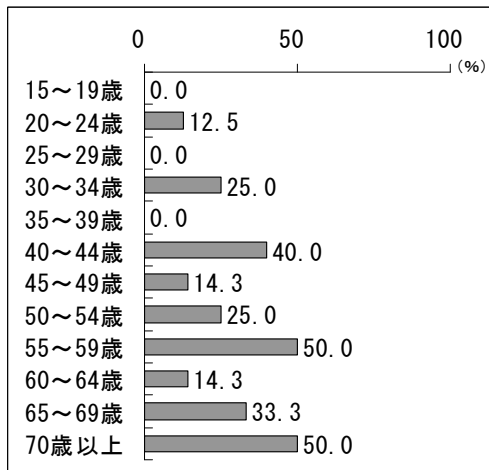
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位3項目）

□生活に不便だから

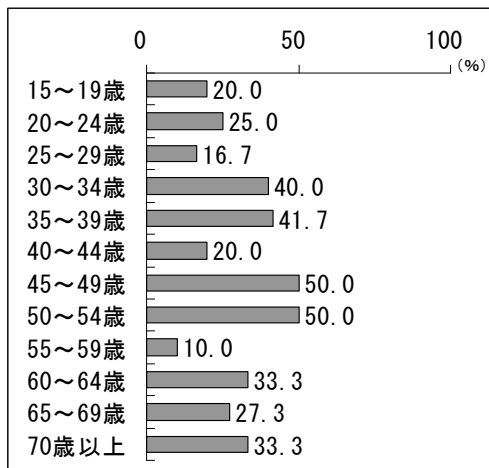
・性別



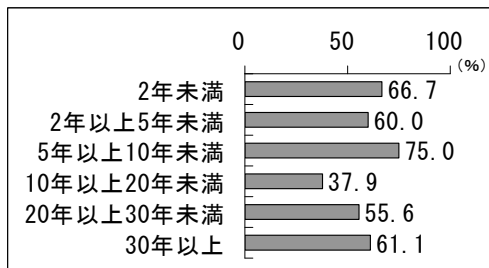
・男性×年齢別



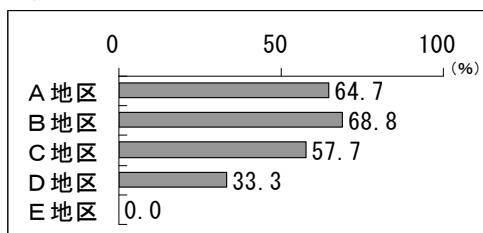
・女性×年齢別



・居住年数別

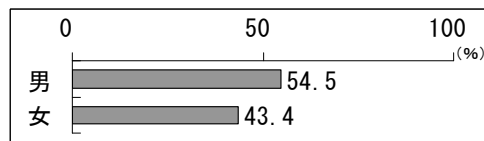


・居住地区別

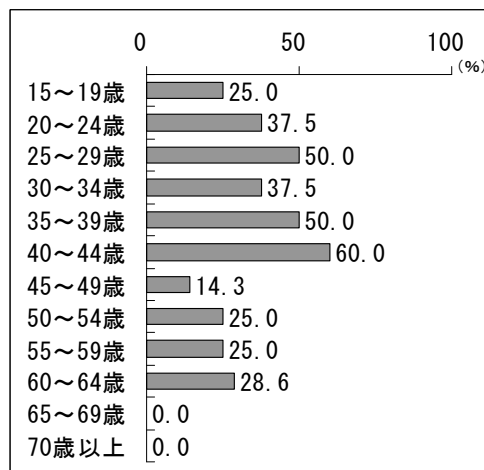


□通勤・通学に不便だから

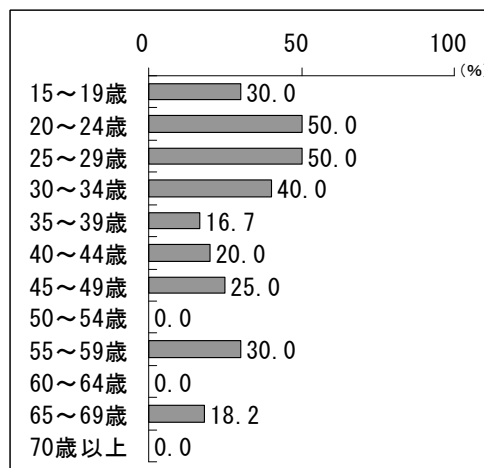
・性別



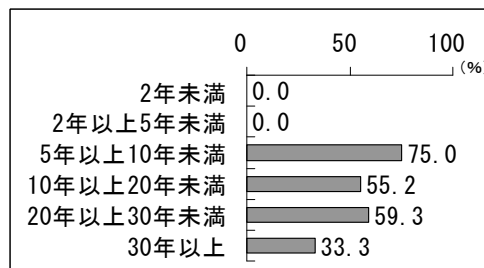
・男性×年齢別



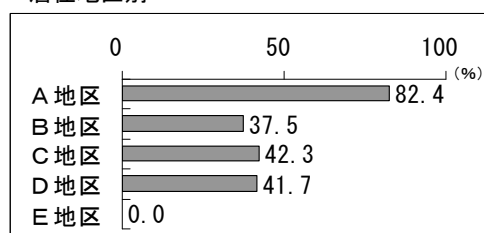
・女性×年齢別



・居住年数別



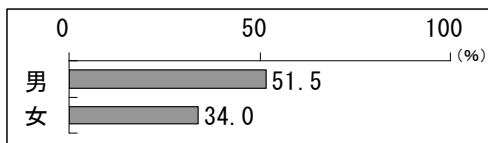
・居住地区別



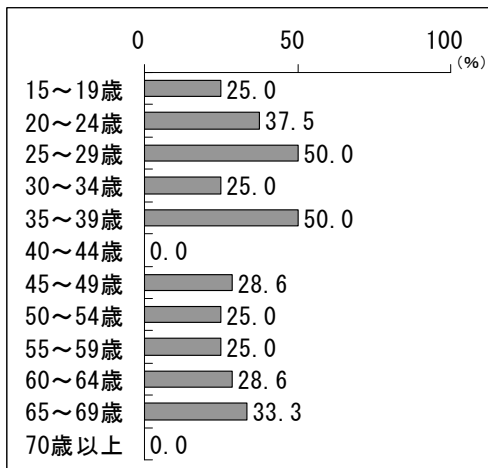
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□市に発展性がなく、将来に期待できないから

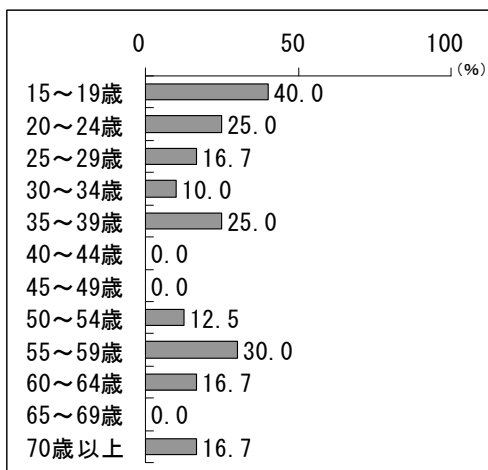
・性別



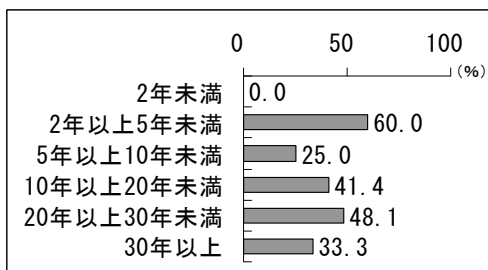
・男性×年齢別



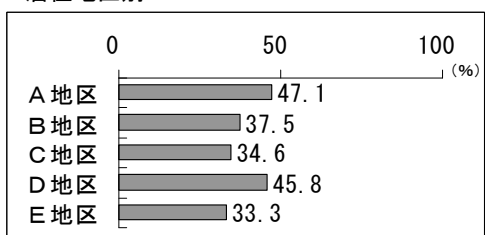
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別

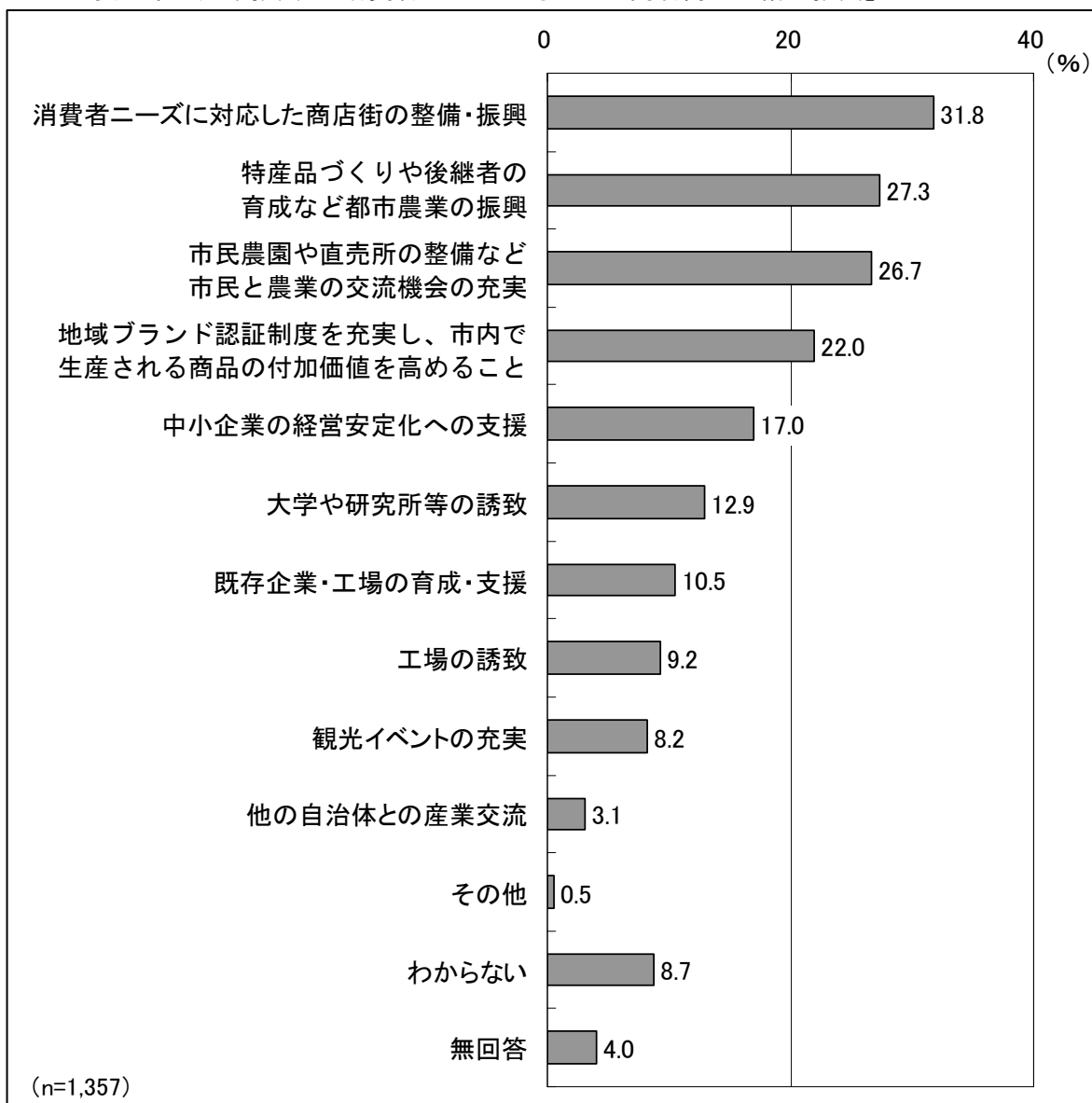


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (8) 産業振興

問17 あなたは、市の産業振興として次のうちどれが重要だと思いますか。(2つまで回答)

◆重要な市の産業振興：「消費者ニーズに対応した商店街の整備・振興」が32%



重要な市の産業振興として、「消費者ニーズに対応した商店街の整備・振興」が31.8%と最も多く、次いで「特産品づくりや後継者の育成など都市農業の振興」が27.3%、「市民農園や直売所の整備など市民と農業の交流機会の充実」が26.7%、「地域ブランド認証制度を充実し、市内で生産される商品の付加価値を高めること」が22.0%となっている。

「消費者ニーズに対応した商店街の整備・振興」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳、55～59歳、女性の30～34歳で40%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で35%以上を示している。

「特産品づくりや後継者の育成など都市農業の振興」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の55～59歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、A地区で30%以上を示している。

「市民農園や直売所の整備など市民と農業の交流機会の充実」については、女性が男性を約11%上回り、女性の65～69歳で45%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区、E地区が25%以上を示している。

「地域ブランド認証制度を充実し、市内で生産される商品の付加価値を高めること」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の35～39歳、50～54歳、60～64歳、女性の25～29歳、40～44歳で30%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区で20%以上を示している。

「中小企業の経営安定化への支援」については、男性が女性を約5%上回り、男性の20～24歳で45%以上を示している。また、居住地区別では、C地区で20%以上を示している。

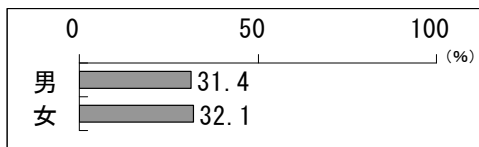
「大学や研究所等の誘致」については、男性が女性を約5%上回り、男性の20～24歳、25～29歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、B地区で15%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

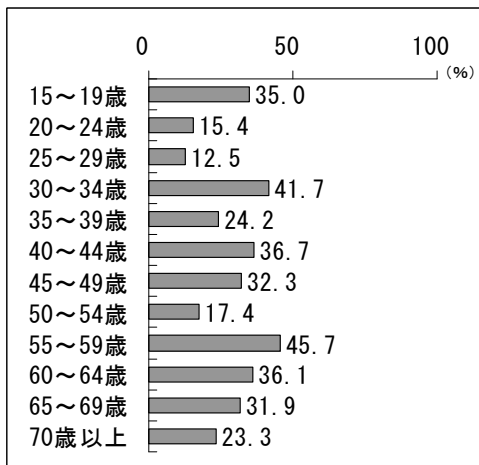
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□消費者ニーズに対応した商店街の整備・振興

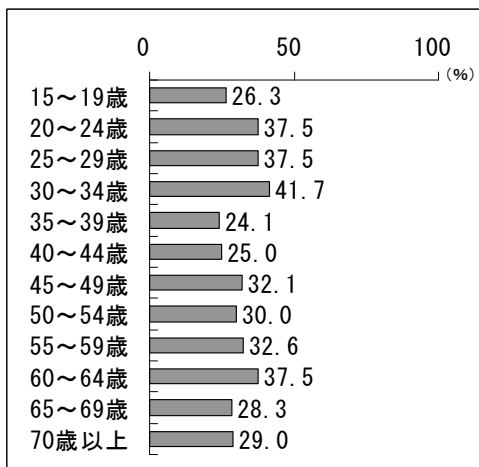
・性別



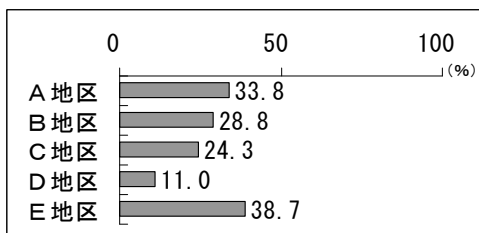
・男性×年齢別



・女性×年齢別

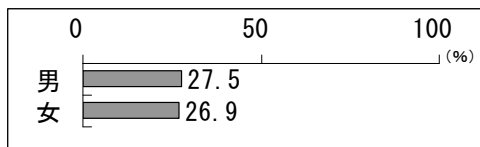


・居住地区別

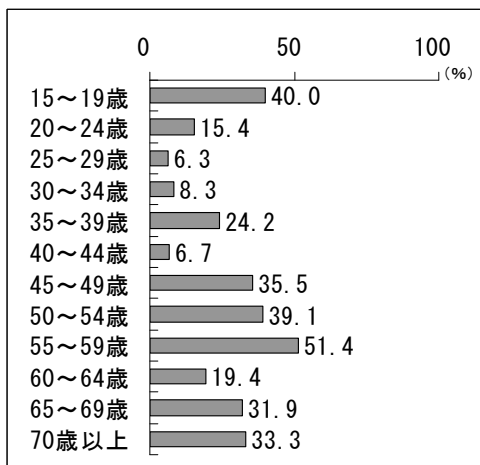


□特産品づくりや後継者の育成など都市農業の振興

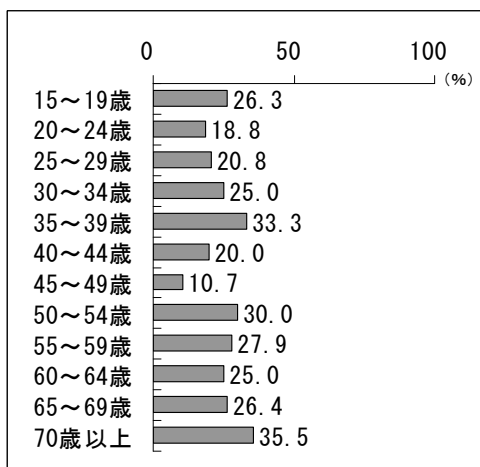
・性別



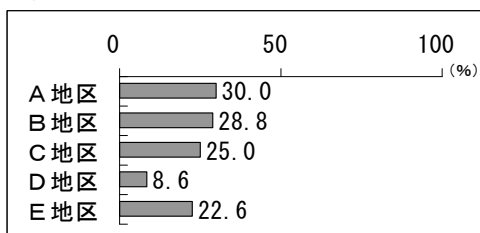
・男性×年齢別



・女性×年齢別



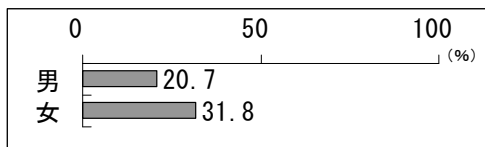
・居住地区別



注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

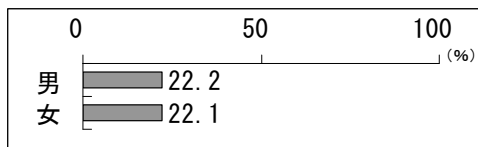
□市民農園や直売所の整備など市民と農業の交流機会の充実

・性別

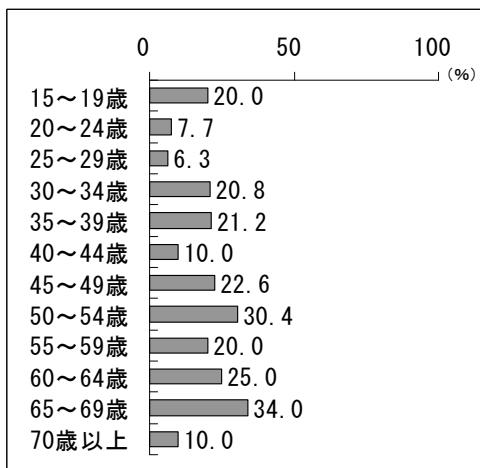


□地域ブランド認証制度を充実し、市内で生産される商品の付加価値を高めること

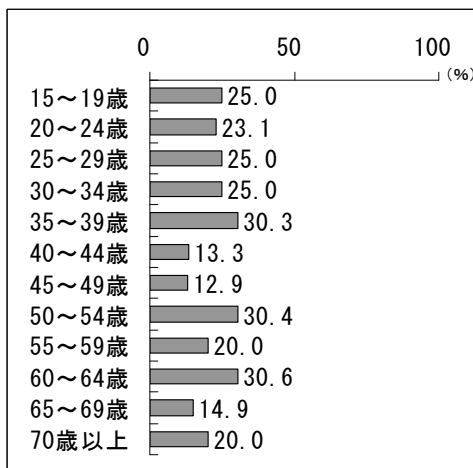
・性別



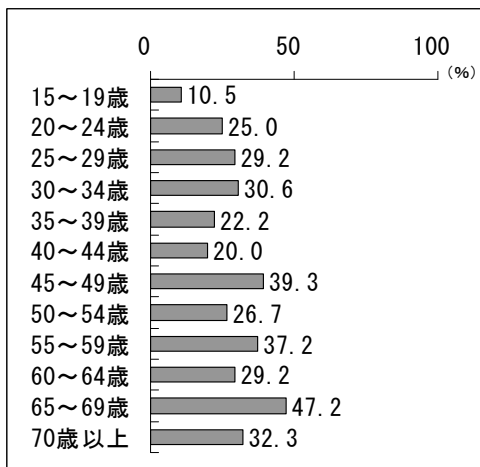
・男性×年齢別



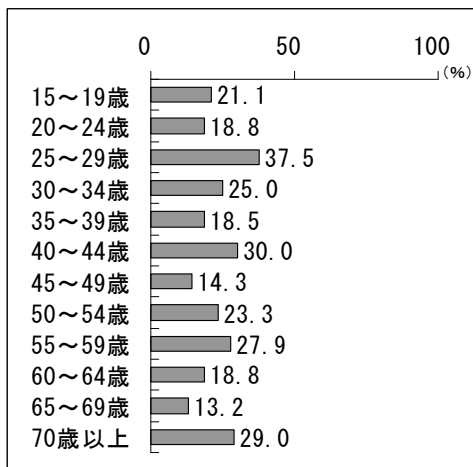
・男性×年齢別



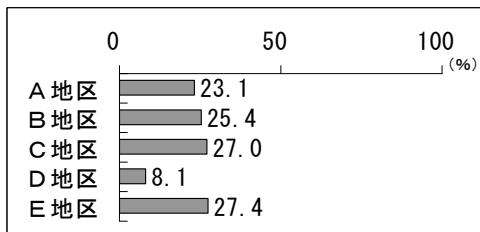
・女性×年齢別



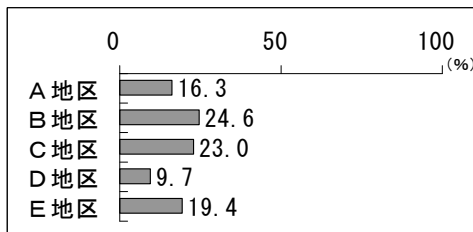
・女性×年齢別



・居住地区別



・居住地区別

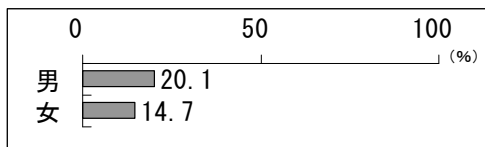


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

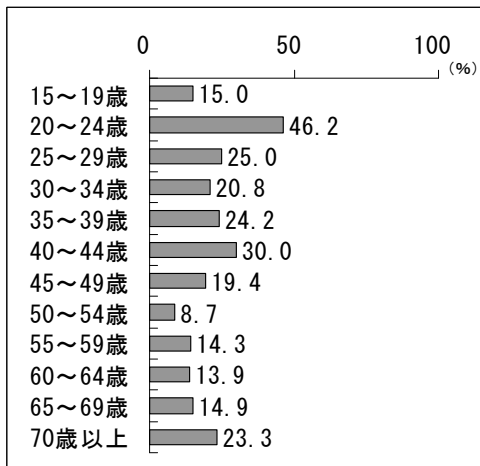


□中小企業の経営安定化への支援

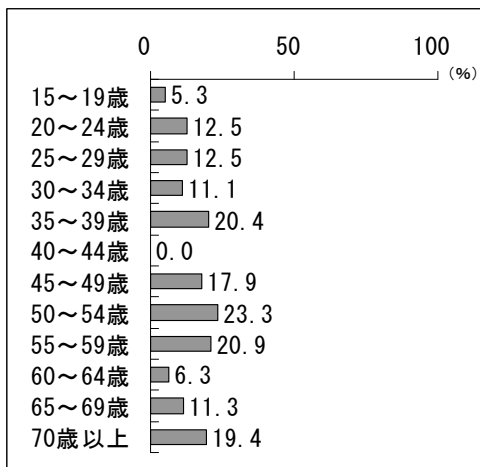
・性別



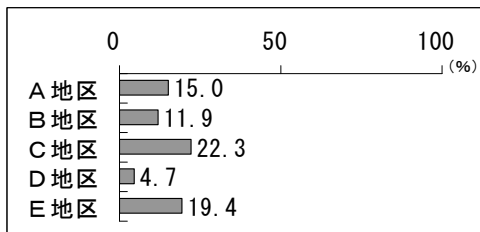
・男性×年齢別



・女性×年齢別

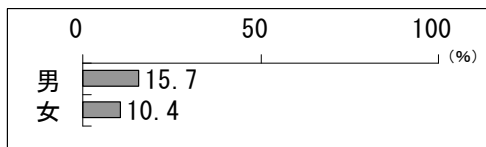


・居住地区別

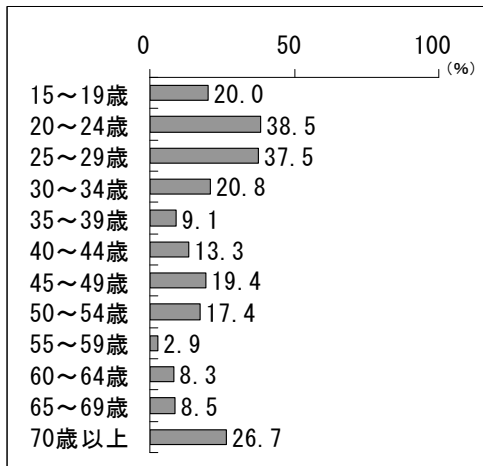


□大学や研究所等の誘致

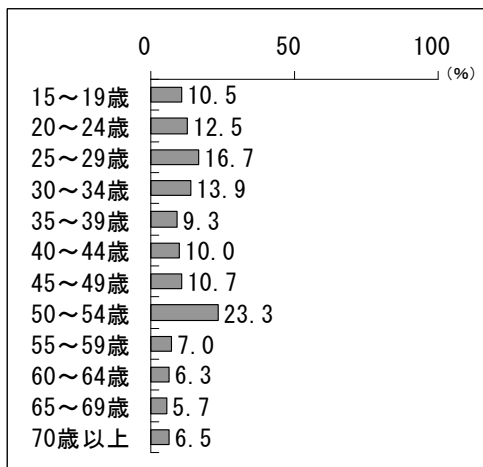
・性別



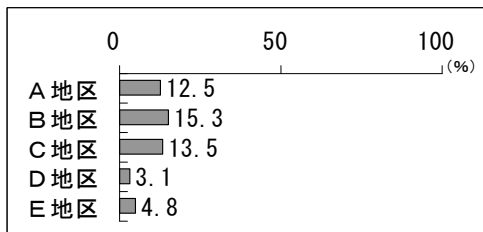
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

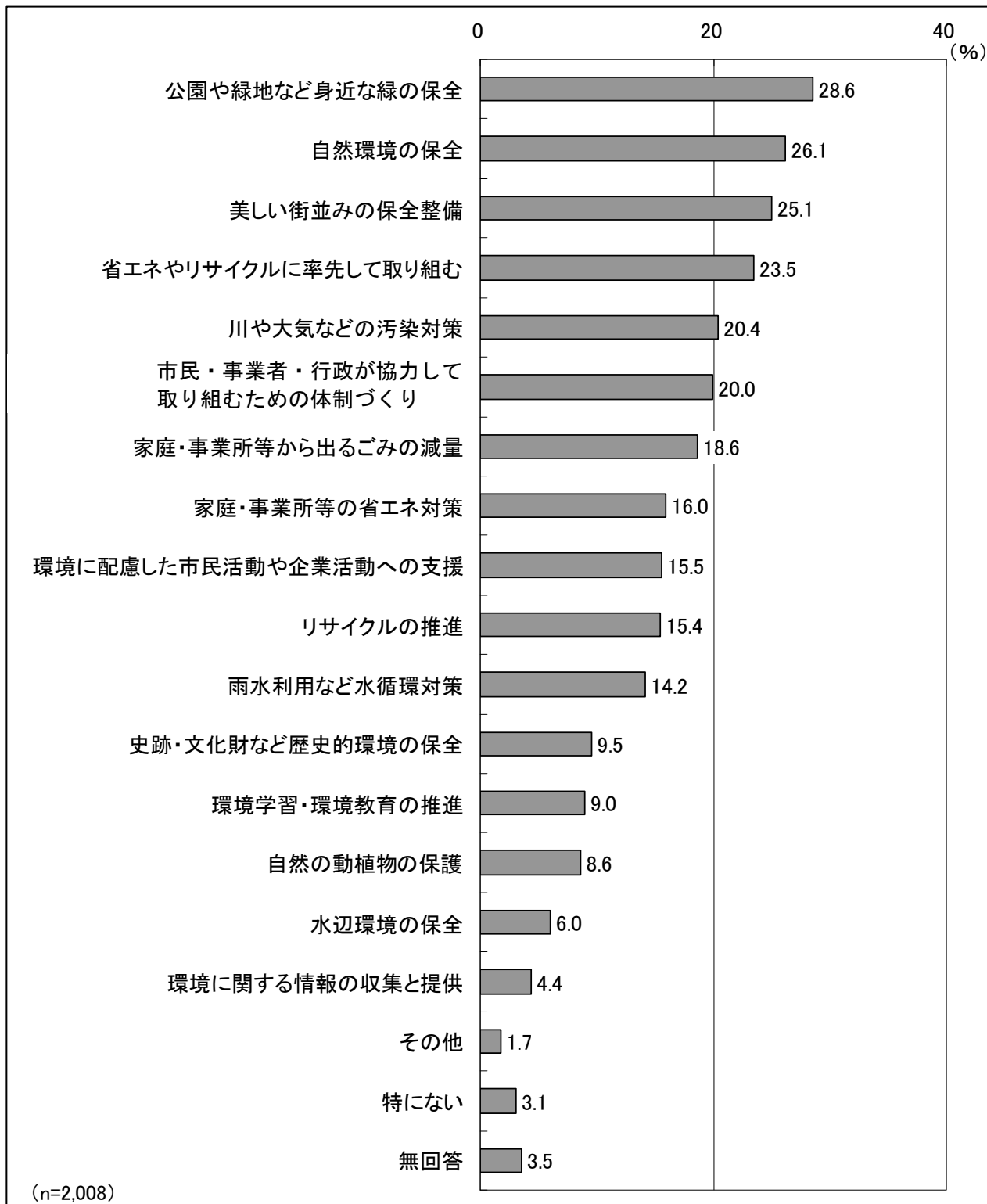


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(9) 環境

問18 よりよい環境づくりのために、あなたは、市として特にどのような分野に取り組むべきだと思いますか。(3つまで回答)

◆よりよい環境づくりに向けた取り組み：「公園や緑地など身近な緑の保全」が29%



よりよい環境づくりのための取り組みとして、「公園や緑地などの身近な緑の保全」が28.6%と最も高く、次いで「自然環境の保全」が26.1%、「美しい街並みの保全整備」が25.1%となっている。

「公園や緑地など身近な緑の保全」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の25～29歳、女性の20～24歳、25～29歳、35～39歳で40%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、E地区で20%以上を示している。

「自然環境の保全」については、男性が女性を約8%上回り、男性の15～19歳、20～24歳、25～29歳、40～44歳、50～54歳、55～59歳、女性の30～34歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、A地区が30%以上を示している。

「美しい街並みの保全整備」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、45～49歳、女性の40～44歳で40%以上を示している。また、居住地区別ではA地区、E地区で25%以上を示している。

「省エネやリサイクルに率先して取り組む」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の60～64歳、女性の15～19歳、60～64歳で35%以上を示している。また、居住地区別ではB地区、E地区で25%以上を示している。

「川や大気などの汚染対策」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の15～19歳、女性の25～29歳、45～49歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、C地区、E地区で20%以上を示している。

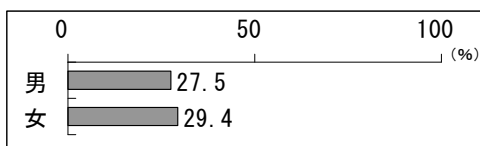
「市民・事業所・行政が協力して取り組むための体制づくり」については、男性が女性を約7%上回り、男性の65～69歳、70歳以上で30%以上を占めている。また、居住地区別では、E地区が25%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

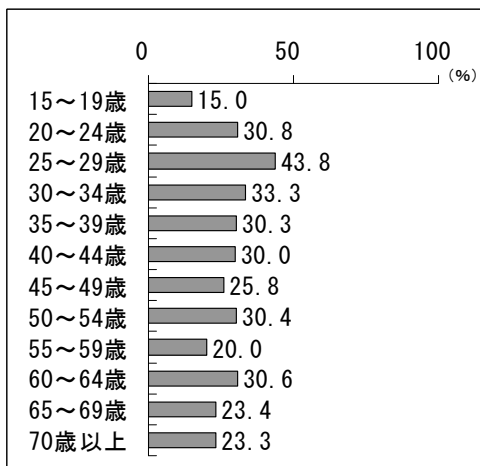
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□公園や緑地など身近な緑の保全

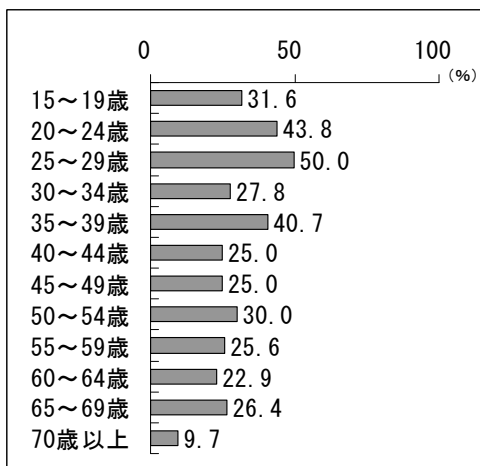
・性別



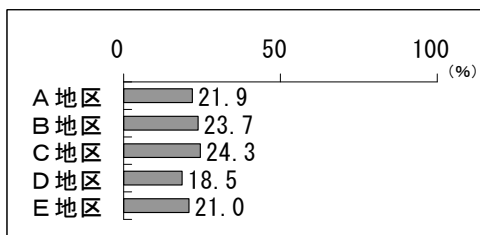
・男性×年齢別



・女性×年齢別

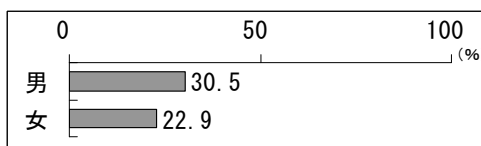


・居住地区別

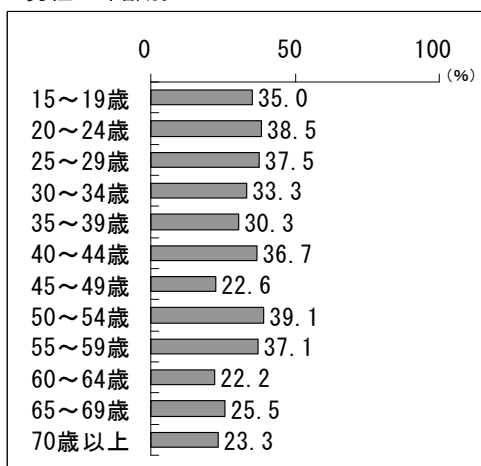


□自然環境の保全

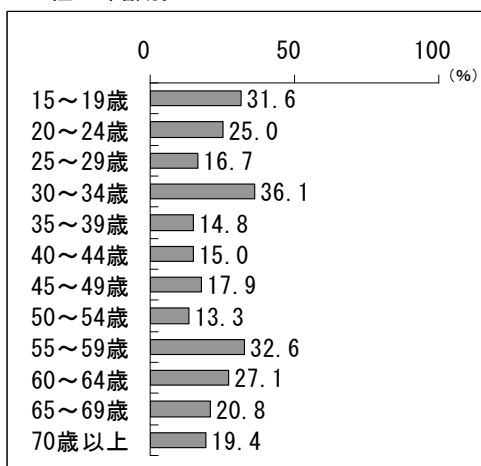
・性別



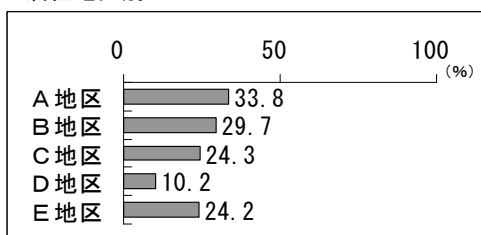
・男性×年齢別



・女性×年齢別



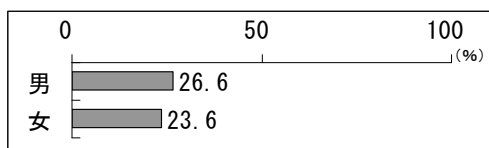
・居住地区別



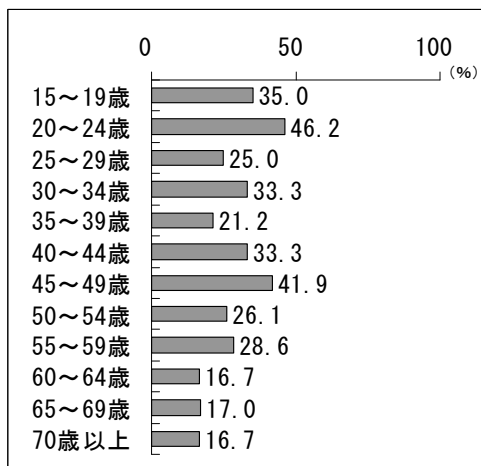
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□美しい街並みの保全整備

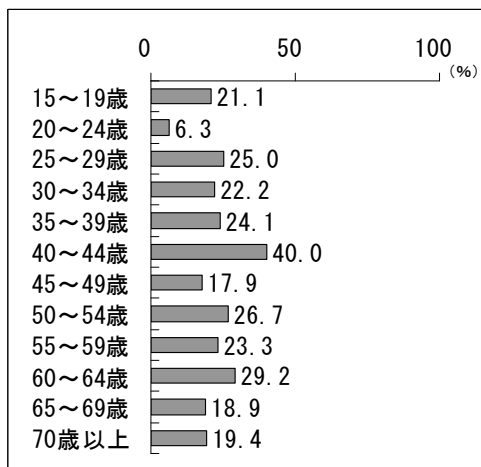
・性別



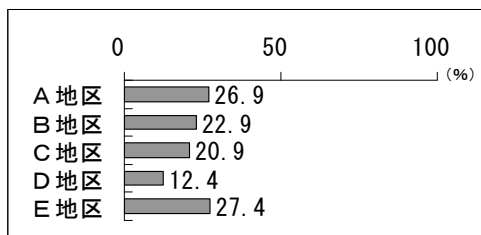
・男性×年齢別



・女性×年齢別

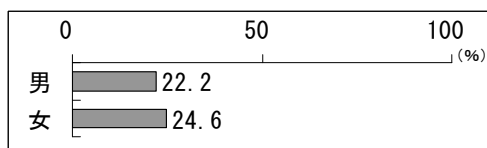


・居住地区別

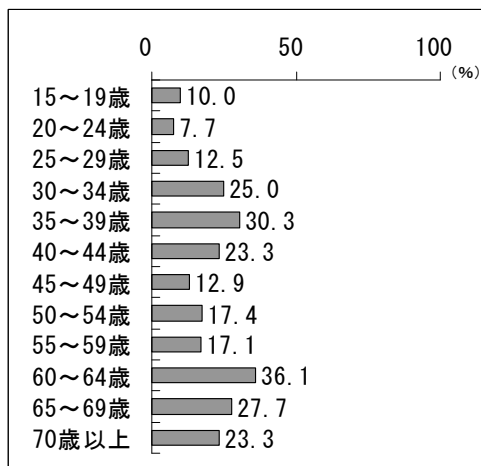


□省エネやリサイクルに率先して取り組む

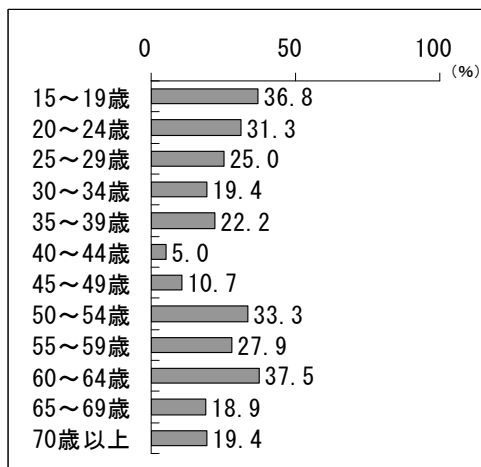
・性別



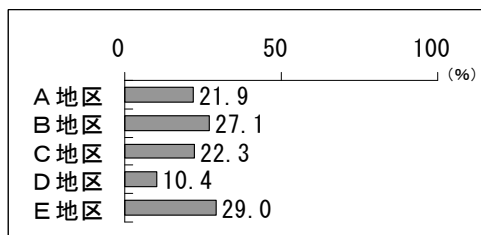
・男性×年齢別



・女性×年齢別



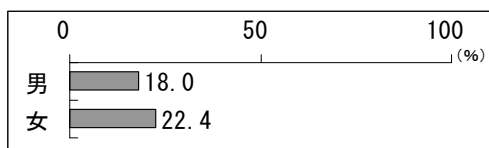
・居住地区別



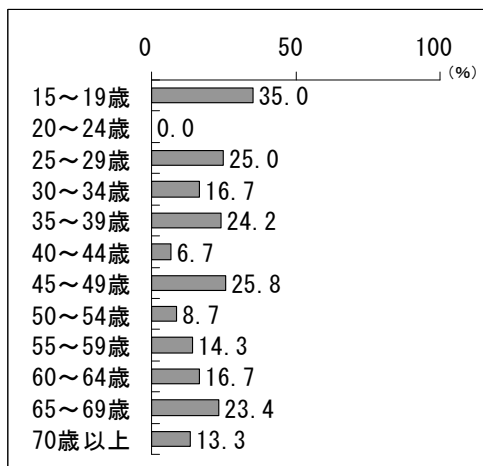
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□川や大気などの汚染対策

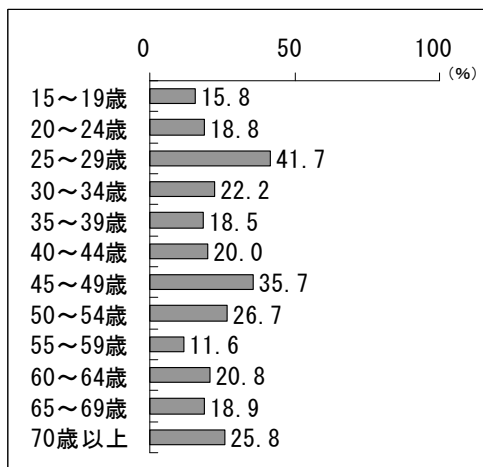
・性別



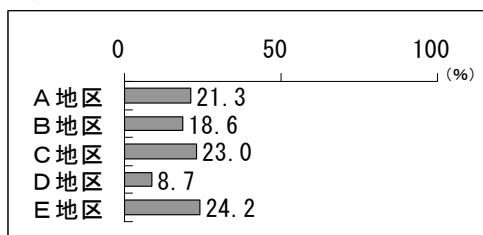
・男性×年齢別



・女性×年齢別

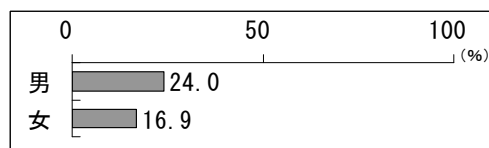


・居住地区別

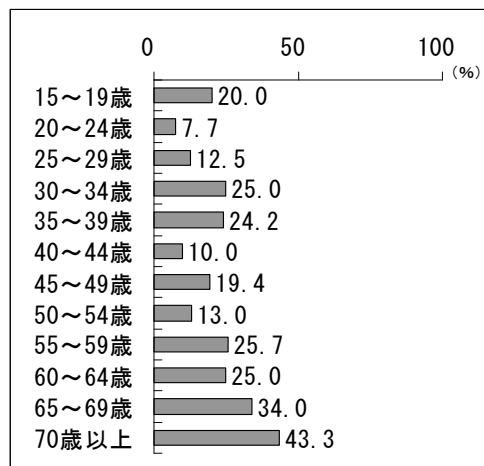


□市民・事業者・行政が協力して取り組むための体制づくり

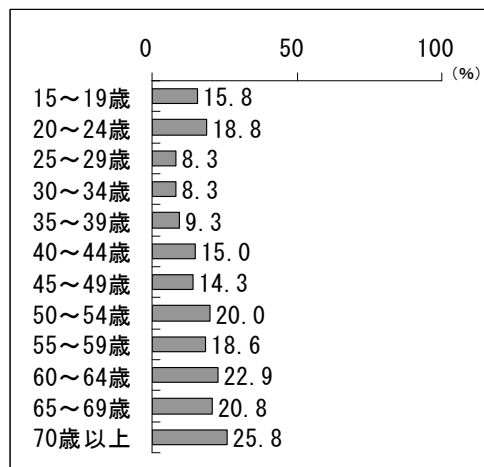
・性別



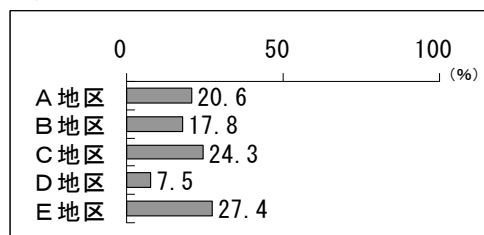
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

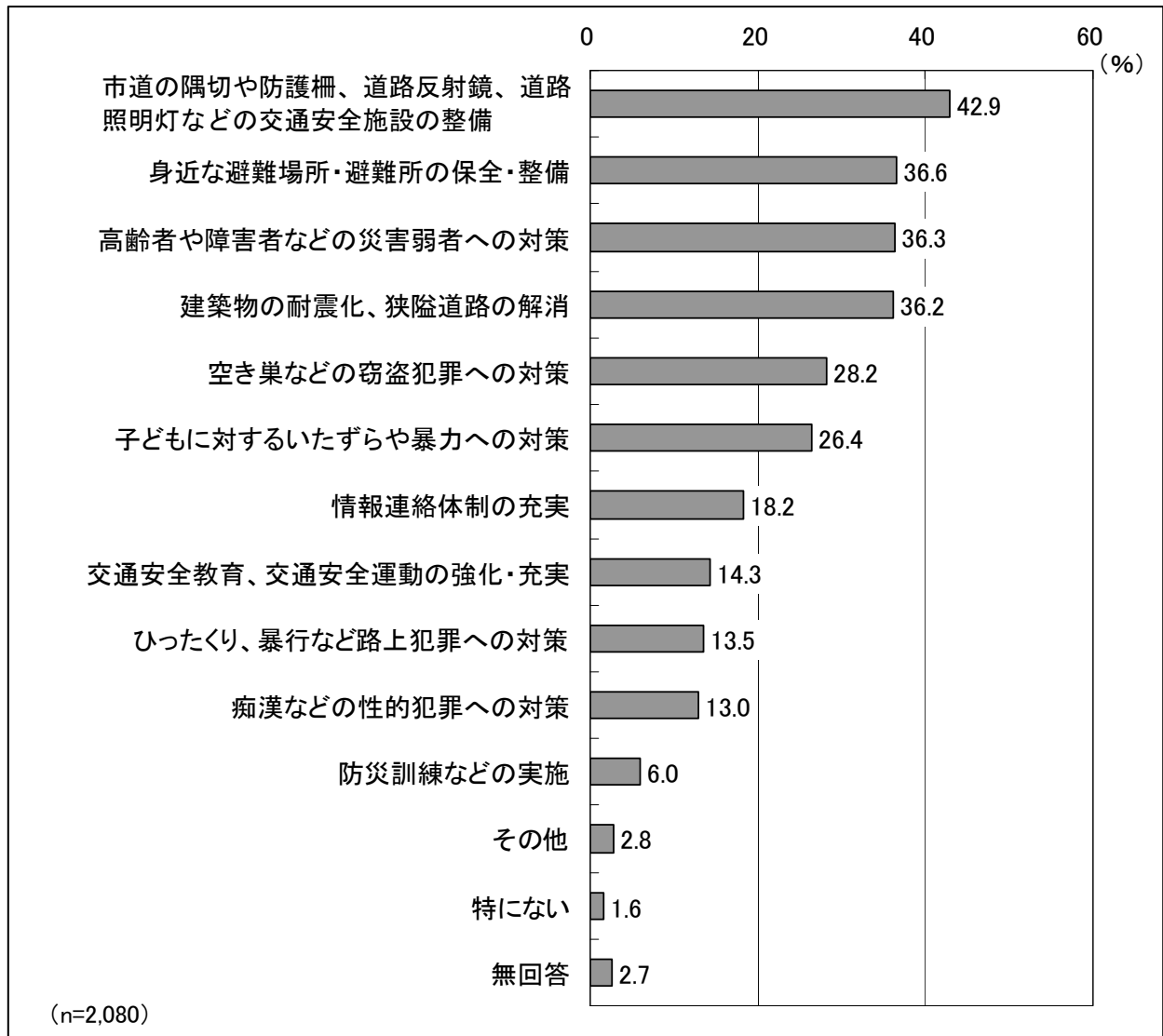


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (10) 安全安心（防災、消防、防犯、交通安全等）

問19 安全安心なまちづくりを行う上で、あなたが市に特に力を入れて欲しいと思うことは何ですか。（3つまで回答）

◆安全安心なまちづくりのための施策：「市道の隅切や防護柵、道路反射鏡、道路照明灯などの交通安全施設の整備」が43%



安全安心なまちづくりのための取り組みとして、「市道の隅切や防護柵、道路反射鏡、道路照明灯などの交通安全施設の整備」が42.9%と最も高く、次いで「身近な避難場所・避難所の保全・整備」が36.6%、「高齢者や障害者などの災害弱者への対策」36.3%、「建築物の耐震化、狭隘道路の解消」が36.2%を占めている。

「市道の隅切や防護柵、道路反射鏡、道路照明灯などの交通安全施設の整備」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、25～29歳、60～64歳、70歳以上、女性の55～59歳、65～69歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、C地区で40%以上を示している。

「身近な避難場所・避難所の保全・整備」については、女性が男性を約6%上回り、男性の15～19歳、25～29歳、55～59歳、女性の25～29歳、50～54歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区で40%以上を示している。

「高齢者や障害者などの災害弱者への対策」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の45～49歳、60～64歳、65～69歳、70歳以上、女性の55～59歳、65～69歳、70歳以上で45%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で50%以上を示している。

「建築物の耐震化、狭隘道路の解消」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳で65%以上を示している。また、居住地区別では、A地区で40%以上を示している。

「空き巣などの窃盗犯罪への対策」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の45～49歳、女性の30～34歳で40%以上を示している。また、居住地区別では、A地区で30%以上を示している。

「子どもに対するいたずらや暴力への対策」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の40～44歳、女性の30～34歳で40%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、C地区で25%以上を示している。

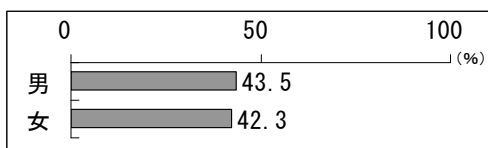
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘



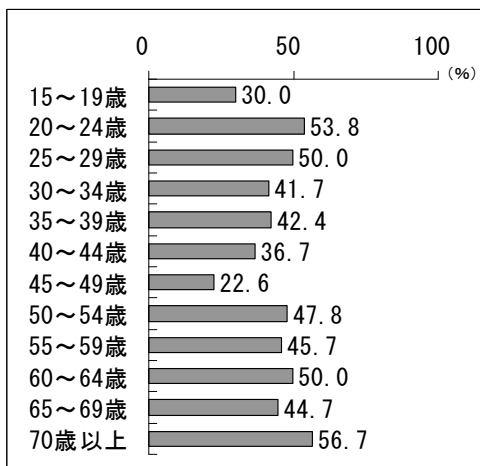
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□市道の隅切や防護柵、道路反射鏡、道路照明灯などの交通安全施設の整備

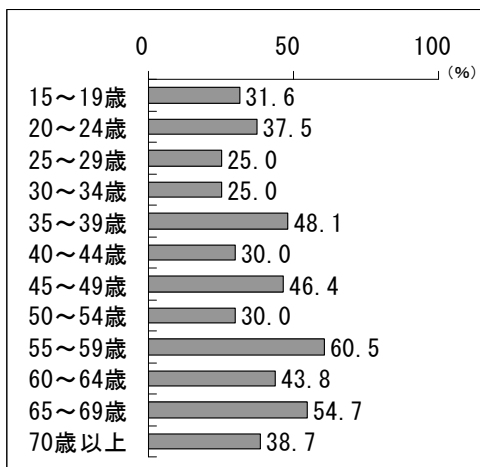
・性別



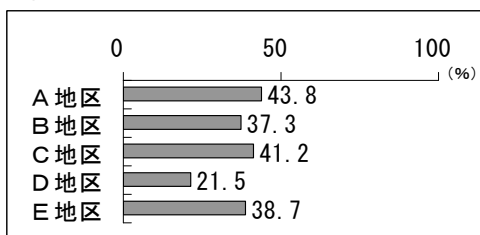
・男性×年齢別



・女性×年齢別

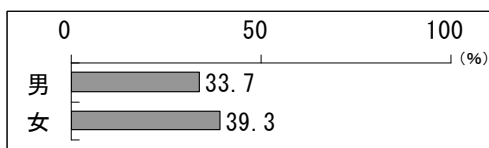


・居住地区別

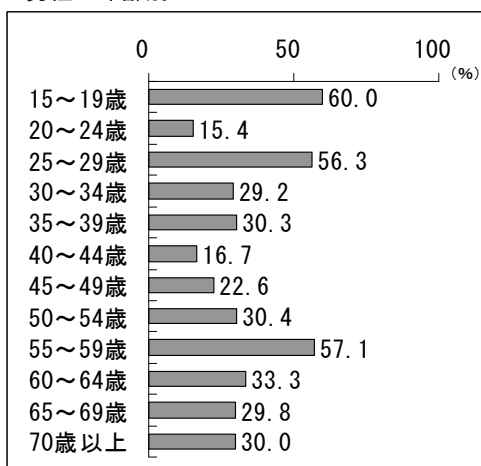


□身近な避難場所・避難所の保全・整備

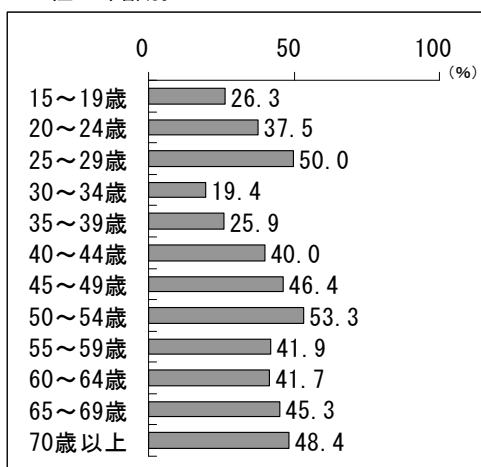
・性別



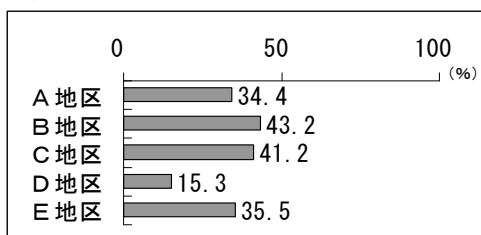
・男性×年齢別



・女性×年齢別



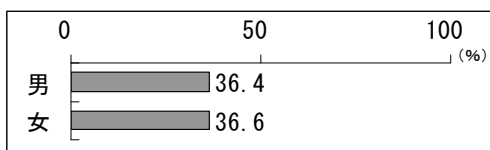
・居住地区別



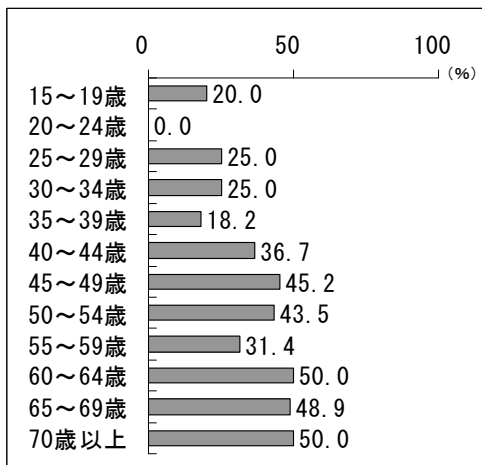
注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

□高齢者や障害者などの災害弱者への対策

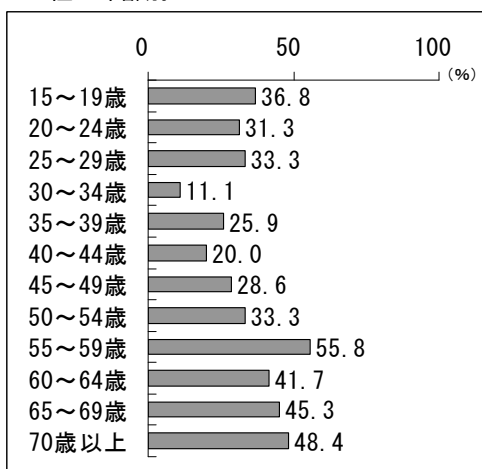
・性別



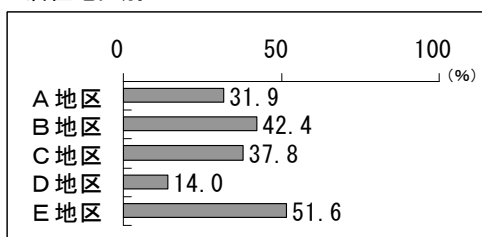
・男性×年齢別



・女性×年齢別

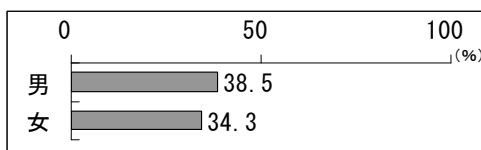


・居住地区別

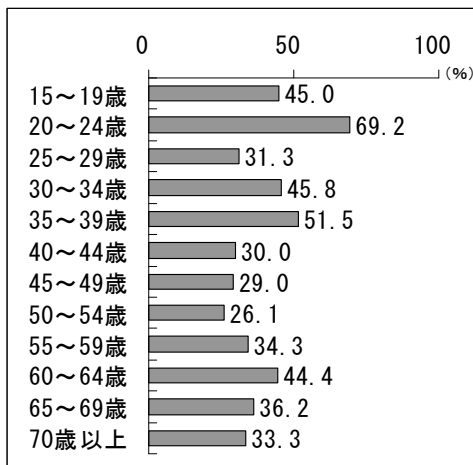


□建築物の耐震化、狭隘道路の解消

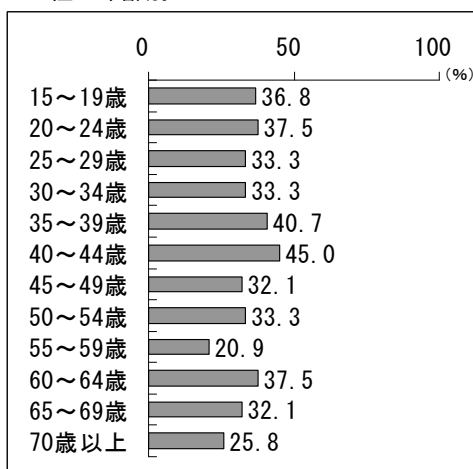
・性別



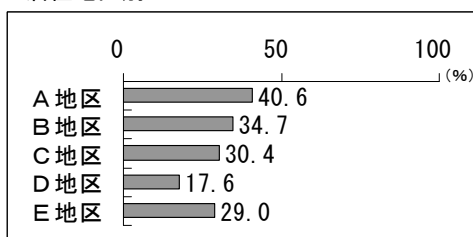
・男性×年齢別



・女性×年齢別



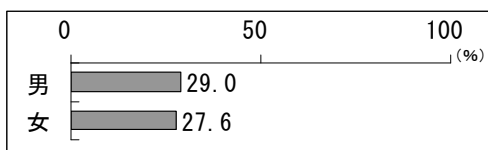
・居住地区別



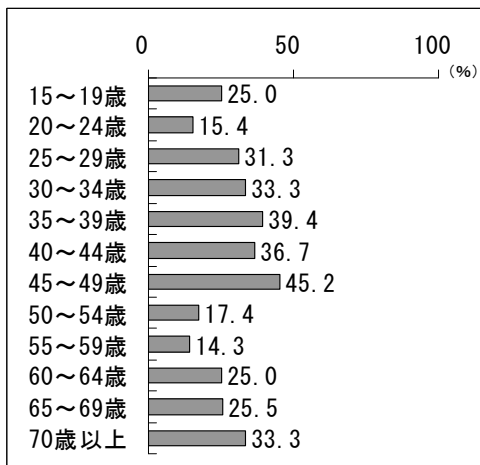
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□空き巣などの窃盗犯罪への対策

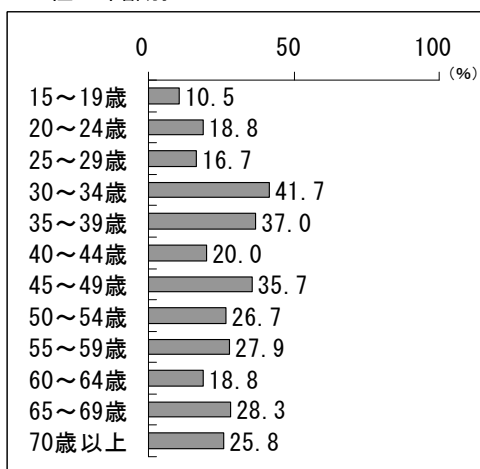
・性別



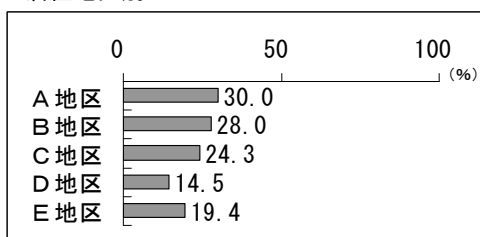
・男性×年齢別



・女性×年齢別

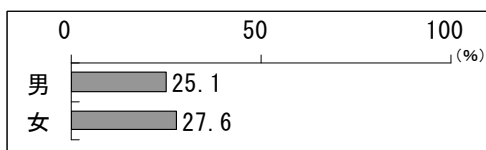


・居住地区別

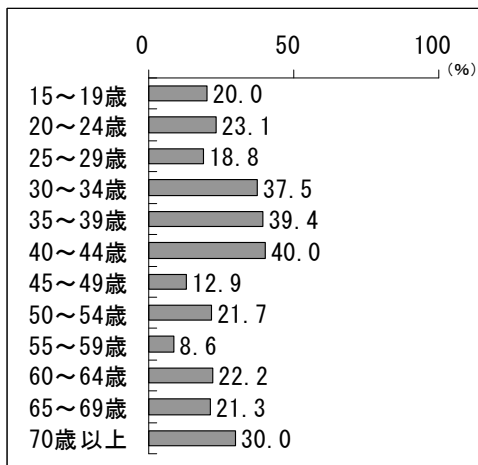


□子どもに対するいたづらや暴力への対策

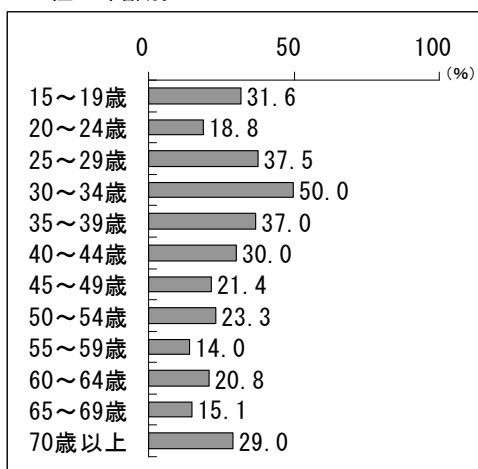
・性別



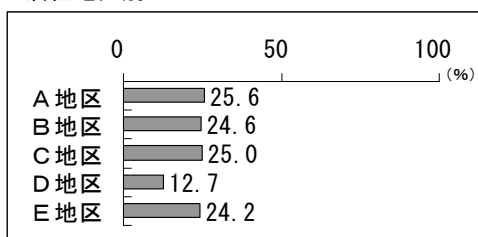
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

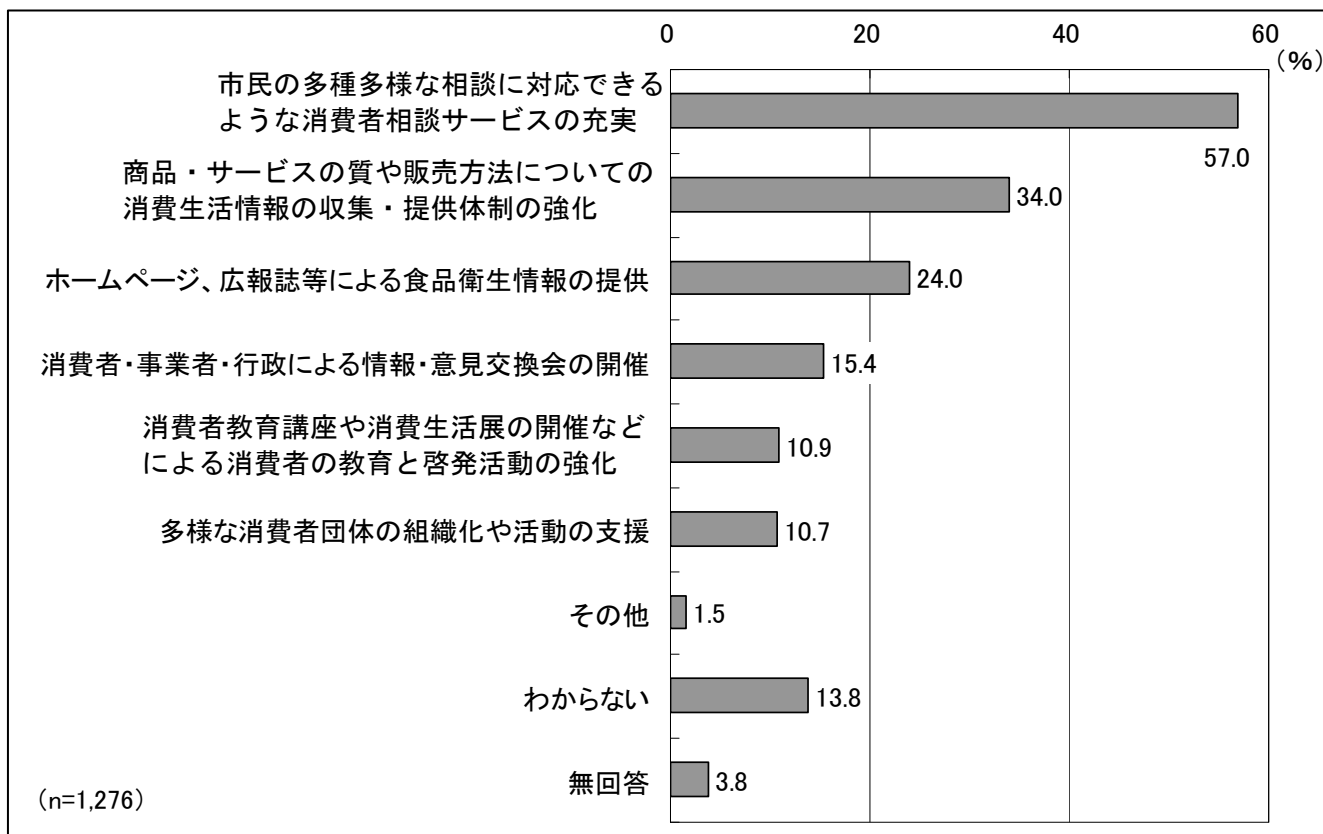


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(11) 消費生活

問20 消費者支援のために、行政としてどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(2つまで回答)

◆消費者支援のための取り組み：「市民の多種多様な相談に対応できるような消費者相談サービスの充実」が57%



消費者支援のための取り組みとして、「市民の多種多様な相談に対応できるような消費者相談サービスの充実」が57.0%と最も高く、次いで「商品・サービスの質や販売方法についての消費生活情報の収集・提供体制の強化」が34.0%、「ホームページ、広報誌等による食品衛生情報の提供」が24.0%となっている。

「市民の多種多様な相談に対応できるような消費者相談サービスの充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の15～19歳、70歳以上、女性の45～49歳、50～54歳、70歳以上で70%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区で55%以上を示している。

「商品・サービスの質や販売方法についての消費生活情報の収集・提供体制の強化」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳で75%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区、E地区で30%以上を示している。

「ホームページ、広報誌等による食品衛生情報の提供」については、女性が男性を約5%上回り、女性の40～44歳で45%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区で25%以上を示している。

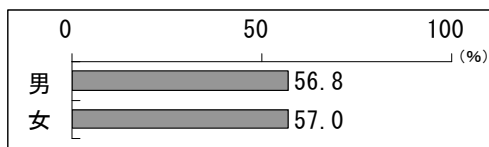
「消費者・事業者・行政による情報・意見交換会の開催」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の60～64歳、女性の60～64歳で25%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で25%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、 C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘
--

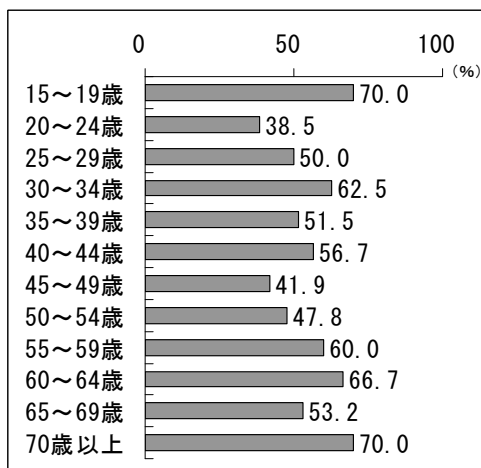
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位4項目）

□市民の多種多様な相談に対応できるような消費者相談サービスの充実

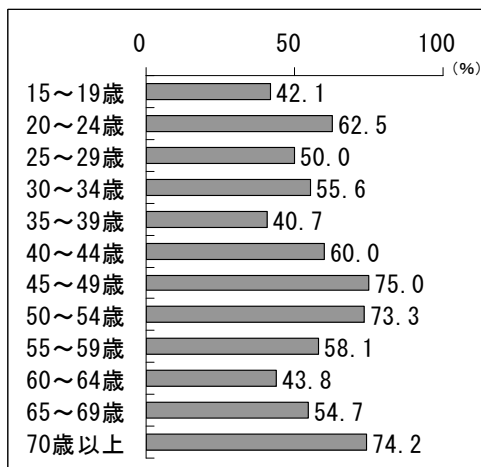
・性別



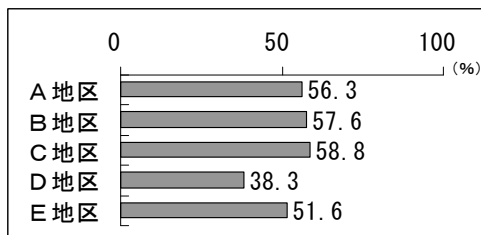
・男性×年齢別



・女性×年齢別

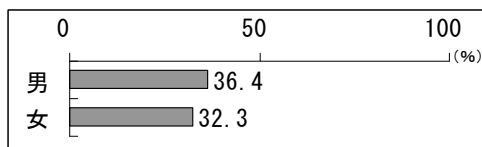


・居住地区別

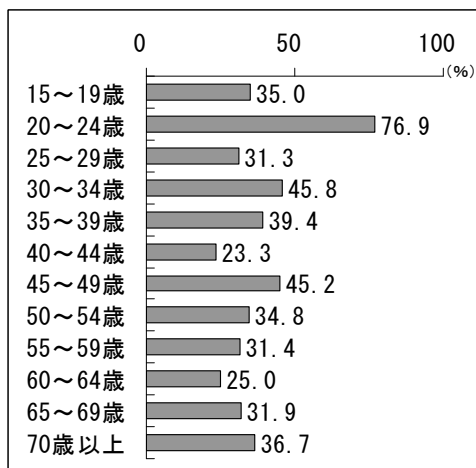


□商品・サービスの質や販売方法についての消費生活情報の収集・提供体制の強化

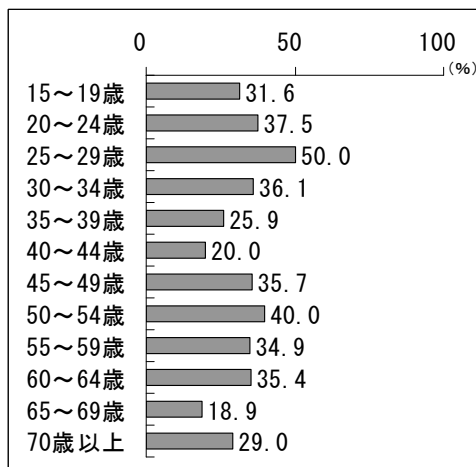
・性別



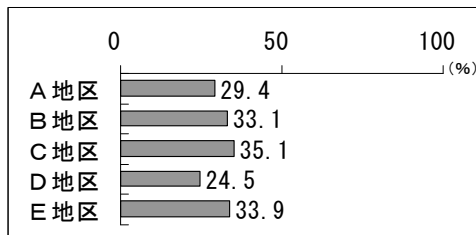
・男性×年齢別



・女性×年齢別



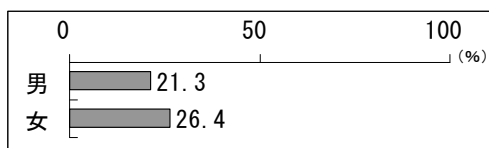
・居住地区別



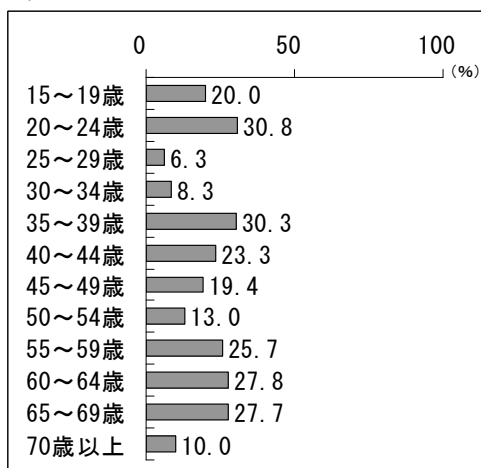
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□ホームページ、広報誌等による食品衛生情報の提供

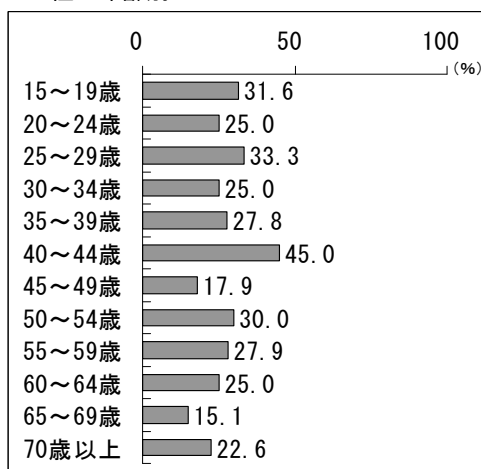
・性別



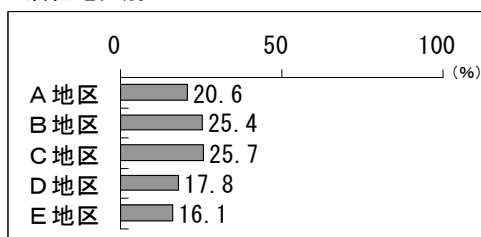
・男性×年齢別



・女性×年齢別

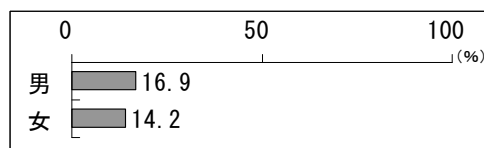


・居住地区別

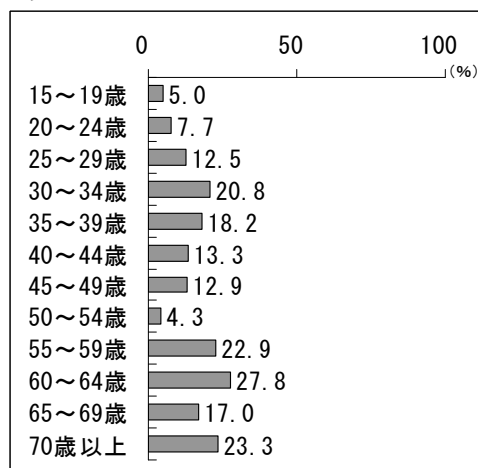


□消費者・事業者・行政による情報・意見交換会の開催

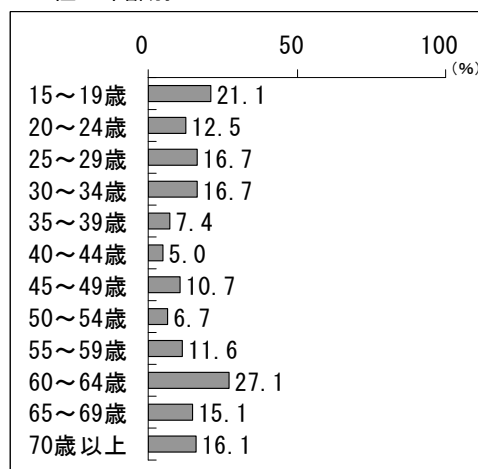
・性別



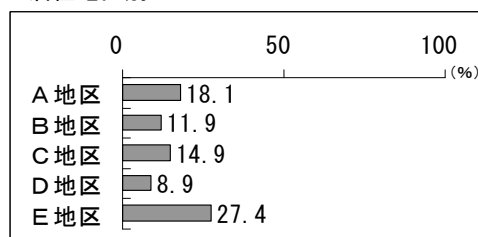
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

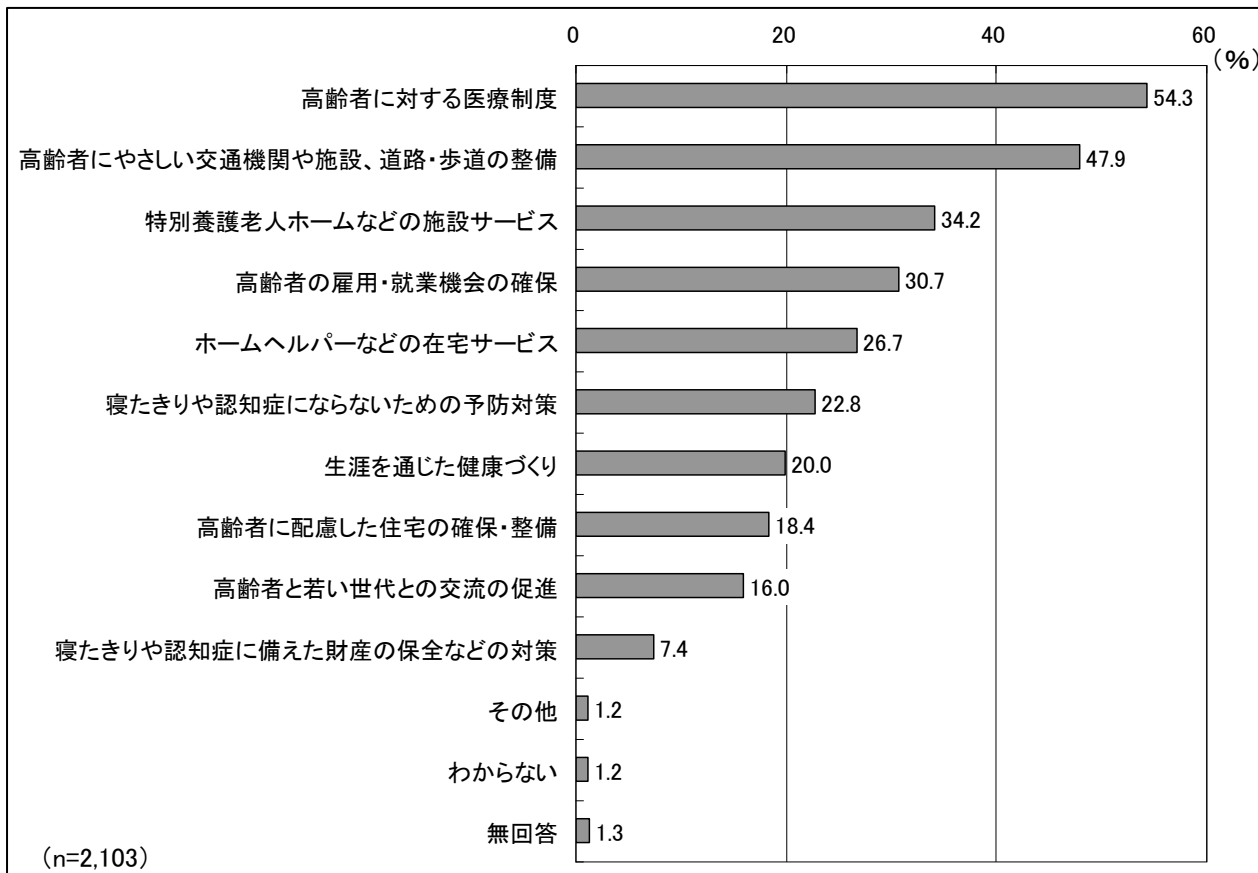


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(12) 高齢者施策

問21 本格的な高齢社会に向けて、あなたはどのような施策が重要だと思いますか。あなたのお考えに近いものは何ですか。(3つまで回答)

◆重要な高齢者施策：「高齢者に対する医療制度」が54%



高齢社会へ向けた重要な施策として、「高齢者に対する医療制度」が 54.3%と最も高く、次いで「高齢者にやさしい交通機関や施設、道路・歩道の整備」が 47.9%、「特別養護老人ホームなどの施設サービス」が 34.2%、「高齢者の雇用・就業機会の確保」が 30.7%を占めている。



「高齢者に対する医療制度」については、男性が女性を約7%上回り、男性の70歳以上で85%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、E地区で55%以上を示している。

「高齢者にやさしい交通機関や施設、道路・歩道の整備」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の70歳以上、女性の25～29歳、65～69歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、C地区で50%以上を示している。

「特別養護老人ホームなどの施設サービス」については、女性が男性を8%上回り、女性の55～59歳で55%以上を示している。また、居住地区では、E地区で35%以上を示している。

「高齢者の雇用・就業機会の確保」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の50～54歳、55～59歳、女性の15～19歳で45%以上を示している。また、居住地区では、A地区、B地区で30%以上を示している。

「ホームヘルパーなどの在宅サービス」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の25～29歳、50～54歳、60～64歳、女性の20～24歳、40～44歳で35%以上を示している。居住地区別では、A地区で30%以上を示している。

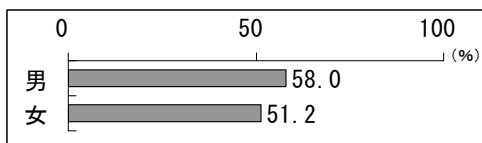
「寝たきりや認知症にならないための予防対策」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の65～69歳、70歳以上で40%以上を示している。また、居住地区別ではE地区で35%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

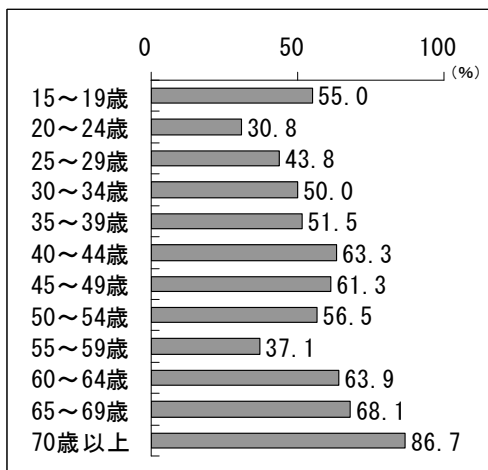
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□高齢者に対する医療制度

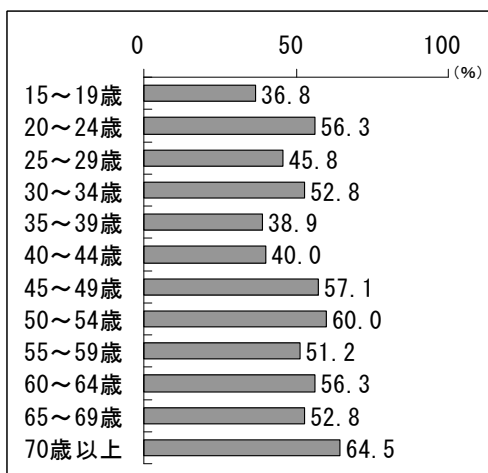
・性別



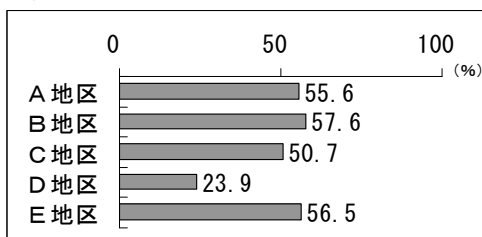
・男性×年齢別



・女性×年齢別

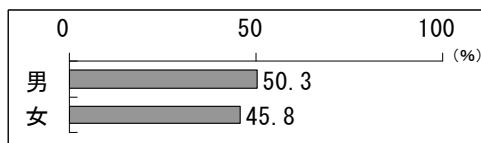


・居住地区別

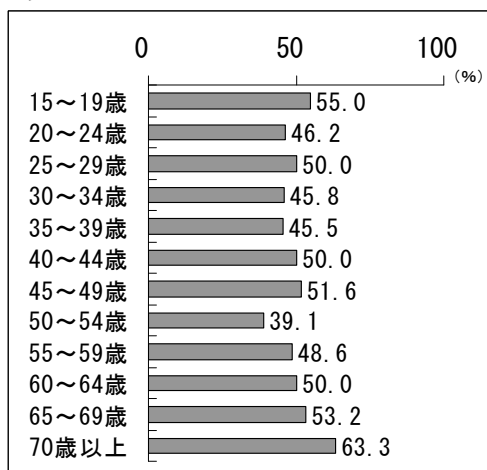


□高齢者にやさしい交通機関や施設、道路・歩道の整備

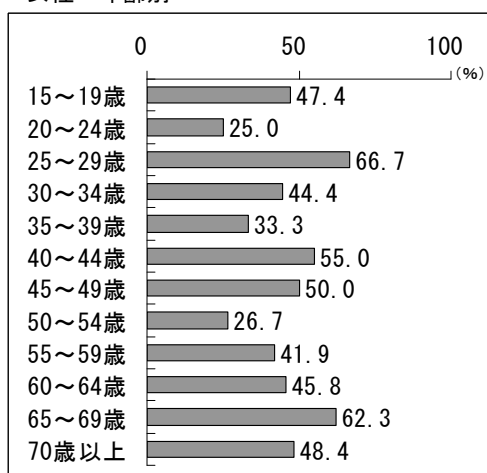
・性別



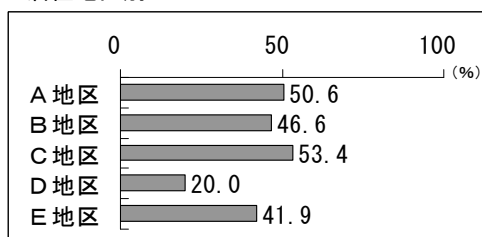
・男性×年齢別



・女性×年齢別



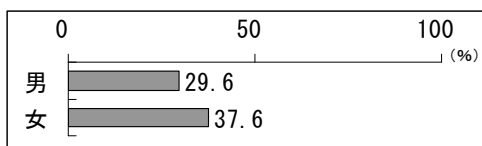
・居住地区別



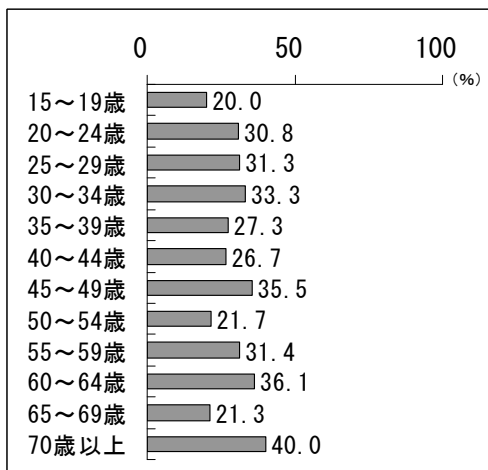
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□特別養護老人ホームなどの施設サービス

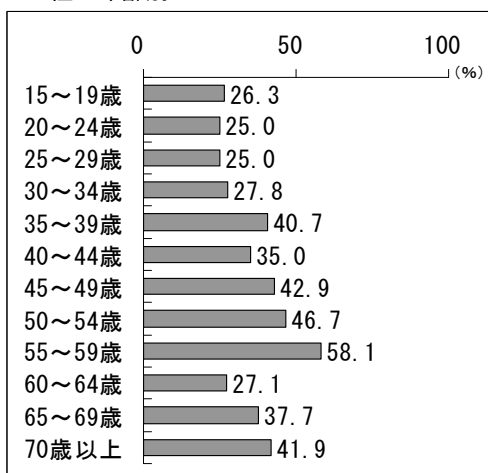
・性別



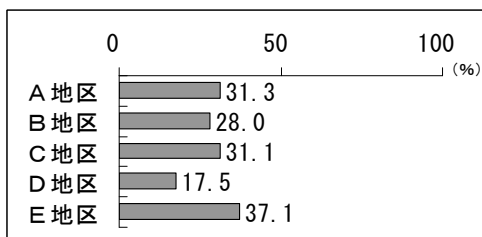
・男性×年齢別



・女性×年齢別

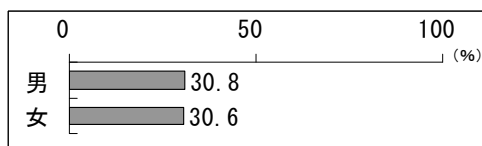


・居住地区別

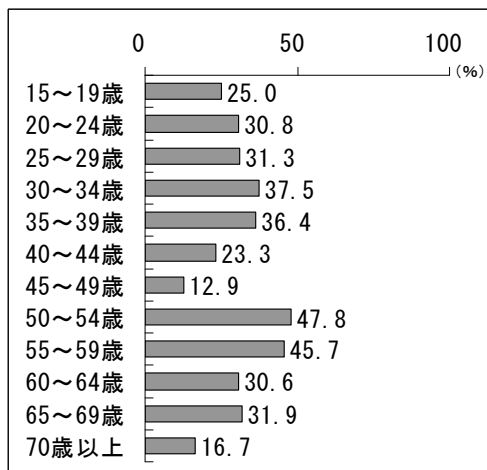


□高齢者の雇用・就業機会の確保

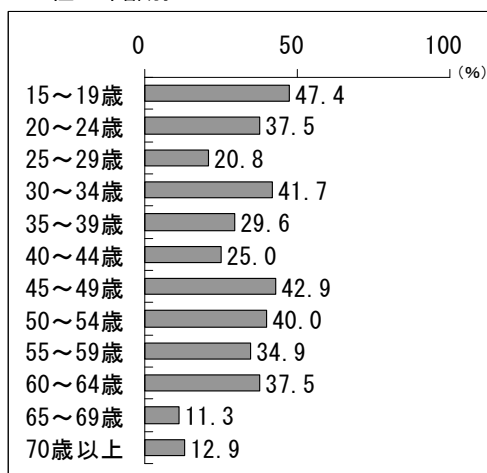
・性別



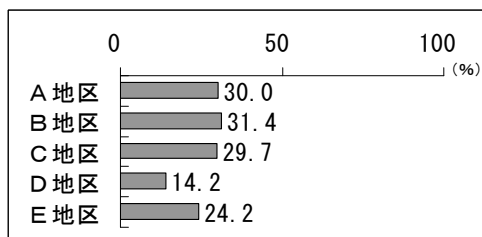
・男性×年齢別



・女性×年齢別



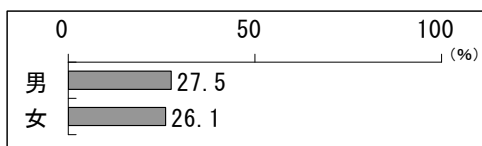
・居住地区別



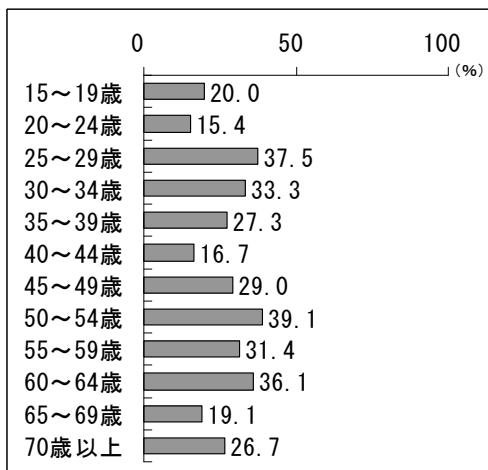
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□ホームヘルパーなどの在宅サービス

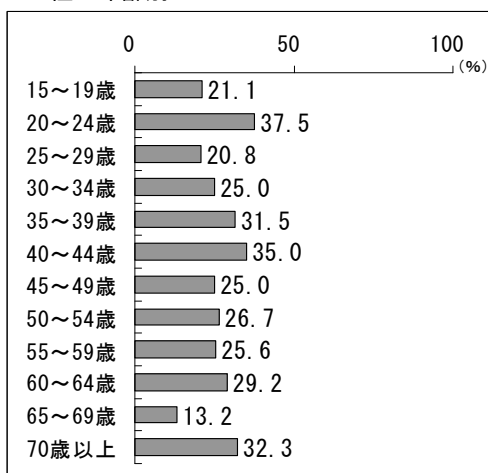
・性別



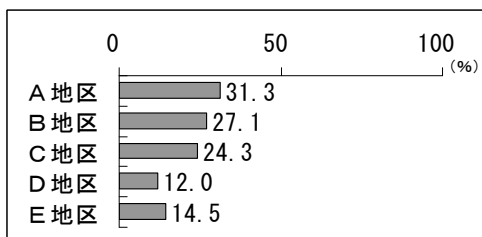
・男性×年齢別



・女性×年齢別

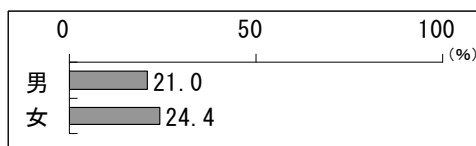


・居住地区別

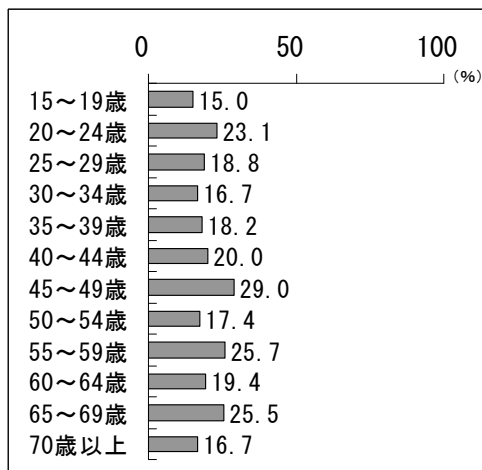


□寝たきりや認知症にならないための予防対策

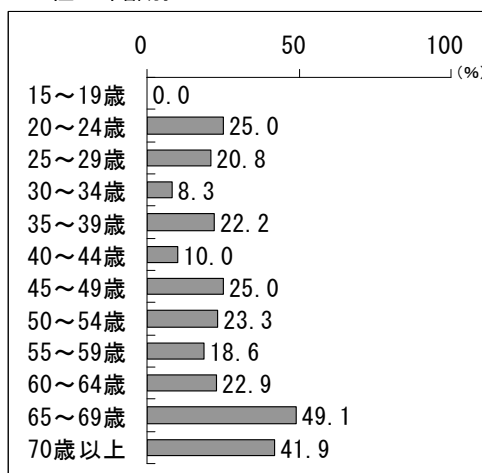
・性別



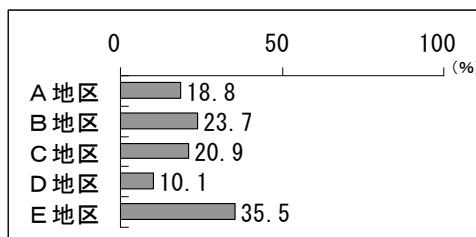
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

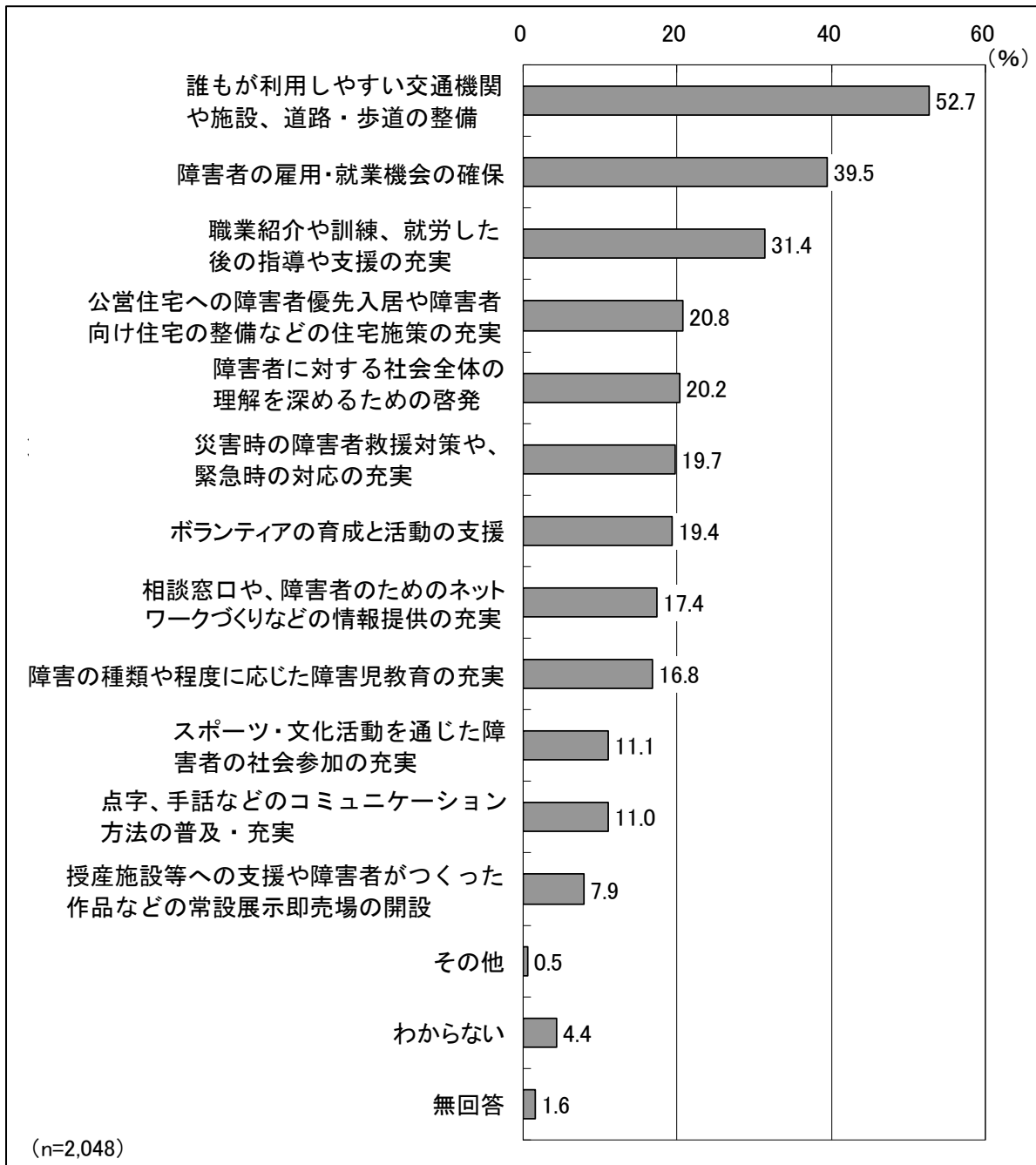


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (13) 障害者施策

問22 今後、障害のある人の自立のための支援として、市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。(3つまで回答)

◆重点的に進めるべき障害者の自立支援のための取り組み：「誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備」が53%



重点的に進めるべき障害者の自立支援のための取り組みとして、「誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備」が52.7%と最も多く、次いで「障害者の雇用・就業機会の確保」が39.5%、「職業紹介や訓練、就労した後の指導や支援の充実」が31.4%となっている。

「誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の70歳以上、女性の45～49歳で70%以上を示している。また、居住地区別ではA地区、C地区、E地区で50%以上を示している。

「障害者の雇用・就業機会の確保」については、男性が女性を8%上回り、男性の25～29歳、40～44歳、50～54歳、55～59歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、B地区が40%以上を示している。

「職業紹介や訓練、就労した後の指導や支援の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、65～69歳、女性の35～39歳、40～44歳で45%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で35%以上を示している。

「公営住宅への障害者優先入居や障害者向け住宅の整備などの住宅施策の充実」については、男性が女性を約7%上回り、男性の15～19歳、40～44歳、60～64歳で35%以上を示している。また、居住地区別ではA地区、C地区、E地区で20%以上を示している。

「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の55～59歳、女性の20～24歳で30%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区で20%以上を示している。

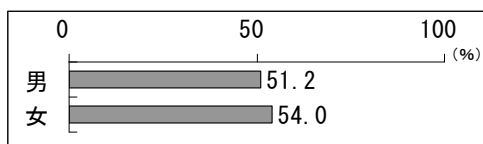
「災害時の障害者救援対策や、緊急時の対応の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の70歳以上、女性の60～64歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、E地区で20%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

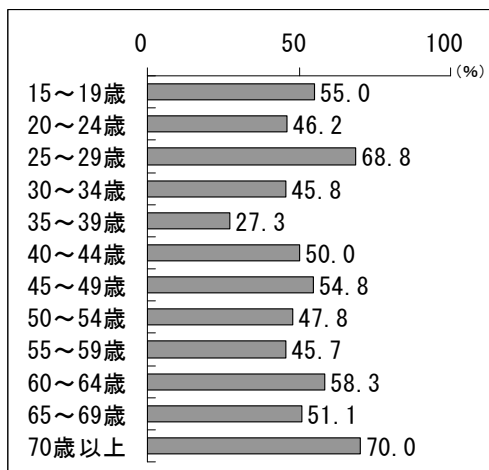
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備

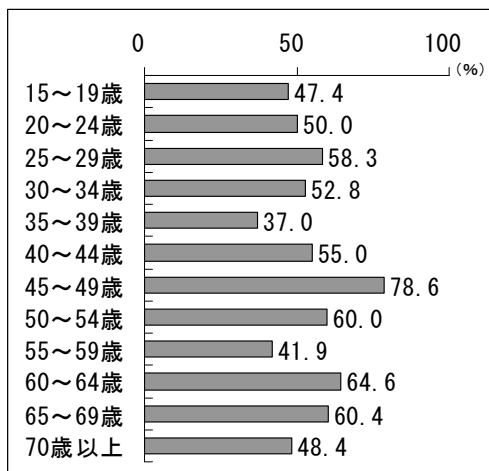
・性別



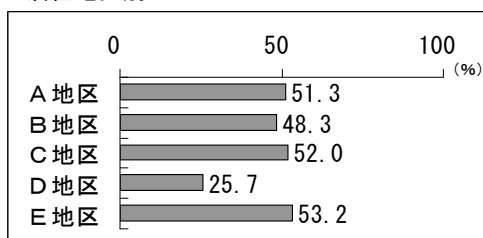
・男性×年齢別



・女性×年齢別

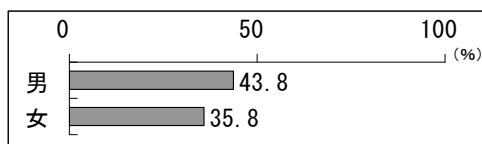


・居住地区別

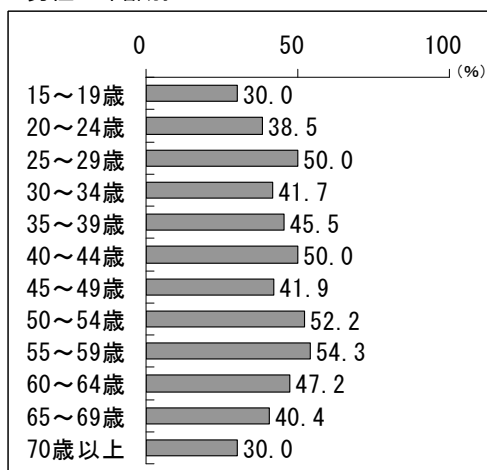


□障害者の雇用・就業機会の確保

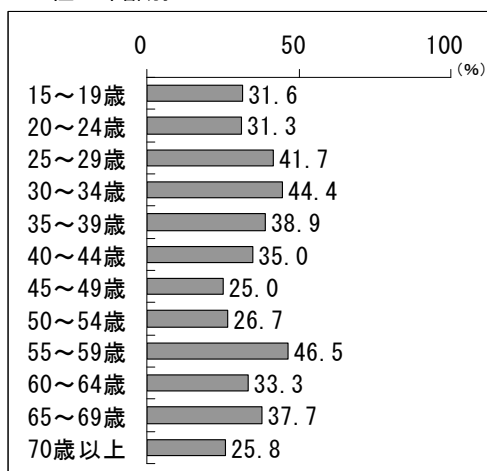
・性別



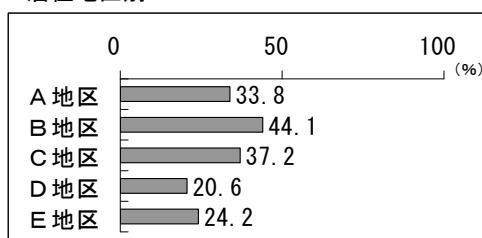
・男性×年齢別



・女性×年齢別



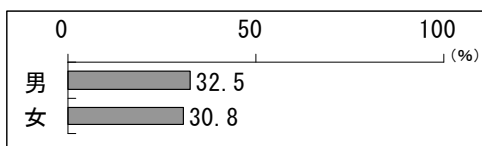
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

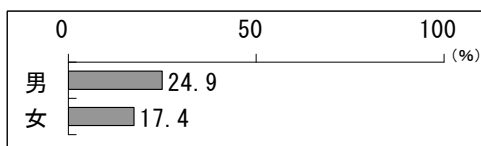
□職業紹介や訓練、就労した後の指導や支援の充実

・性別

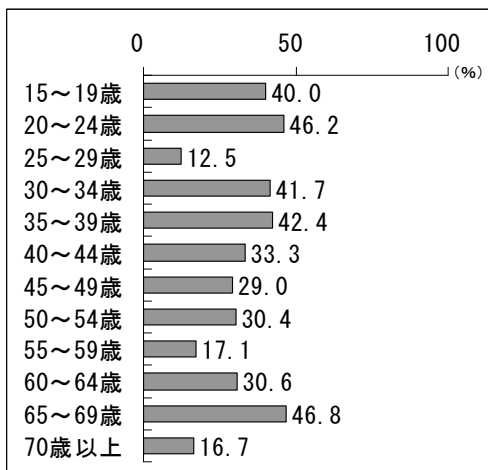


□公営住宅への障害者優先入居や障害者向け住宅の整備などの住宅施策の充実

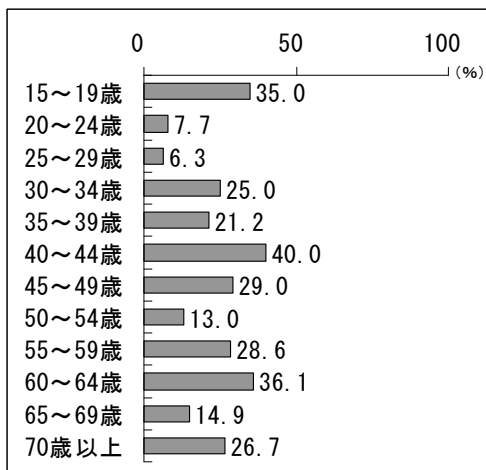
・性別



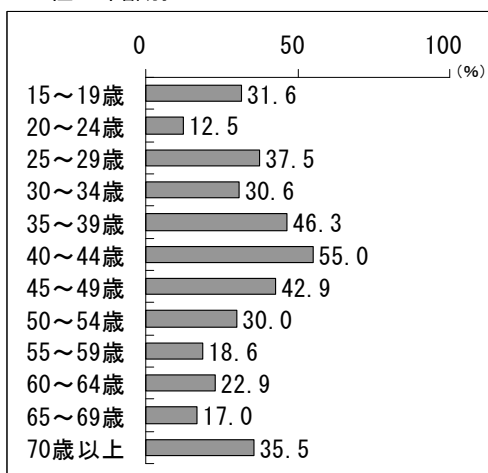
・男性×年齢別



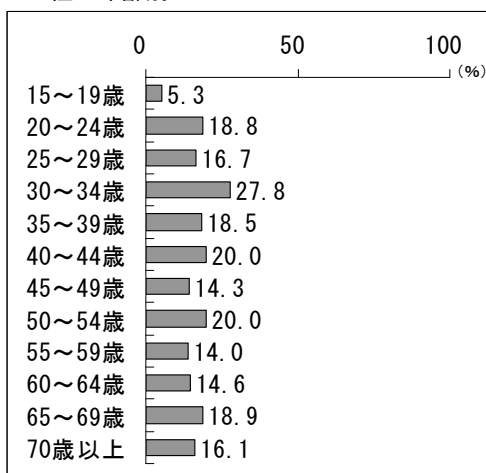
・男性×年齢別



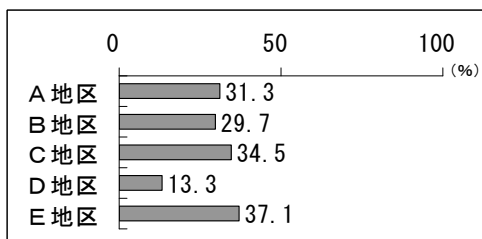
・女性×年齢別



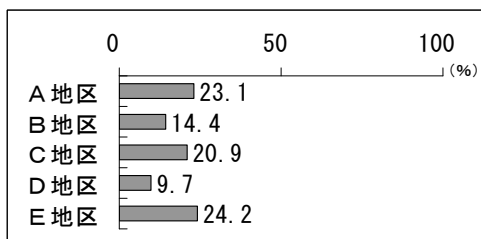
・女性×年齢別



・居住地区別



・居住地区別

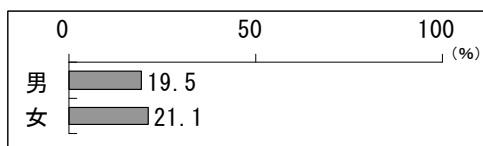


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

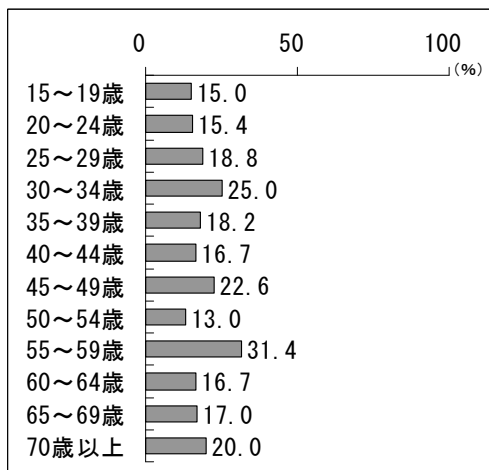


□障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発

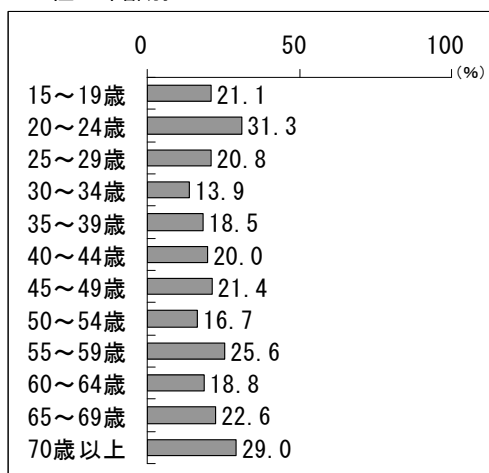
・性別



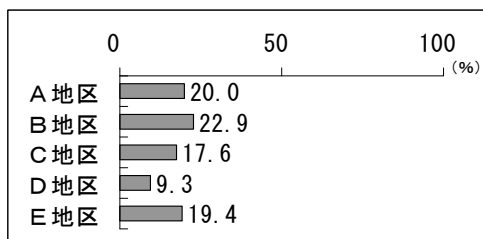
・男性×年齢別



・女性×年齢別

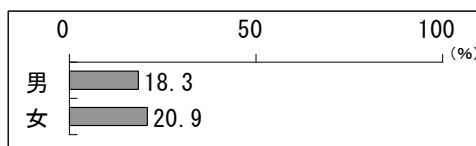


・居住地区別

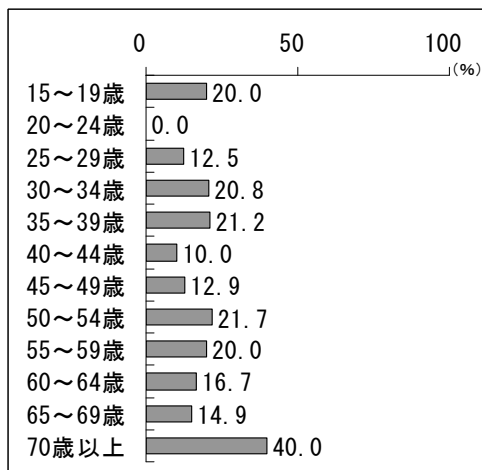


□災害時の障害者救援対策や、緊急時の対応の充実

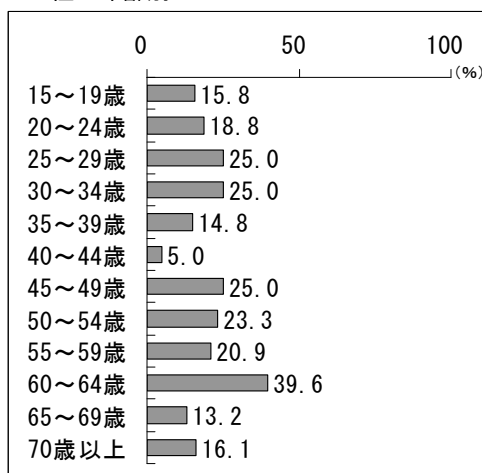
・性別



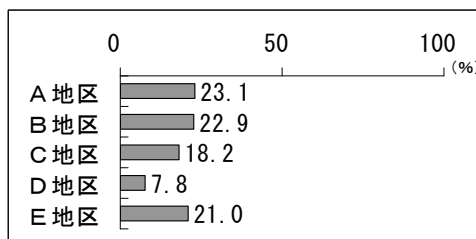
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

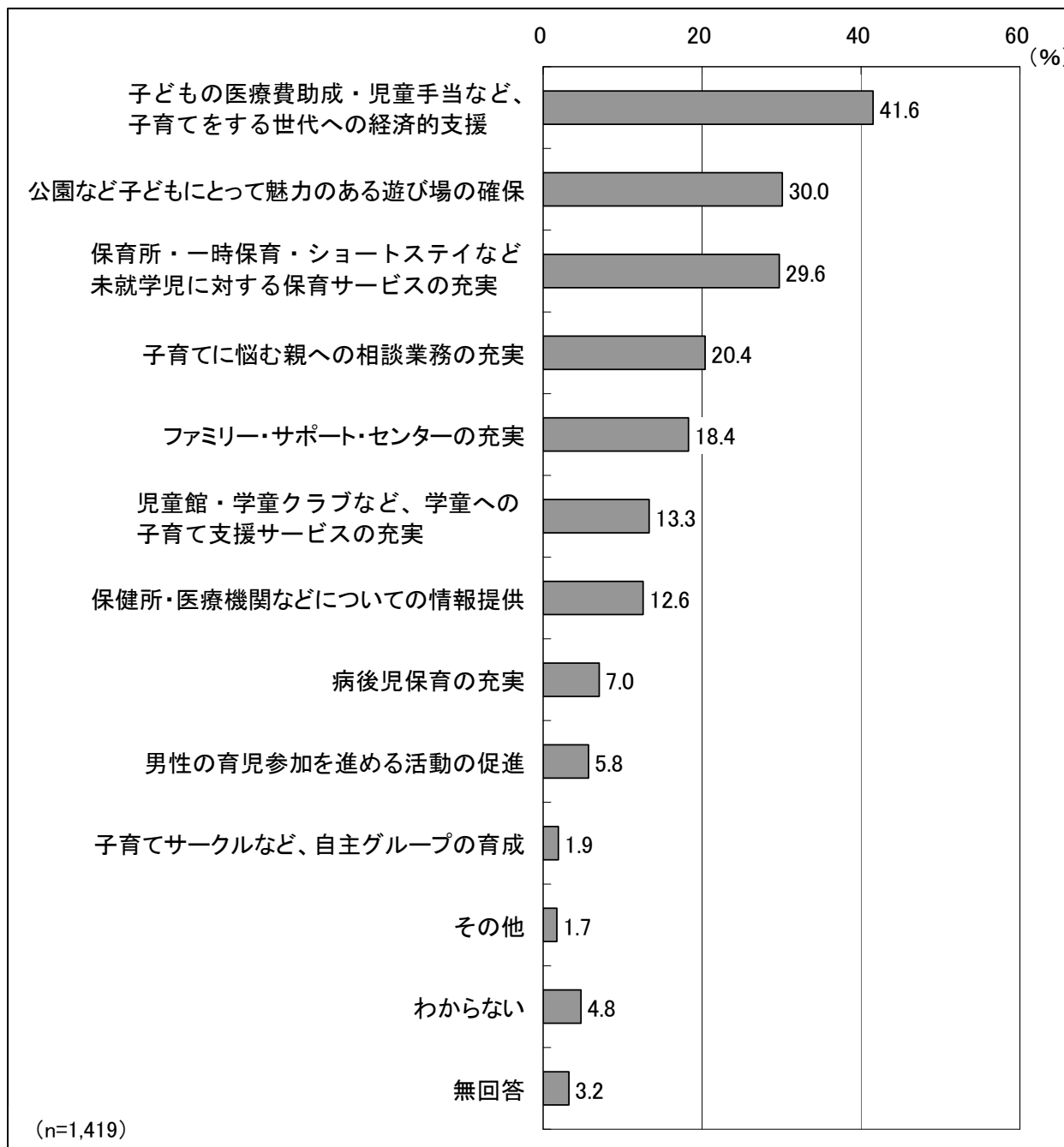


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(14) 子育て施策

問23 あなたが安心して子育てを行うためには、市は特にどのようなことをする必要あると思いますか。(2つまで回答)

◆安心して子育てを行うための取り組み：「子どもの医療費助成・児童手当など、子育てをする世代への経済的支援」が42%



安心して子育てを行うための取り組みとして、「子どもの医療費助成・児童手当など、子育てをする世代への経済的支援」が41.6%と最も多く、次いで「公園など子どもにとって魅力のある遊び場の確保」が30.0%、「保育所・一時保育・ショートステイなど未就学児に対する保育サービスの充実」が29.6%となっている。

「子どもの医療費助成・児童手当など、子育てをする世代への経済的支援」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の25～29歳、30～34歳、60～64歳、女性の20～24歳、30～34歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で45%以上を示している。

「公園など子どもにとって魅力のある遊び場の確保」については、男性が女性を6%上回り、男性の15～19歳で65%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、D地区で30%以上を示している。

「保育所・一時保育・ショートステイなど未就学児に対する保育サービスの充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の25～29歳で50%以上を示している。また、居住地区別ではA地区、D地区で30%以上を示している。

「子育てに悩む親への相談業務の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の55～59歳、60～64歳、女性の65～69歳で30%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、E地区で25%以上を示している。

「ファミリー・サポート・センターの充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の15～19歳、50～54歳で40%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、C地区で20%以上を示している。

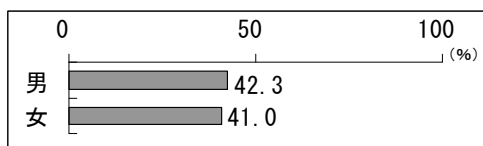
「児童館・学童クラブなど、学童への子育て支援サービスの充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の55～59歳で20%以上を示している。また、居住地区別ではB地区、D地区で15%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

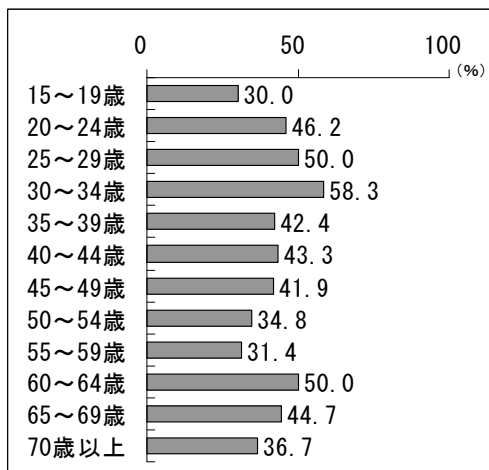
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□子どもの医療費助成・児童手当など、子育てをする世代への経済的支援

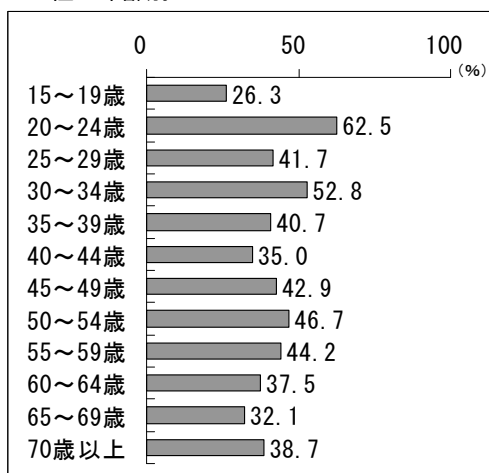
・性別



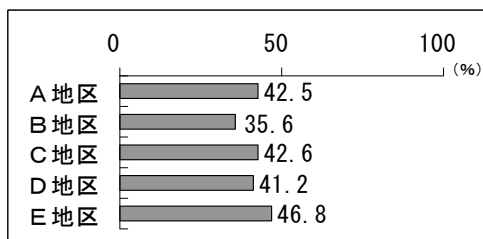
・男性×年齢別



・女性×年齢別

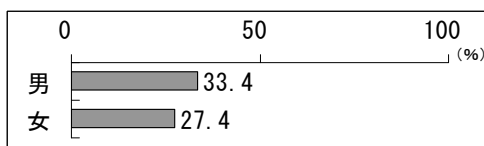


・居住地区別

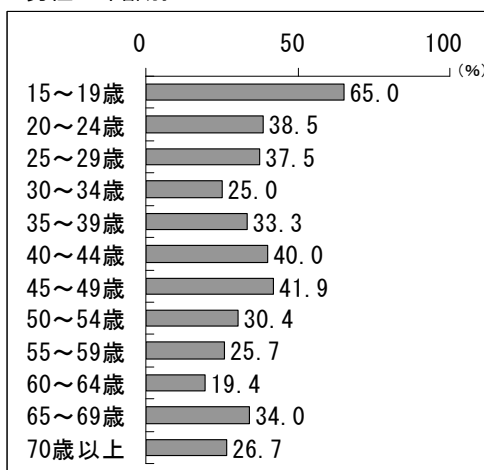


□公園など子どもにとって魅力のある遊び場の確保

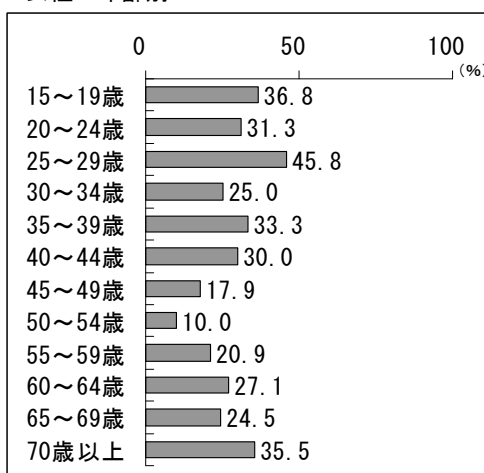
・性別



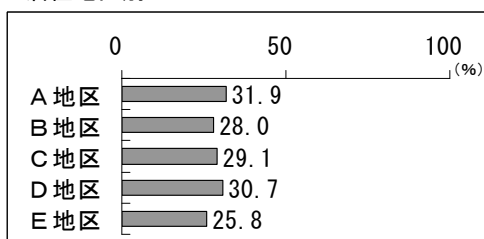
・男性×年齢別



・女性×年齢別



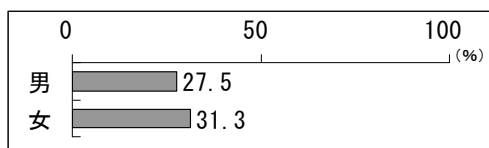
・居住地区別



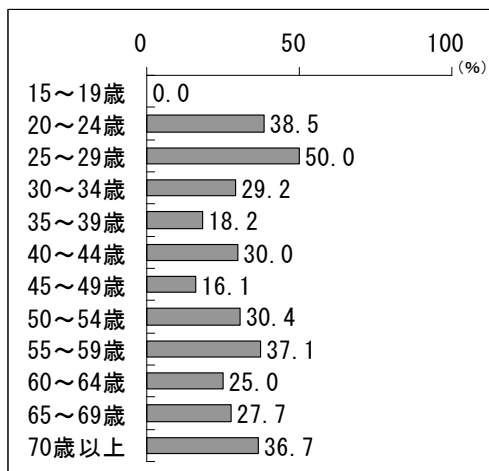
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□保育所・一時保育・ショートステイなど未就学児に対する保育サービスの充実

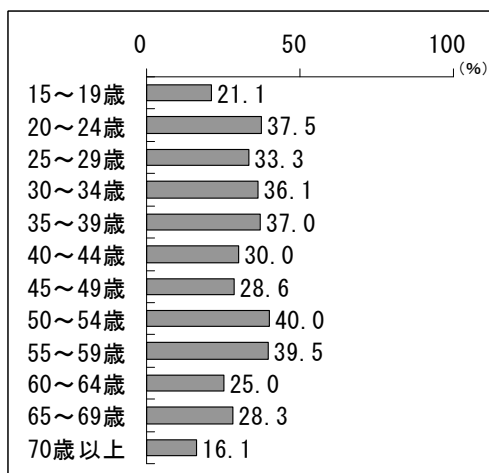
・性別



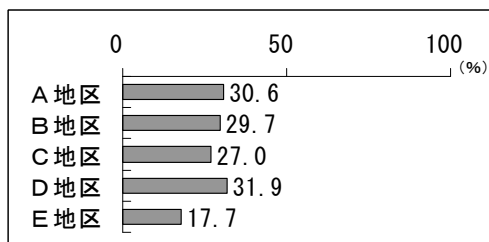
・男性×年齢別



・女性×年齢別

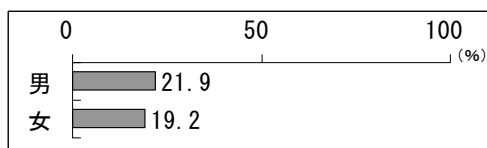


・居住地区別

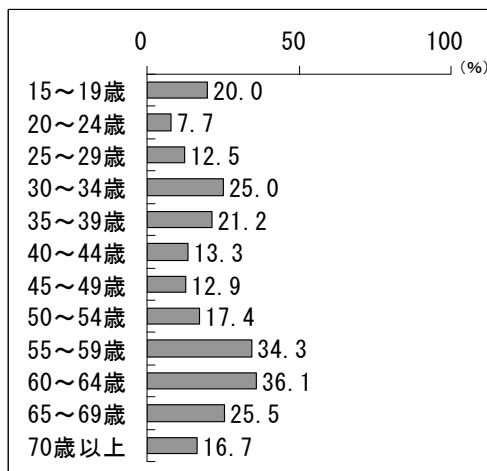


□子育てに悩む親への相談業務の充実

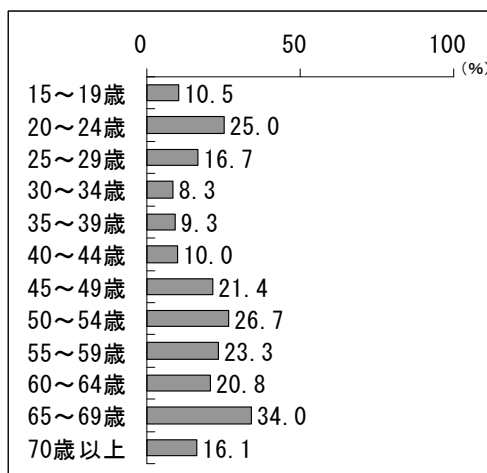
・性別



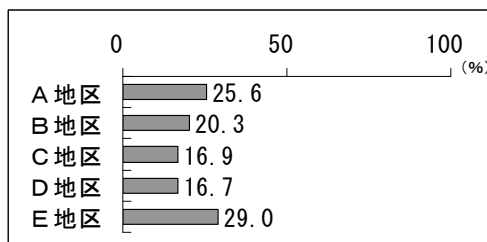
・男性×年齢別



・女性×年齢別



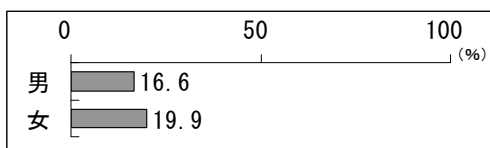
・居住地区別



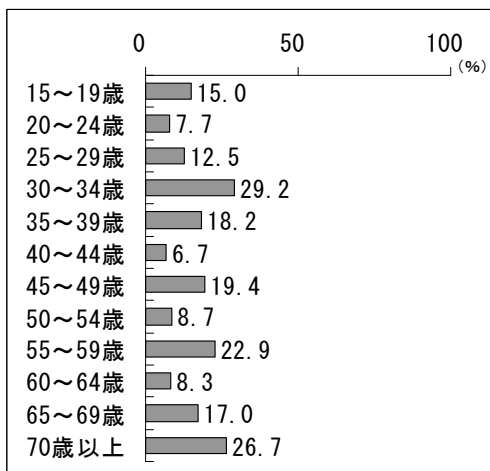
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□ファミリー・サポート・センターの充実

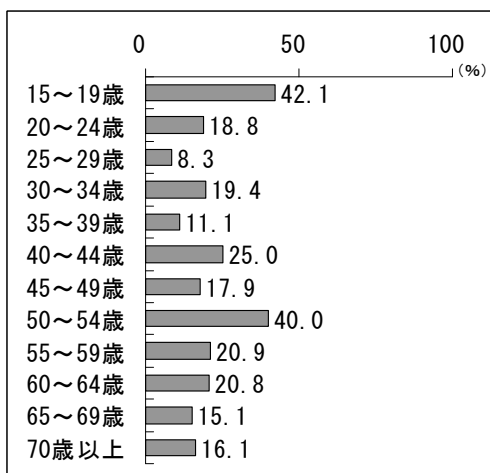
・性別



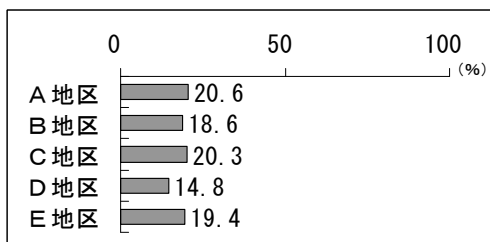
・男性×年齢別



・女性×年齢別

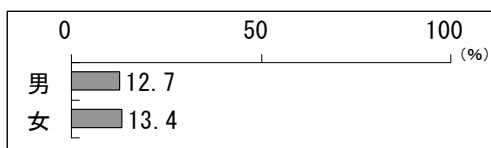


・居住地区別

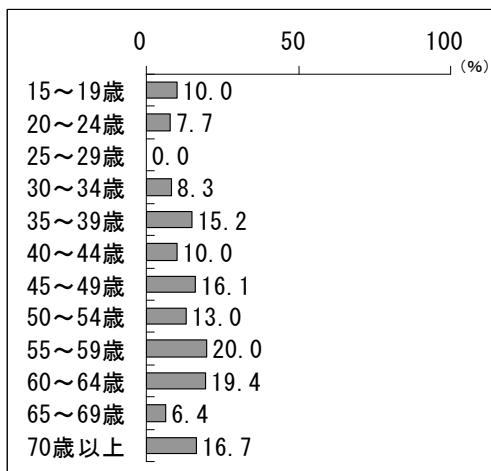


□児童館・学童クラブなど、学童への子育て支援サービスの充実

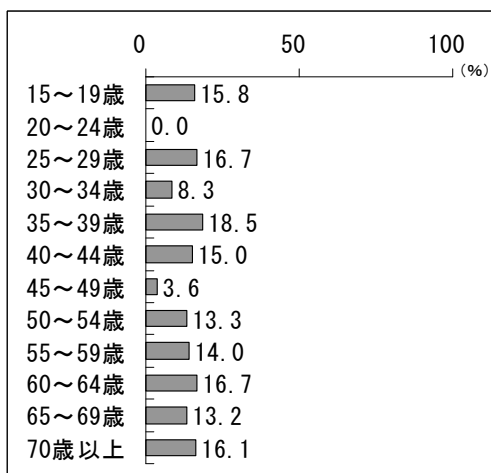
・性別



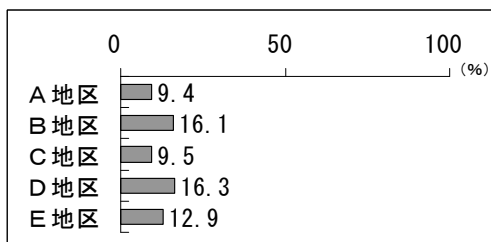
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

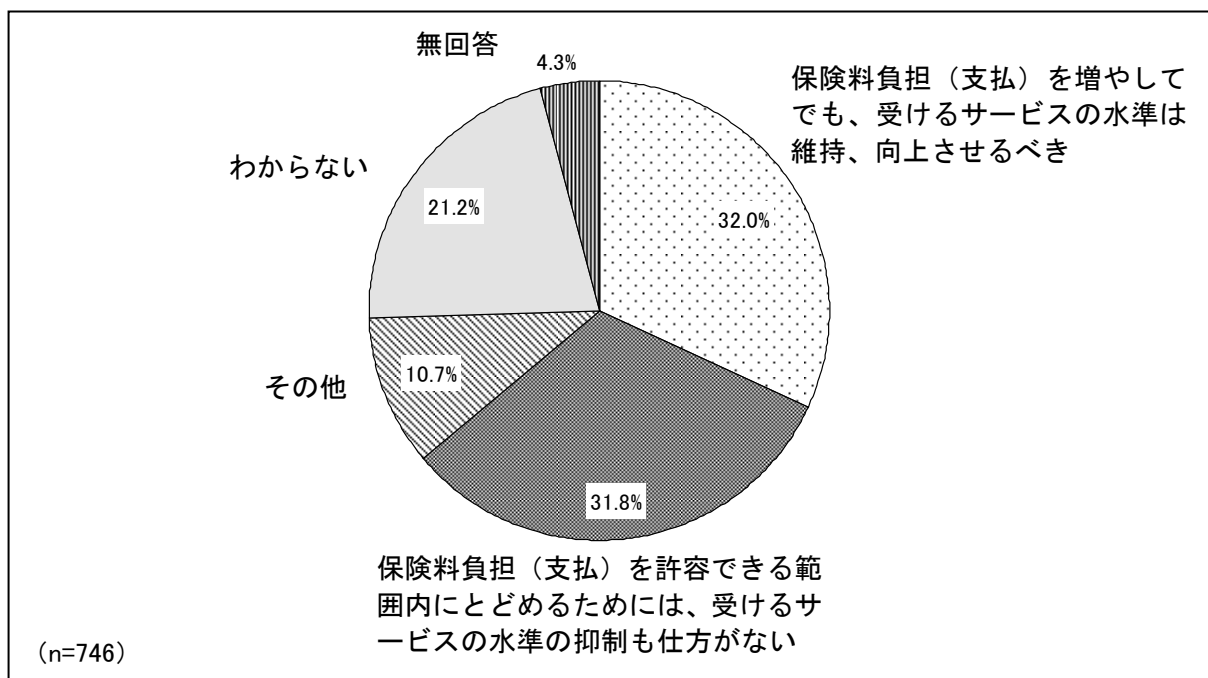


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (15) 社会保障制度

問 24 現在、社会保障給付費が増加しています。あなたは社会保障制度（年金・医療・介護保険など）の今後についてどのように思いますか。

◆今後の社会保障制度について：「保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービスの水準は維持、向上させるべき」、「保険料負担（支払）を許容できる範囲にとどめるためには、受けるサービスの水準の抑制も仕方がない」が32%



今後の社会保障制度について、「保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービスの水準は維持、向上させるべき」が32.0%、「保険料負担（支払）を許容できる範囲にとどめるためには、受けるサービスの水準の抑制も仕方がない」との回答が31.8%となっている。また、「わからない」が21.2%となっている。

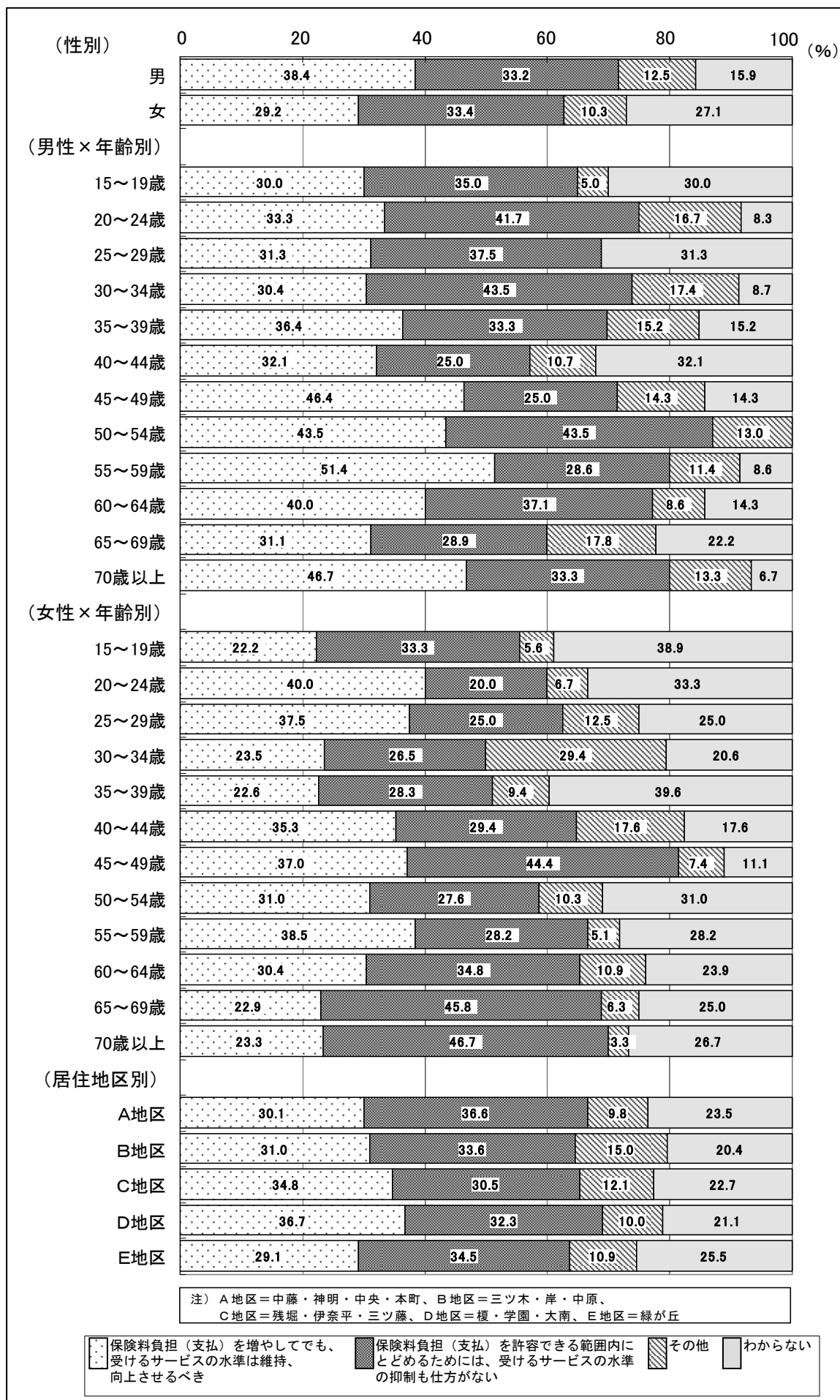
「保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービス水準は維持、向上させるべき」との回答は、男性が女性を約9%上回っている。一方で、「わからない」との回答は、女性が男性を約11%上回っている。

性別・年齢別では、男性の20～24歳、30～34歳、50～54歳、女性の45～49歳、65～69歳、70歳以上で「保険料負担（支払）を許容できる範囲にとどめるためには、受けるサービスの水準の抑制も仕方がない」との回答が高い割合を示している。一方で、男性の45～49歳、55～59歳、70歳以上、女性の20～24歳、25～29歳、55～59歳で「保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービス水準は維持、向上させるべき」との回答が高い割合を示している。

特に、男性の55～59歳では、「保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービス水準は維持、向上させるべき」との回答が51.4%と半数を超えている。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

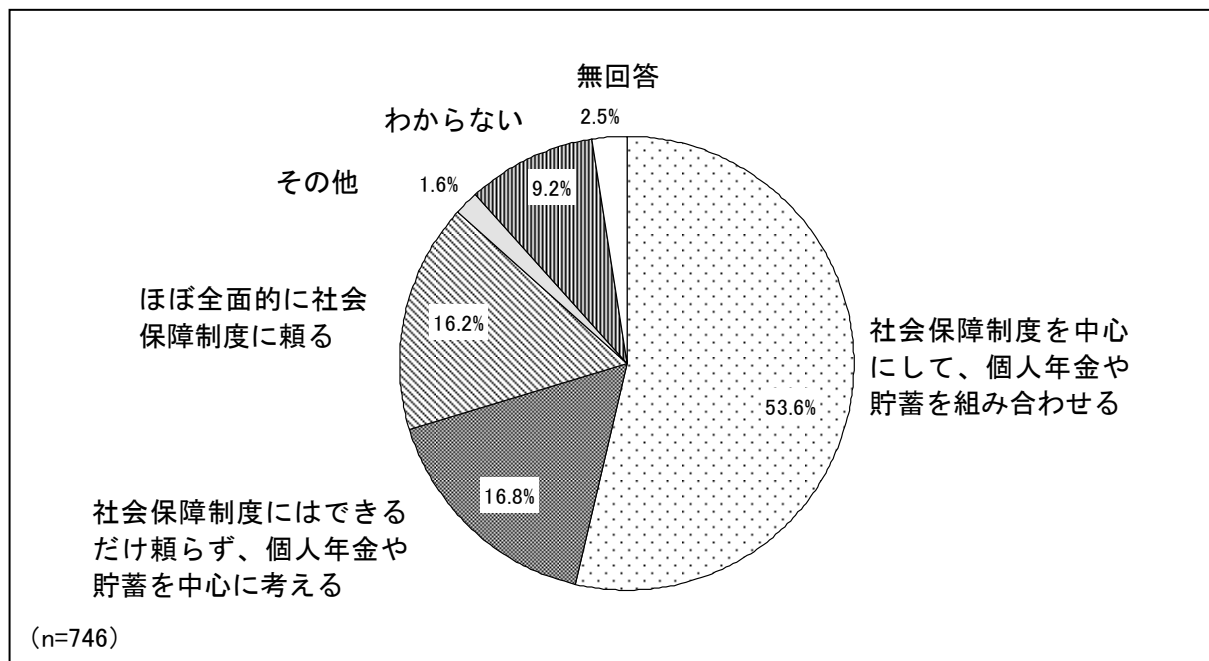
■性別／性別・年齢別／居住地区別





問25 あなたは、ご自身の老後生活において、社会保障制度をどのように考えていますか。

◆老後生活における社会保障制度について：「社会保障制度を中心にして、個人年金や貯蓄を組み合わせる」が54%



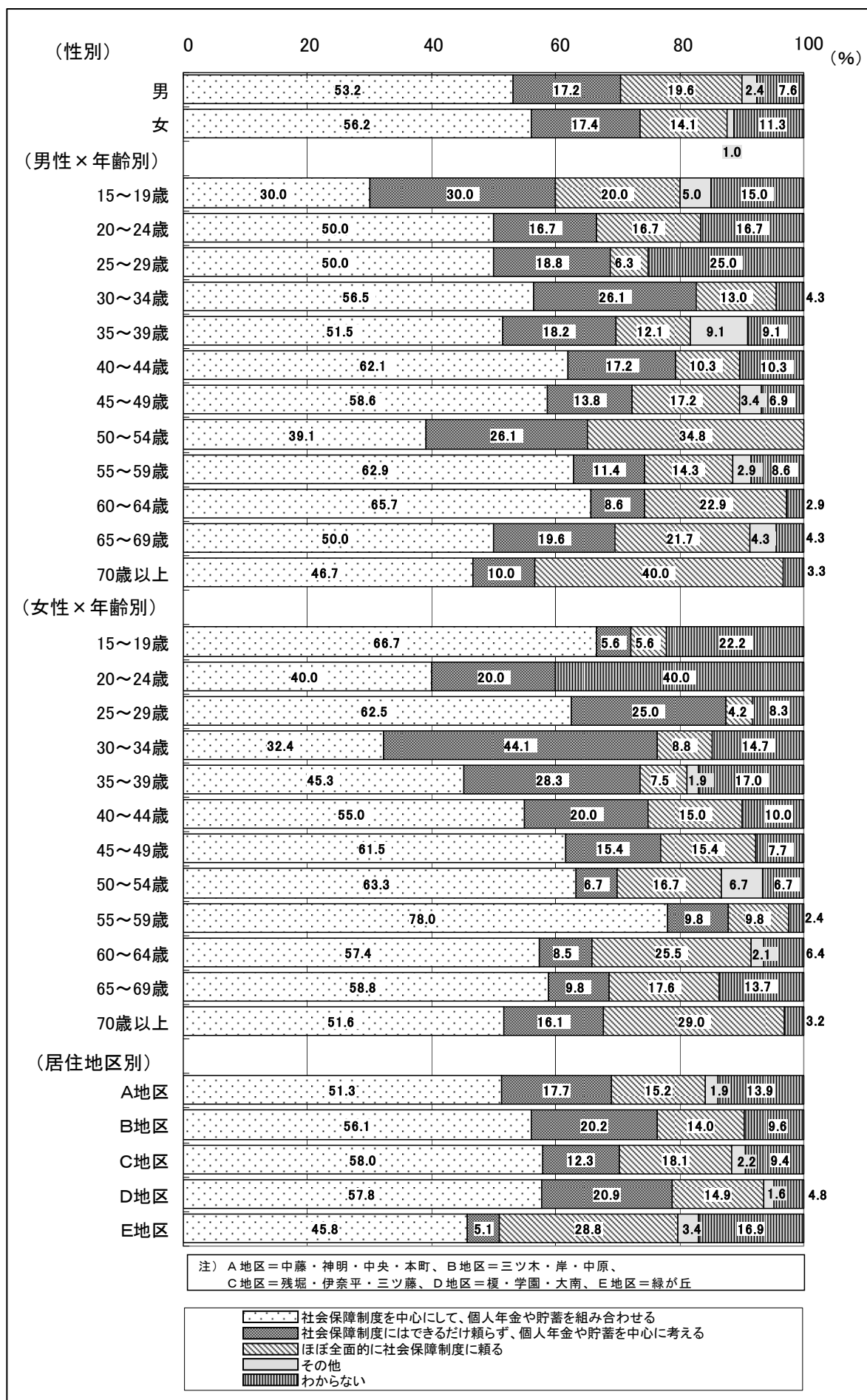
老後生活における社会保障制度について、「社会保障制度を中心にして、個人年金や貯蓄を組み合わせる」が53.6%と最も多く、次いで「社会保障制度にはできるだけ頼らず、個人年金や貯蓄を中心に考える」が16.8%、「ほぼ全面的に社会保障制度に頼る」が16.2%となっている。

性別にみると、「ほぼ全面的に社会保障制度に頼る」は、男性が女性を5.5%上回っているが、「社会保障制度を中心にして、個人年金や貯蓄を組み合わせる」、「社会保障制度にはできるだけ頼らず、個人年金や貯蓄を中心に考える」では、男性・女性で大きな差はみられない。男性・女性とも「社会保障制度を中心にして、個人年金や貯蓄を組み合わせる」が50%以上を占めている。

性別・年齢別では、特に、女性の55～59歳において「社会保障制度を中心にして、個人年金や貯蓄を組み合わせる」が78.0%と最も高く、突出した結果となっている。「社会保障制度にはできるだけ頼らず、個人年金や貯蓄を中心に考える」は、女性の30～34歳が44.1%と最も高くなっている。「ほぼ全面的に社会保障制度に頼る」は、男性の70歳以上で40.0%と最も高くなっている。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

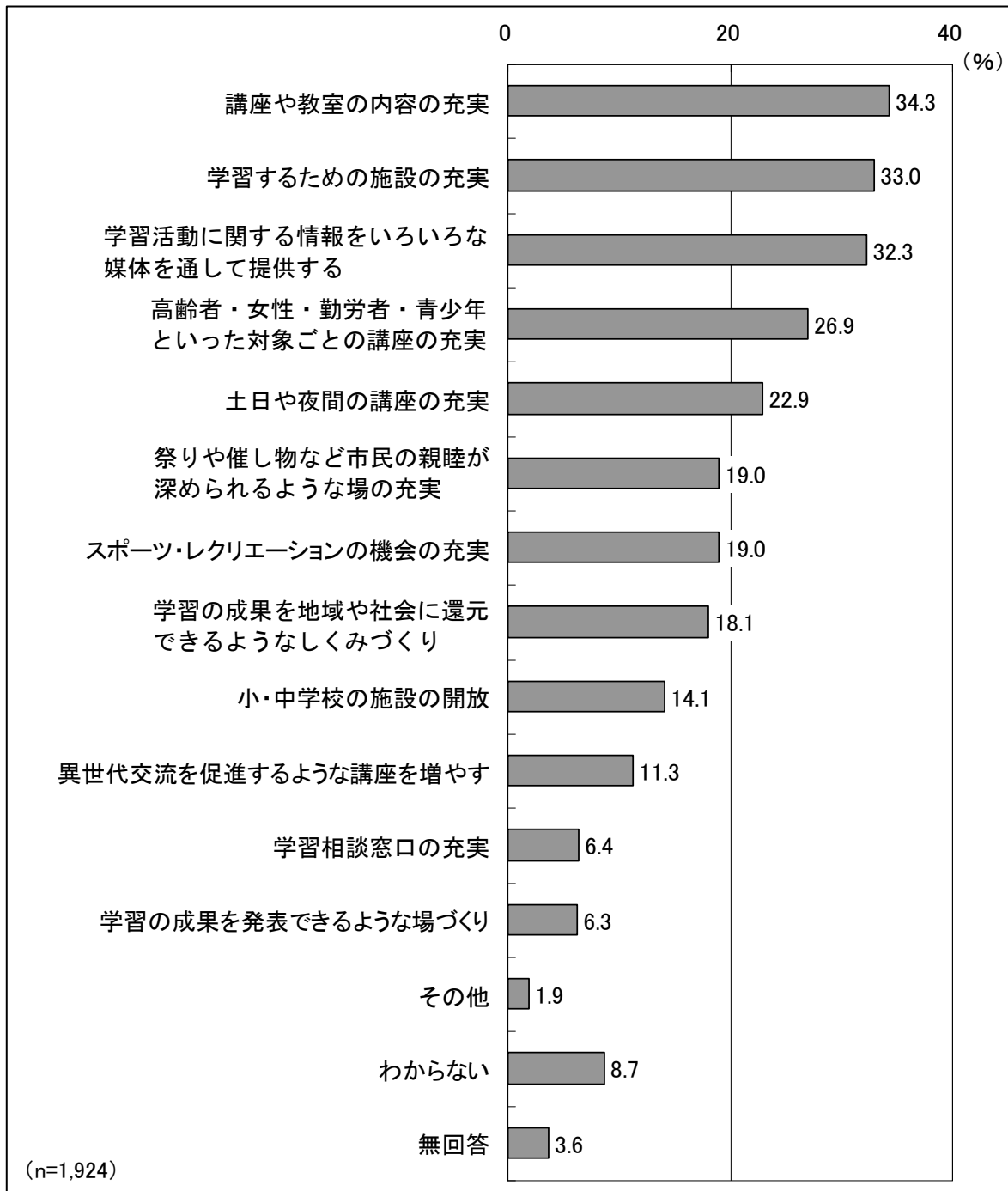
■性別／性別・年齢別／居住地区別



## (16) 生涯学習

問26 あなたは、生涯学習をより一層充実させるためには、市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(3つまで回答)

◆生涯学習をより一層充実させるための取り組み：「講座や教室の内容の充実」が34%、「学習するための施設の充実」が33%、「学習活動に関する情報をいろいろな媒体を通して提供する」が32%



生涯学習をより一層充実させるための取り組みとして、「講座や教室の内容の充実」、「学習するための施設の充実」、「学習活動に関する情報をいろいろな媒体を通して提供する」がそれぞれ30%以上を占め、比較的高い割合を示している。

「講座や教育の内容の充実」については、女性が男性を約10%上回り、女性の40～44歳、50～54歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、D地区が35%以上を示している。

「学習するための施設の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、女性の15～19歳、20～24歳、40～44歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区に35%以上を示している。

「学習活動に関する情報をいろいろな媒体を通して提供する」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、60～64歳で45%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も概ね30%を示している。

「高齢者・女性・勤労者・青少年といった対象ごとの講座の充実」については、女性が男性を約8%上回り、女性の45～49歳、65～69歳で45%以上を示している。居住地区別ではE地区が35%以上を示している。

「土日や夜間の講座の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の25～29歳、40～44歳、45～49歳で40%以上を示している。また、居住地区別ではD地区が25%以上を示している。

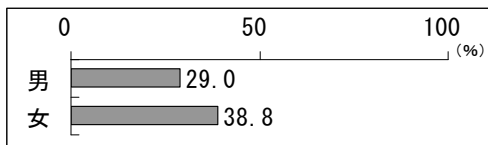
「祭りや催し物など市民の親睦が深められるような場の充実」については、男性が女性を約5%上回り、男性の15～19歳、30～34歳で35%以上を示している。居住地区別ではいずれの地区も概ね15～20%を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

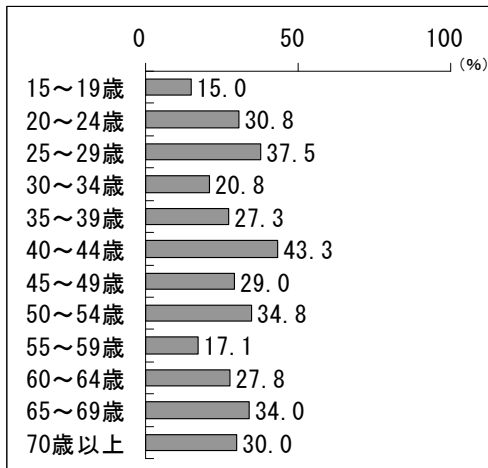
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□講座や教室の内容の充実

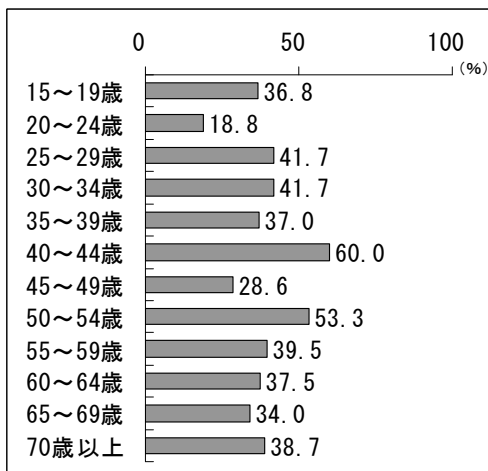
・性別



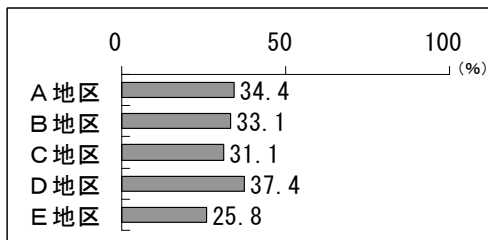
・男性×年齢別



・女性×年齢別

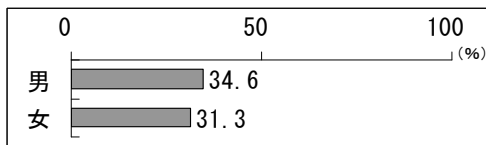


・居住地区別

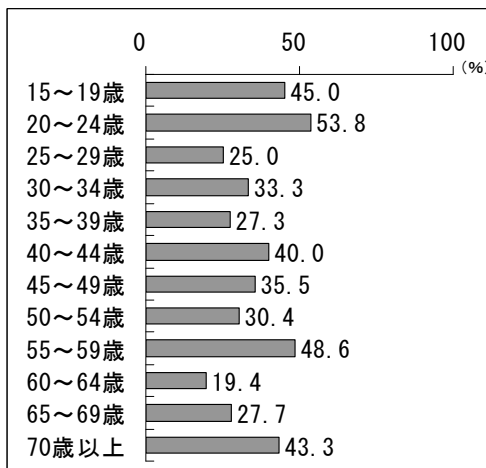


□学習するための施設の充実

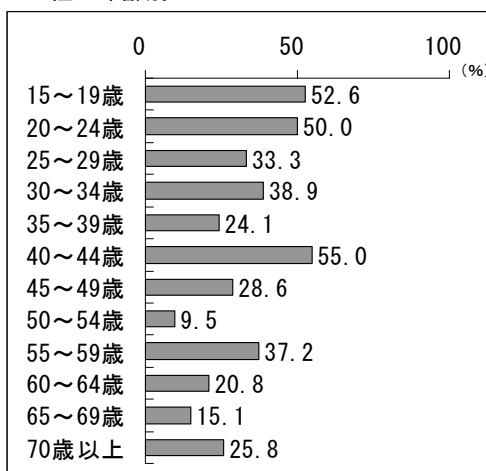
・性別



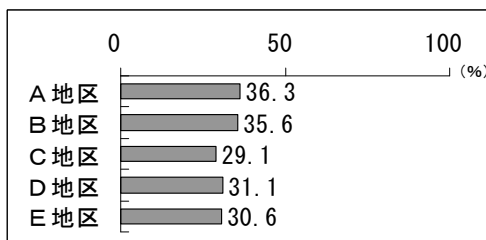
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別



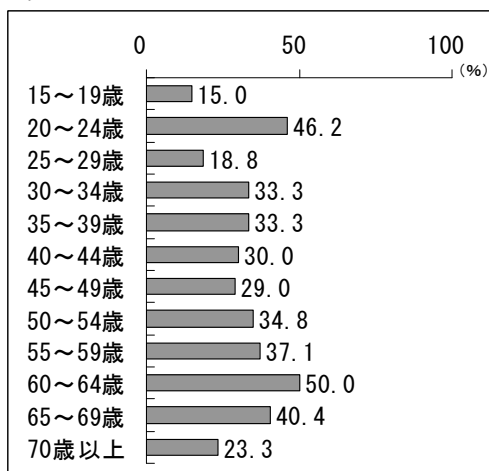
注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

□学習活動に関する情報をいろいろな媒体を通して提供する

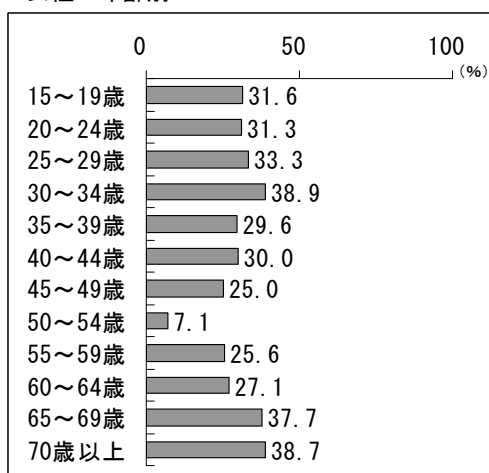
・性別



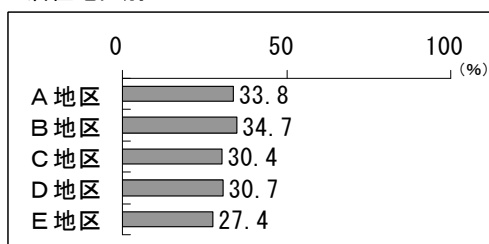
・男性×年齢別



・女性×年齢別

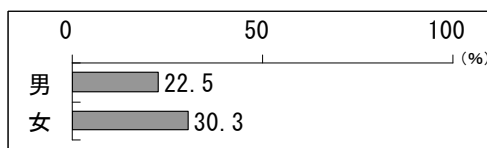


・居住地区別

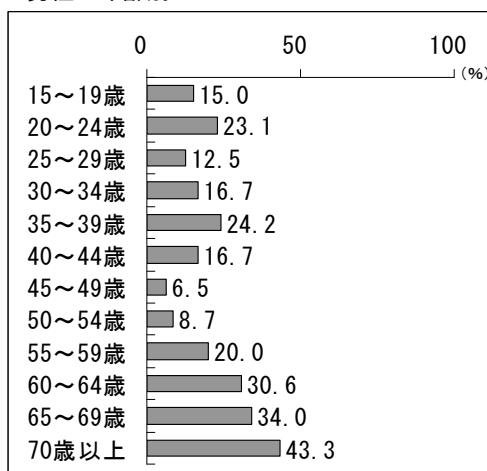


□高齢者・女性・勤労者・青少年といった対象ごとの講座の充実

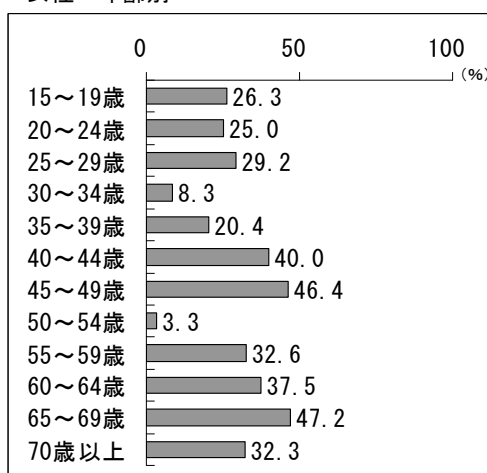
・性別



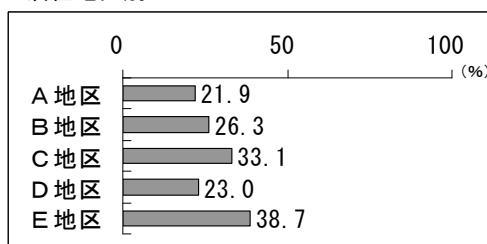
・男性×年齢別



・女性×年齢別



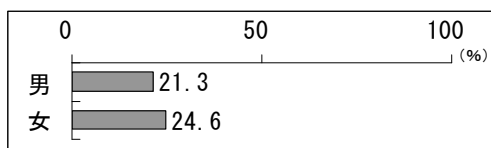
・居住地区別



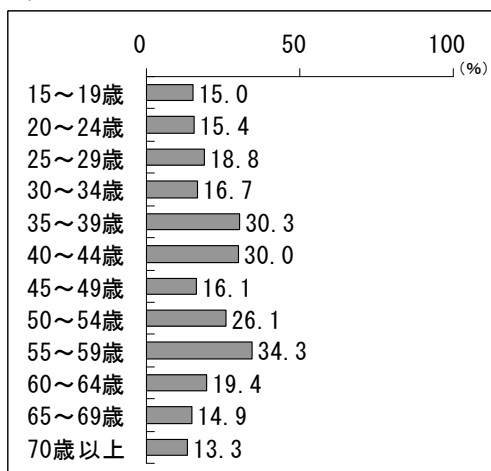
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□土日や夜間の講座の充実

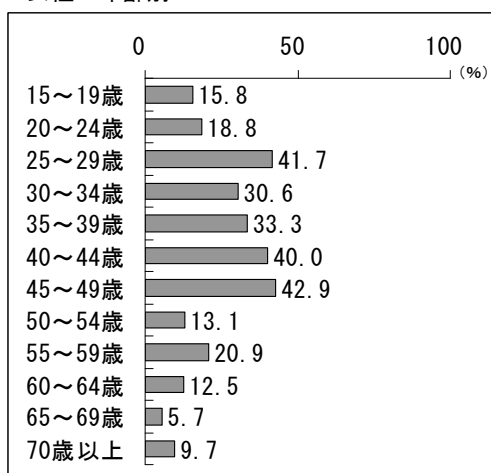
・性別



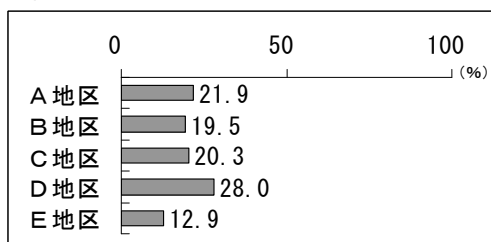
・男性×年齢別



・女性×年齢別

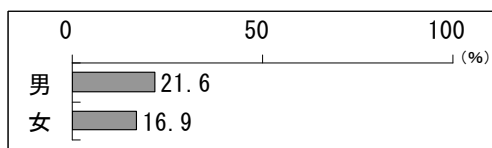


・居住地区別

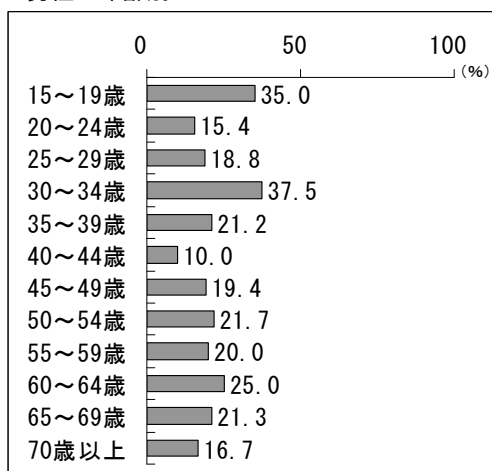


□祭りや催し物など市民の親睦が深められるような場の充実

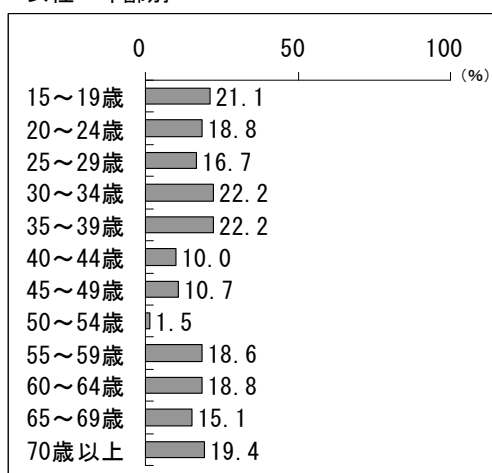
・性別



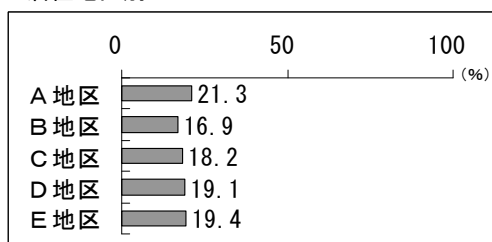
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

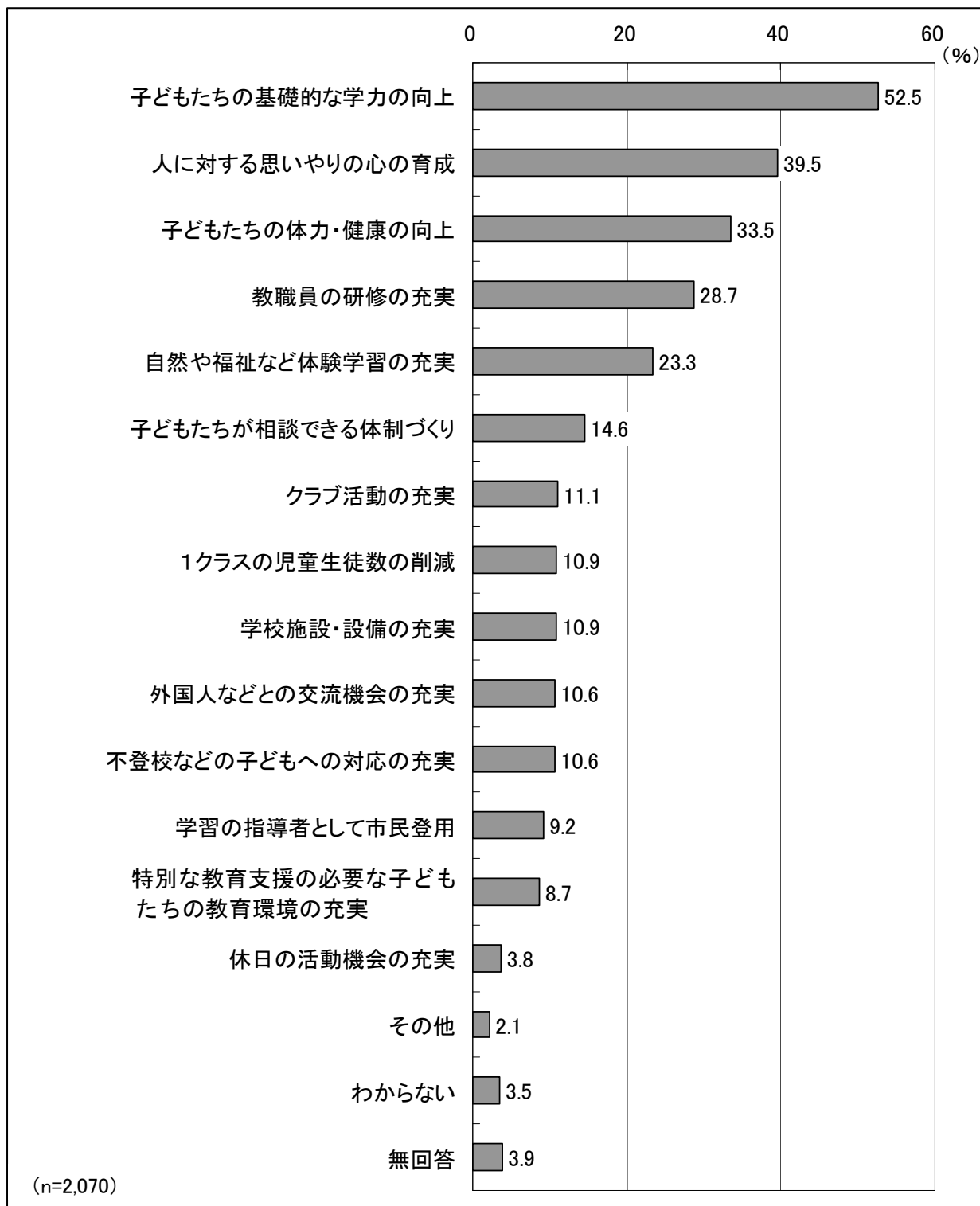


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(17) 教育

問27 子どもたちの教育をより一層充実するためには、市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(3つまで回答)

◆教育をより一層充実させるための取り組み：「子どもたちの基礎的な学力の向上」が53%





教育をより一層充実させるための取り組みとして、「子どもたちの基礎的な学力の向上」が52.5%と最も高く、次いで「人に対する思いやりの心の育成」が39.5%、「子どもたちの体力・健康の向上」が33.5%となっている。

「子どもたちの基礎的な学力の向上」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳、70歳以上、女性の40～44歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も40～55%を示している。

「人に対する思いやりの心の育成」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の55～59歳、60～64歳、女性の20～24歳、25～29歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も概ね30～40%を示している。

「子どもたちの体力・健康の向上」については、男性が女性を7.5%上回り、特に、男性の65～69歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、D地区で35%以上を示している。

「教職員の研修の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の50～54歳で50%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね20～35%を示している。

「自然や福祉など体験学習の充実」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の50～54歳、女性の35～39歳で35%以上を示している。居住地区別ではC地区、D地区で25%以上を示している。

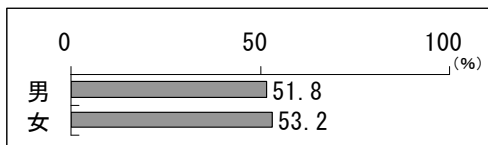
「子どもたちが相談できる体制づくり」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の35～39歳、女性の70歳以上で25%以上を示している。また、居住地区別では、E地区が20%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

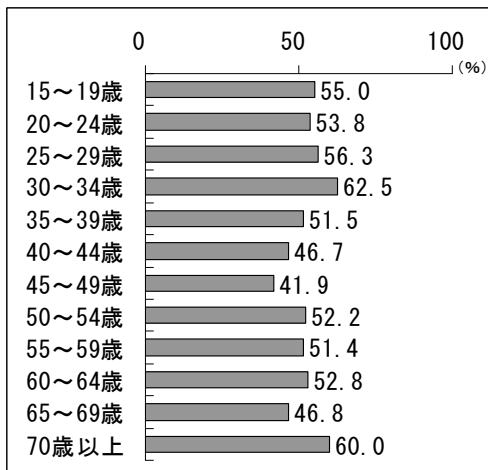
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□子どもたちの基礎的な学力の向上

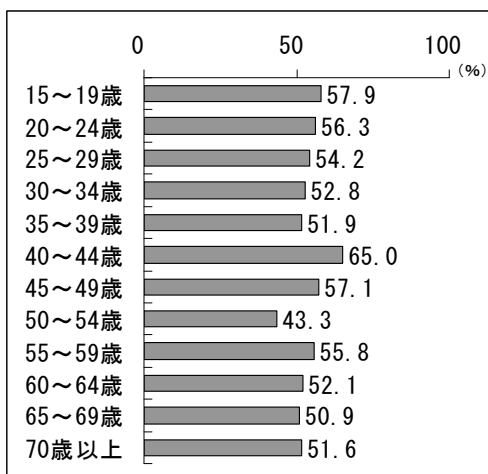
・性別



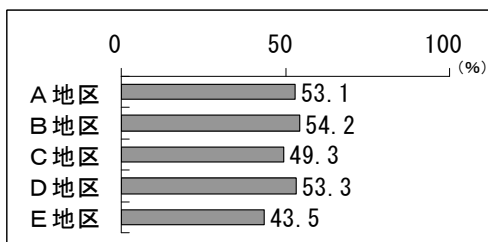
・男性×年齢別



・女性×年齢別

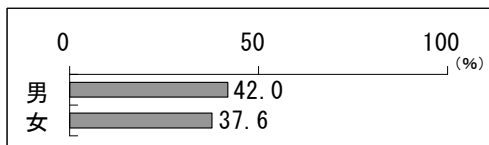


・居住地区別

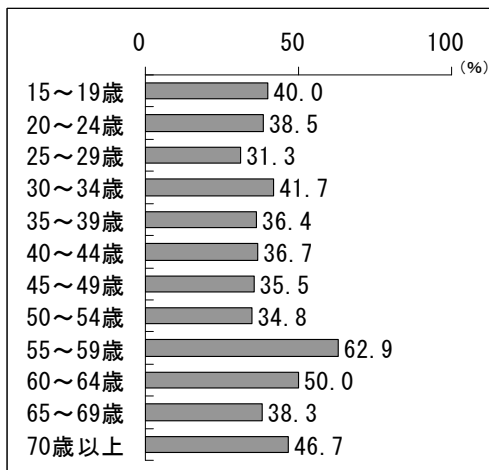


□人に対する思いやりの心の育成

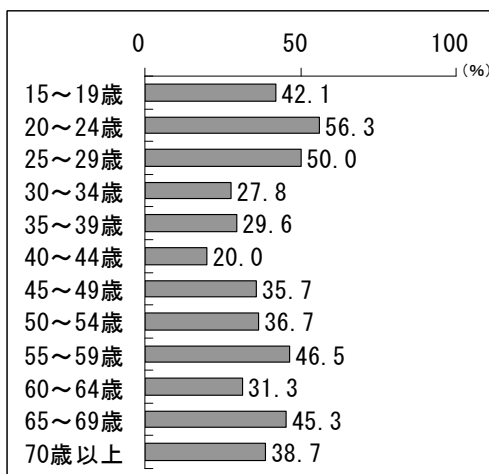
・性別



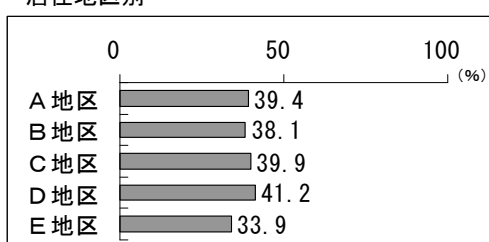
・男性×年齢別



・女性×年齢別



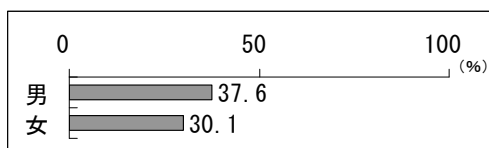
・居住地区別



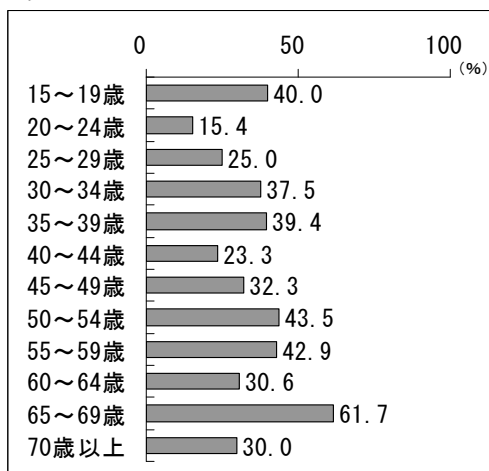
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□子どもたちの体力・健康の向上

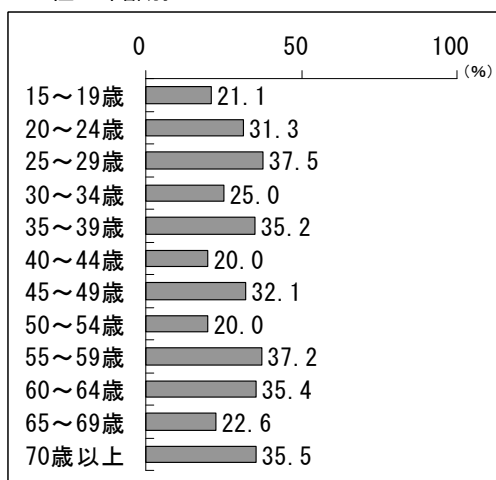
・性別



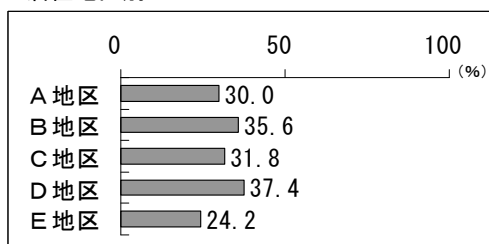
・男性×年齢別



・女性×年齢別

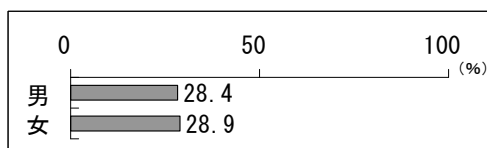


・居住地区別

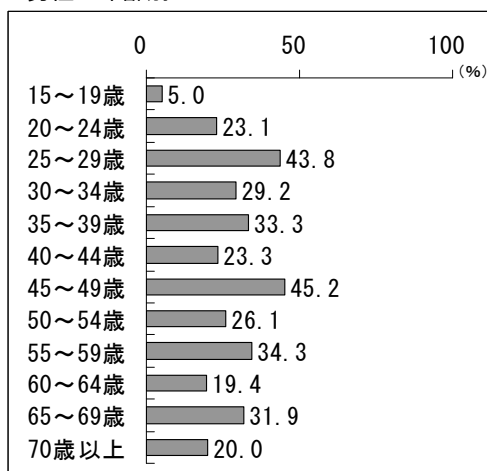


□教職員の研修の充実

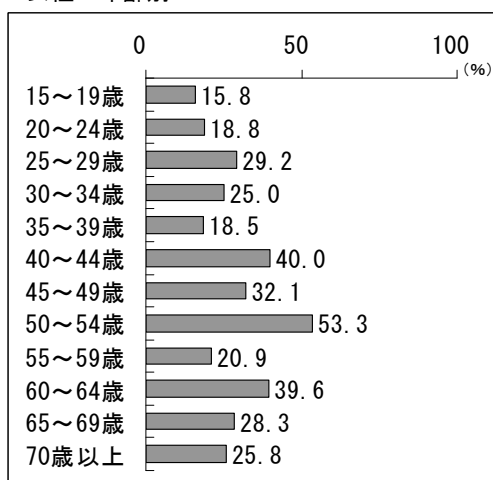
・性別



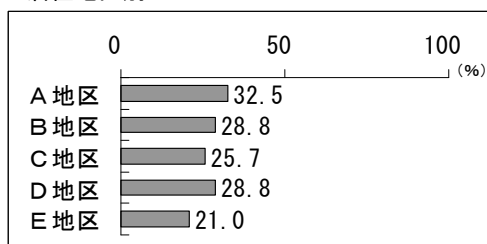
・男性×年齢別



・女性×年齢別



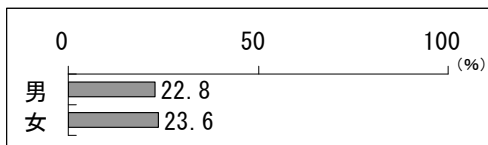
・居住地区別



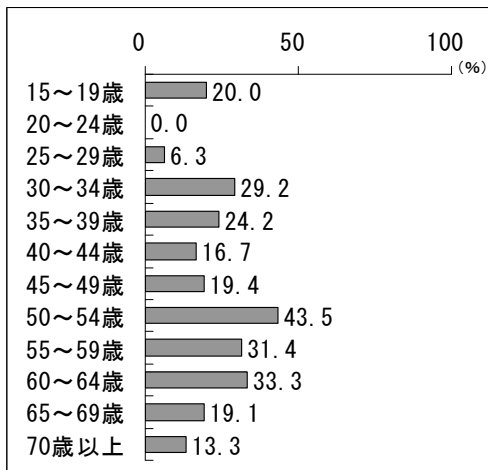
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□自然や福祉など体験学習の充実

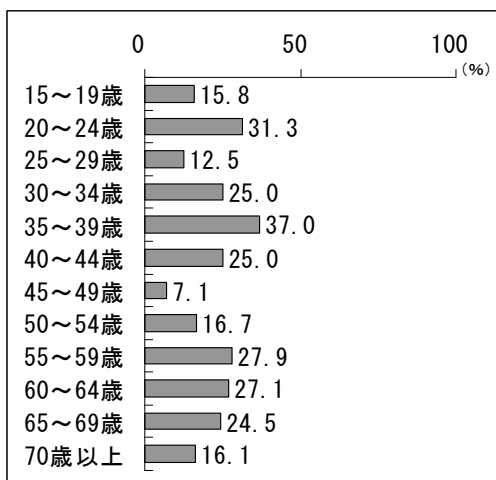
・性別



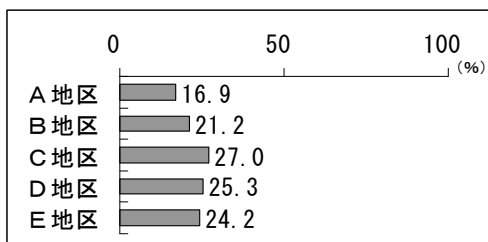
・男性×年齢別



・女性×年齢別

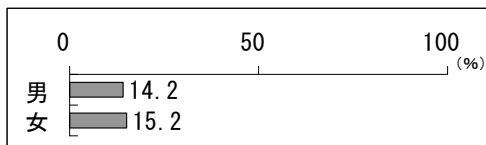


・居住地区別

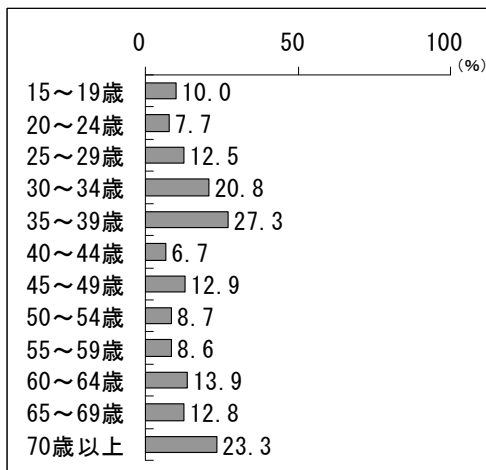


□子どもたちが相談できる体制づくり

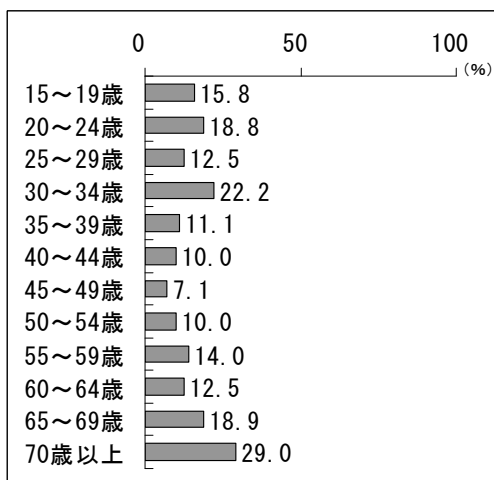
・性別



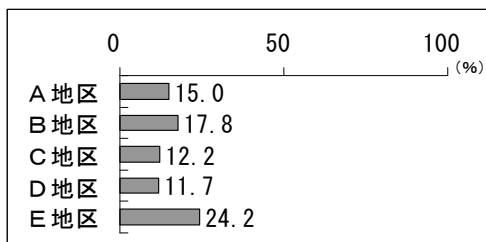
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

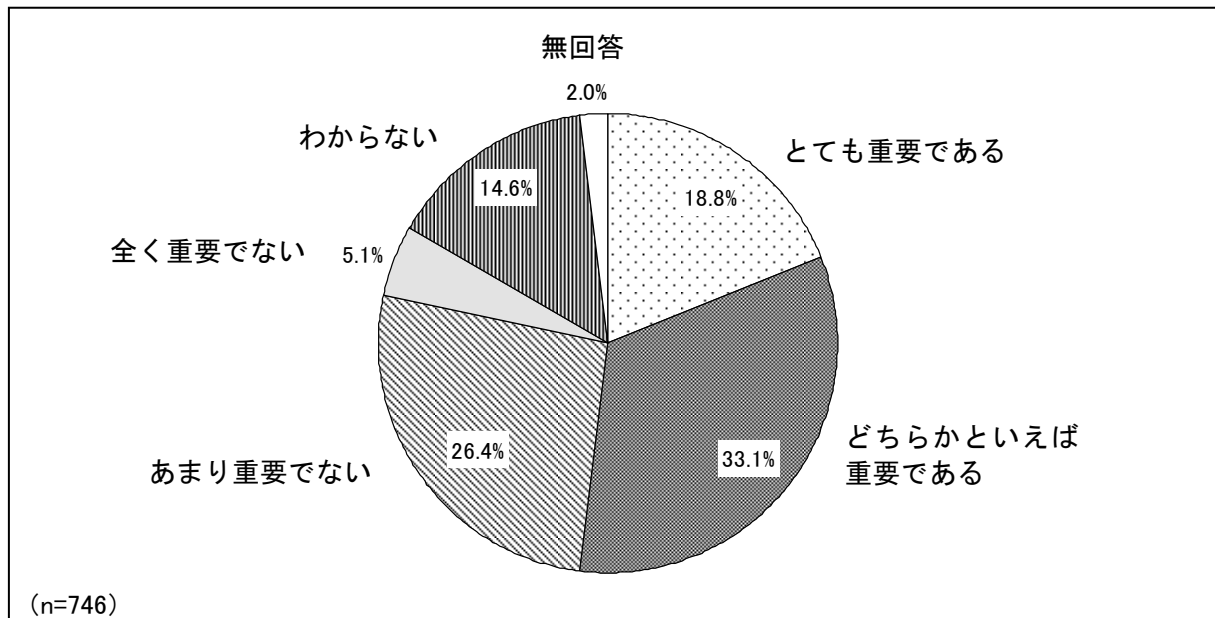


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (18) コミュニティ・交流

問28 現在、地域における自治会の加入率は低下しており、災害時の防災面や日常の防犯面等における地域力の欠如が問題となっています。あなたは、自治会についてどのように考えていますか。

◆自治会について：《重要と感じている》が52%、《重要と感じていない》が32%



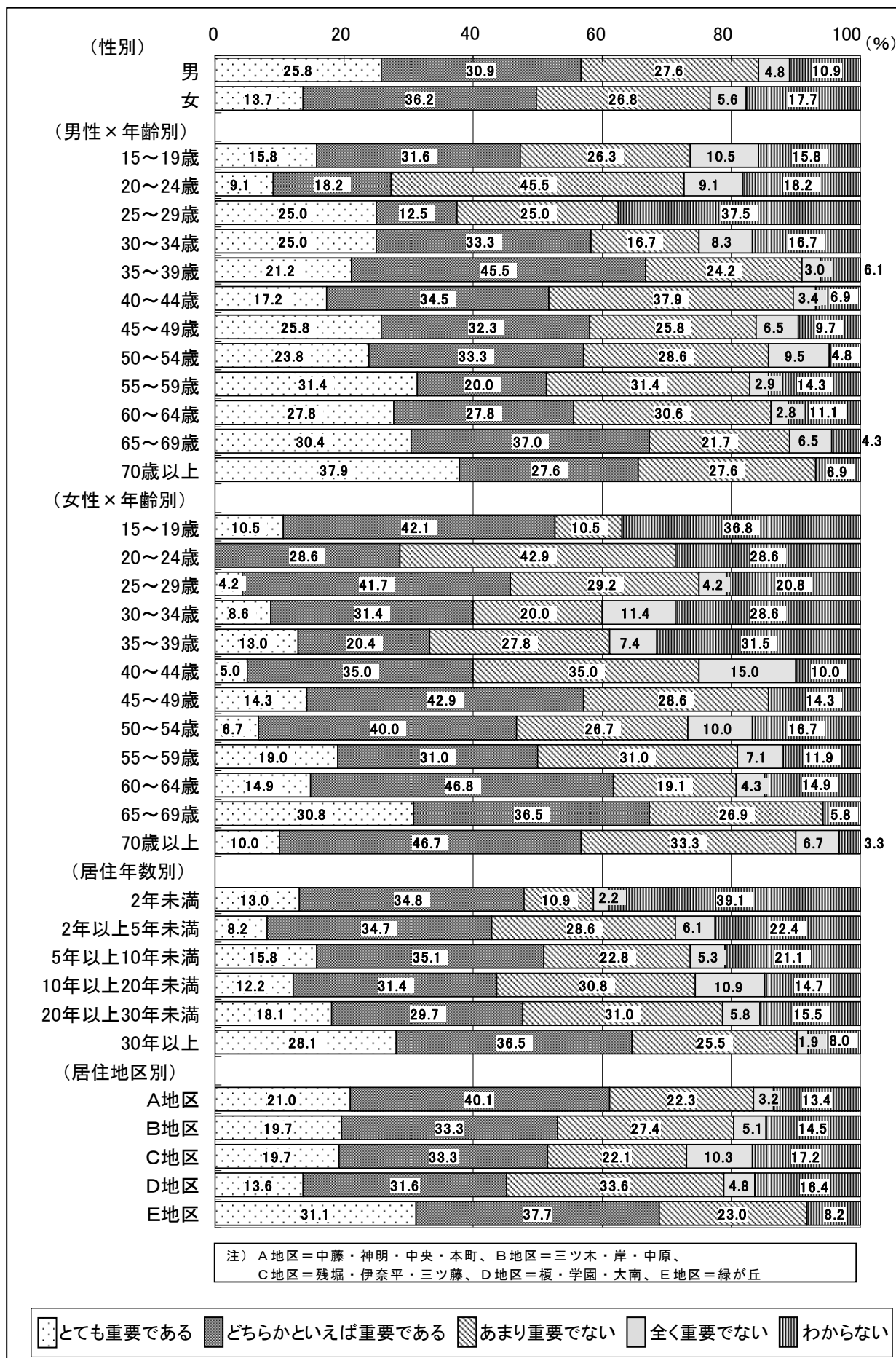
自治会について、「重要と感じている（とても重要である、どちらかといえば重要である）」は51.9%であり、「重要と感じていない（全く重要でない、あまり重要でない）」は31.5%となっている。

性別で見ると、男性・女性とも「重要と感じている（とても重要である、どちらかといえば重要である）」割合が概ね50%を占めており、「重要と感じている（とても重要である、どちらかといえば重要である）」割合は、男性が女性を上回っている。特に、男性の35～39歳、65～69歳、70歳以上、女性の60～64歳、65～69歳で「重要と感じている（とても重要である、どちらかといえば重要である）」割合が60%以上を示している。一方で、男性の20～24歳、女性の40～44歳で「重要と感じていない（全く重要でない、あまり重要でない）」割合が50%以上を示している。

また、居住年数別、居住地区別では、それぞれ5年以上10年未満、30年以上、A地区、E地区で「重要と感じている（とても重要である、どちらかといえば重要である）」割合が60%以上を示している。

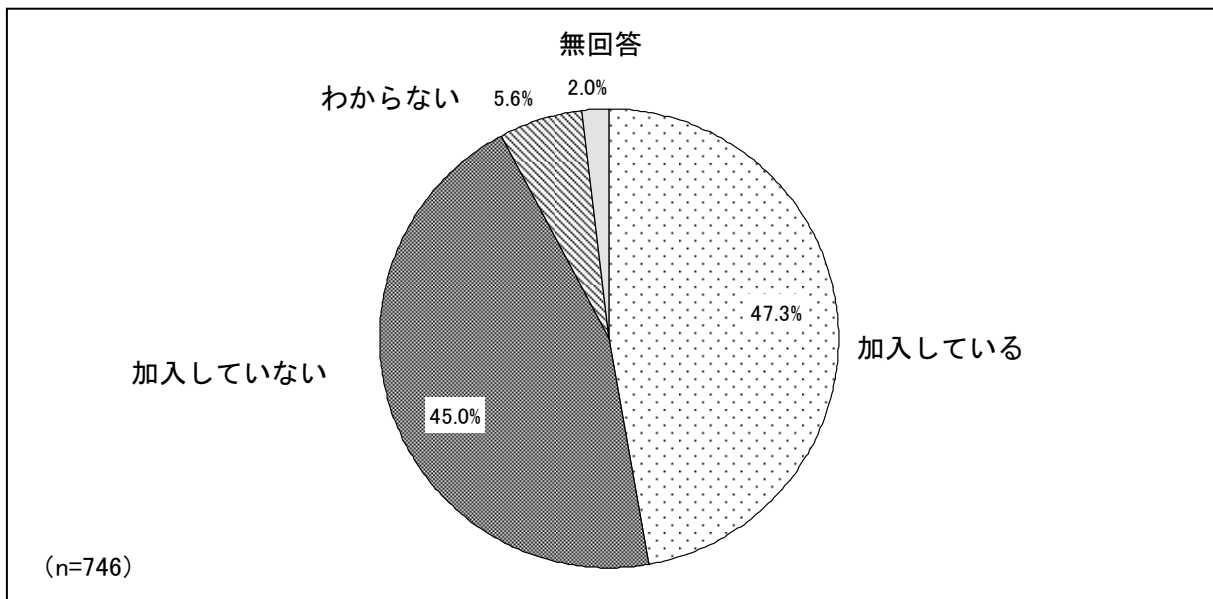
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別



## 問29 あなたのご家庭は、地域の自治会に加入していますか。

◆自治会の加入状況：「加入している」が47%、「加入していない」が45%



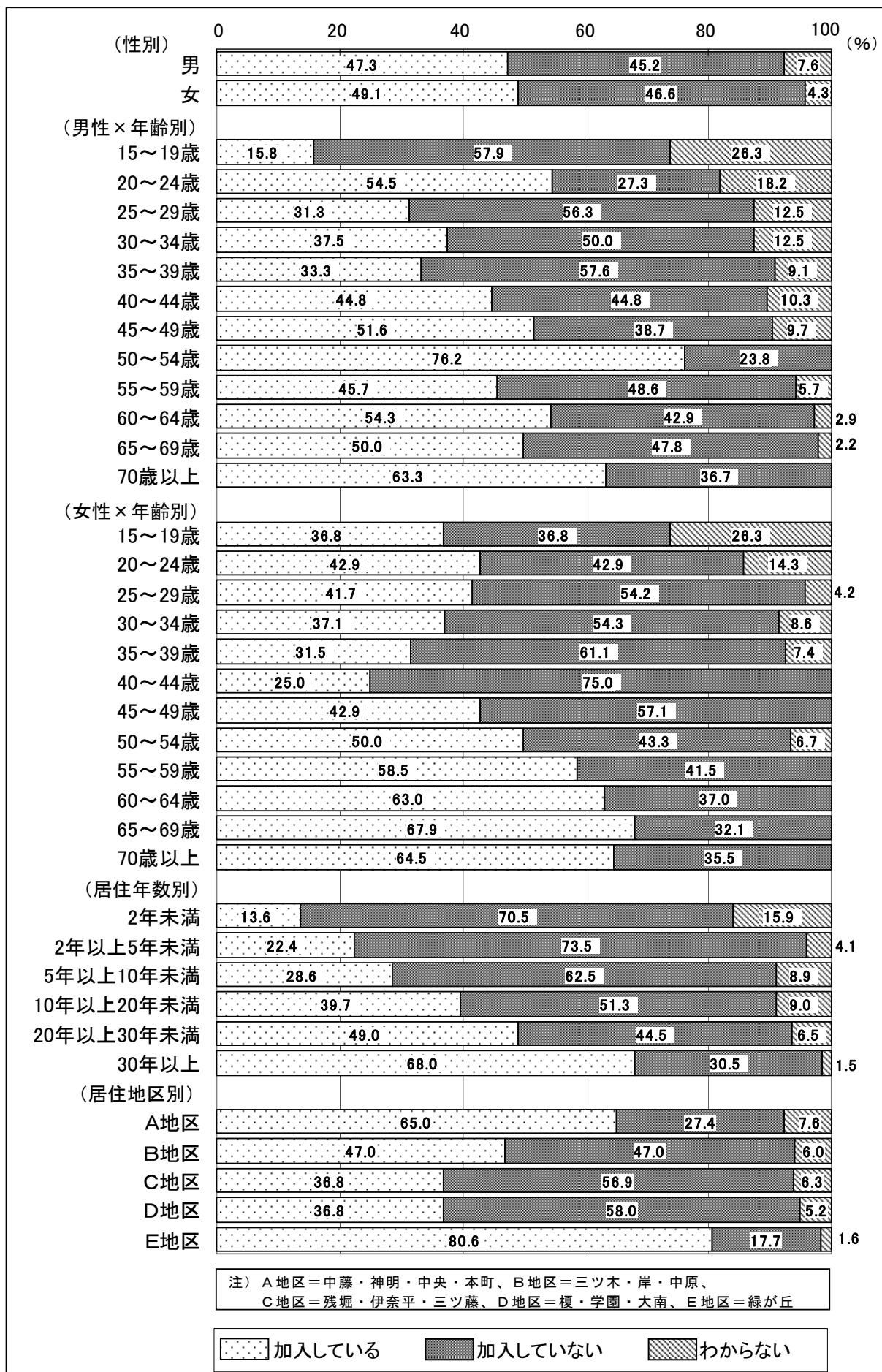
自治会の加入について、「加入している」が47.3%、「加入していない」が45.0%となっている。また、「わからない」が5.6%となっている。

性別で見ると、男性・女性で大きな違いはなく、概ね「加入している」、「加入していない」の割合は半々となっている。特に、男性の50～54歳、70歳以上、女性の60～64歳、65～69歳、70歳以上で「加入している」割合が60%以上と高くなっている。一方で、女性の35～39歳、40～44歳では「加入していない」割合が60%以上と高くなっている。

居住年数別では、居住年数が長いほど「加入している」割合が高くなり、30年以上では65%以上を示している。逆に、2年未満では、「加入していない」が70%以上を示している。居住地区別みると、特にE地区では「加入している」割合が80%以上と極めて高くなっている。C地区、D地区では、「加入していない」割合が50%以上となっている。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別

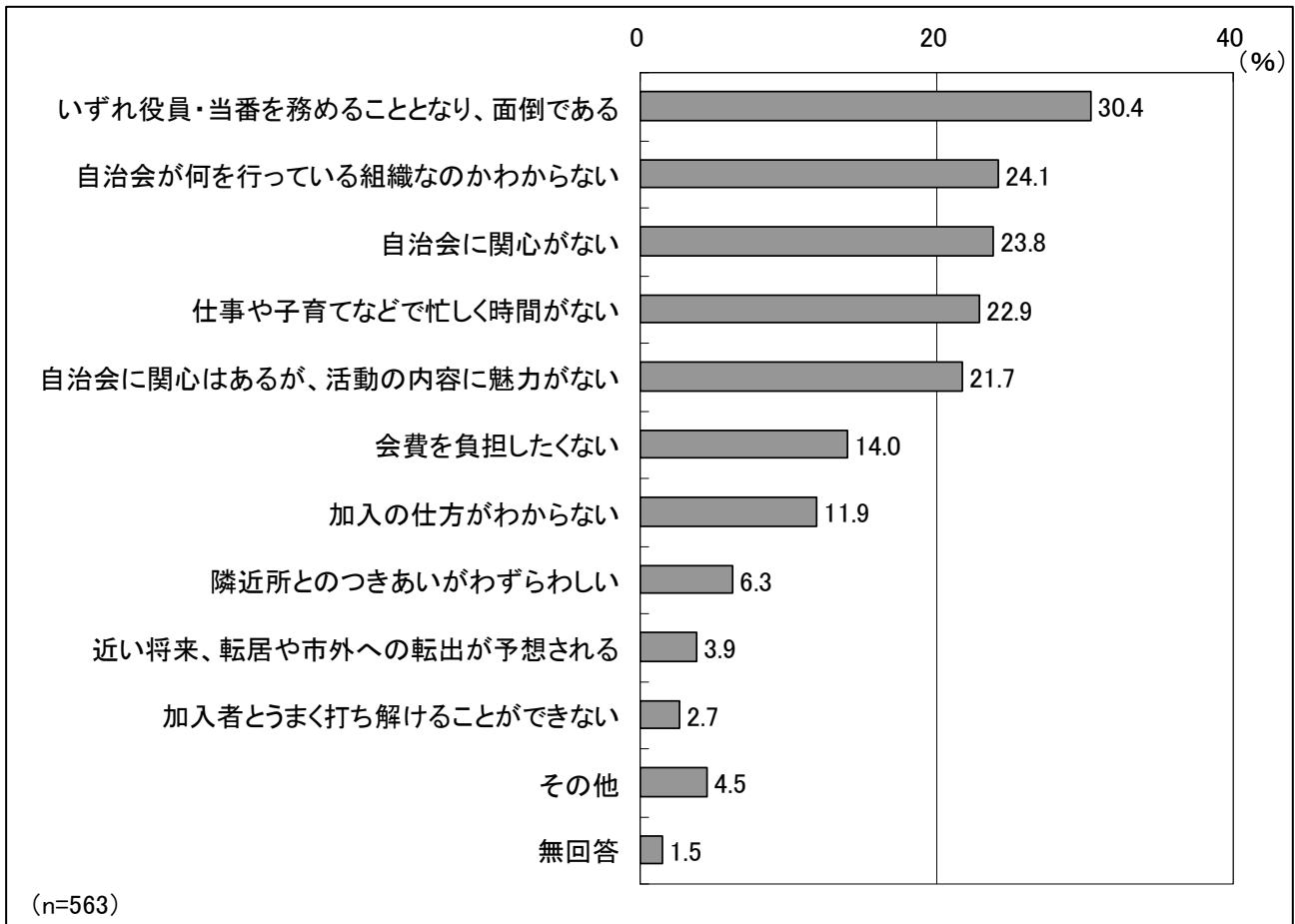




(問29で「2」とお答えの方に)

問30 あなたが自治会に加入しない理由は何ですか。(2つまで回答)

◆自治会に加入しない理由：「いずれ役員・当番を務めることとなり、面倒である」が30%



自治会に加入しない理由として、「いずれ役員・当番を務めることとなり、面倒である」が30.4%と最も高く、「自治会が何を行っている組織なのかわからない」、「自治会に関心がない」、「仕事や子育てなどで忙しく時間がない」、「自治会に関心はあるが、活動の内容に魅力がない」が各々20%を超える結果となっている。

「いずれ役員・当番を務めることとなり、面倒である」については、女性が男性を約14%上回り、女性の25～29歳、45～49歳、60～64歳、70歳以上で50%以上を示している。また、居住年数別では10年以上20年未満、30年以上が35%以上を示し、居住地区別では、E地区が50%以上を示している。

「自治会が何を行っている組織なのかわからない」については、男性が女性を約8%上回り、男性の45～49歳、60～64歳、65～69歳で40%以上を示している。居住年数別では、2年以上5年未満で35%以上を示している。居住地区別では、A地区、B地区が30%以上を示している。

「自治会に関心がない」については、女性が男性を約5%上回り、男性の15～19歳、45～49歳で50%以上を示している。また、居住年数別では、10年以上20年未満で30%以上を示している。居住地区別では、A地区で30%以上を示している。

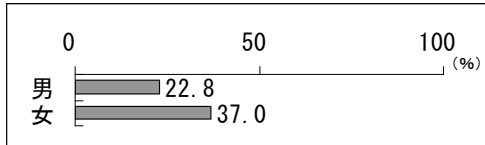
「仕事や子育てなどで忙しく時間がない」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の50～54歳で60%以上を示している。また、居住年数別では5年以上10年未満で40%以上、居住地区別では、D地区で30%以上を示している。

「自治会に関心はあるが、活動の内容に魅力がない」については、男性が女性を約5%上回り、男性の70歳以上で70%以上を示している。また、居住年数別では、2年未満、20年以上30年未満、30年以上で25%以上を示している。居住地区別では、E地区で45%以上を示している。

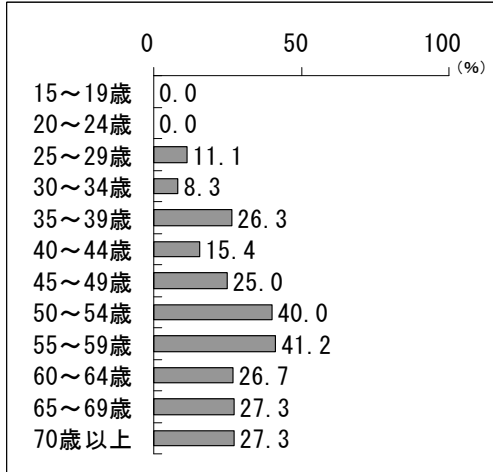
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位5項目）

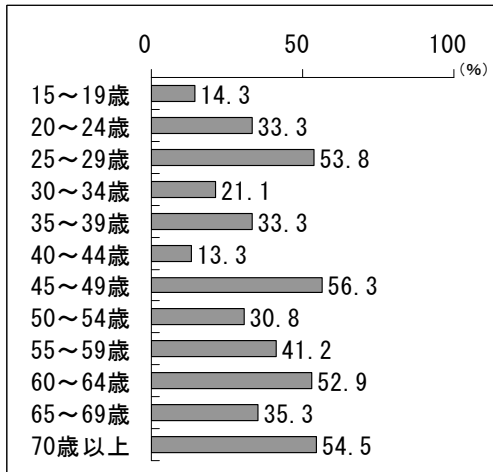
□いずれ役員・当番を務めることとなり、面倒である  
・性別



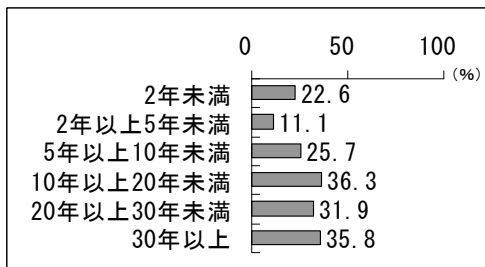
・男性×年齢別



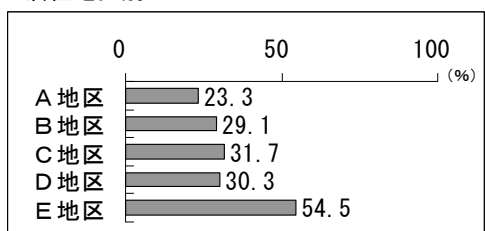
・女性×年齢別



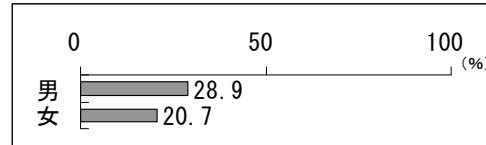
・居住年数別



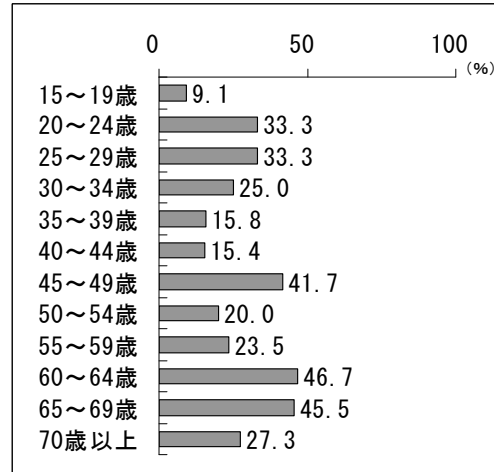
・居住地区別



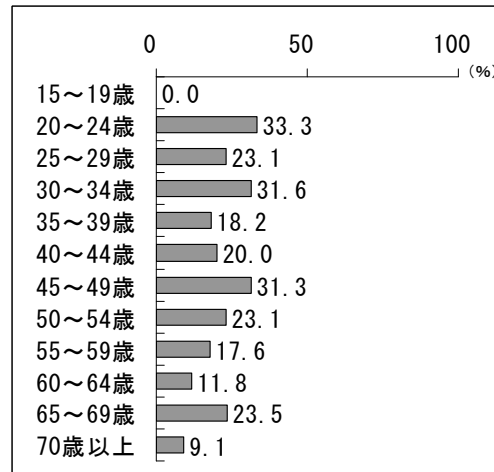
□自治会が何を行っている組織なのかわからない  
・性別



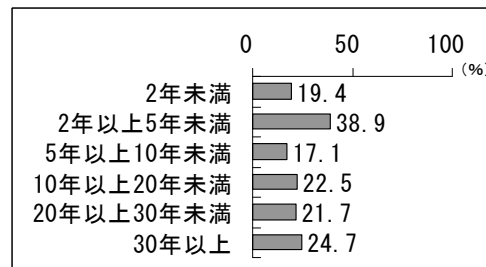
・男性×年齢別



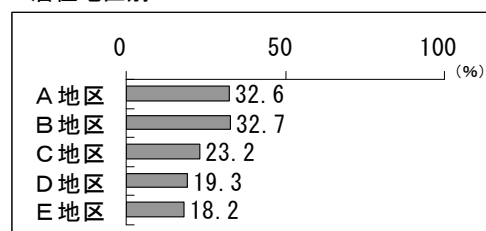
・女性×年齢別



・居住年数別



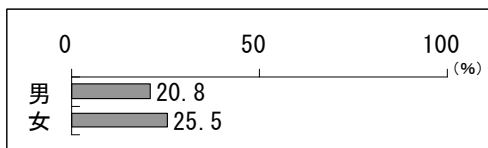
・居住地区別



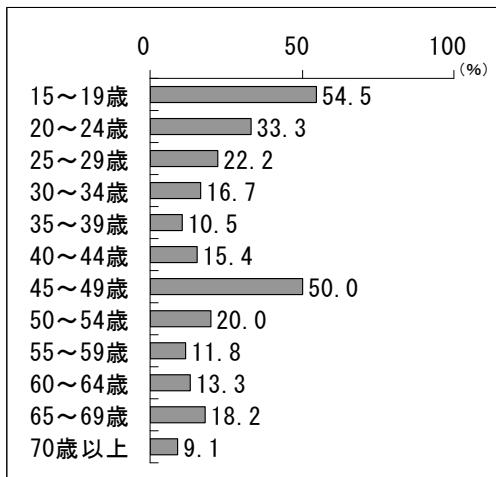
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□自治会に関心がない

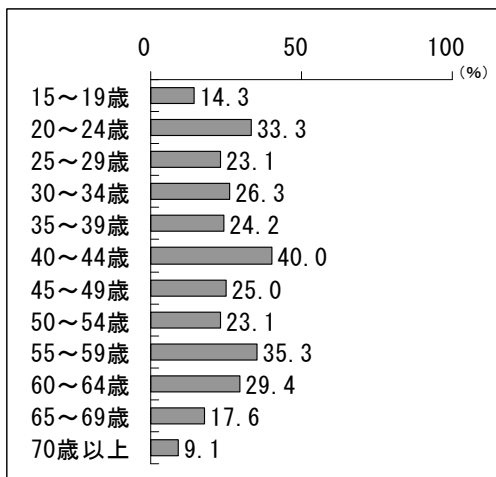
・性別



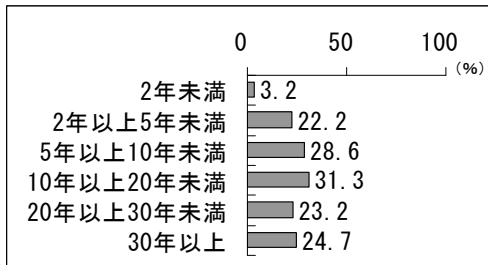
・男性×年齢別



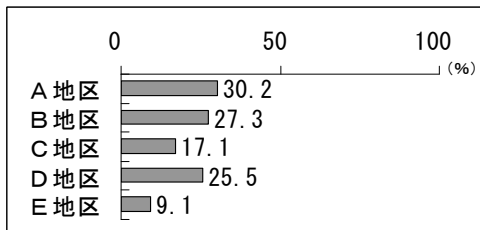
・女性×年齢別



・居住年数別

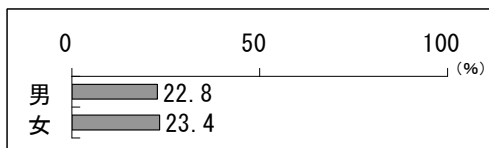


・居住地区別

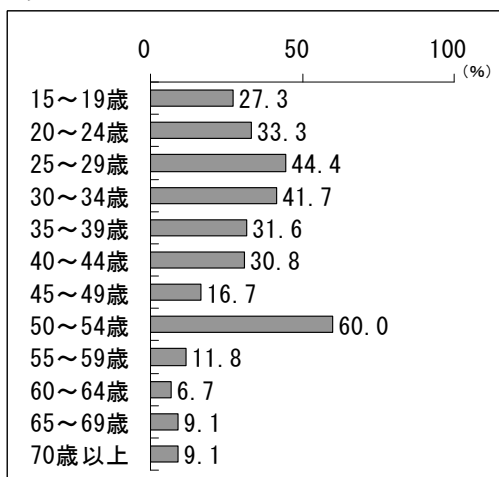


□仕事や子育てなどで忙しく時間がない

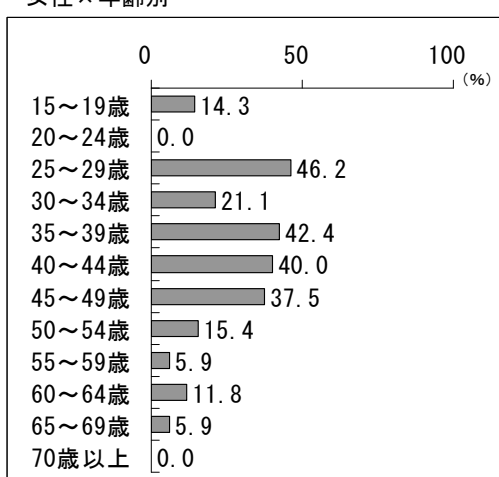
・性別



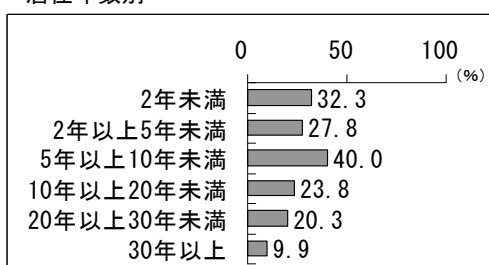
・男性×年齢別



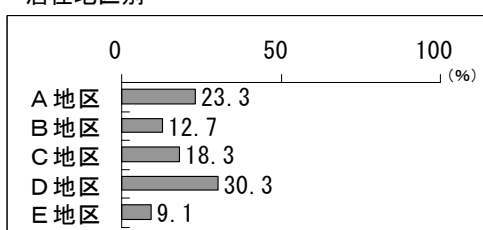
・女性×年齢別



・居住年数別



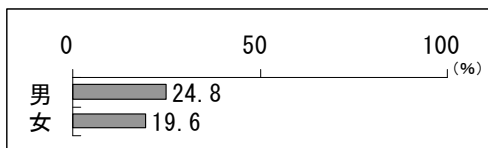
・居住地区別



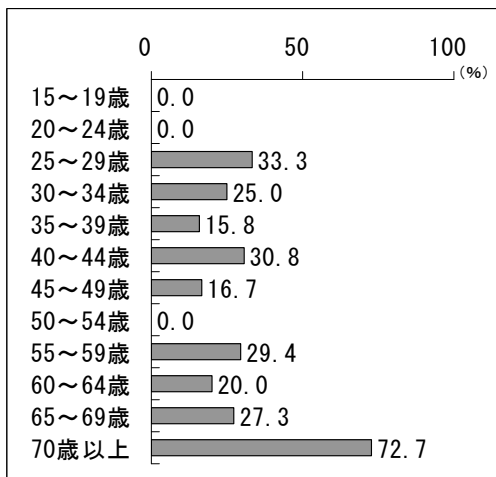
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□自治会に関心はあるが、活動の内容に魅力がない

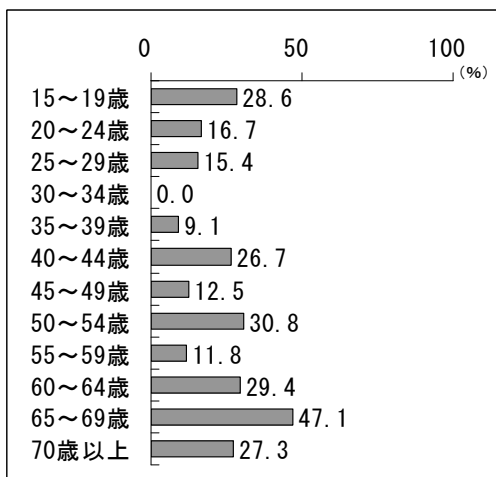
・性別



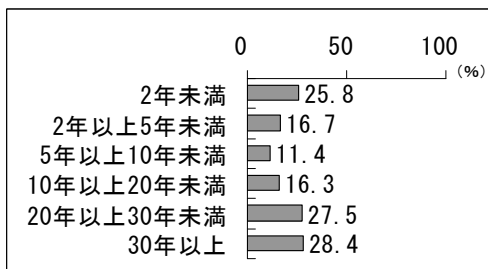
・男性×年齢別



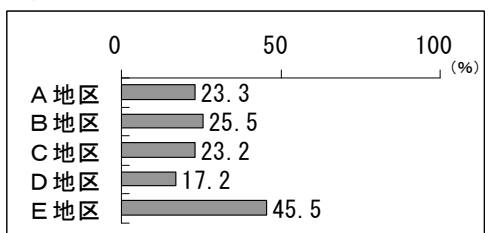
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別

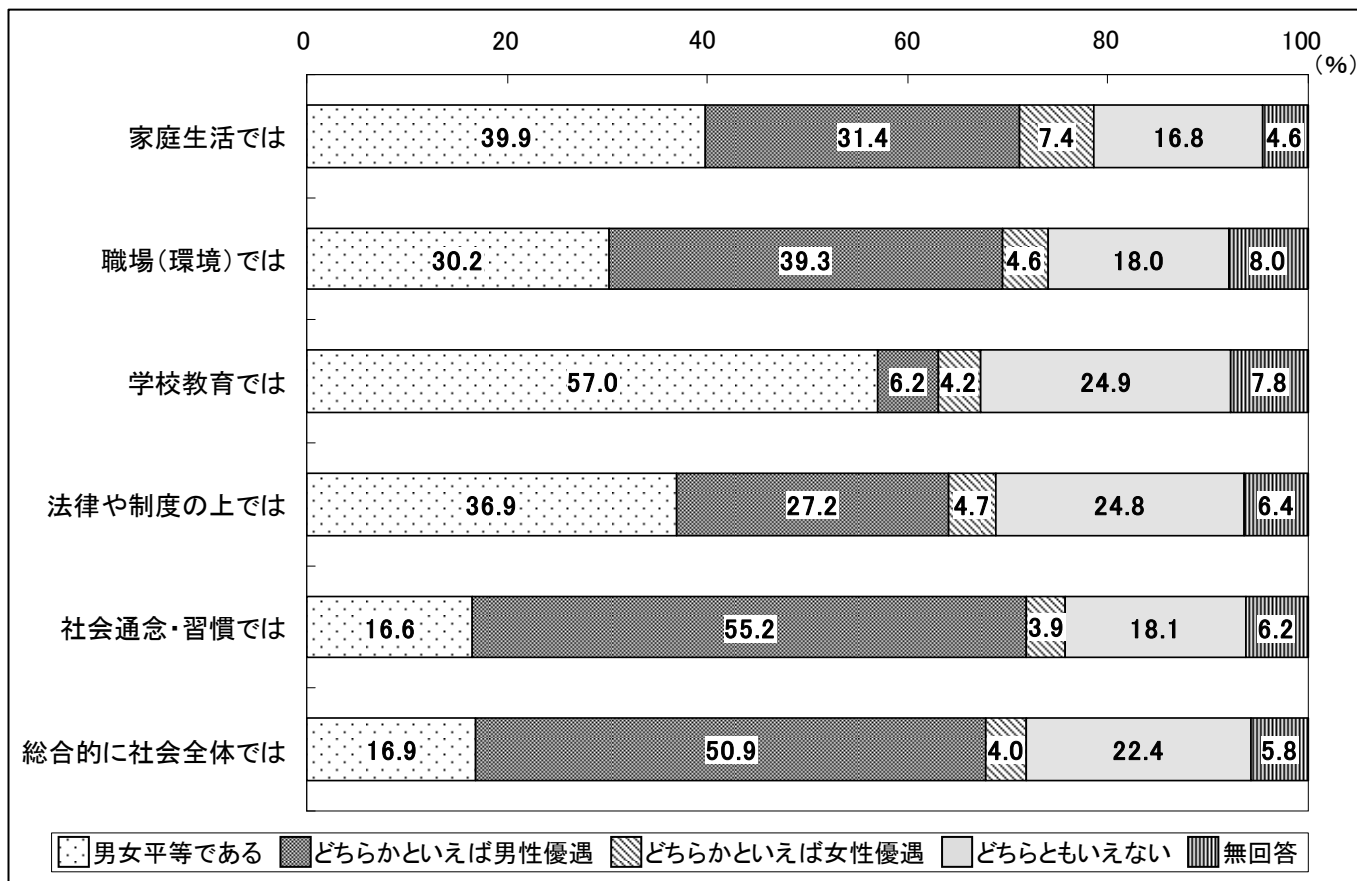


注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

(19) 男女共同参画

問 31 あなた自身は男女平等についてどのような印象を持っていますか。(最も近いものをそれぞれ1つ回答)

◆男女平等に対する印象：《男女平等である》と感じている項目は「学校教育」が57%、《どちらかといえば男性優遇である》と感じている項目は「社会通念・習慣」が55%、「総合的に社会全体」が51%



『男女平等である』と印象を持つ項目としては、「学校教育」が57.0%、次いで「家庭生活」が39.9%、「法律や制度」が36.9%となっている。

また、『どちらかといえば男性優遇である』と印象を持つ項目としては、「社会通念・習慣」が55.2%、「総合的に社会全体」が50.9%、「職場(環境)」が39.3%となっている。全体的に、女性優遇を感じている割合は低い結果となっている。

「家庭生活」については、男性の約半数が「男女平等である」と回答しているが、女性では「どちらかといえば男性優遇」が上回っている。性別・年齢別では、男性のほとんどの年齢で「男女平等である」が50~60%を示し、特に15~19歳、30~34歳で65%以上を示している。一方、女性のほとんどの年齢で「どちらかといえば男性優遇」が35~50%を示しており、特に、女性の55~59歳で50%以上を示している。また、「どちらかといえば女性優遇」は、男性・女性とも低い割合となっている。また、居住地区別では、E地区を除き「男女平等である」が「どちらかといえば男性優遇」を上回っている。

「職場（環境）」については、女性の半数近くが「どちらかといえば男性優遇」と回答している。「どちらかといえば女性優遇」は、男性・女性とも低い割合となっている。性別・年齢別では、特に男性の20～24歳、25～29歳で「どちらかといえば男性優遇」、15～19歳、40～44歳、50～54歳、60～64歳で「男女平等である」がそれぞれ50%以上を示している。一方、女性のほとんどの年齢で「どちらかといえば男性優遇」が35～50%を示しており、特に20～24歳では「男女平等である」は10%未満となっている。また、居住地区別では、いずれの地区においても「どちらかといえば男性優遇」が占める割合が35%以上と高く、「どちらかといえば女性優遇」が極めて少ない割合になっている。

「学校教育」については、男性・女性とも55%以上が「男女平等である」と回答している。性別・年齢別では、「男女平等である」が、男性の15～19歳、40～44歳、55～59歳、65～69歳、女性の40～44歳で70%以上を示している。また、居住地区別では、全ての地区で「男女平等である」が50%以上を示している。

「法律や制度の上」については、男性の半数近くが「男女平等である」と回答しているが、女性では「どちらかといえば男性優遇」が上回っている。男性のほとんどの年齢で40～60%が「男女平等である」と回答しているが、女性のほとんどの年齢で30～40%が「どちらかといえば男性優遇」と回答している。男性の20～24歳、25～29歳、35～39歳で「どちらかといえば女性優遇」の割合が15%以上を示しているが、全体的には、男性・女性とも「どちらかといえば女性優遇」の割合は低い結果となっている。また、居住地区別では、全ての地区で「男女平等である」が概ね40%を示し、比較的高い割合となっている。「どちらかといえば女性優遇」の割合は極めて低くなっている。

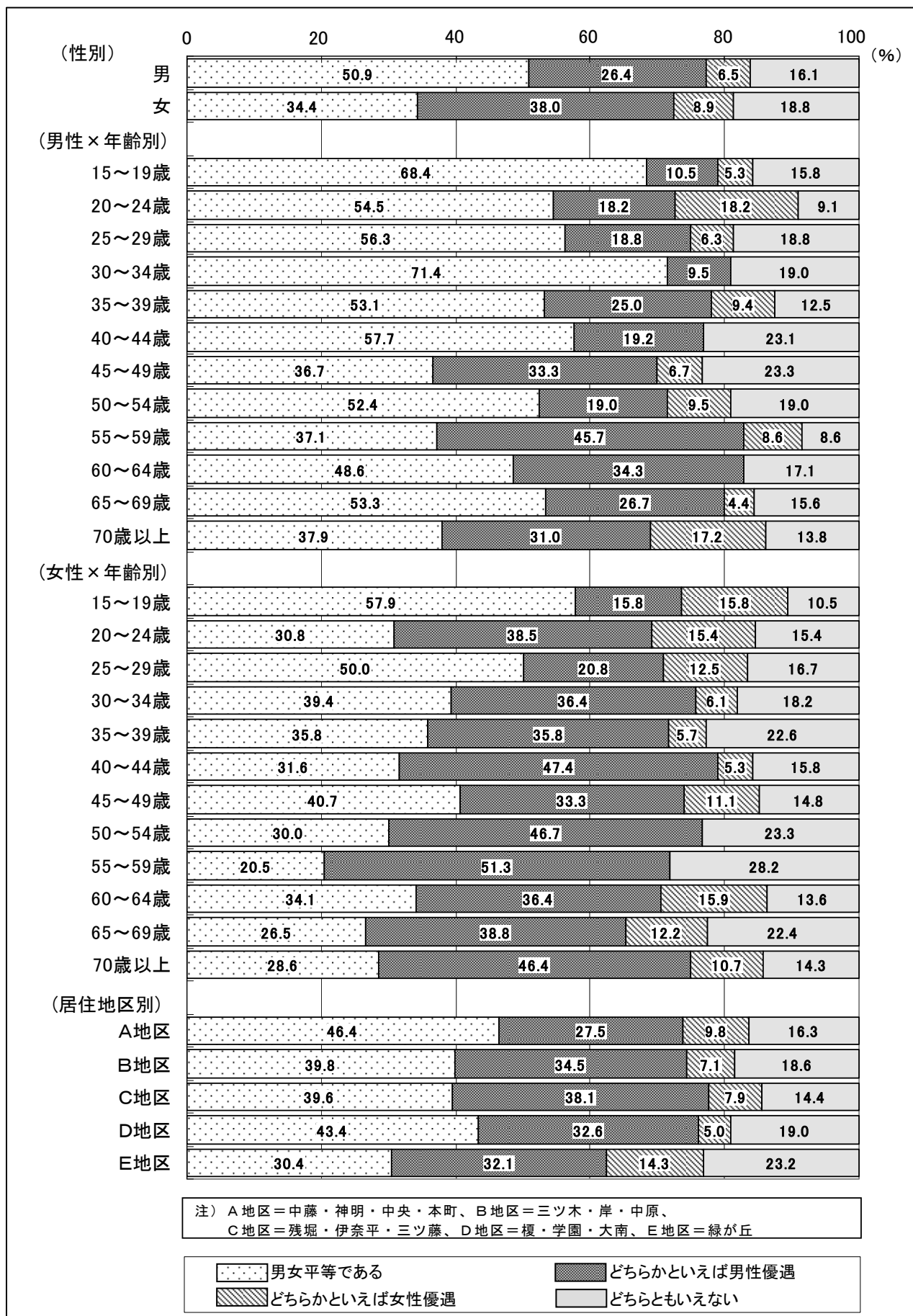
「社会通念・習慣」については、男性・女性とも50%以上が「どちらかといえば男性優遇」と回答している。性別・年齢別では、男性・女性とも、ほぼすべての年齢で「どちらかといえば男性優遇」の割合が半数以上を占めているが、男性の15～19歳、20～24歳、30～34歳、女性の20～24歳で40%以下を示している。女性の40～44歳では、約80%が「どちらかといえば男性優遇」と回答している。一方で、「どちらかといえば女性優遇」の割合は低い結果となっている。また、居住地区別では、全ての地区で「どちらかといえば男性優遇」が50%以上を示し、「どちらかといえば女性優遇」の割合は極めて低くなっている。

「総合的に社会全体」については、男性の約45%、女性の約60%が「どちらかといえば男性優遇」と回答している。性別・年齢別では、男性・女性とも、ほぼすべての年齢層で「どちらかといえば男性優遇」が40%以上を占め、高い割合を示しているが、男性の15～19歳、20～24歳で30%以下を示している。「どちらかといえば女性優遇」の割合は極めて低くなっている。また、居住地区別では、全ての地区で「どちらかといえば男性優遇」が概ね50%以上を示し、「どちらかといえば女性優遇」の割合は極めて低くなっている。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

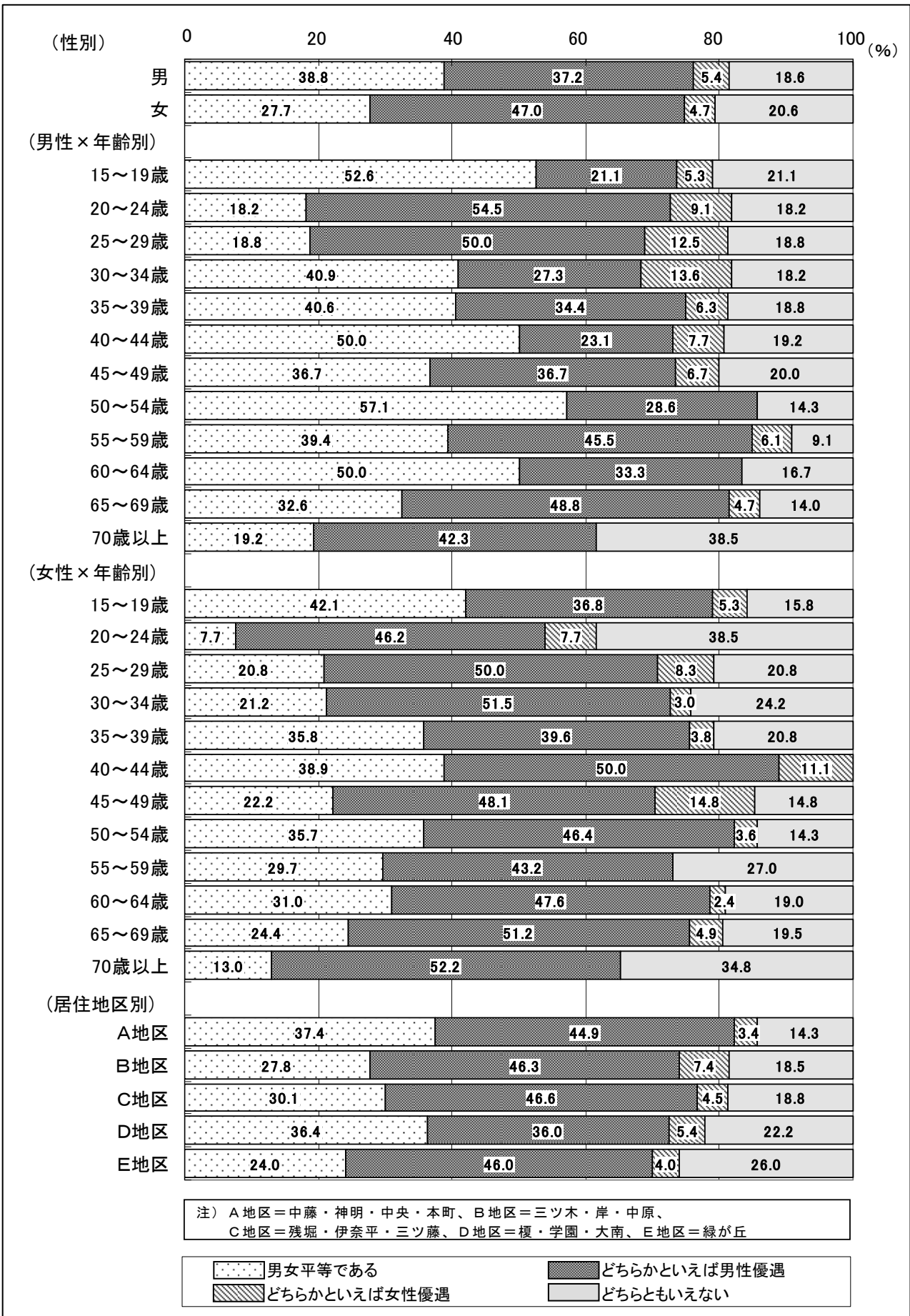
■性別／性別・年齢別／居住地区別

□家庭生活

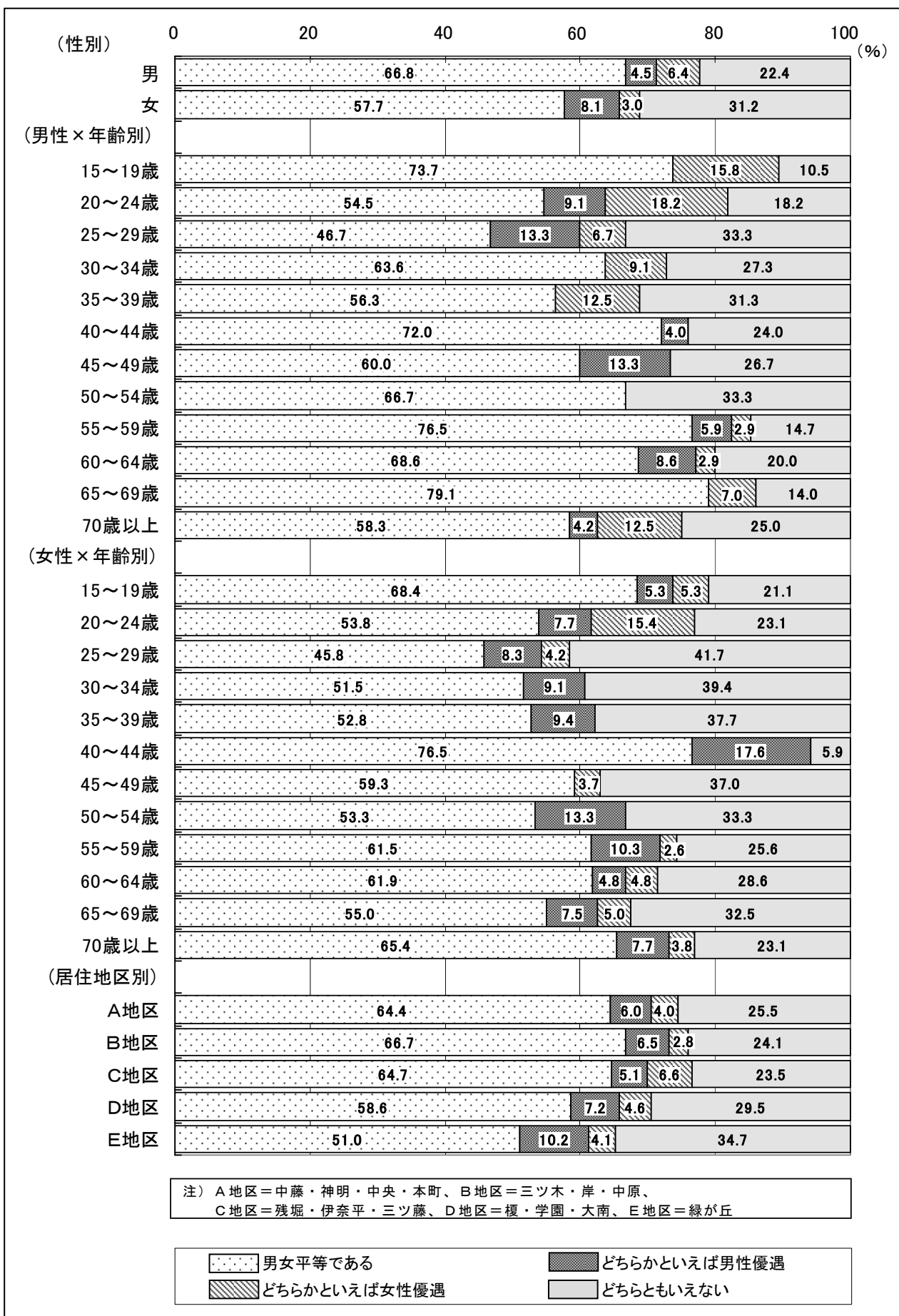




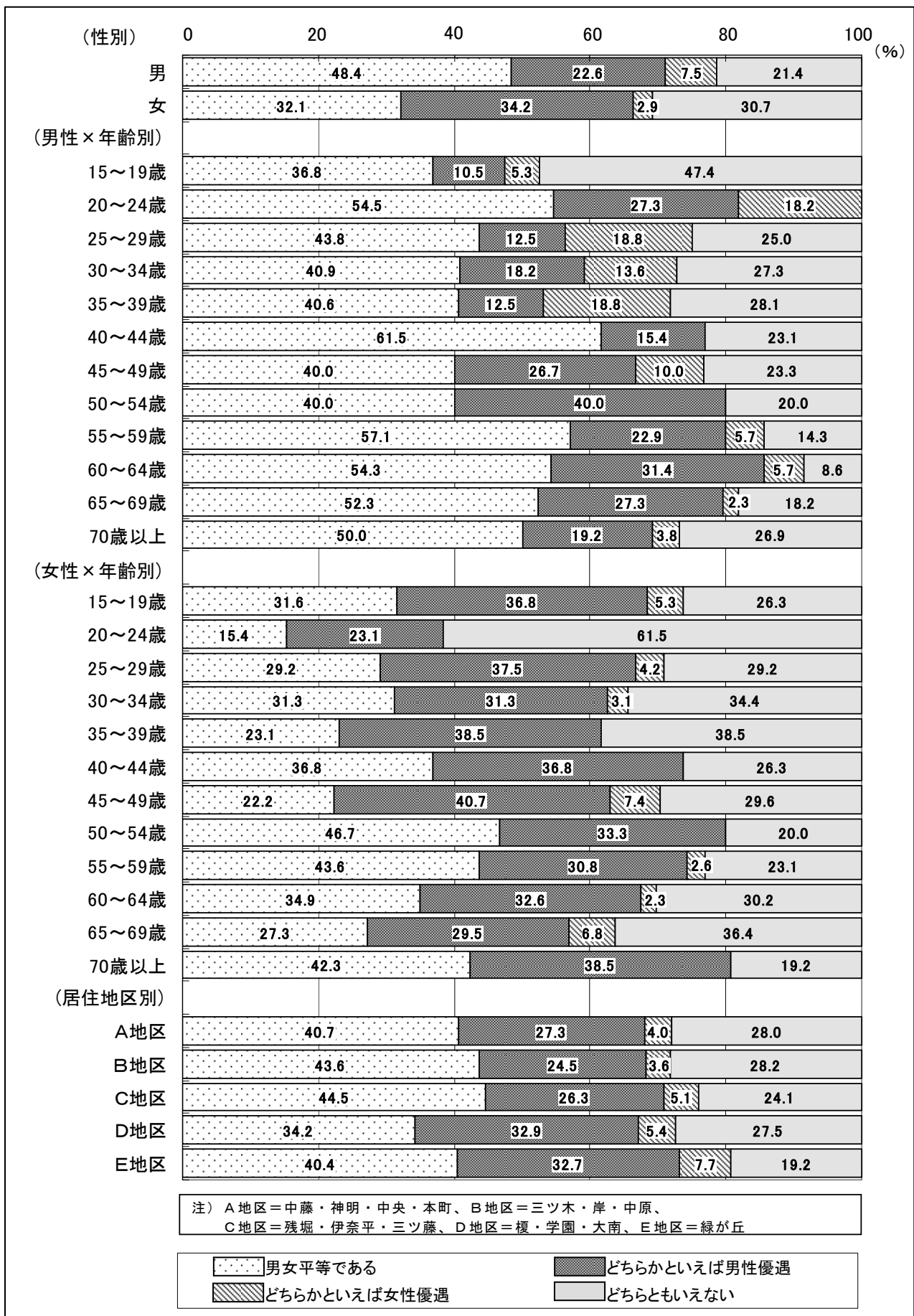
□職場（環境）



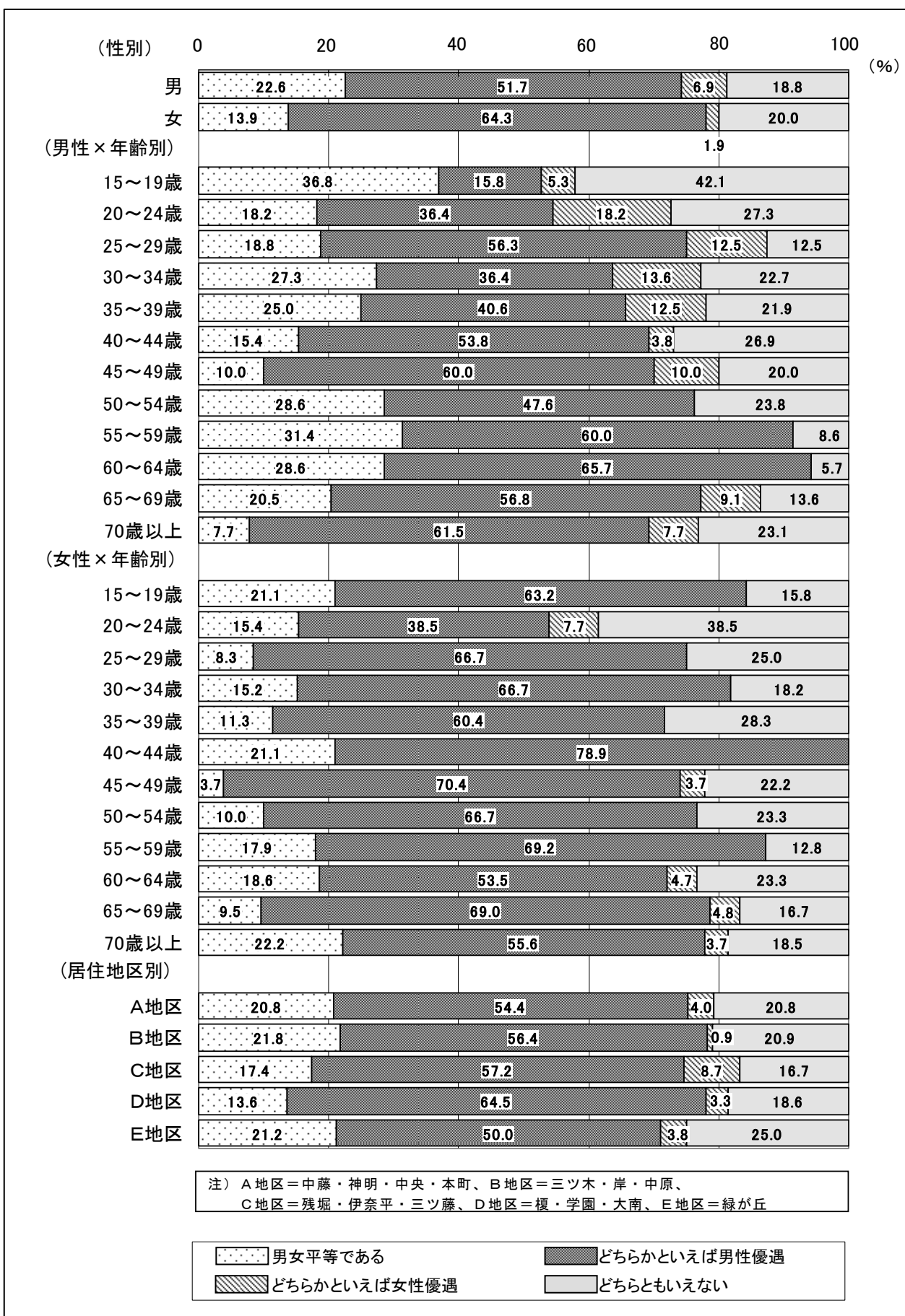
□学校教育



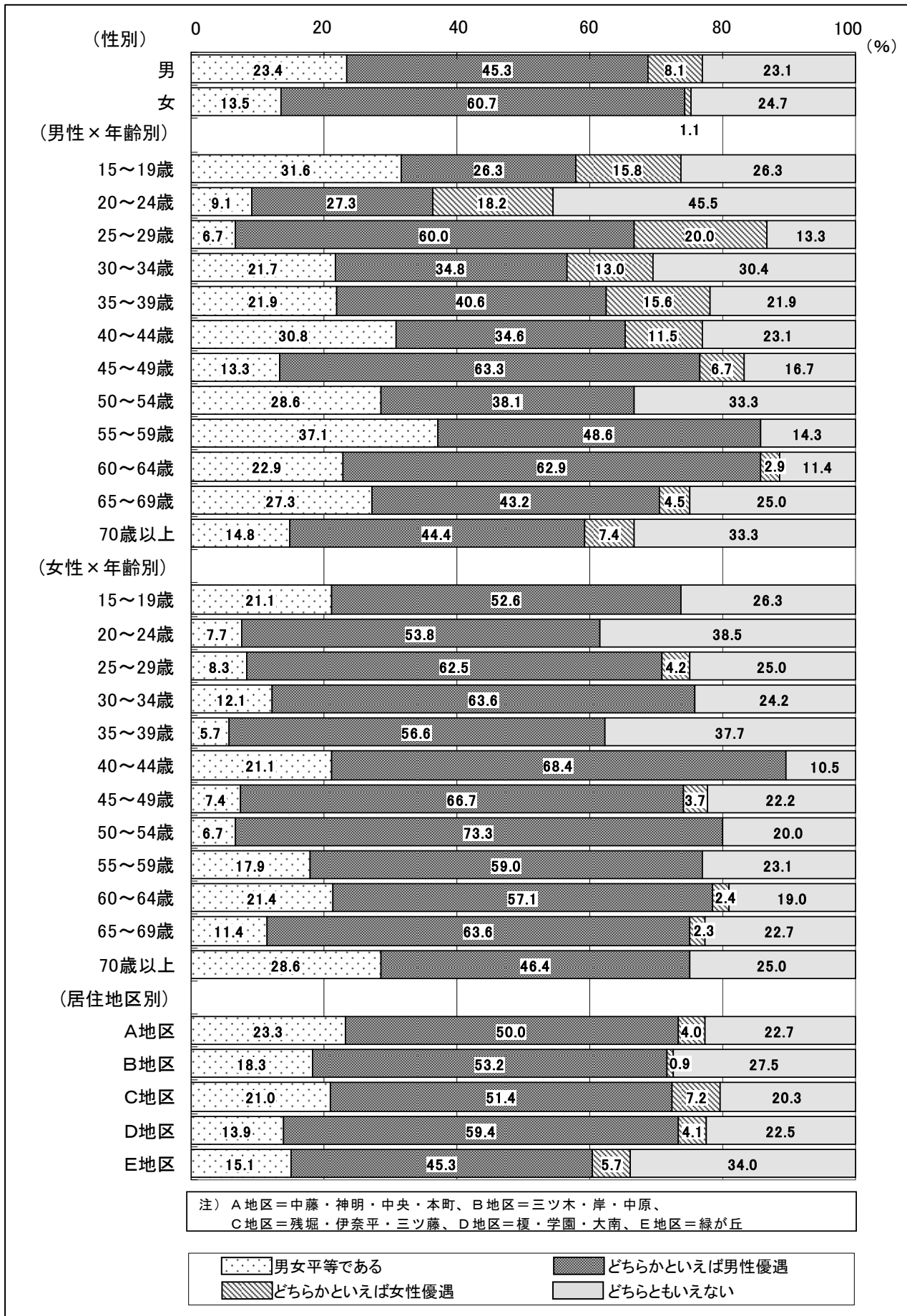
□法律や制度の上



□社会通念・習慣

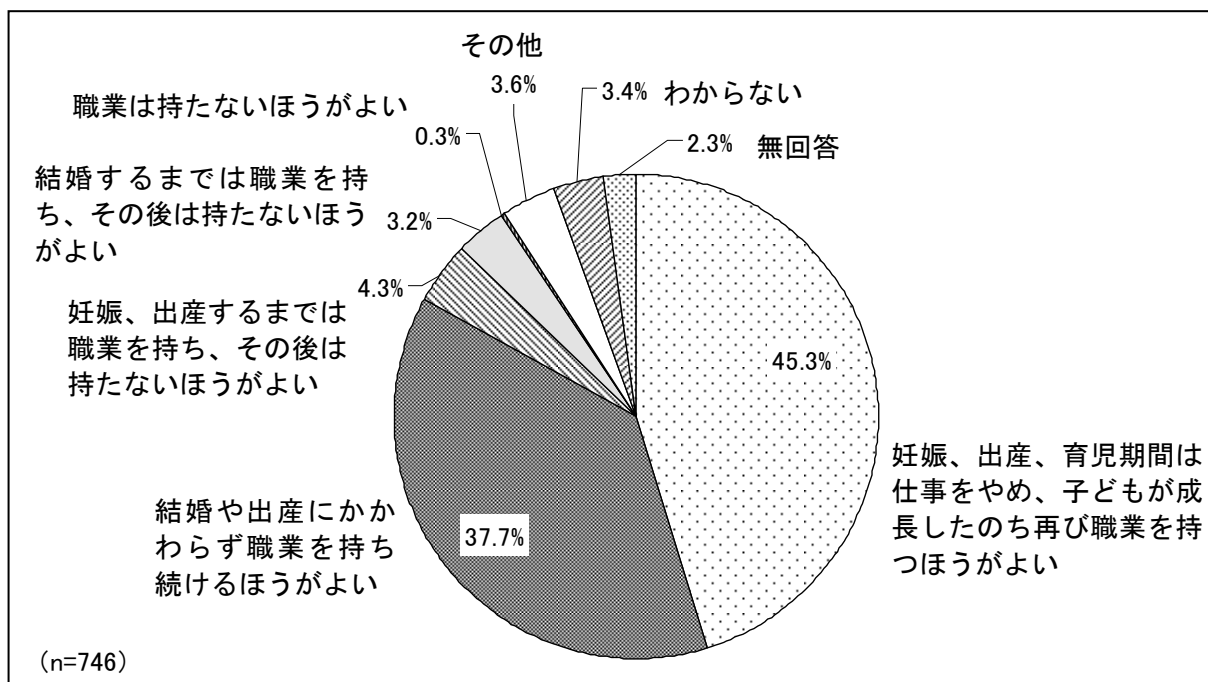


□総合的に社会全体



問32 女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。

◆女性が職業を持つことについて：「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」が45%



女性が職業を持つことについて、「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」が45.3%、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」が37.7%となっている。

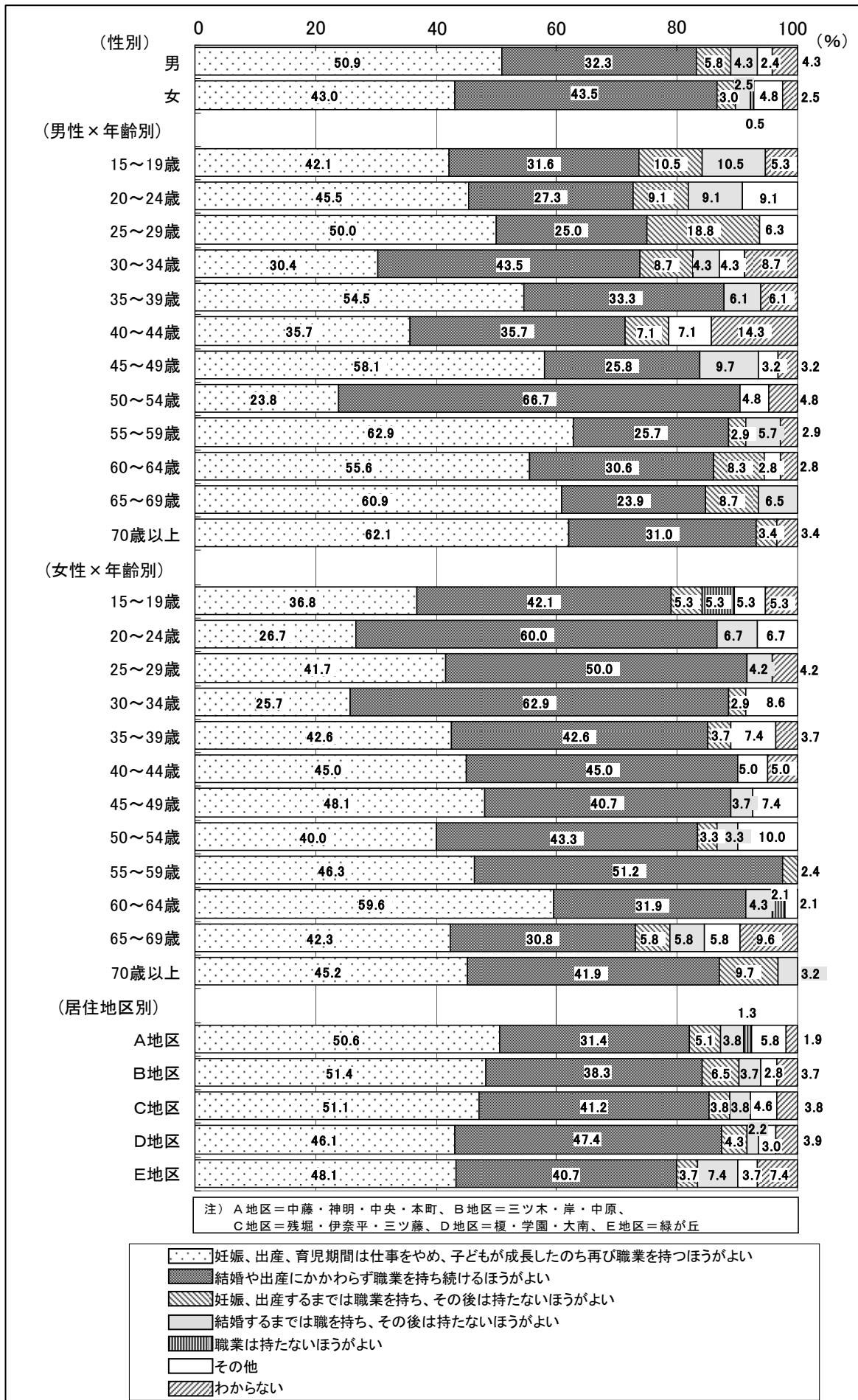
性別で見ると、「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」の割合は男性が女性を約8%上回り、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」の割合は女性が男性を約11%上回っている。

男性では、50～54歳で「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」が65%以上を示しているが、その他の年齢では「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」が概ね40～60%を占めている。

一方で、女性の20～24歳、25～29歳、30～34歳、55～59歳では、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」で50%以上を示しており、女性の35～39歳、40～44歳、45～49歳、50～54歳では、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」と「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」の割合はほぼ同等である。また、女性の60～64歳、65～69歳では、「妊娠、出産、育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したのち再び職業を持つほうがよい」の割合が高くなっている。

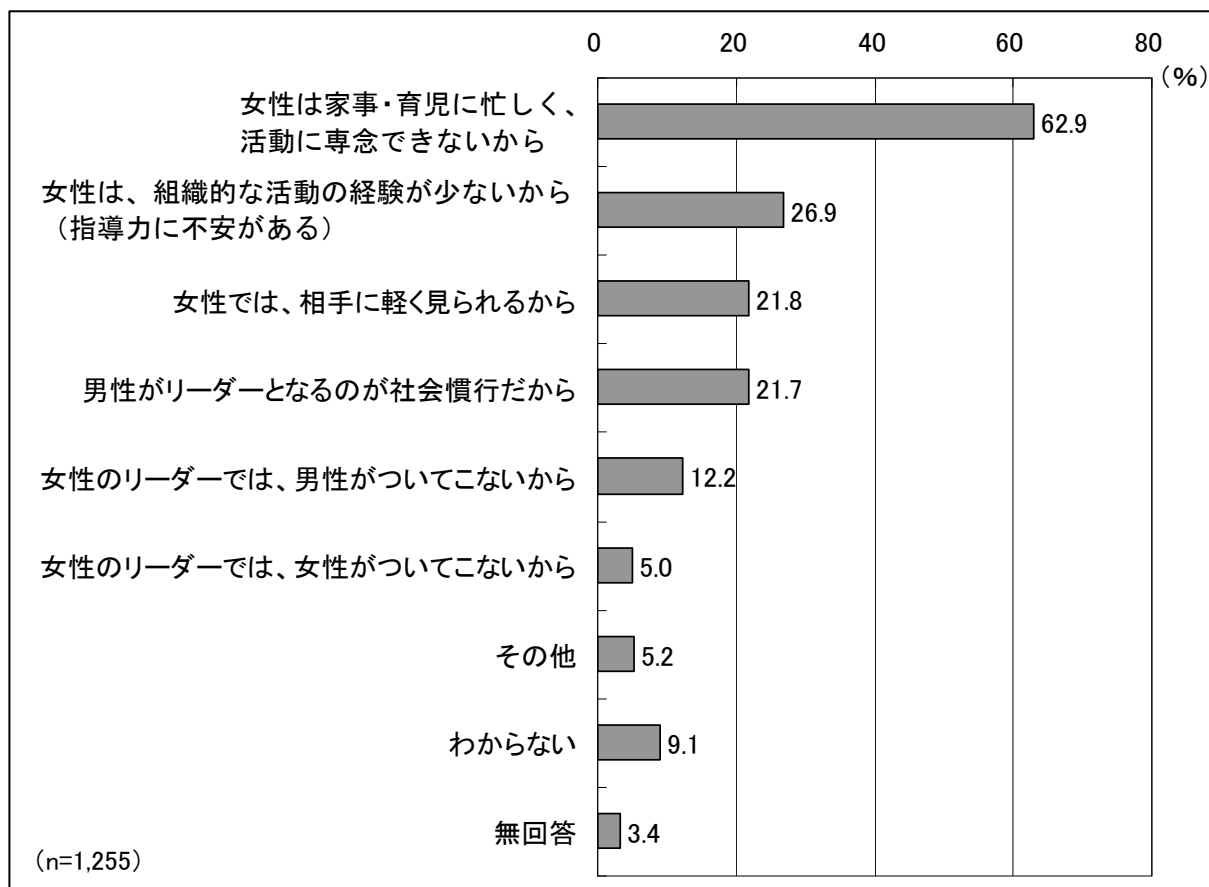
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住地区別



問33 男女共同参画社会では、職場、地域などあらゆる分野にも女性の参画が不可欠ですが、女性リーダーが少ない原因として考えられるのは何だと思えますか。(2つまで回答)

◆女性リーダーが少ない原因:「女性は家事・育児に忙しく、活動に専念できないから」が63%



女性リーダーが少ない原因として、「女性は家事・育児に忙しく、活動に専念できないから」が62.9%と最も多く、次いで「女性は、組織的な活動の経験が少ないから (指導力に不安がある)」が26.9%となっている。



「女性は家事・育児に忙しく、活動に専念できないから」については、女性が男性を約10%上回り、男性の15～19歳、40～44歳を除き、男性・女性とも各年齢で50%以上の割合を示している。特に、男性の35～39歳、女性の25～29歳、45～49歳で75%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね55～65%となっており、高い割合を示している。

「女性は、組織的な活動の経験が少ないから（指導力に不安がある）」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の60～64歳で45%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね20～30%となっている。

「女性では、相手に軽く見られるから」については、女性が男性を約5%上回り、女性の15～19歳で45%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね20%を示している。

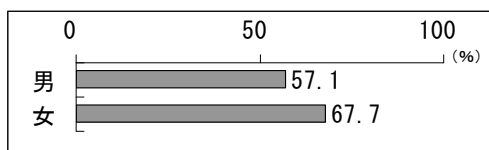
「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の45～49歳で35%以上を示している。居住地区別では、D地区が25%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

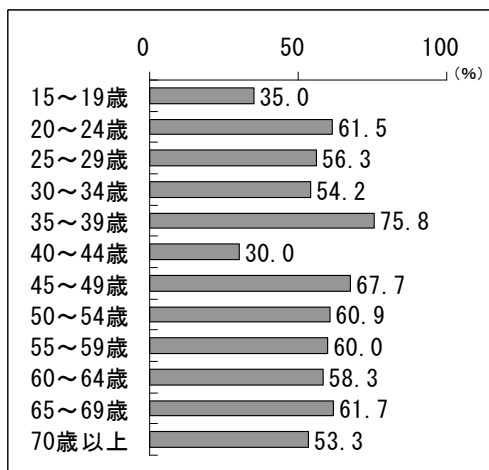
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位4項目）

□女性は家事・育児に忙しく、活動に専念できないから

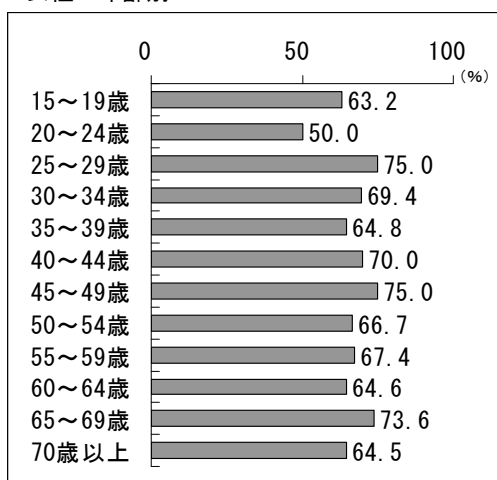
・性別



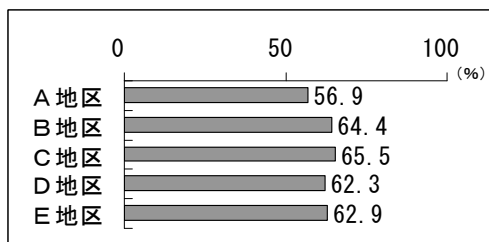
・男性×年齢別



・女性×年齢別

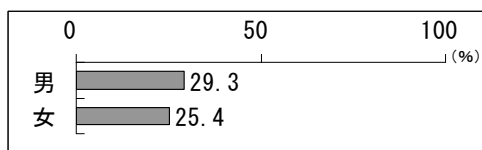


・居住地区別

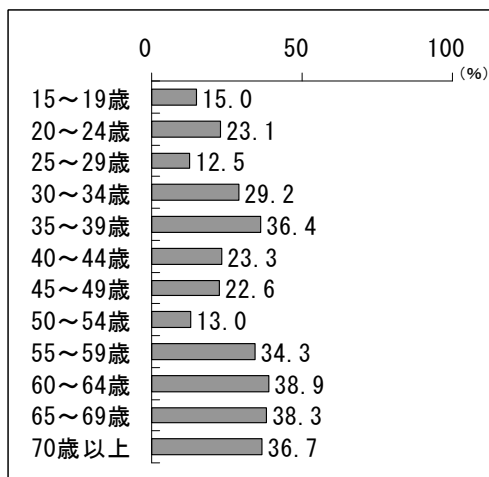


□女性は、組織的な活動の経験が少ないから（指導力に不安がある）

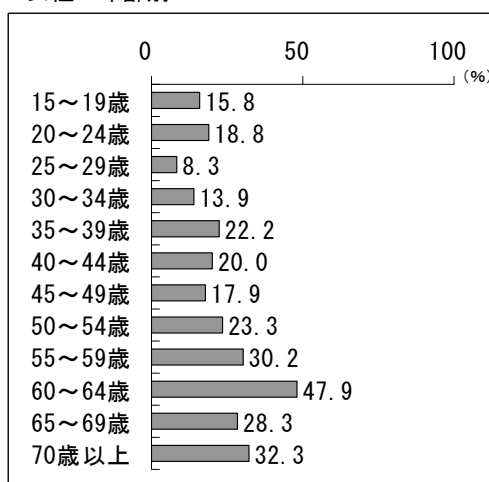
・性別



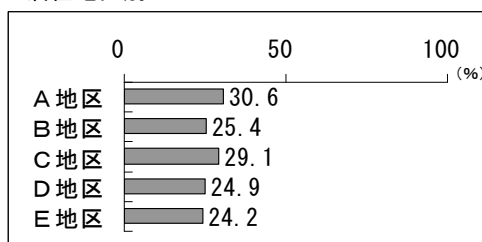
・男性×年齢別



・女性×年齢別



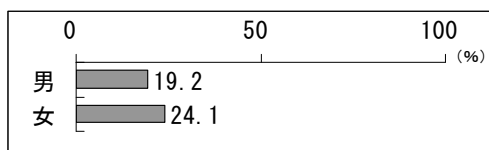
・居住地区別



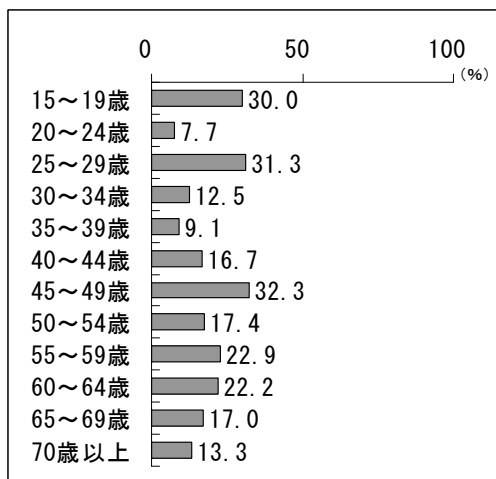
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□女性では、相手に軽く見られるから

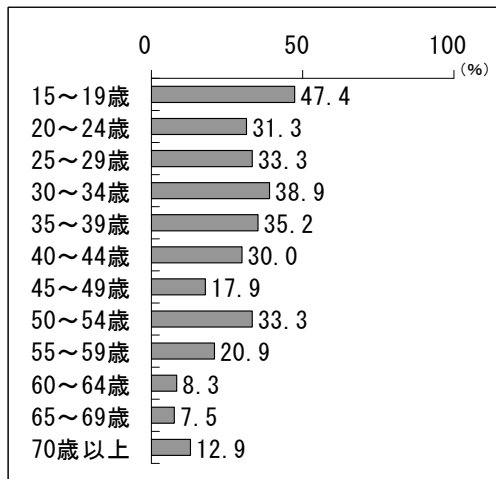
・性別



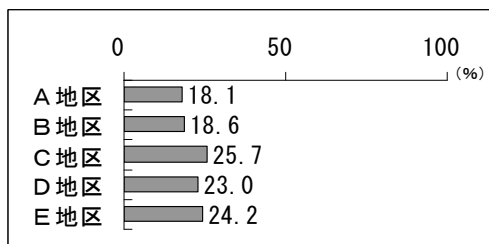
・男性×年齢別



・女性×年齢別

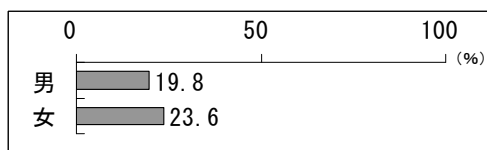


・居住地区別

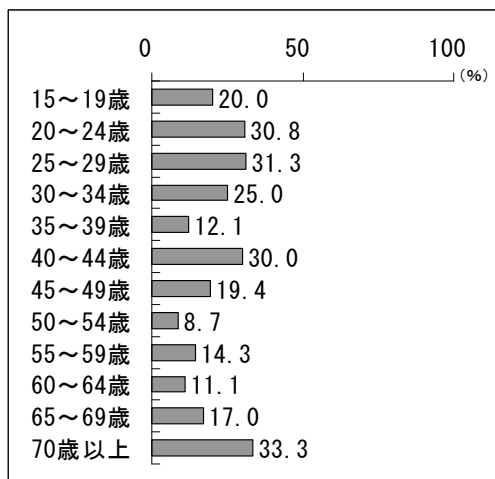


□男性がリーダーとなるのが社会慣行だから

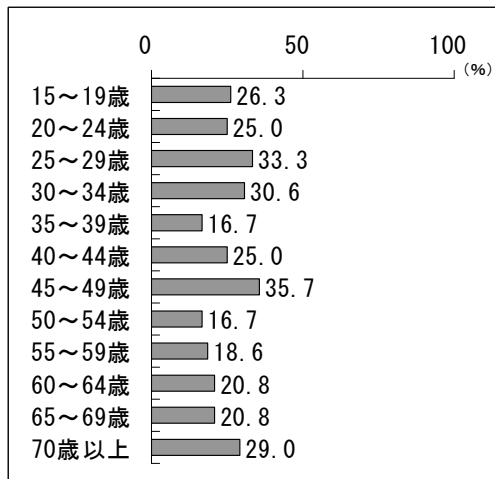
・性別



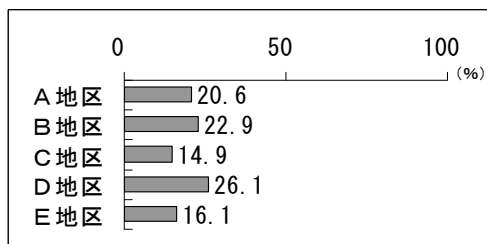
・男性×年齢別



・女性×年齢別



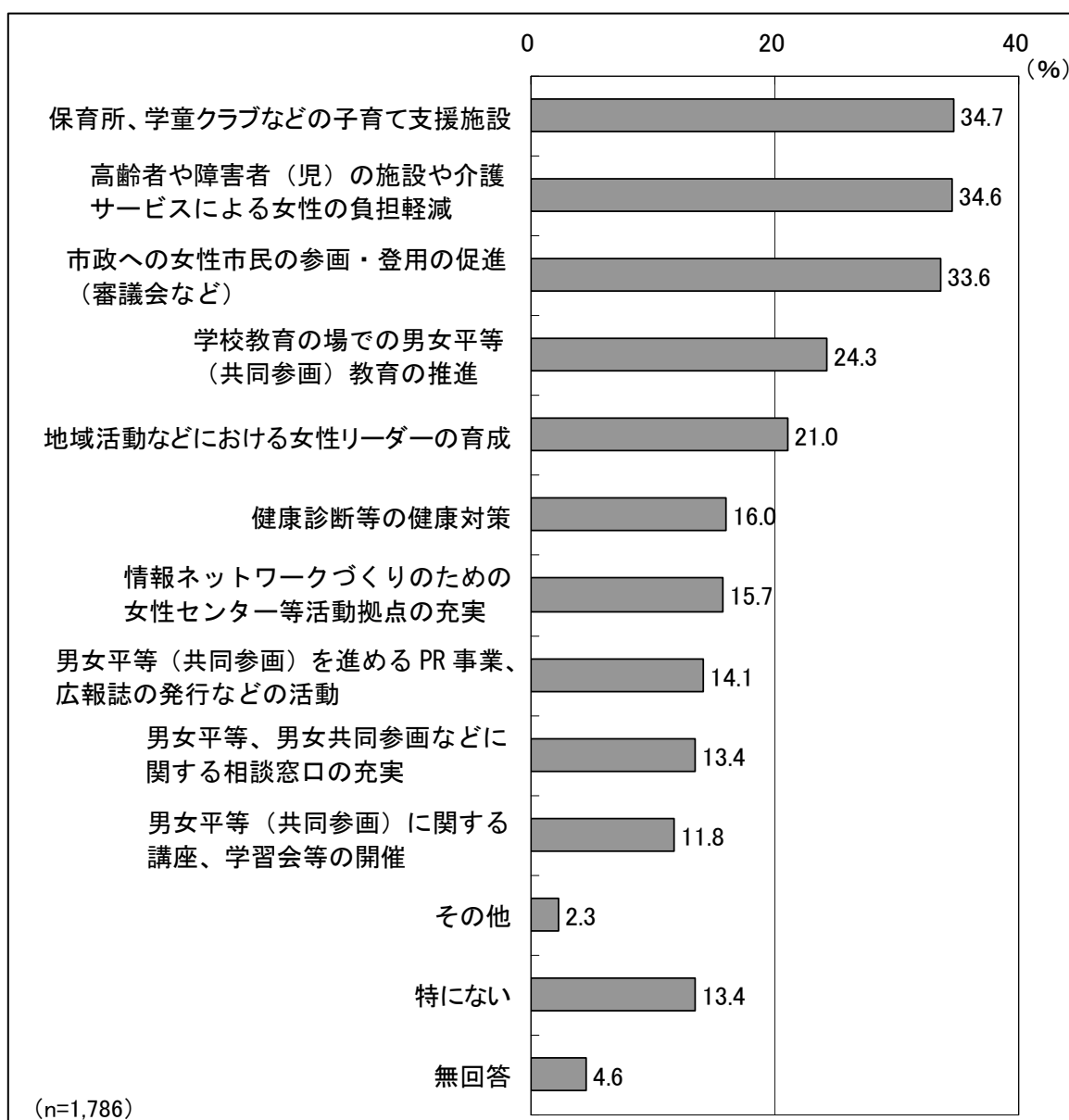
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

問34 「男女共同参画社会」とは、性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性や能力が十分に発揮でき、男女がともに支え合う社会のことです。男女共同参画社会の実現に向けて、あなたが市に対して特に力を入れて欲しいと思う施策は何ですか。（3つまで回答）

◆男女共同参画社会の実現に向けた施策：「保育所、学童クラブなどの子育て支援施設」、「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスによる女性の負担軽減」が35%、「市政への女性市民の参画・登用の促進（審議会など）」が34%



男女共同参画社会の実現に向けた施策として、「保育所、学童クラブなどの子育て支援施設」、「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスによる女性の負担軽減」、「市政への女性市民の参画・登用の促進（審議会など）」がそれぞれ30%を超え、比較的高い割合となっており、次いで、「学校教育の場での男女平等（共同参画）教育の推進」が24.3%、「地域活動などにおける女性リーダーの育成」が21.0%となっている。

「保育所、学童クラブなどの子育て支援施設」については、女性が男性を約8%上回り、男性の35～39歳、女性の25～29歳、30～34歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で、概ね35%を示している。

「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスによる女性の負担軽減」については、男性が女性を7%上回り、女性の45～49歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も概ね30～40%となっている。

「市政への女性市民の参画・登用の促進（審議会など）」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳、70歳以上、女性の40～44歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、D地区で35%以上を示している。

「学校教育の場での男女平等（共同参画）教育の推進」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の15～19歳、30～34歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で、概ね25%を示している。

「地域活動などにおける女性リーダーの育成」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の60～64歳、65～69歳、女性の15～19歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も、概ね20～25%を示している。

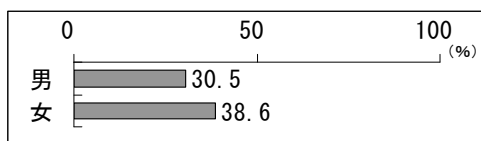
「健康診断等の健康対策」については、男性が女性を約7%上回り、男性の20～24歳、40～44歳で30%以上を示している。居住地区別ではいずれの地区も10～20%を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、 C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘
--

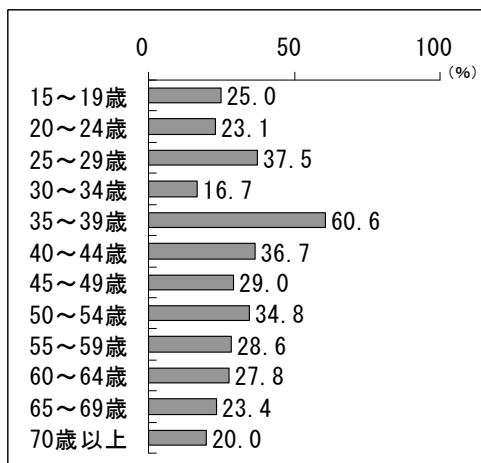
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□保育所、学童クラブなどの子育て支援施設

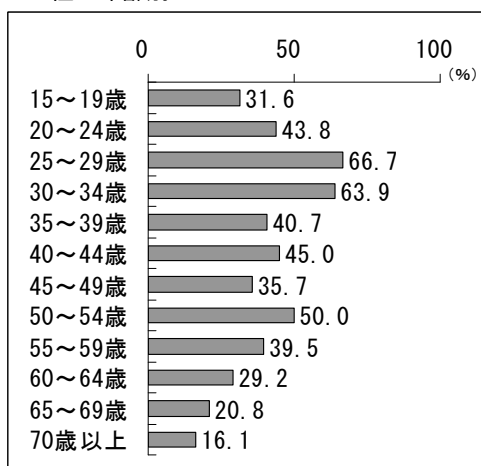
・性別



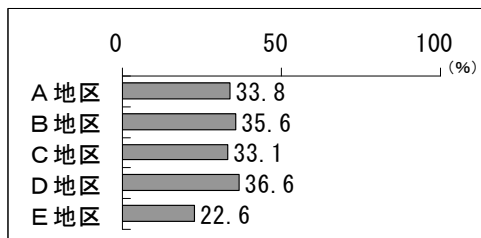
・男性×年齢別



・女性×年齢別

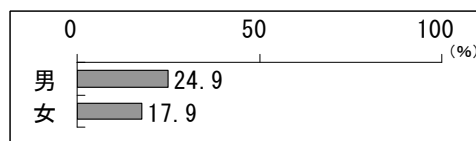


・居住地区別

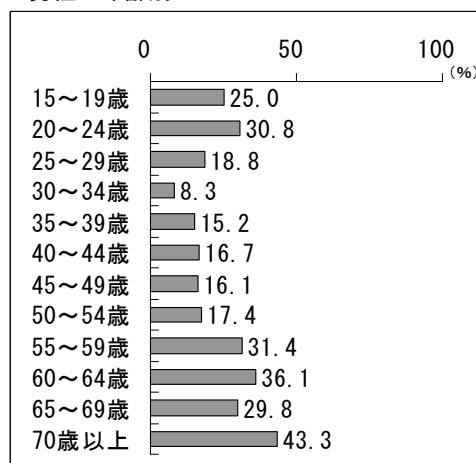


□高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスによる女性の負担軽減

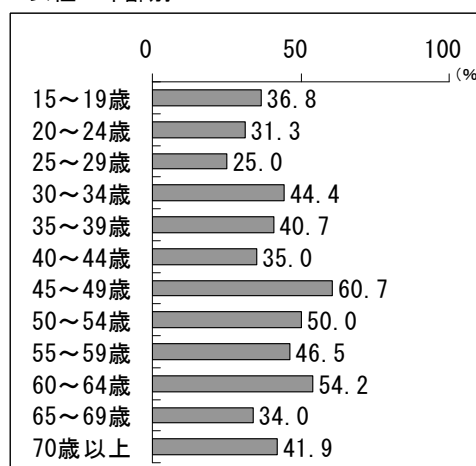
・性別



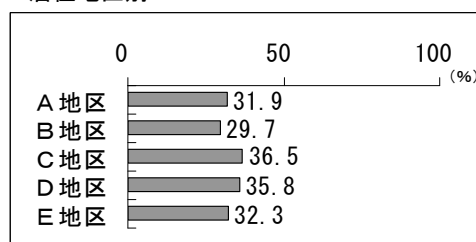
・男性×年齢別



・女性×年齢別



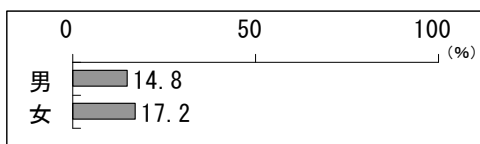
・居住地区別



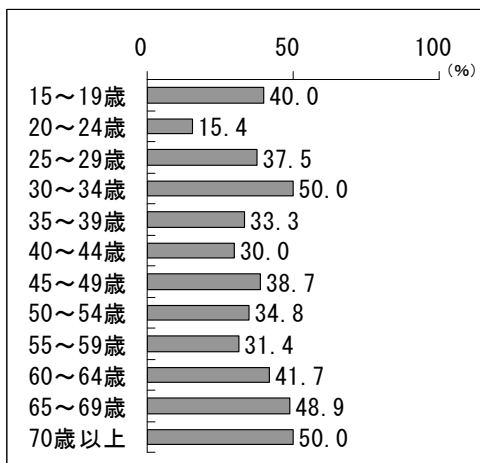
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□市政への女性市民の参画・登用の促進（審議会など）

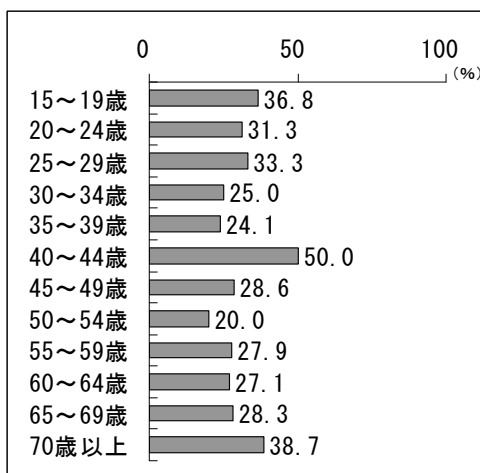
・性別



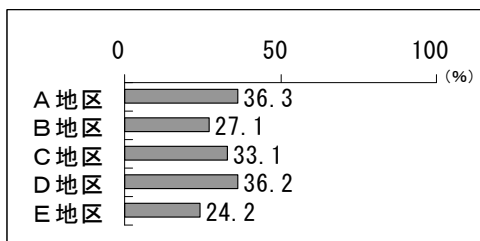
・男性×年齢別



・女性×年齢別

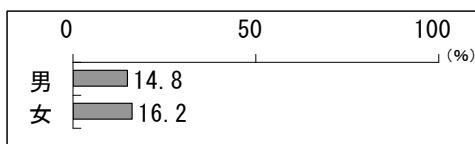


・居住地区別

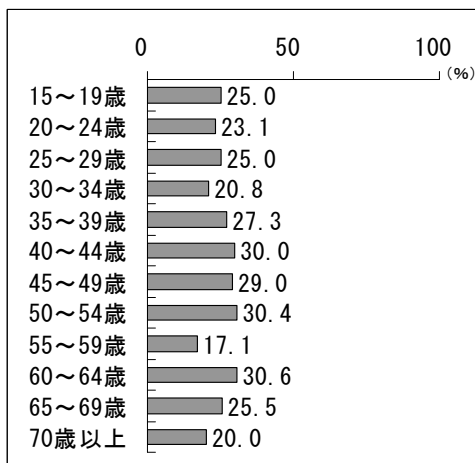


□学校教育の場での男女平等（共同参画）教育の推進

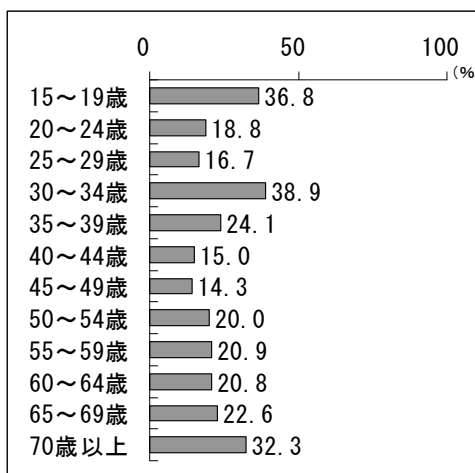
・性別



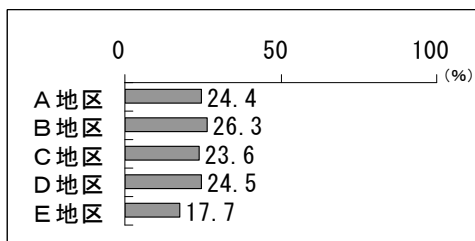
・男性×年齢別



・女性×年齢別



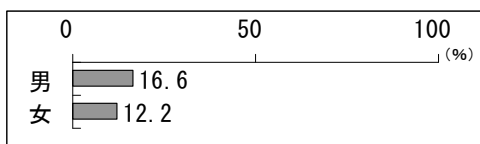
・居住地区別



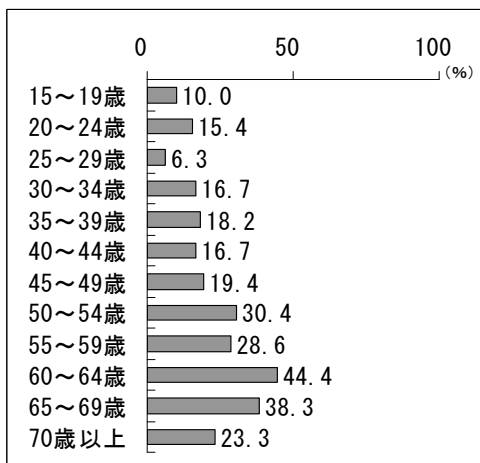
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□地域活動などにおける女性リーダーの育成

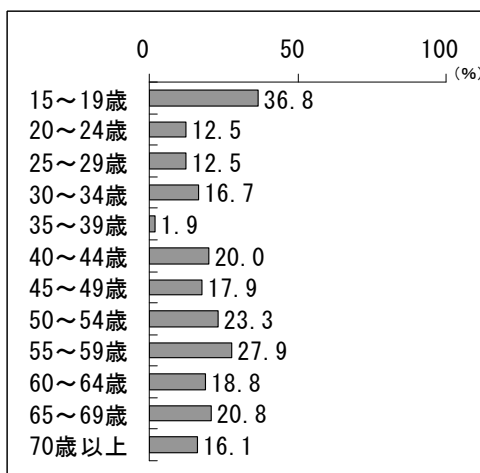
・性別



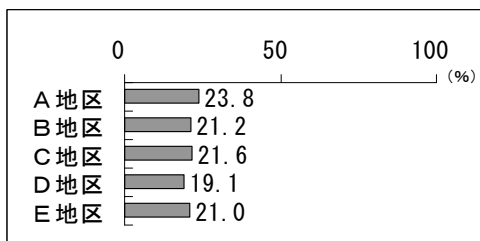
・男性×年齢別



・女性×年齢別

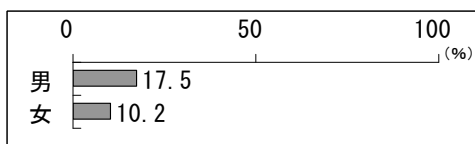


・居住地区別

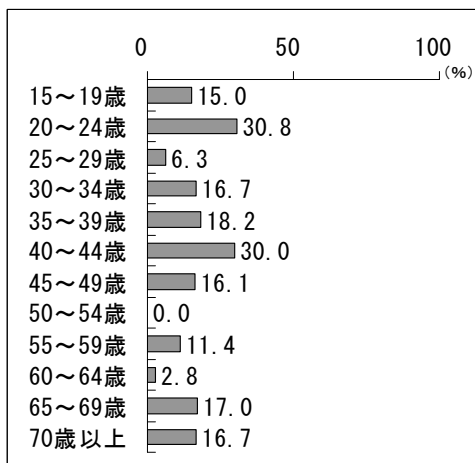


□健康診断等の健康対策

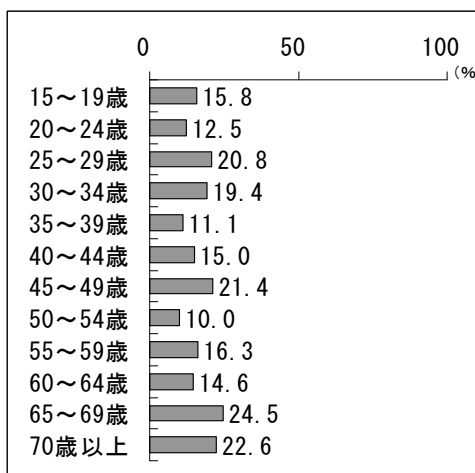
・性別



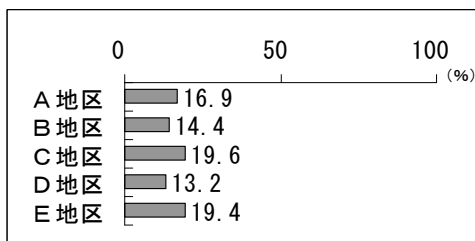
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

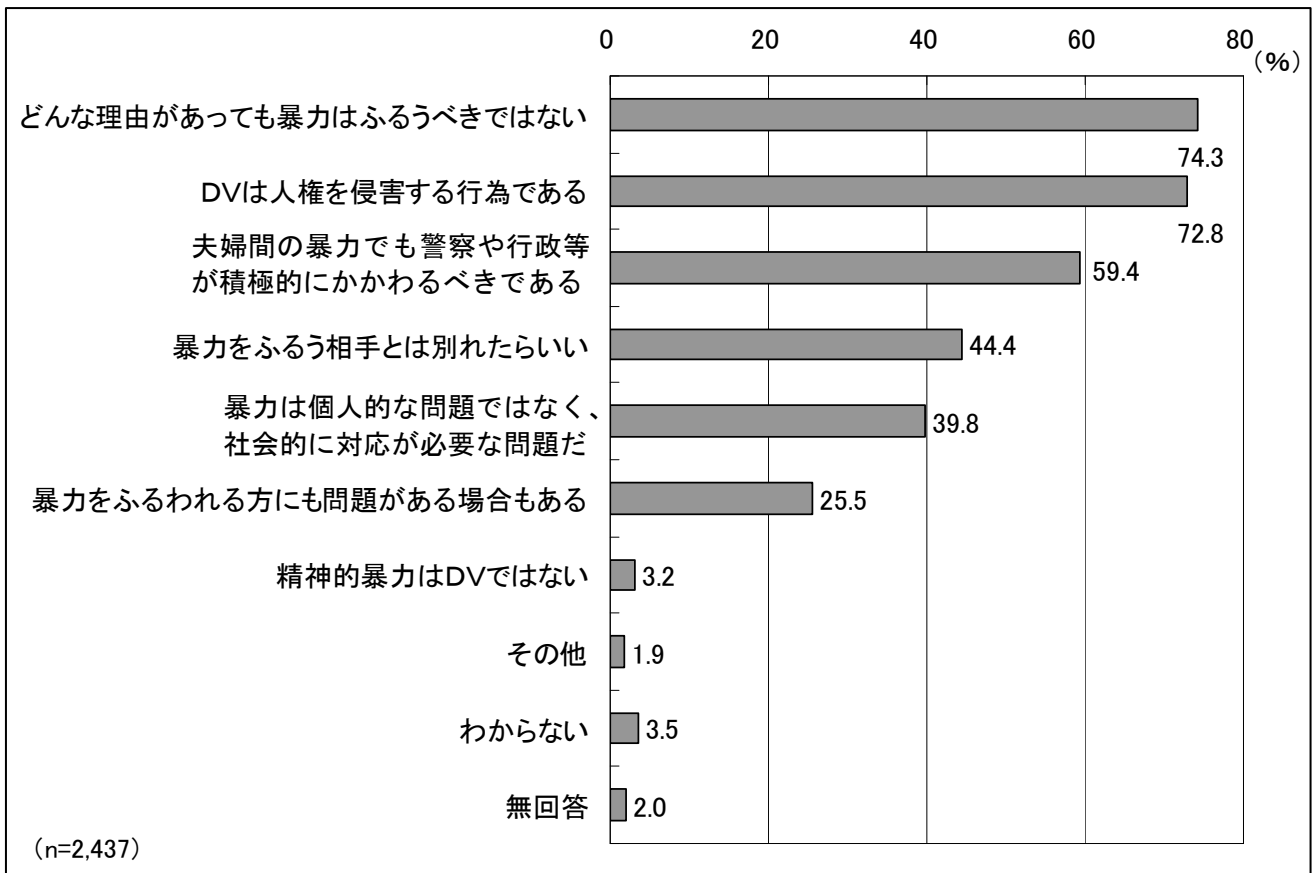


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘



## 問35 あなたは、DVについて、どう思われますか。(複数回答)

◆DVについて：「どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」が74%、「DVは人権を侵害する行為である」が73%



DVについて、「どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」が74.3%と最も高く、次いで「DVは人権を侵害する行為である」が72.8%、「夫婦間の暴力でも警察や行政等が積極的にかかわるべきである」が59.4%となっている。

「どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」については、男性・女性で大きな違いはなく、ほとんどの年齢で50%以上を示し、高い割合を占めている。特に、男性の25～29歳、女性の25～29歳、30～34歳、50～54歳で85%以上を示している。また、居住地区別でも、すべての地区で65%を超え高い割合を示している。

「DVは人権を侵害する行為である」については、女性が男性を約10%上回っている。男性・女性とも、ほとんどの年齢で50%以上を示し、高い割合を占めている。特に、女性の25～29歳、45～49歳で85%以上を示している。また、居住地区別では、すべての地区で60%を超え高い割合となっている。

「夫婦間の暴力でも警察や行政等が積極的にかかわるべきである」については、女性が男性を約12%上回っている。男性・女性とも、ほとんどの年齢で50%以上を示し、高い割合を占めている。特に、女性の25～29歳、40～44歳で80%以上を示している。また、居住地区別では、E地区を除き概ね60%を示している。

「暴力をふるう相手とは別れたらいい」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の35～39歳、女性の20～24歳、40～44歳で55%以上を示している。居住地区別では、E地区を除き40%以上を示している。

「暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対応が必要な問題だ」については、女性が男性を約12%上回り、男性の20～24歳、女性の25～29歳で60%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も35～45%を示している。

「暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の65～69歳、女性の60～64歳で40%以上を示している。居住地区別では、E地区で30%以上を示している。

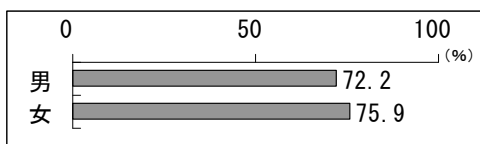
注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

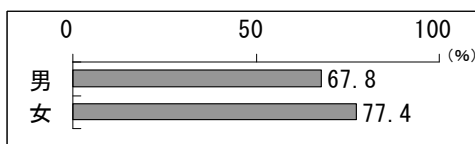
□どんな理由があっても暴力はふるうべきではない

□DVは人権を侵害する行為である

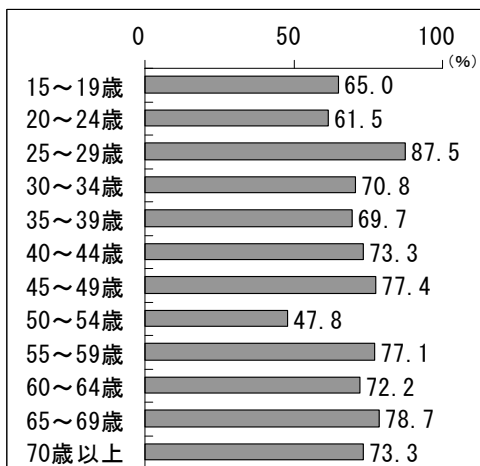
・性別



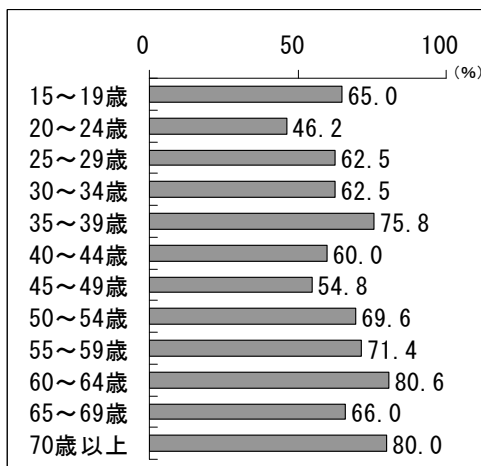
・性別



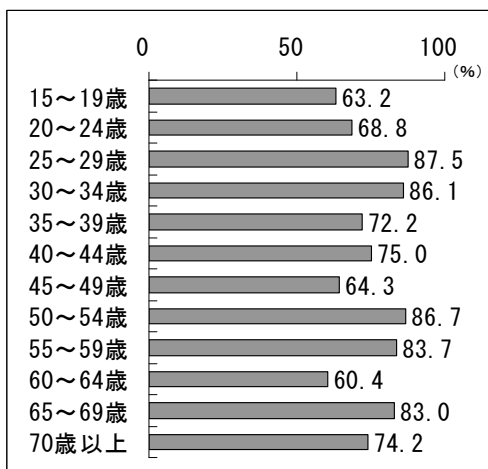
・男性×年齢別



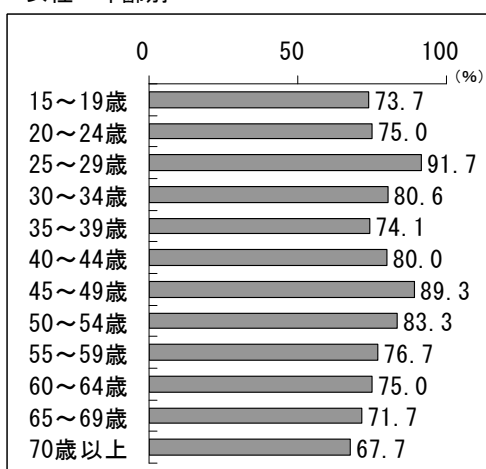
・男性×年齢別



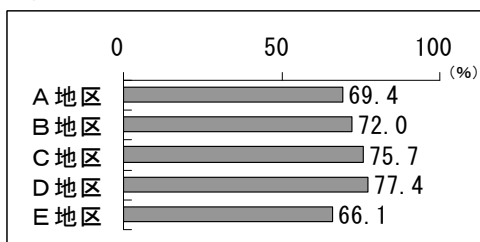
・女性×年齢別



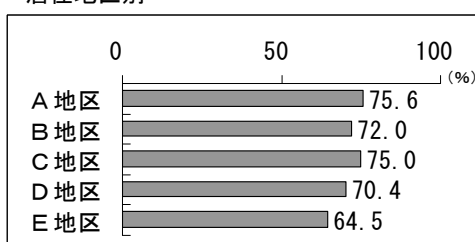
・女性×年齢別



・居住地区別



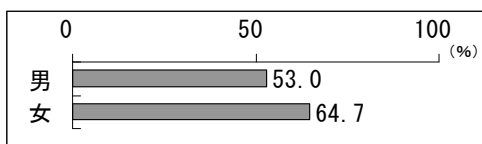
・居住地区別



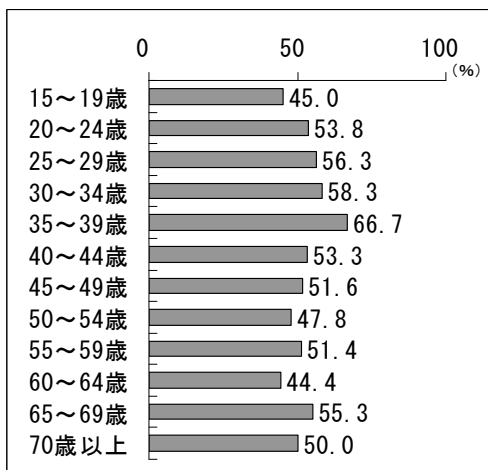
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□夫婦間の暴力でも警察や行政等が積極的にかかわるべきである

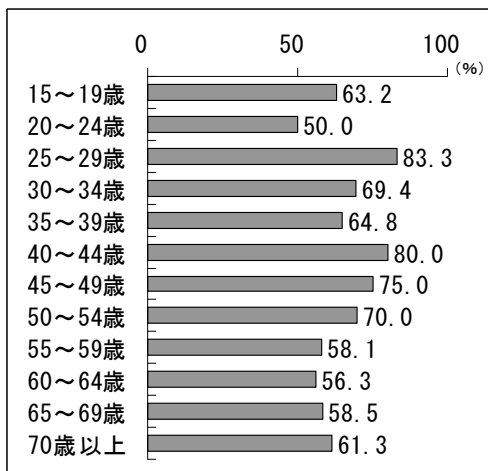
・性別



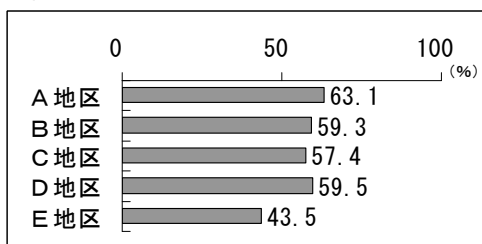
・男性×年齢別



・女性×年齢別

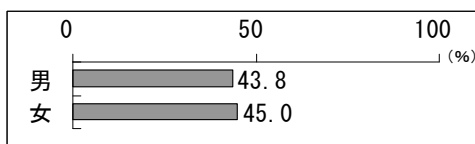


・居住地区別

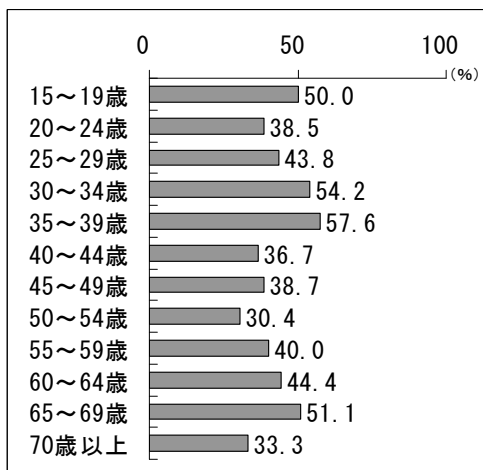


□暴力をふるう相手とは別れたらいい

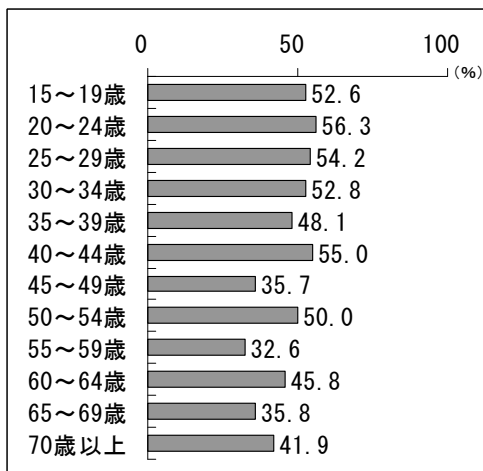
・性別



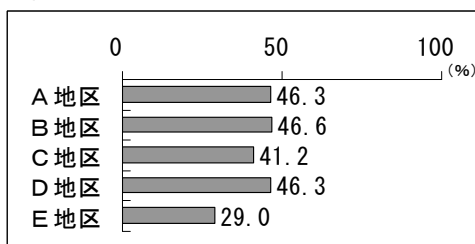
・男性×年齢別



・女性×年齢別



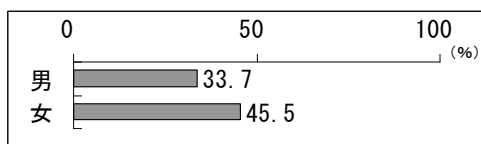
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

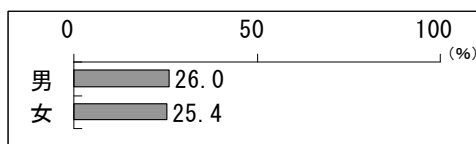
□暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対応が必要な問題だ

・性別

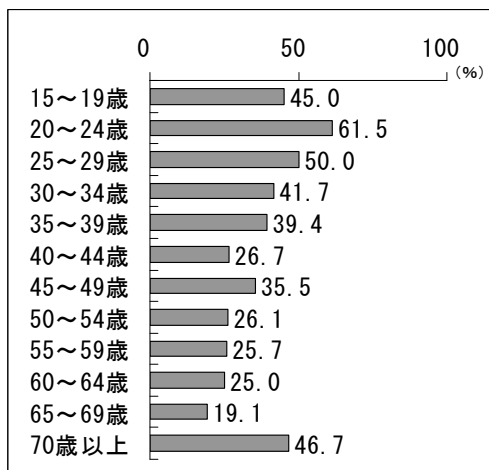


□暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある

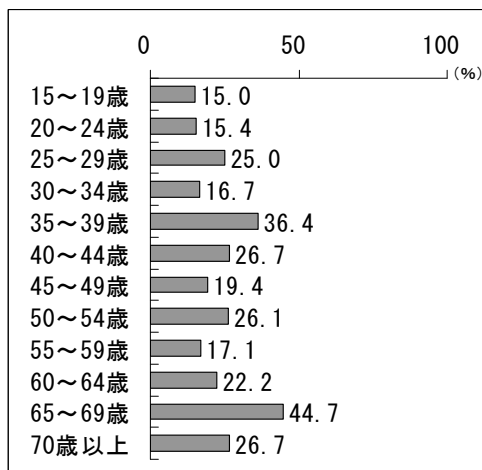
・性別



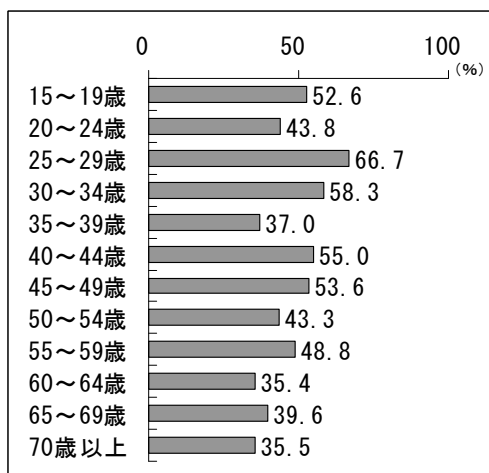
・男性×年齢別



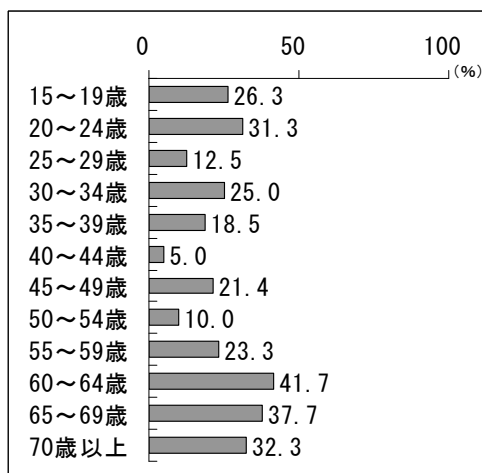
・男性×年齢別



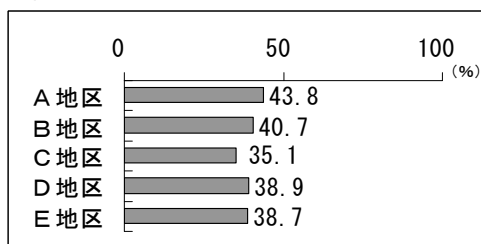
・女性×年齢別



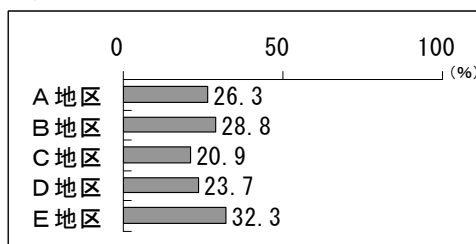
・女性×年齢別



・居住地区別



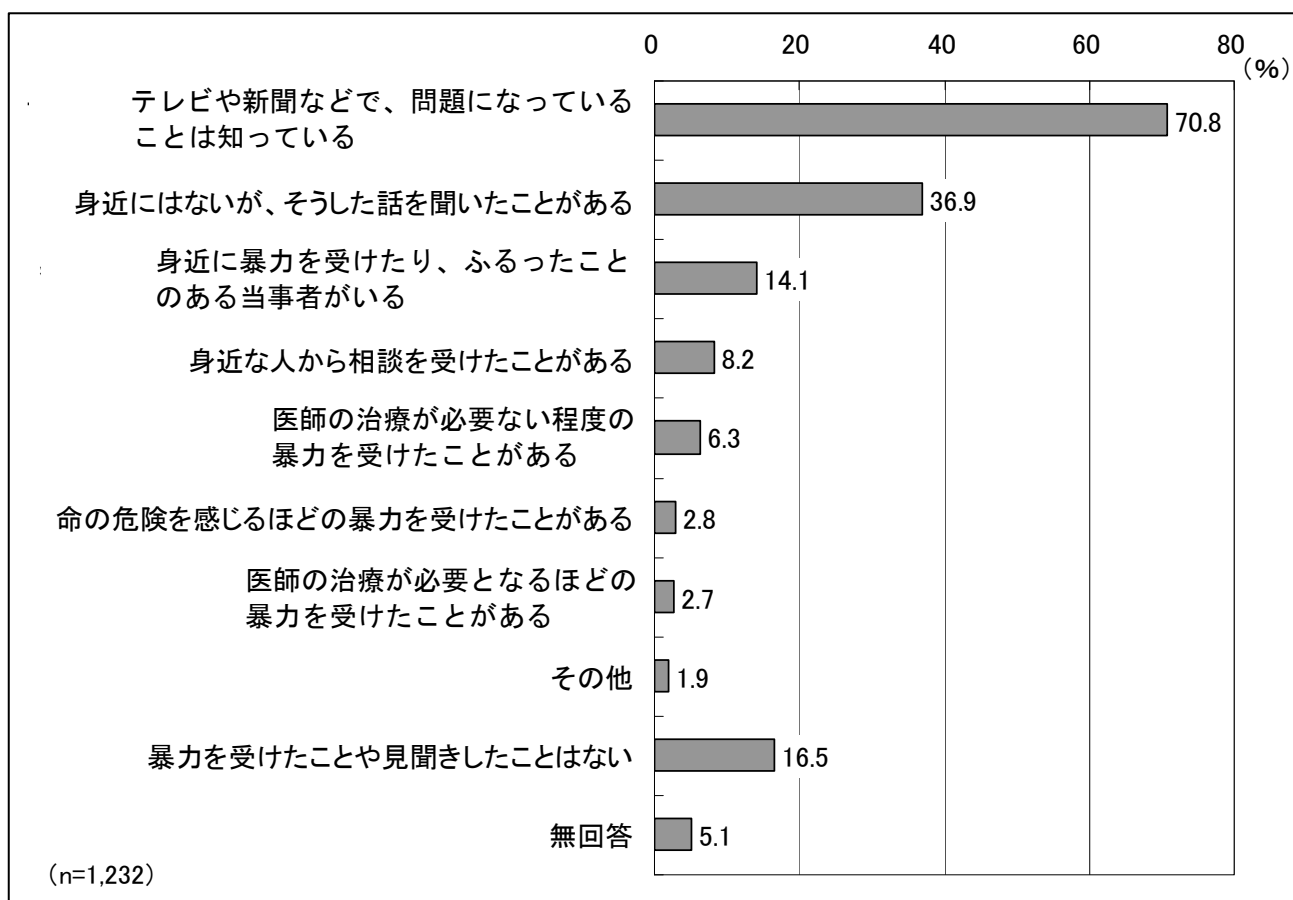
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

問36 あなたは、DVについて、経験したことや見聞きしたことがありますか。(複数回答)

◆DVについての経験・見聞：「テレビや新聞などで、問題になっていることは知っている」が71%



DVについての経験や見聞について、「テレビや新聞などで、問題になっていることは知っている」が70.8%と最も多く、次いで「身近にはないが、そうした話を聞いたことがある」が36.9%となっている。また、「命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある」、「医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある」等、実際にDVを経験したことがあるとの回答もみられた。

「テレビや新聞などで、問題になっていることは知っている」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性・女性とも各年齢で50%以上を示し、高い割合を占めている。特に、男性の55～59歳、60～64歳、女性の20～24歳、70歳以上では80%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も60%以上を示している。

「身近にはないが、そうした話を聞いたことがある」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の25～29歳、60～64歳、女性の15～19歳、20～24歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、D地区で35%以上を示している。

「身近に暴力を受けたり、ふるったことのある当事者がいる」については、女性が男性を約5%上回り、男性の15～19歳、女性の30～34歳、50～54歳で25%以上を示している。居住地区別では、B地区で20%以上を示している。

「暴力を受けたことや見聞きしたことはない」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、女性の40～44歳で30%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね15～20%を示している。

「身近な人から相談を受けたことがある」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の20～24歳で25%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね5～10%を示している。

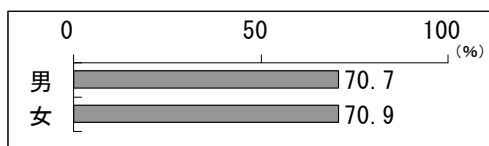
「医師の治療が必要ない程度の暴力を受けたことがある」については、女性が男性を約7%上回り、女性の30～34歳で20%以上を示している。居住地区別ではいずれの地区も概ね5～10%を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

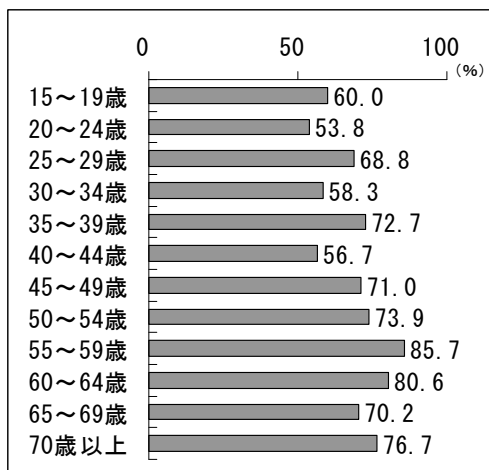
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□テレビや新聞などで、問題になっていることは知っている

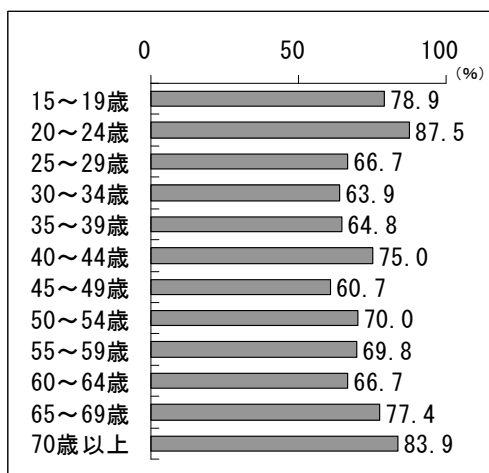
・性別



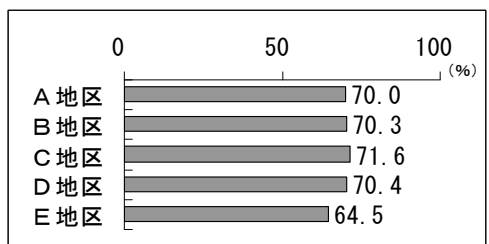
・男性×年齢別



・女性×年齢別

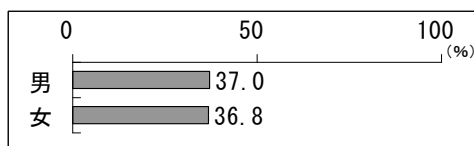


・居住地区別

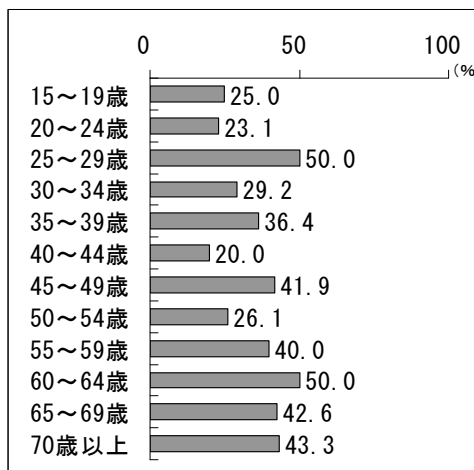


□身近にはないが、そうした話を聞いたことがある

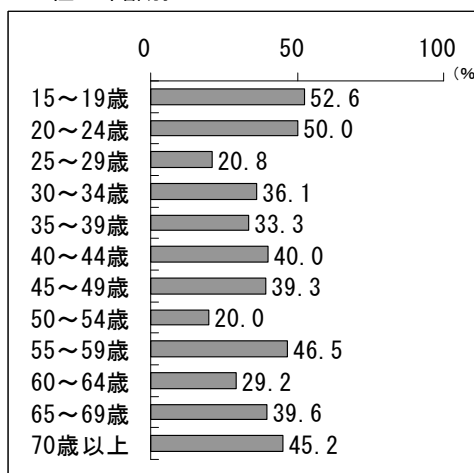
・性別



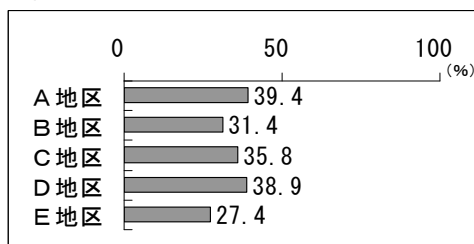
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

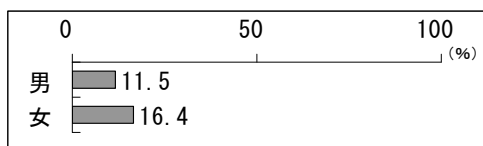


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

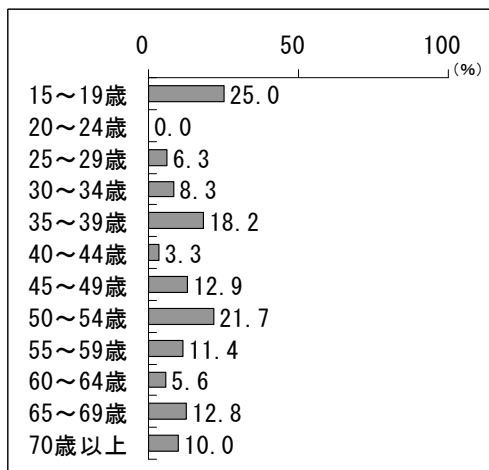


□身近に暴力を受けたり、ふるったことのある当事者がいる

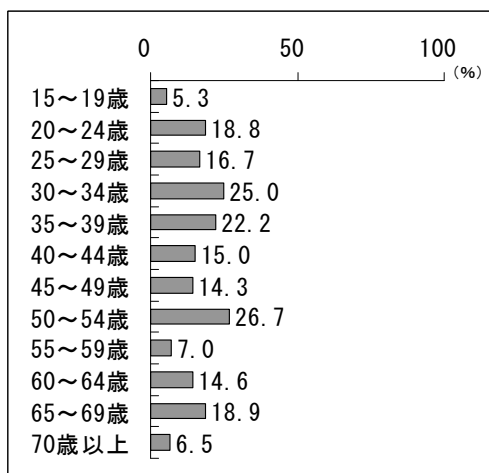
・性別



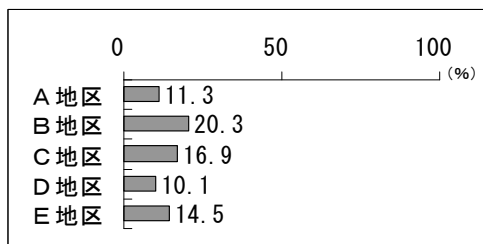
・男性×年齢別



・女性×年齢別

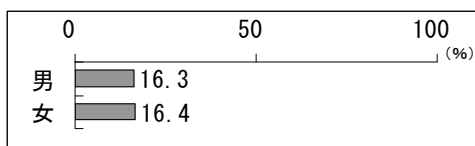


・居住地区別

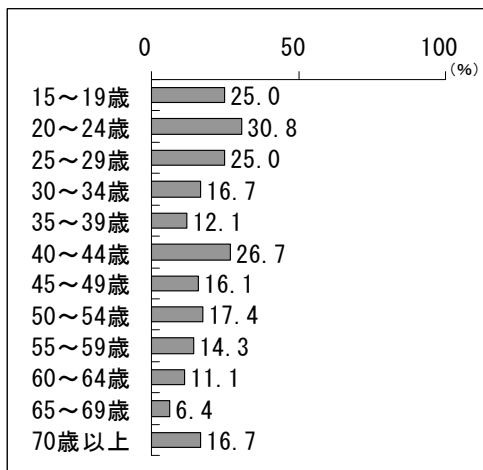


□暴力を受けたことや見聞きしたことはない

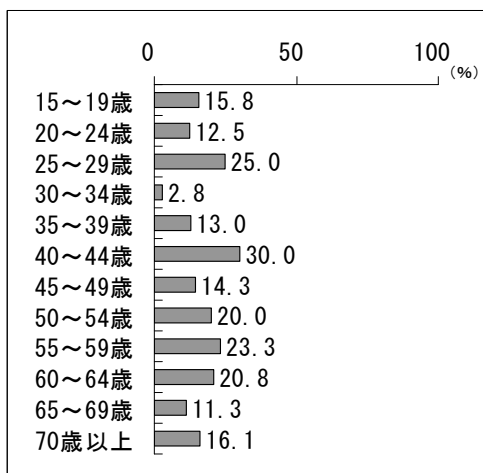
・性別



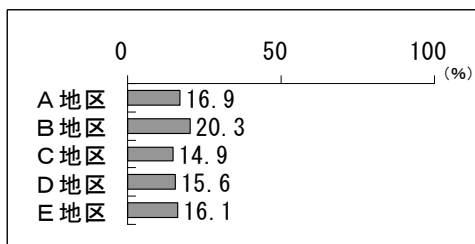
・男性×年齢別



・女性×年齢別



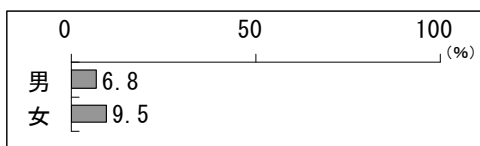
・居住地区別



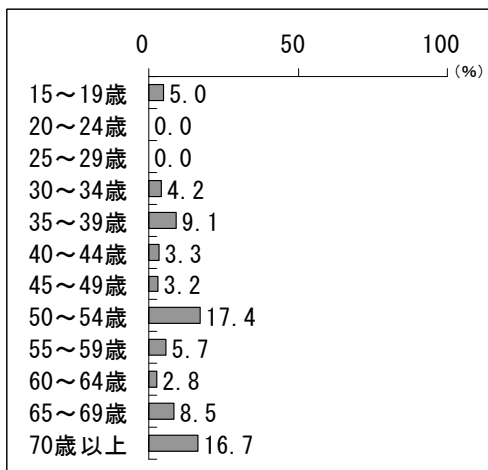
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□身近な人から相談を受けたことがある

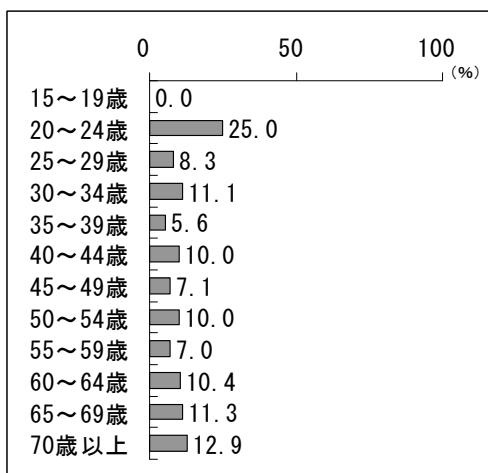
・性別



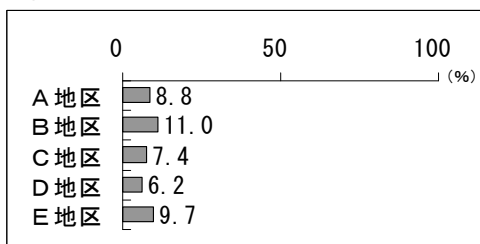
・男性×年齢別



・女性×年齢別

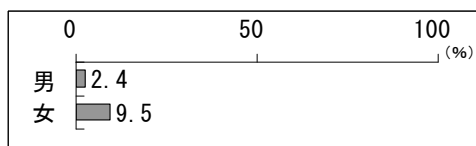


・居住地区別

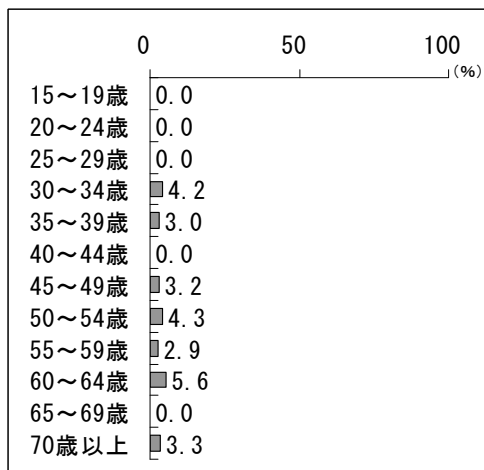


□医師の治療が必要ない程度の暴力を受けたことがある

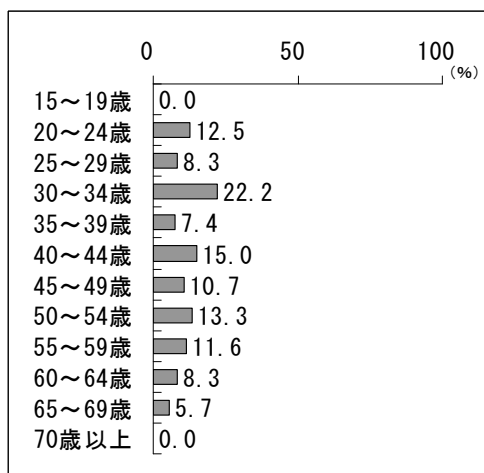
・性別



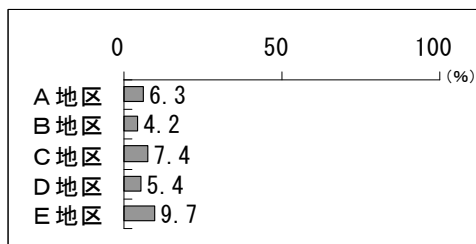
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

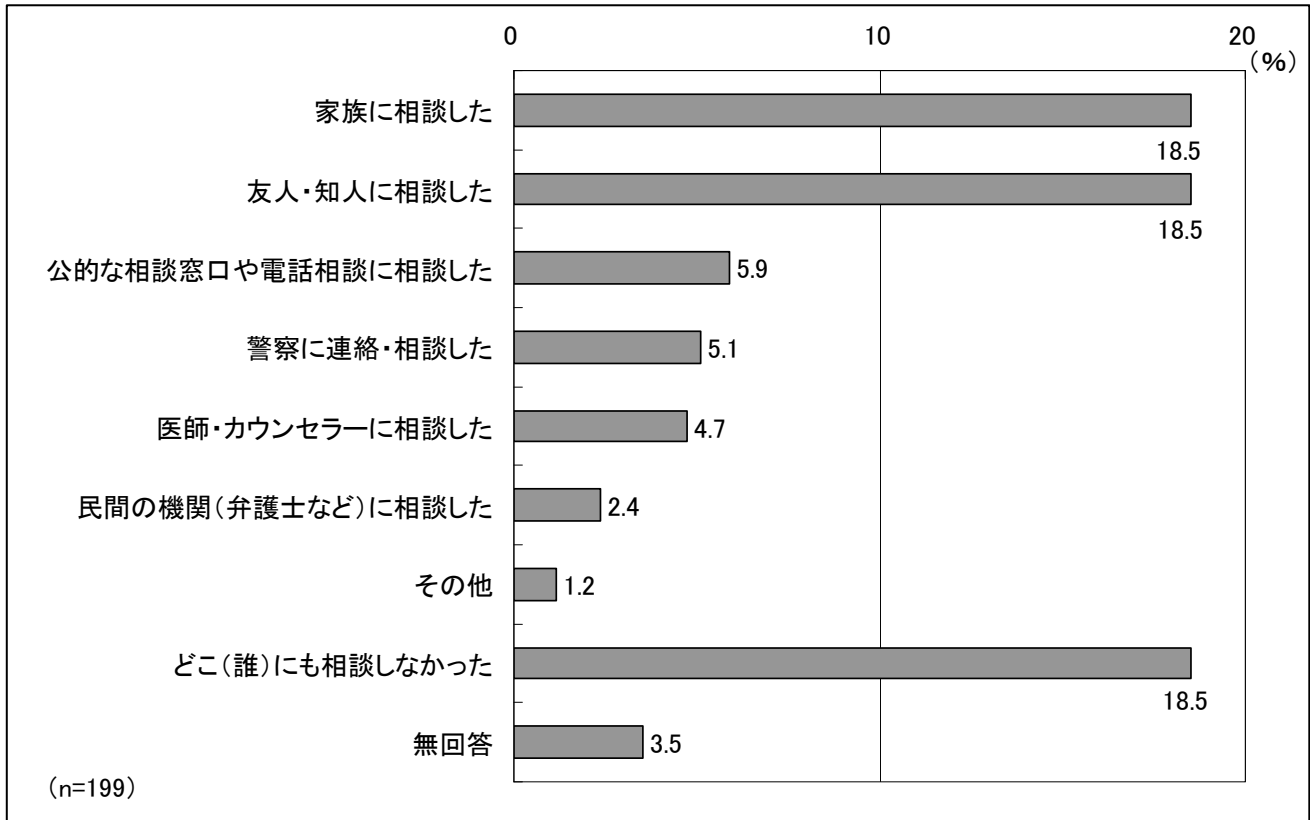


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(問 36 で「1」～「5」とお答えの方に)

問 36- (1) これまでDVについて誰かに打ち明けたり、相談をしたことがありますか。  
(2つまで回答)

◆DVについての相談先：「家族に相談した」、「友人・知人に相談した」が19%



DVについての相談先として、「家族に相談した」、「友人・知人に相談した」がそれぞれ18.5%であり、身近な人への相談が高い割合を示している。

一方で、「公的な相談窓口や電話相談に相談した」、「警察に連絡・相談した」、「医師・カウンセラーに相談した」、「民間の機関(弁護士など)に相談した」等の専門機関への相談は比較的低い割合となっている。

また、「どこ(誰)にも相談しなかった」は18.5%と高い割合を示している。

「家族に相談した」については、男性・女性で大きな違いはなく、すべての年齢で0～10%を示している。居住地区別では、E地区で30%以上を示している。

「友人・知人に相談した」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の30～34歳で10%以上を示している。居住地区別では、E地区で30%以上を示している。

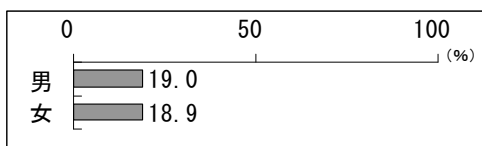
「どこ(誰)にも相談しなかった」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の50～54歳で10%以上を示している。居住地区別では、A地区、C地区で30%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

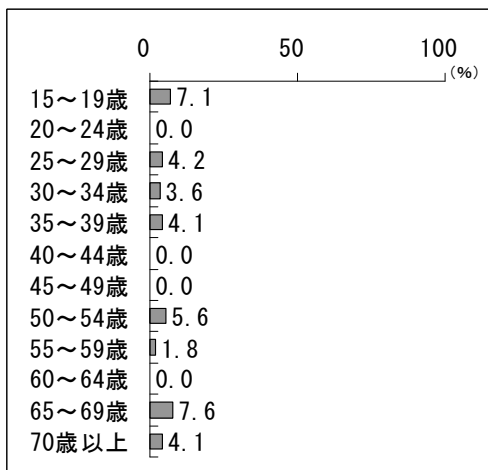
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位3項目）

□家族に相談した

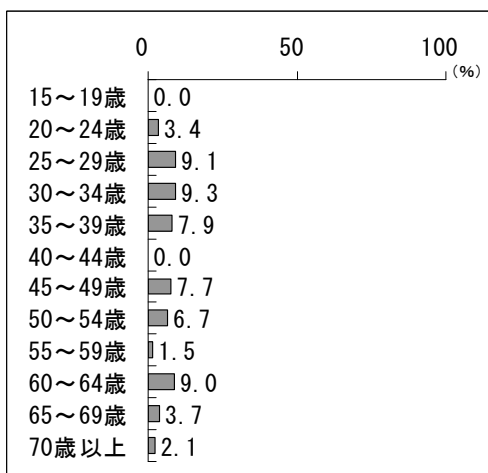
・性別



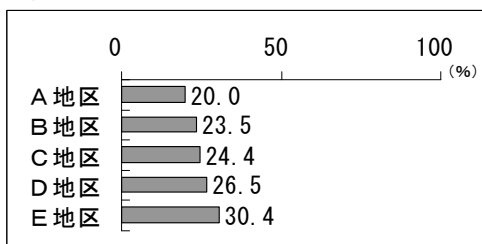
・男性×年齢別



・女性×年齢別

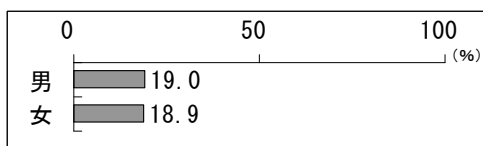


・居住地区別

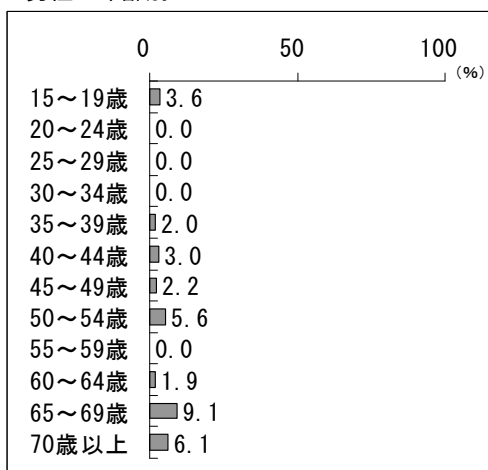


□友人・知人に相談した

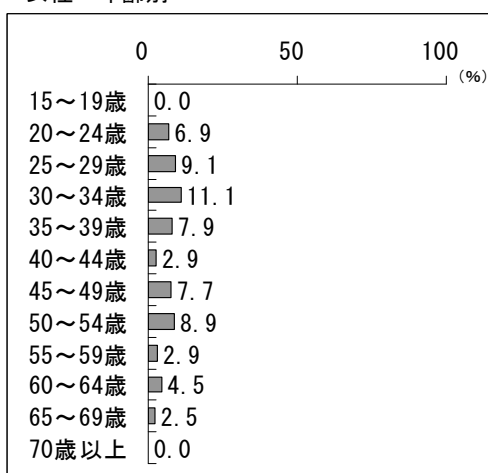
・性別



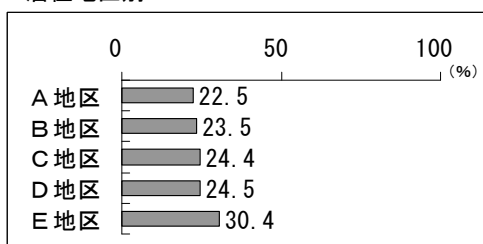
・男性×年齢別



・女性×年齢別



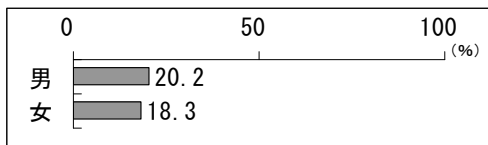
・居住地区別



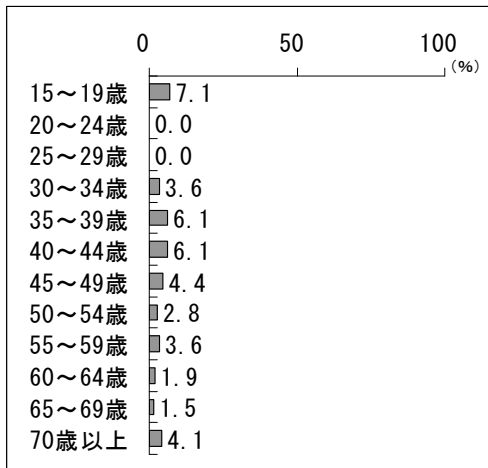
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□どこ（誰）にも相談しなかった

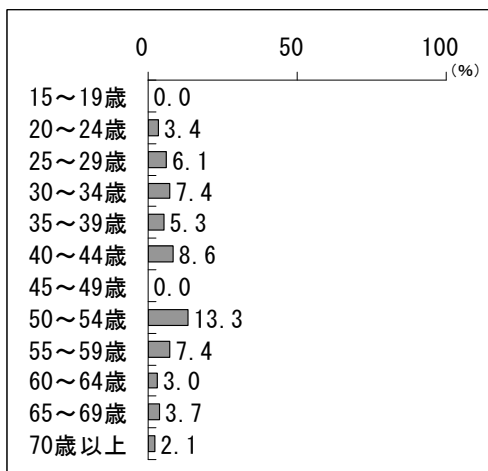
・性別



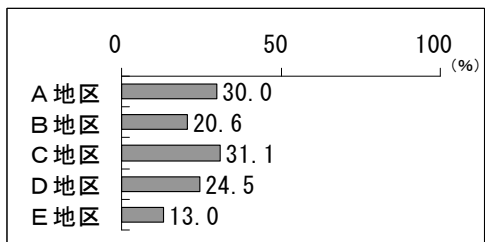
・男性 × 年齢別



・女性 × 年齢別



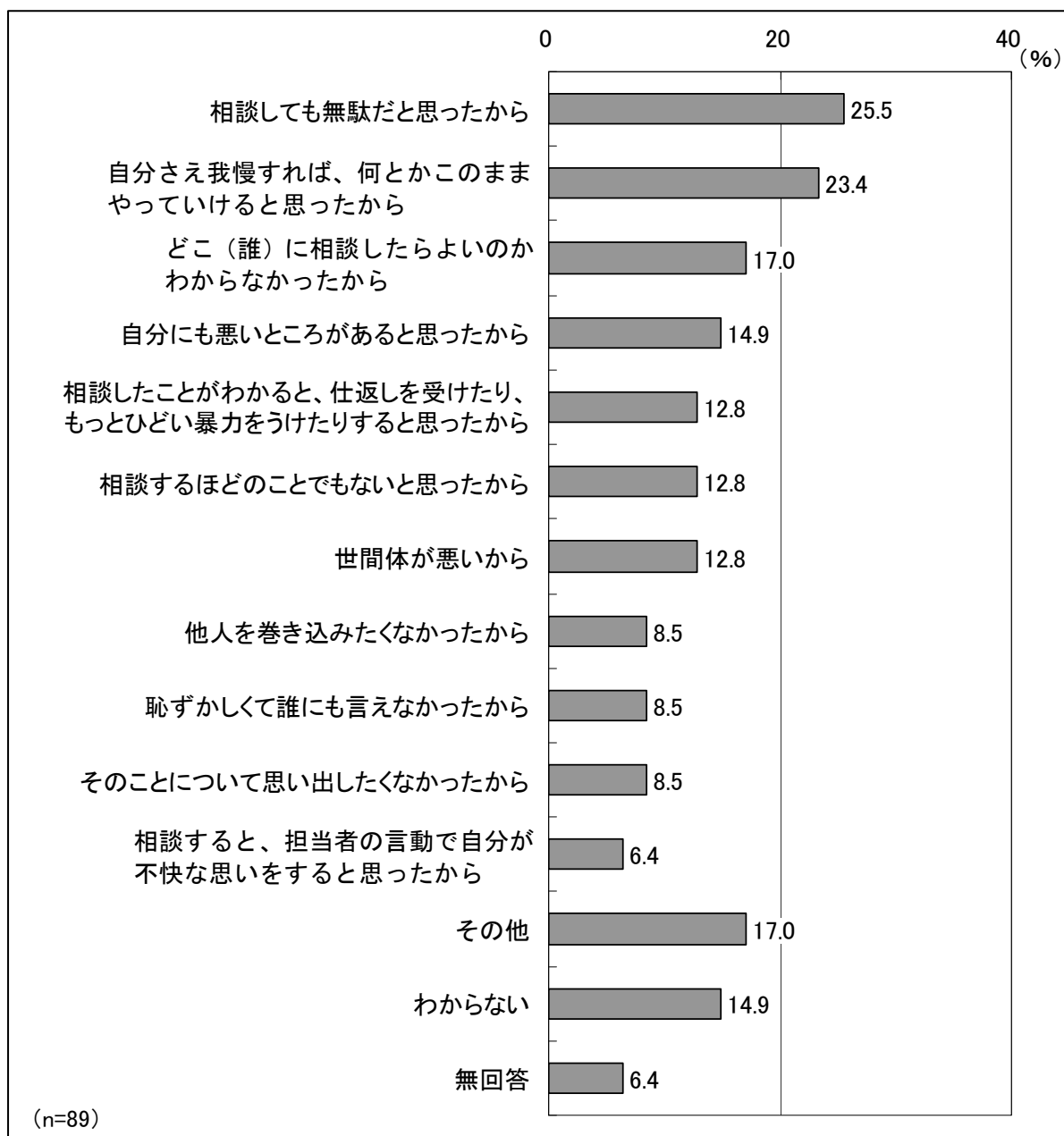
・居住地区別



注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

(問 36- (1) で「8」とお答えの方に)  
 問 36- (2) 相談しなかったのはなぜですか。(3つまで回答)

◆DVについて相談しなかった理由：「相談しても無駄だと思ったから」が26%



DVについて相談しなかった理由として、「相談しても無駄だと思ったから」が25.5%と最も多くなっており、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が23.4%、「どこ(誰)に相談したらよいかわからなかったから」が17.0%となった。

「相談しても無駄だと思ったから」については、男性が女性を約7%上回り、男性の50～54歳、60～64歳、65～69歳、女性の20～24歳で100%となっている。居住地区別では、A地区、C地区、D地区、E地区で10～20%を示している。

「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の15～19歳、40～44歳、45～49歳、女性の65～69歳で50%以上を示している。居住地区別では、E地区で20%以上を示している。

「どこ（誰）に相談したらよいかわからなかったから」については、女性が男性を約8%上回り、男性の45～49歳、70歳以上、女性の25～29歳、70歳以上で50%以上を示している。特に女性の70歳以上では100%となっている。居住地区別では、A地区、D地区、E地区で10%以上を示している。

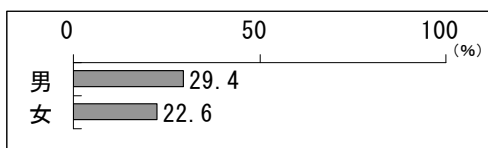
「自分にも悪いところがあると思ったから」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の40～44歳、55～59歳、女性の55～59歳で40%以上を示している。居住地区別では、E地区で20%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

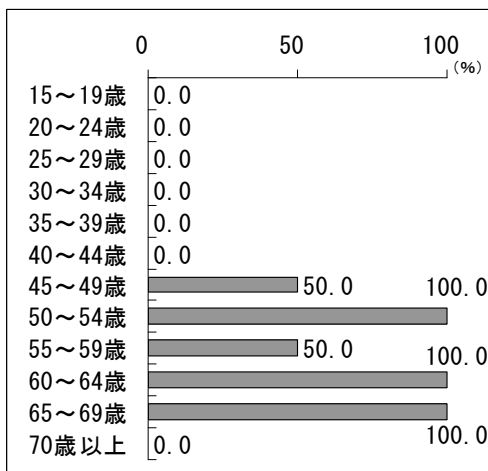
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位4項目） ※「その他」を除く

□相談しても無駄だと思ったから

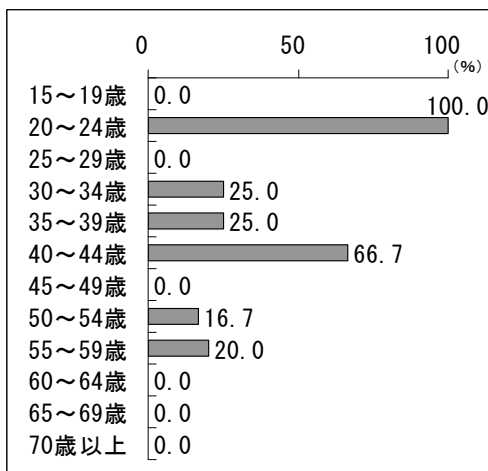
・性別



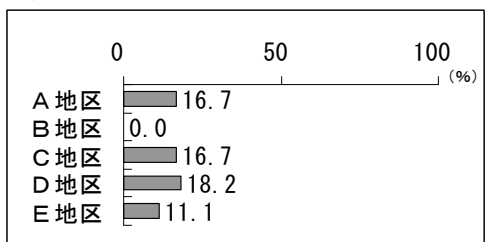
・男性×年齢別



・女性×年齢別

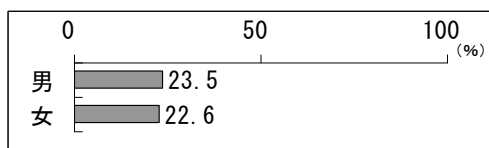


・居住地区別

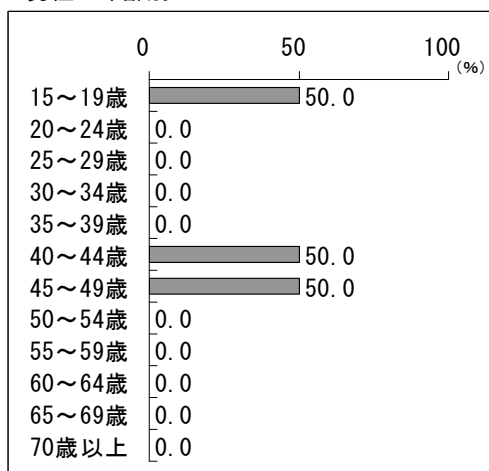


□自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから

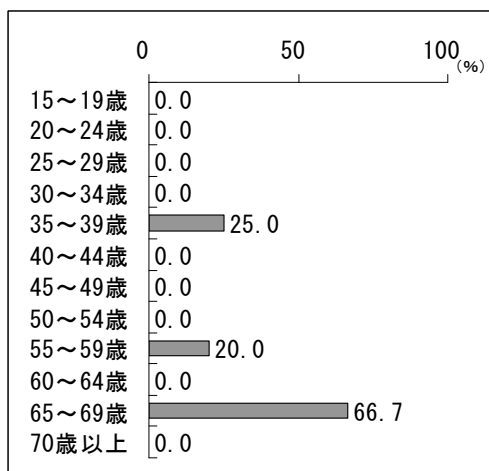
・性別



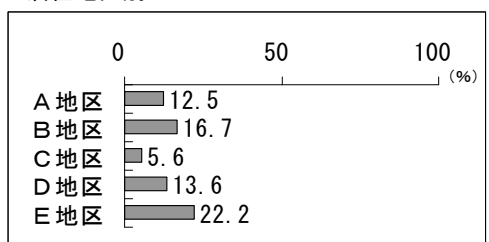
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

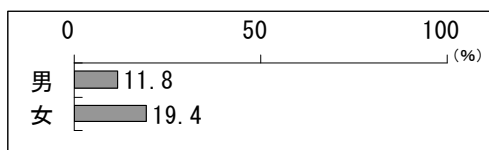


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘



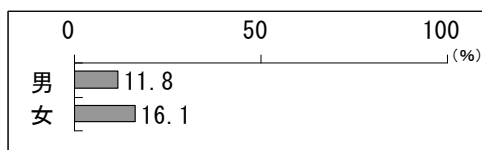
□どこ（誰）に相談したらよいかわからなかったから

・性別

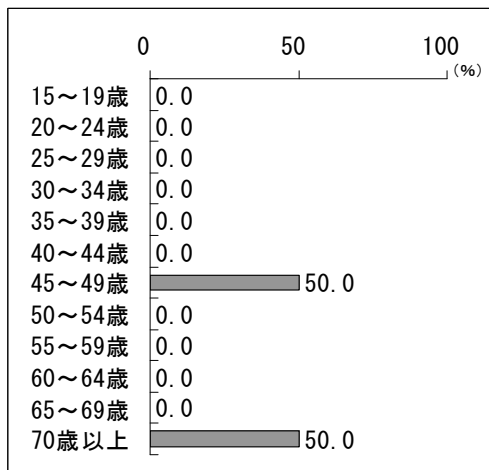


□自分にも悪いところがあると思ったから

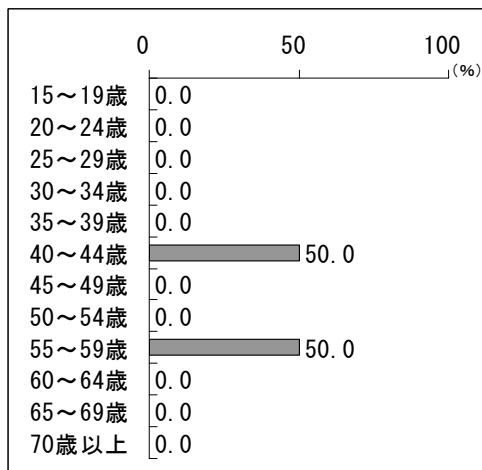
・性別



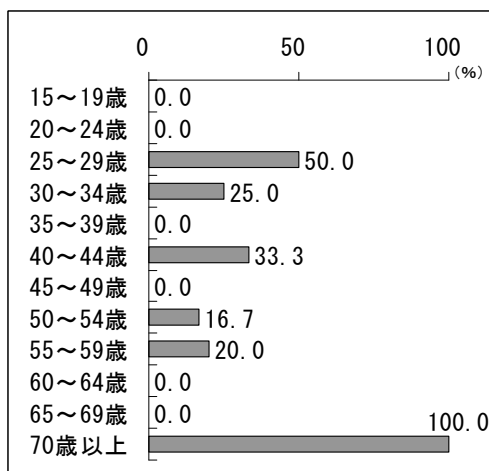
・男性×年齢別



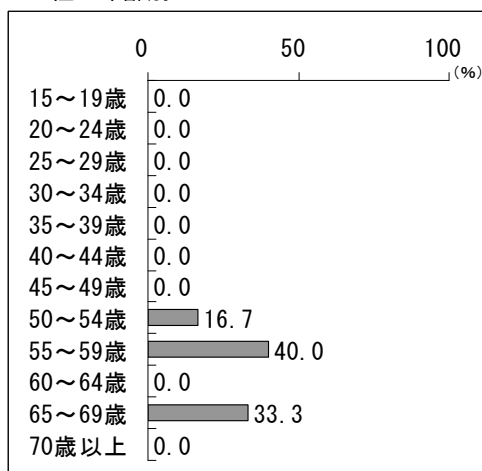
・男性×年齢別



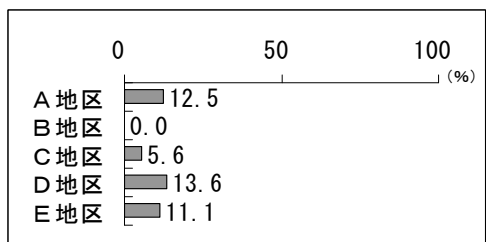
・女性×年齢別



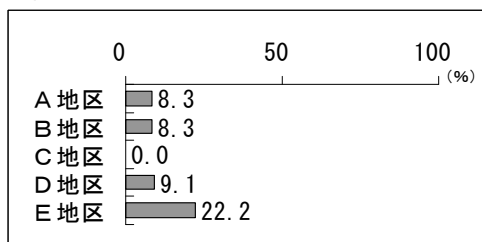
・女性×年齢別



・居住地区別



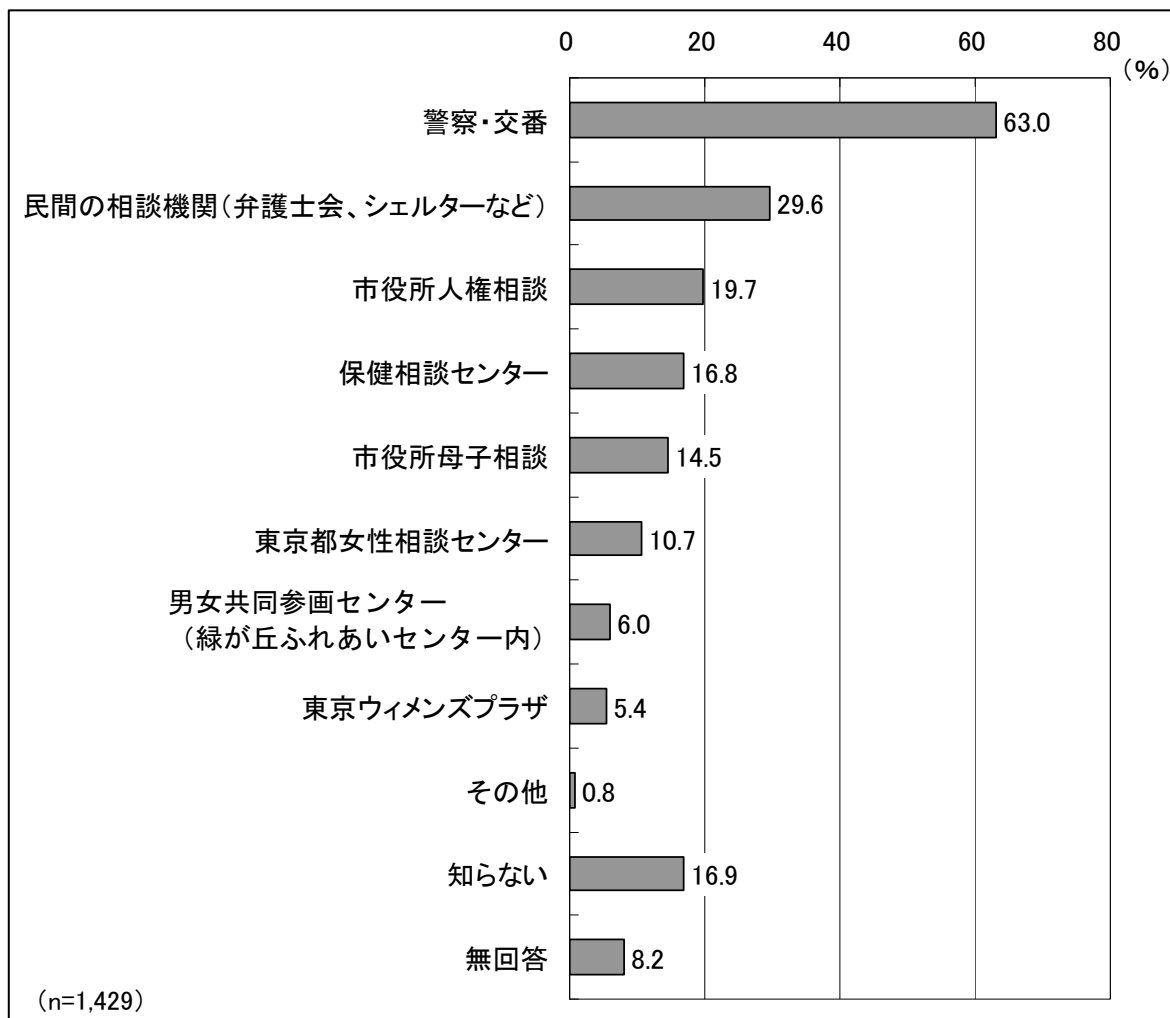
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

問37 女性に対する暴力について、次の相談機関の中で、知っているものを選んでください。  
 (複数回答)

◆女性に対する暴力についての相談機関として知っているもの：「警察・交番」が63%



女性に対する暴力についての相談機関として知っているものとして、「警察・交番」が63.0%と最も多く、次いで「民間の相談機関（弁護士会、シェルターなど）」が29.6%となっている。

「警察・交番」については、女性に比べ男性が約9%上回り、ほとんどの年齢で50%以上を占め、高い割合を示している。特に、男性・女性の25～29歳で80%以上を示し、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で概ね60%以上を示している。

「民間の相談機関（弁護士会、シェルターなど）」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の40～44歳、50～54歳で45%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区、D地区で20%以上を示している。

「市役所人権相談」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の60～64歳、女性の65～69歳で35%以上を示している。また、居住地区別では、B地区、C地区で20%以上を示している。

「保健相談センター」については、女性が男性を約6%上回り、女性の25～29歳、40～44歳、65～69歳で25%以上を示している。居住地区別ではいずれの地区も15～20%を示している。

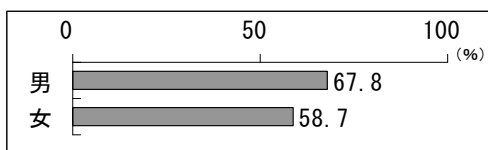
「市役所母子相談」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の60～64歳、70歳以上、女性の25～29歳、45～49歳で20%以上を示している。居住地区別ではいずれの地区も10～20%を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

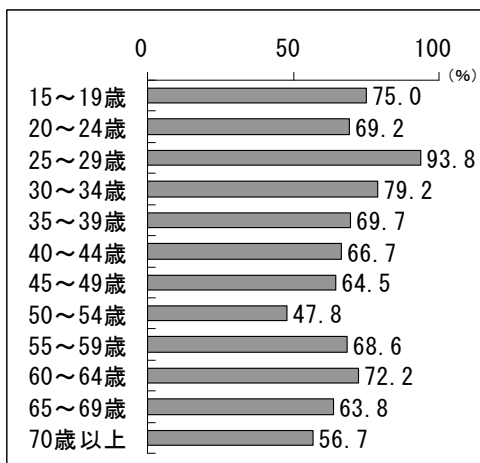
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位5項目） ※「知らない」を除く

□警察・交番

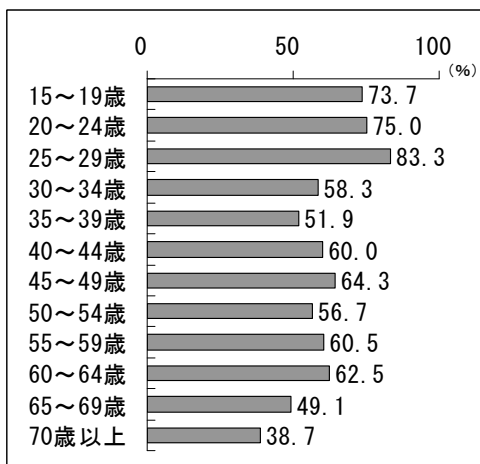
・性別



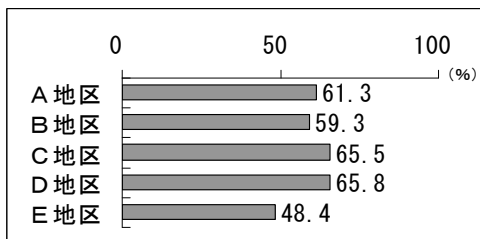
・男性×年齢別



・女性×年齢別

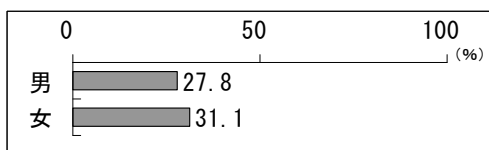


・居住地区別

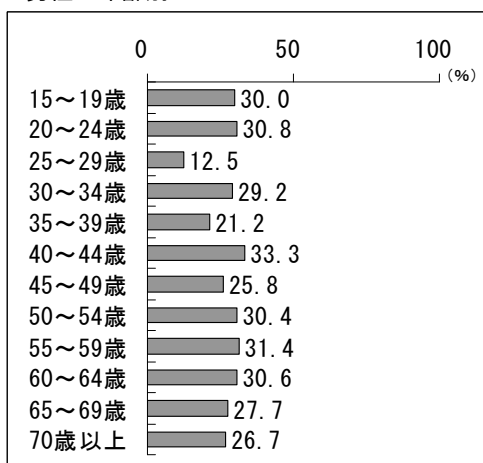


□民間の相談機関（弁護士会、シェルターなど）

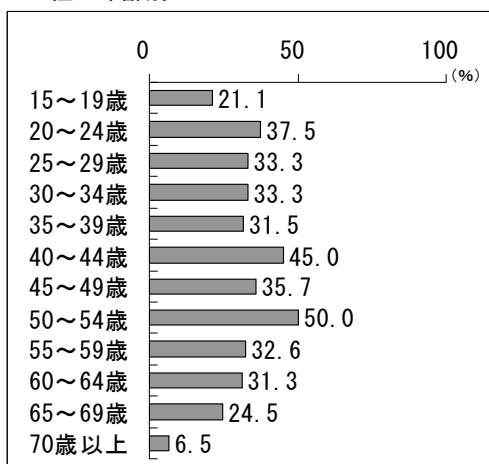
・性別



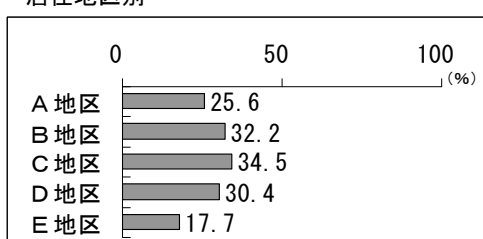
・男性×年齢別



・女性×年齢別



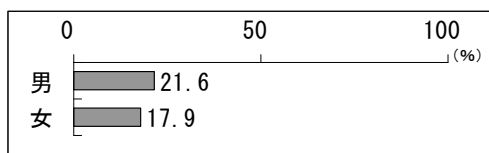
・居住地区別



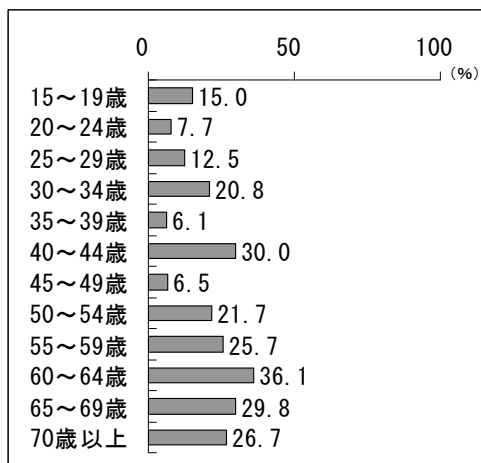
注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

□市役所人権相談

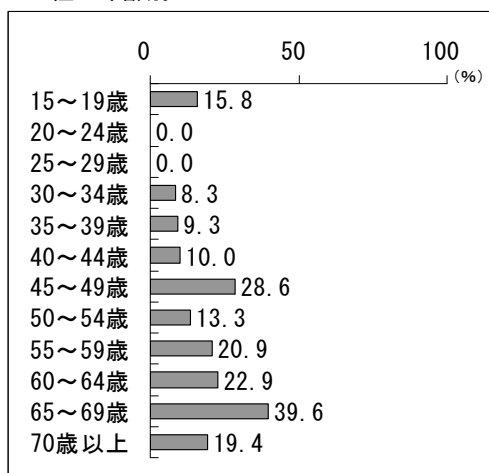
・性別



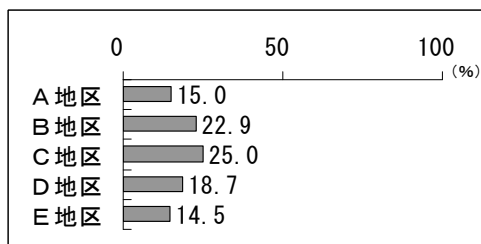
・男性×年齢別



・女性×年齢別

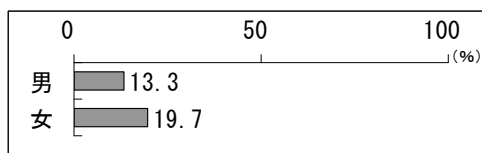


・居住地区別

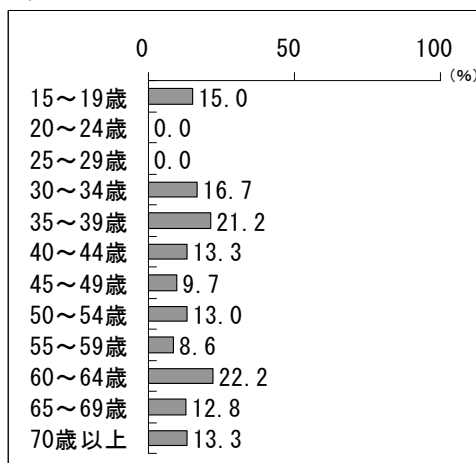


□保健相談センター

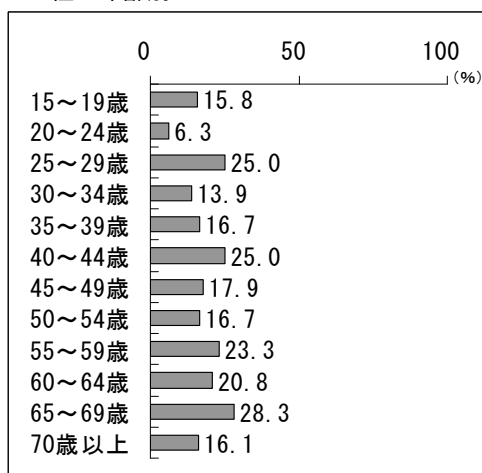
・性別



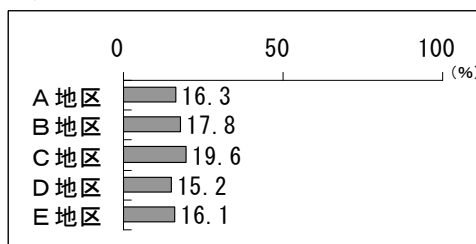
・男性×年齢別



・女性×年齢別



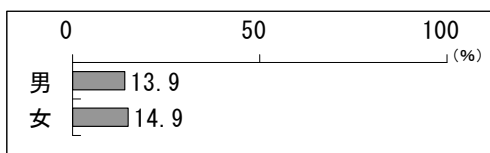
・居住地区別



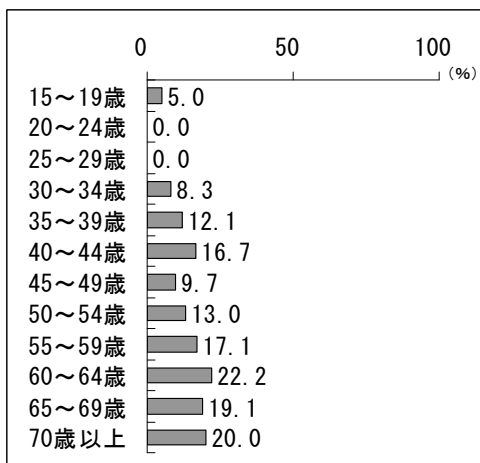
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□市役所母子相談

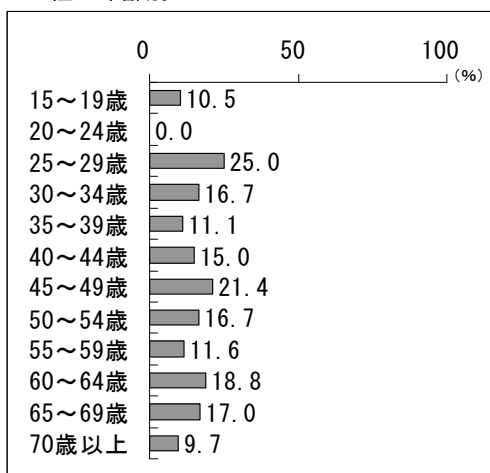
・性別



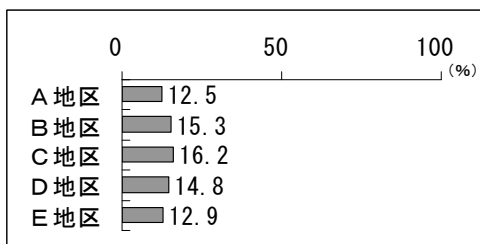
・男性×年齢別



・女性×年齢別



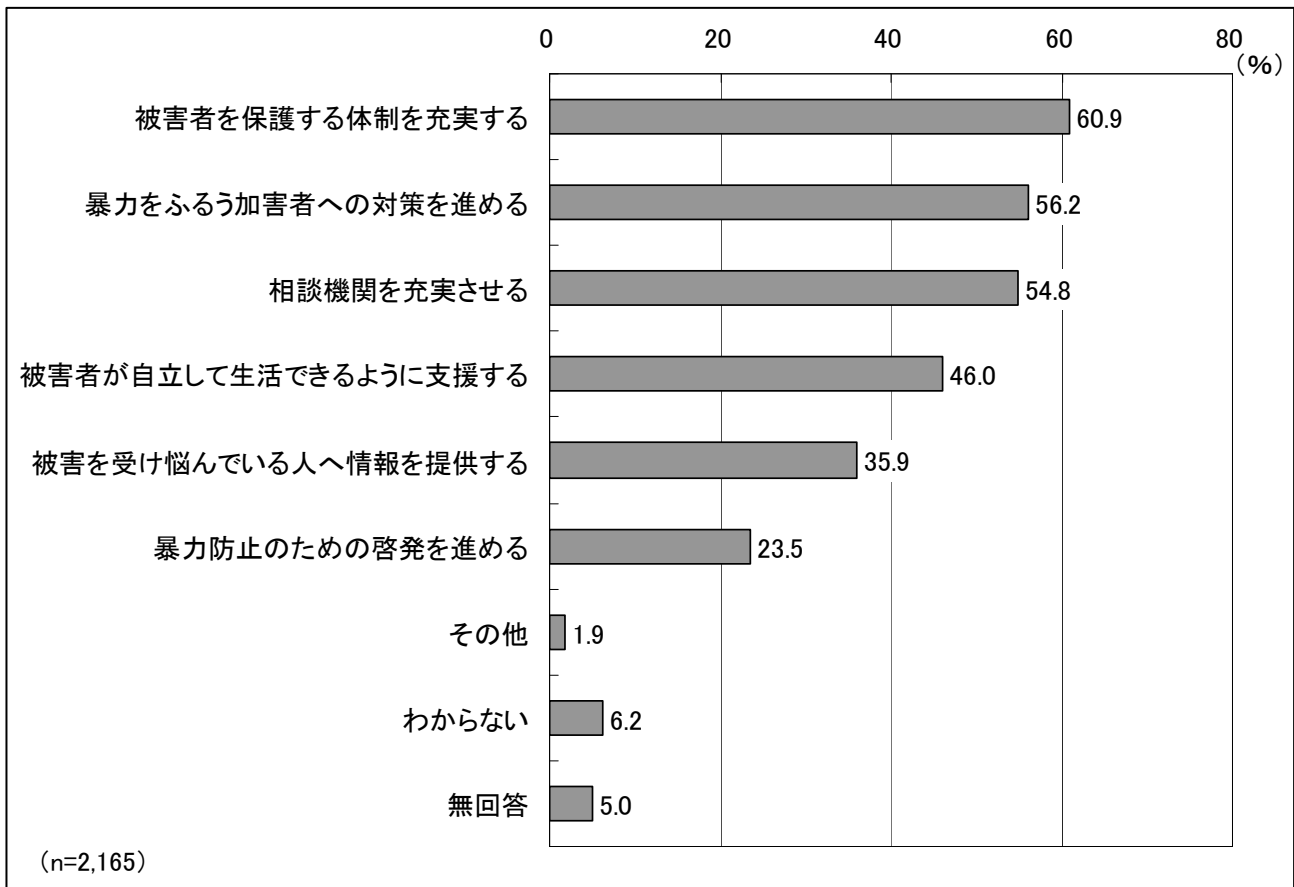
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

問38 DVをなくすために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

◆DVをなくすための取り組み：「被害者を保護する体制を充実する」が61%



DVをなくすための取り組みとして、「被害者を保護する体制を充実する」が60.9%と最も多く、次いで「暴力をふるう加害者への対策を進める」が56.2%、「相談機関を充実させる」が54.8%、「被害者が自立して生活できるように支援する」が46.0%、「被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する」が35.9%、「暴力防止のための啓発を進める」が23.5%となっている。

「被害者を保護する体制を充実する」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性・女性ともほとんどの年齢で 50%以上の割合を示している。特に、男性の 60～64 歳、女性の 25～29 歳、30～34 歳、40～44 歳で 70%以上を示している。また、居住地区別では、全ての地区で 50%を超える高い割合となっている。

「暴力をふるう加害者への対策を進める」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の 45～49 歳、60～64 歳、女性の 15～19 歳、55～59 歳で 65%以上を示している。また、居住地区別では、E 地区を除き 50%以上を示している。

「相談機関を充実させる」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の 60～64 歳、女性の 20～24 歳、50～54 歳、55～59 歳で 65%以上を示している。また、居住地区別では、B 地区を除き 50%以上を示している。

「被害者が自立して生活できるように支援する」については、女性が男性を 14.5%上回り、女性の 30～34 歳で 60%以上を示している。また、居住地区別では、すべての地区で 40～50%の範囲を示している。

「被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する」については、女性が男性を約 11%上回り、男性の 60～64 歳、女性の 25～29 歳、50～54 歳で 50%以上を示している。また、居住地区別では、すべての地区で 30～40%の範囲を示している。

「暴力防止のための啓発を進める」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の 20～24 歳、女性の 20～24 歳で 35%以上を示している。また、居住地区別では、すべての地区で 20～30%の範囲を示している。

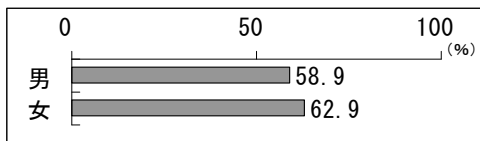
注) A 地区＝中藤・神明・中央・本町、B 地区＝三ツ木・岸・中原、  
C 地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D 地区＝榎・学園・大南、E 地区＝緑が丘



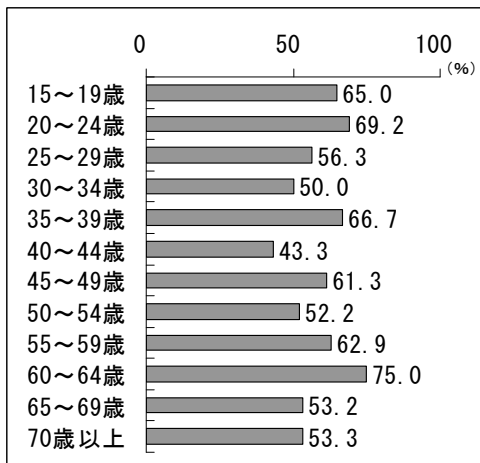
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□被害者を保護する体制を充実する

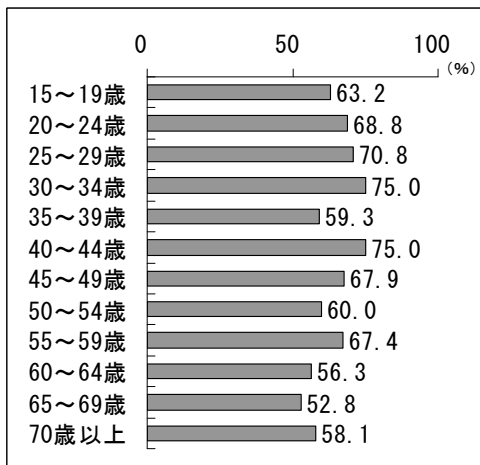
・性別



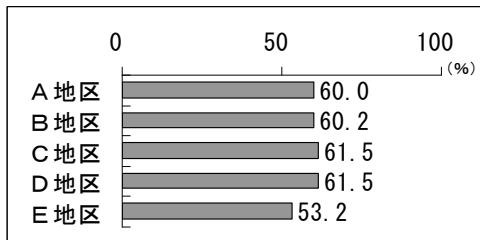
・男性×年齢別



・女性×年齢別

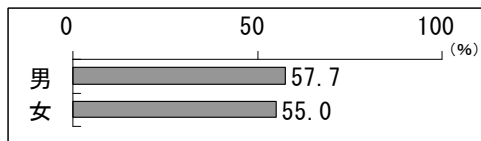


・居住地区別

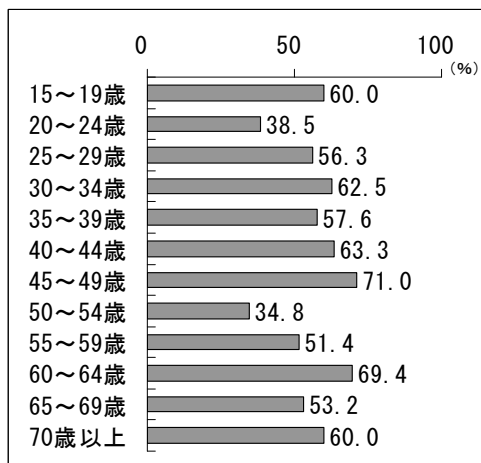


□暴力をふるう加害者への対策を進める

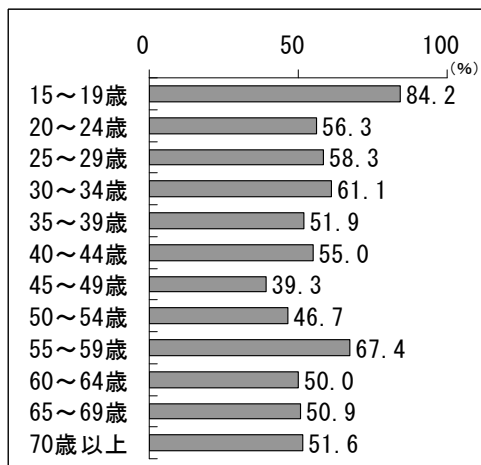
・性別



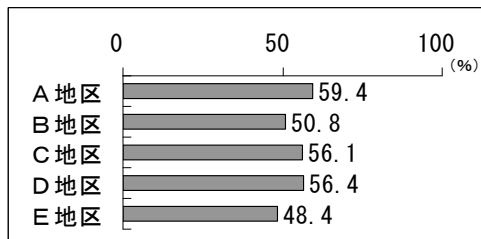
・男性×年齢別



・女性×年齢別



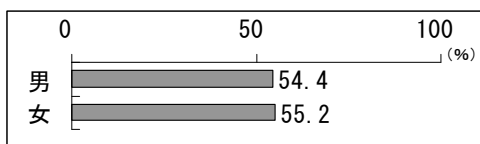
・居住地区別



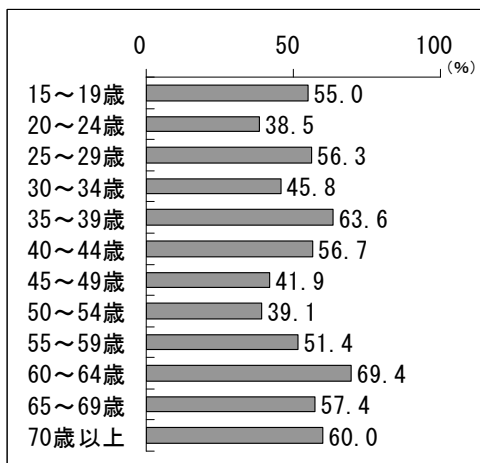
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□相談機関を充実させる

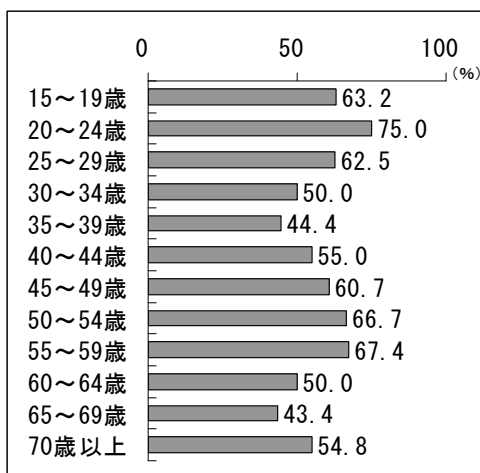
・性別



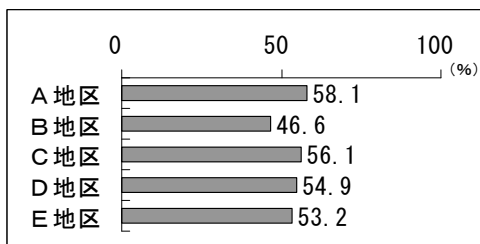
・男性×年齢別



・女性×年齢別

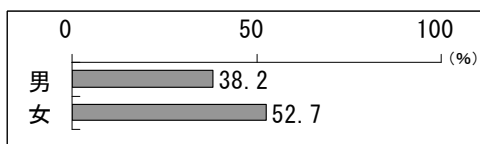


・居住地区別

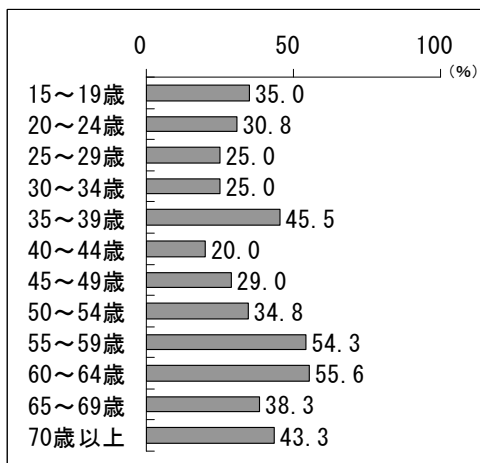


□被害者が自立して生活できるように支援する

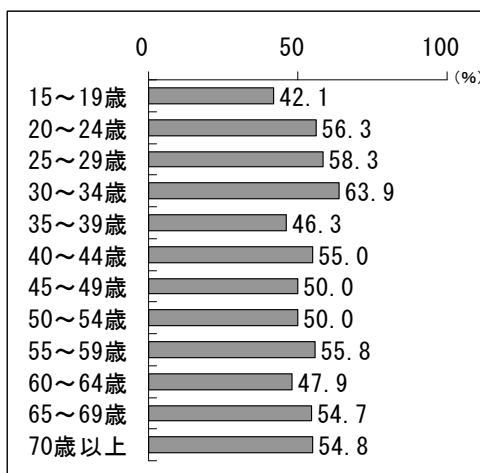
・性別



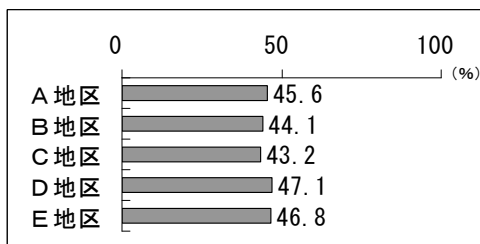
・男性×年齢別



・女性×年齢別



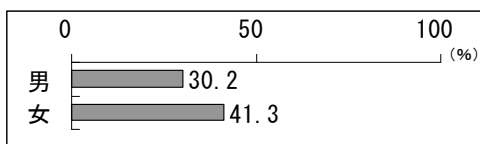
・居住地区別



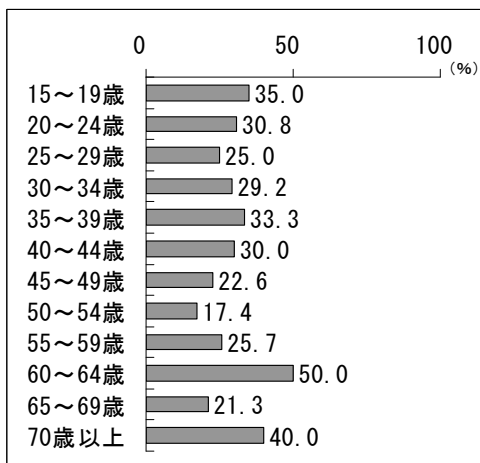
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する

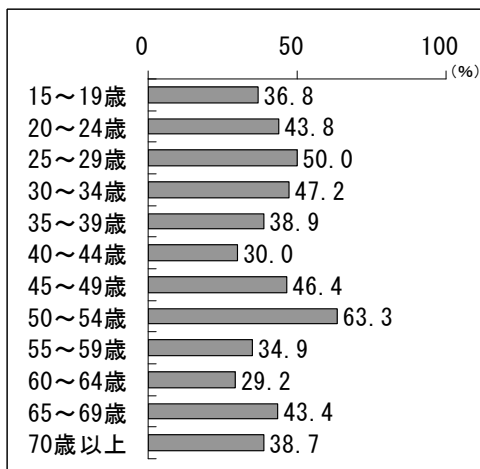
・性別



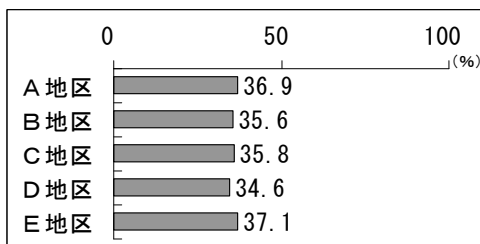
・男性×年齢別



・女性×年齢別

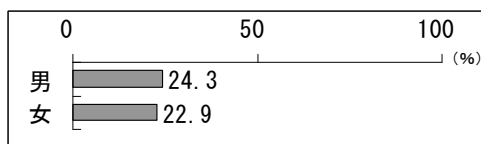


・居住地区別

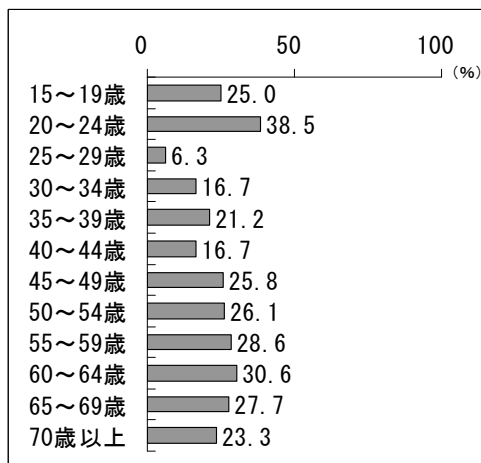


□暴力防止のための啓発を進める

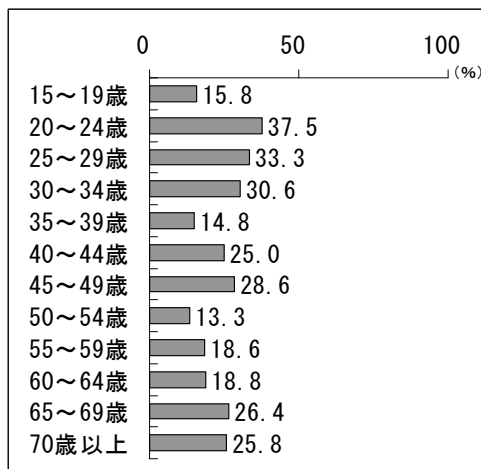
・性別



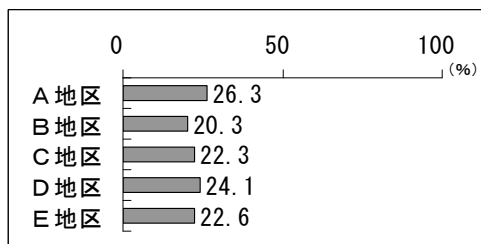
・男性×年齢別



・女性×年齢別



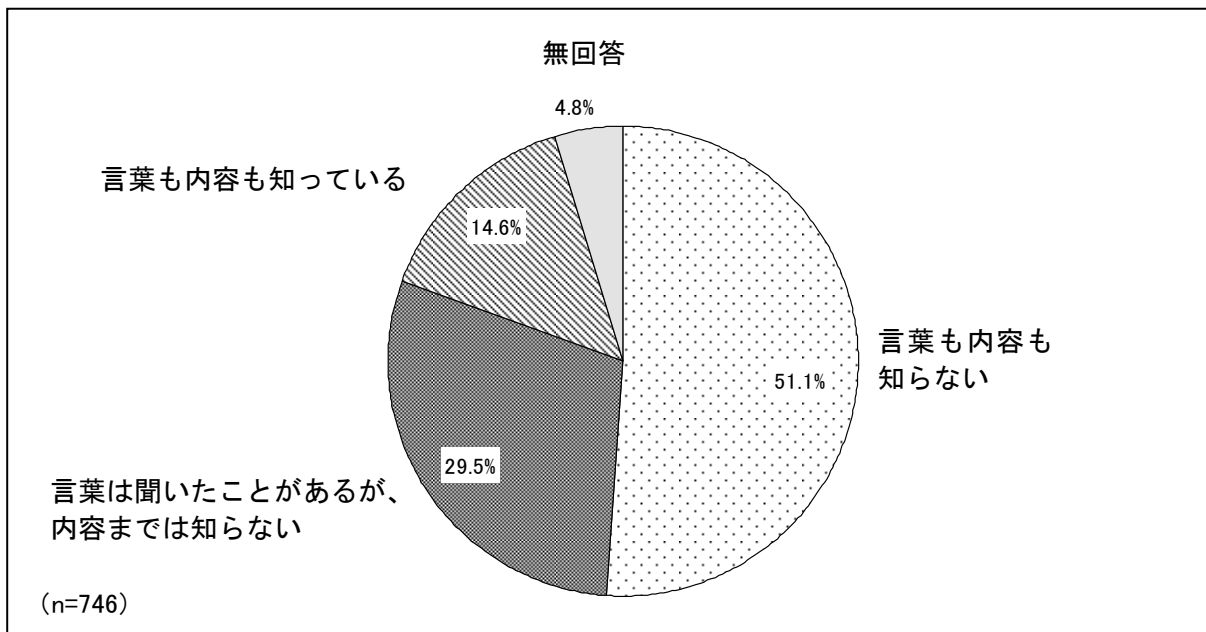
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

問39 あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて、どの程度知っていますか。

◆ワーク・ライフ・バランスについて：「言葉も内容も知らない」が51%



ワーク・ライフ・バランスについて、「言葉も内容も知らない」が51.1%となり、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」との回答が29.5%、「言葉も内容も知っている」との回答は14.6%となっている。

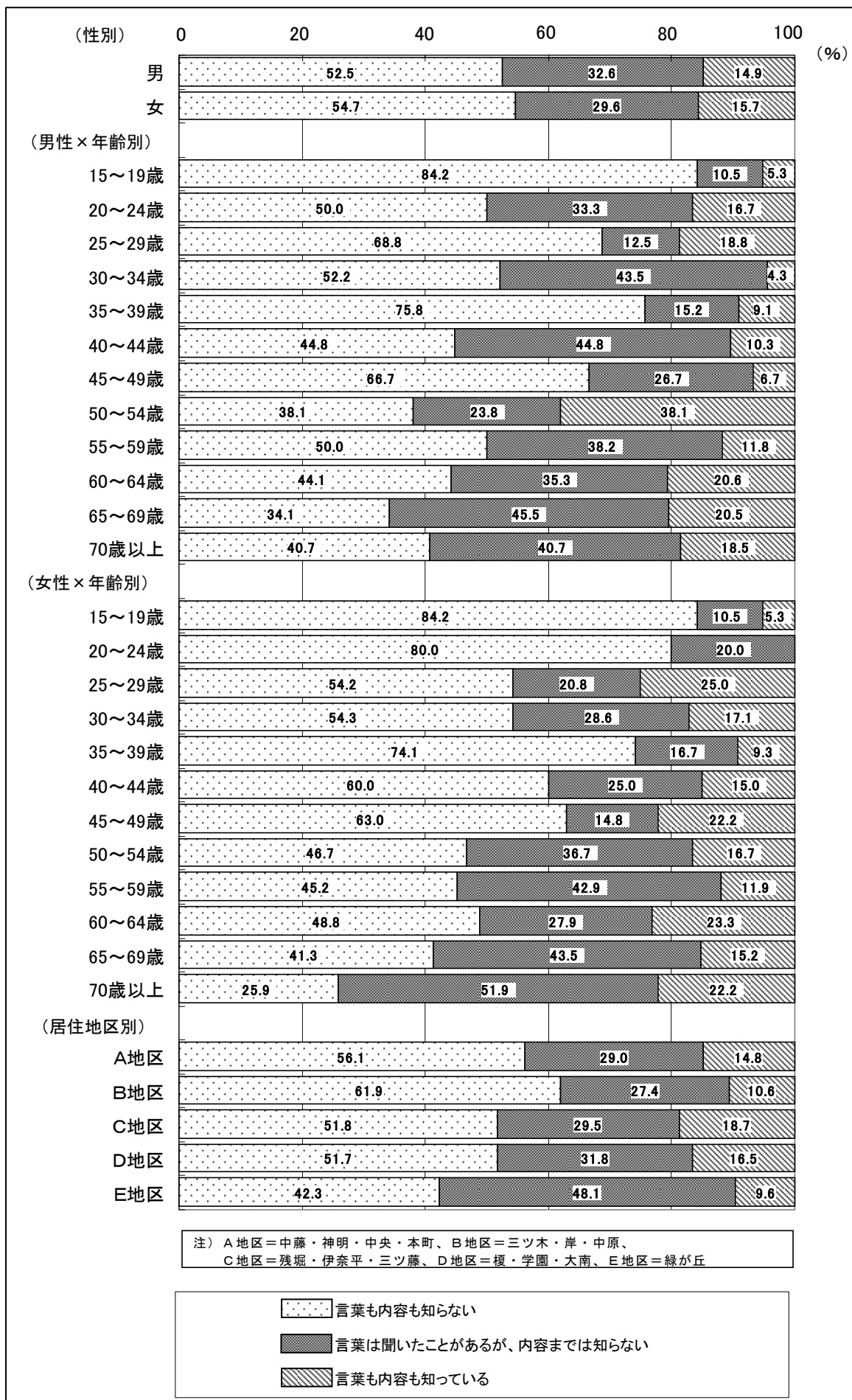
性別では、男性・女性で大きな違いはなく、「言葉も内容も知らない」とする割合が50%以上を示している。特に、男性の15～19歳、女性の15～19歳、20～24歳では「言葉も内容も知らない」が80%以上を示している。

「言葉も内容も知っている」とする割合は、男性の50～54歳で38.1%を示しているが、そのほかの年齢では概ね20%以下となっている。女性の20～24歳では0%となっている。

また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で「言葉も内容も知らない」が50%以上を示し、高い割合となっている。一方で、E地区では「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が50%近くを占めている。いずれの地区も、「言葉も内容も知っている」の割合が20%以下となっている。

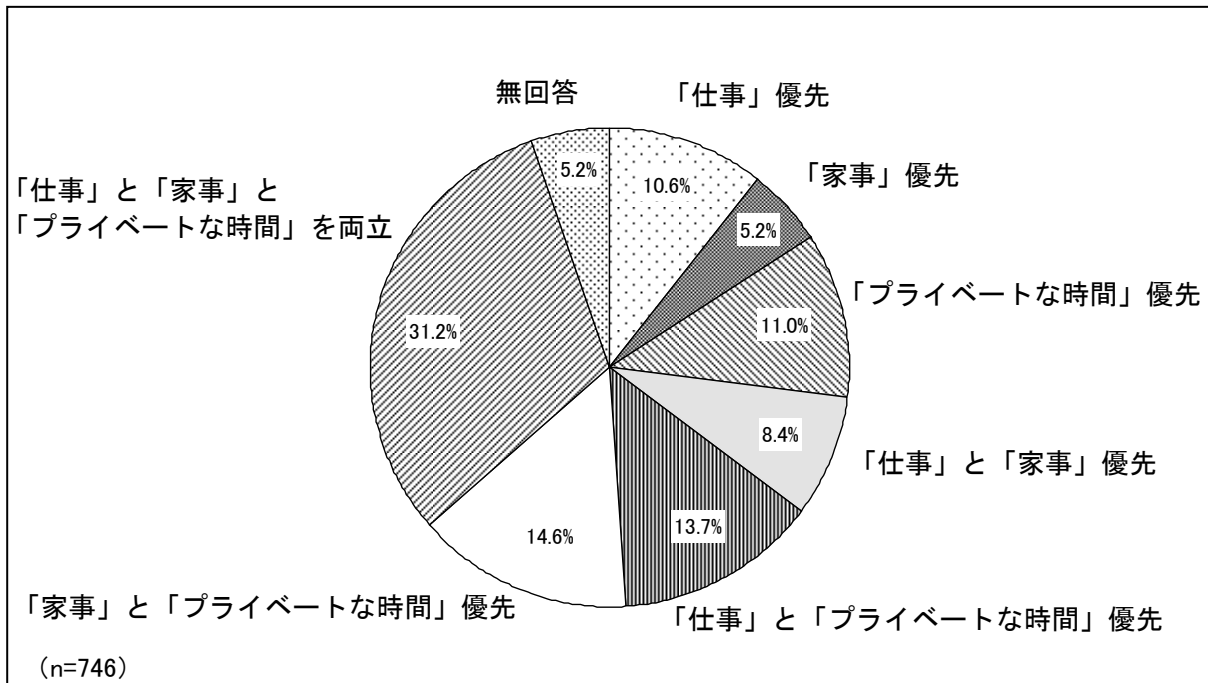
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住地区別



問40 生活の中での「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。

◆希望する「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度：「仕事と家事とプライベートな時間を両立」が31%



希望する生活の中での「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度は、「仕事と家事とプライベートな時間を両立」が31.2%と最も多く、次いで「家事とプライベートな時間優先」が14.6%、「仕事とプライベートな時間優先」が13.7%となっている。

複数の項目を優先する考えが強く、「家事」のみを優先する割合は低くなっている。

男性は、「仕事優先」、「仕事とプライベートな時間優先」とする割合が高く、女性は、「家事優先」、「家事とプライベートな時間優先」の割合が高くなっている。

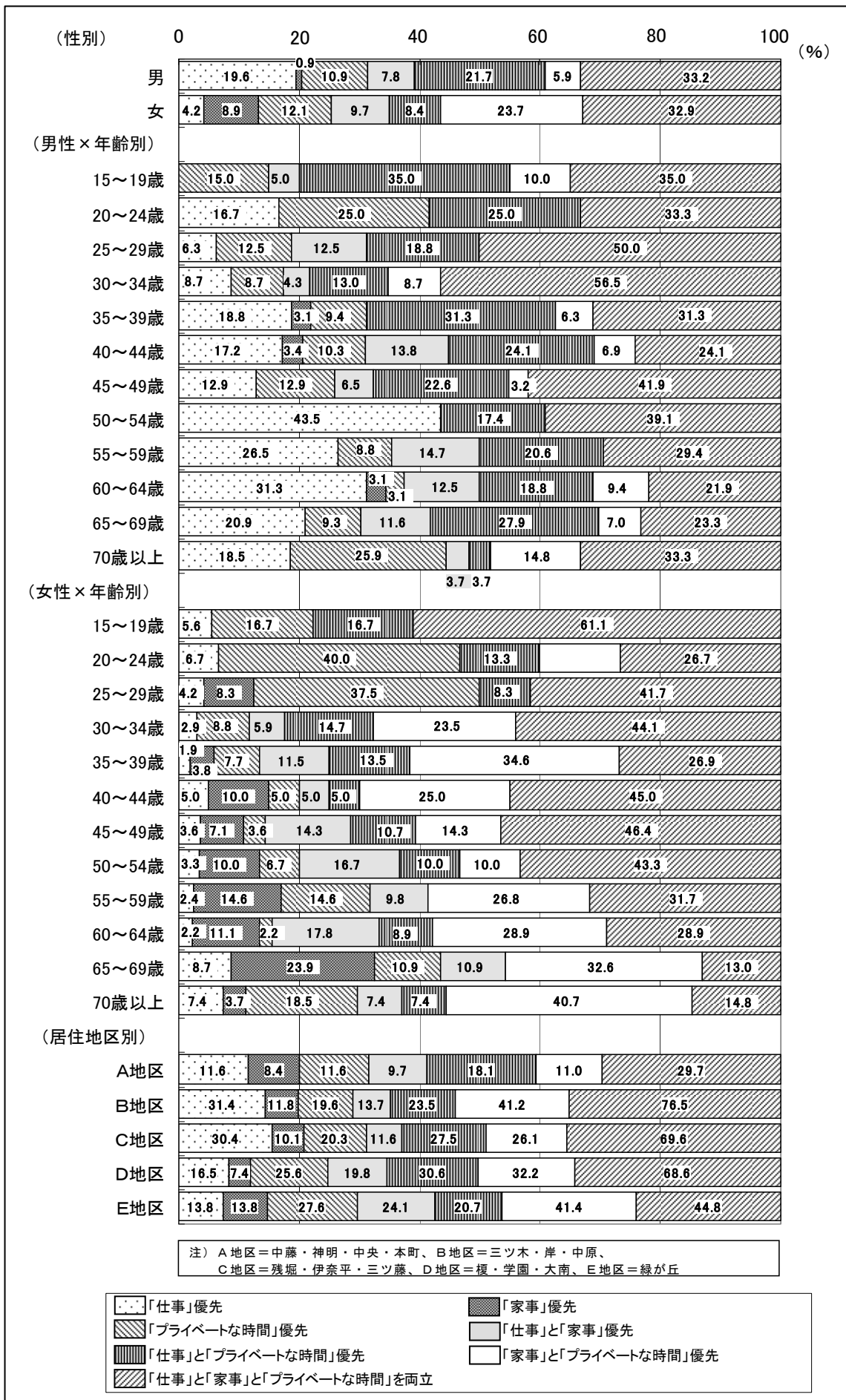
男性の25～29歳、30～34歳では、「仕事と家事とプライベートな時間を両立」の割合が50%以上、50～54歳では「仕事優先」の割合が40%以上を示している。「家事優先」とする割合は極めて低い結果となっている。

一方、女性では、ほとんどの年齢において、「仕事と家事とプライベートな時間を両立」の割合が多く、「仕事優先」の割合が低くなっている。特に、15～19歳では「仕事と家事とプライベートな時間を両立」が61.1%を示し、突出した結果となっている。20～24歳、25～29歳では「プライベートな時間優先」が35%以上、35～39歳、65～69歳、70歳以上では「家事とプライベートな時間優先」が30%以上を示している。

また、居住地区別では、いずれの地区も「仕事と家事とプライベートな時間を両立」の割合が最も高くなっている。

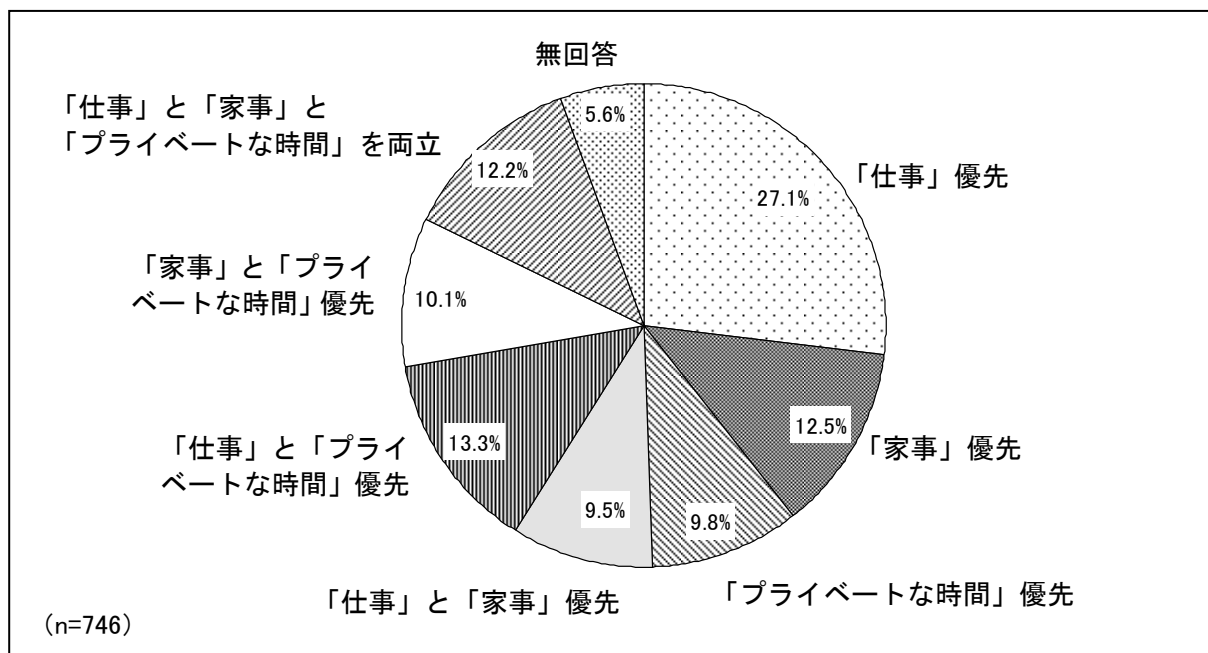
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住地区別



問41 生活の中での、「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度について、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。

◆現実の「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度：「仕事優先」が27%



現実の生活の中での「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度は、「仕事優先」が27.1%と最も多くなっており、次いで「仕事とプライベートな時間優先」、「家事優先」の項目が高くなっており、希望する生活の中での優先度とのギャップがみられる。

男性では、「仕事優先」、「仕事とプライベートな時間優先」の割合が高く、女性では、「家事優先」、「仕事優先」、「家事とプライベートな時間優先」の割合が高くなっている。男性・女性とも「仕事と家事とプライベートな時間を両立」の割合は低くなっている。

男性では、20～60歳代にかけて、「仕事優先」とする割合が高く、特に25～29歳では68.8%を示し、突出した結果となっている。また、15～19歳、20～24歳では「仕事とプライベートな時間優先」が30%以上、30～34歳では「仕事と家事とプライベートな時間を両立」が25%以上、70歳以上では「プライベートな時間優先」が25%以上と比較的高い割合を示している。

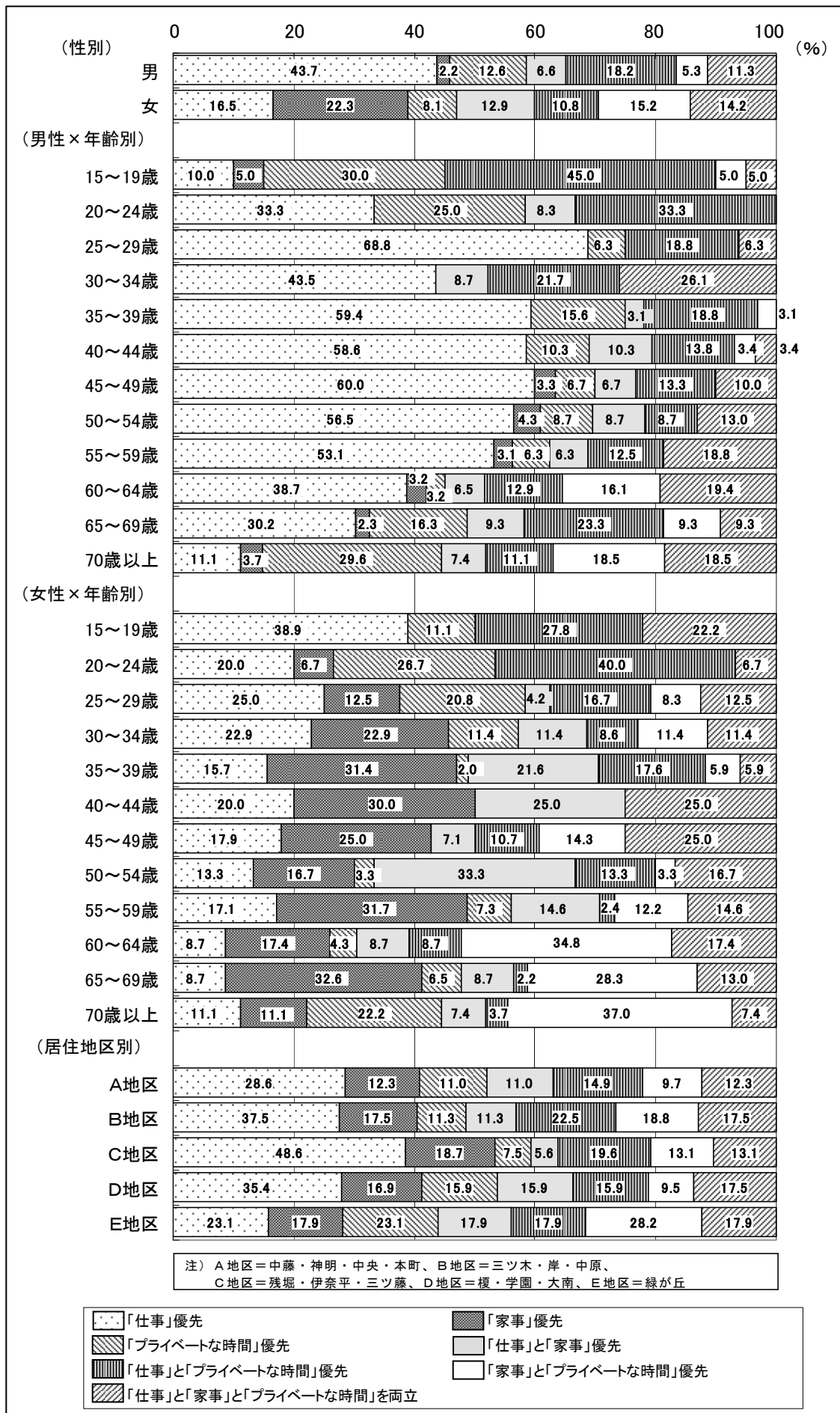
一方、女性では、15～19歳で「仕事優先」が35%以上、20～24歳では「仕事とプライベートな時間優先」が40%以上、50～54歳では「仕事と家事優先」が30%以上、60～64歳、65～69歳、70歳以上では「家事とプライベートな時間優先」が25%以上と比較的高くなっている。

また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で「仕事優先」の割合が最も高く、E地区では、「家事とプライベートな時間優先」の割合が最も高くなっている。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

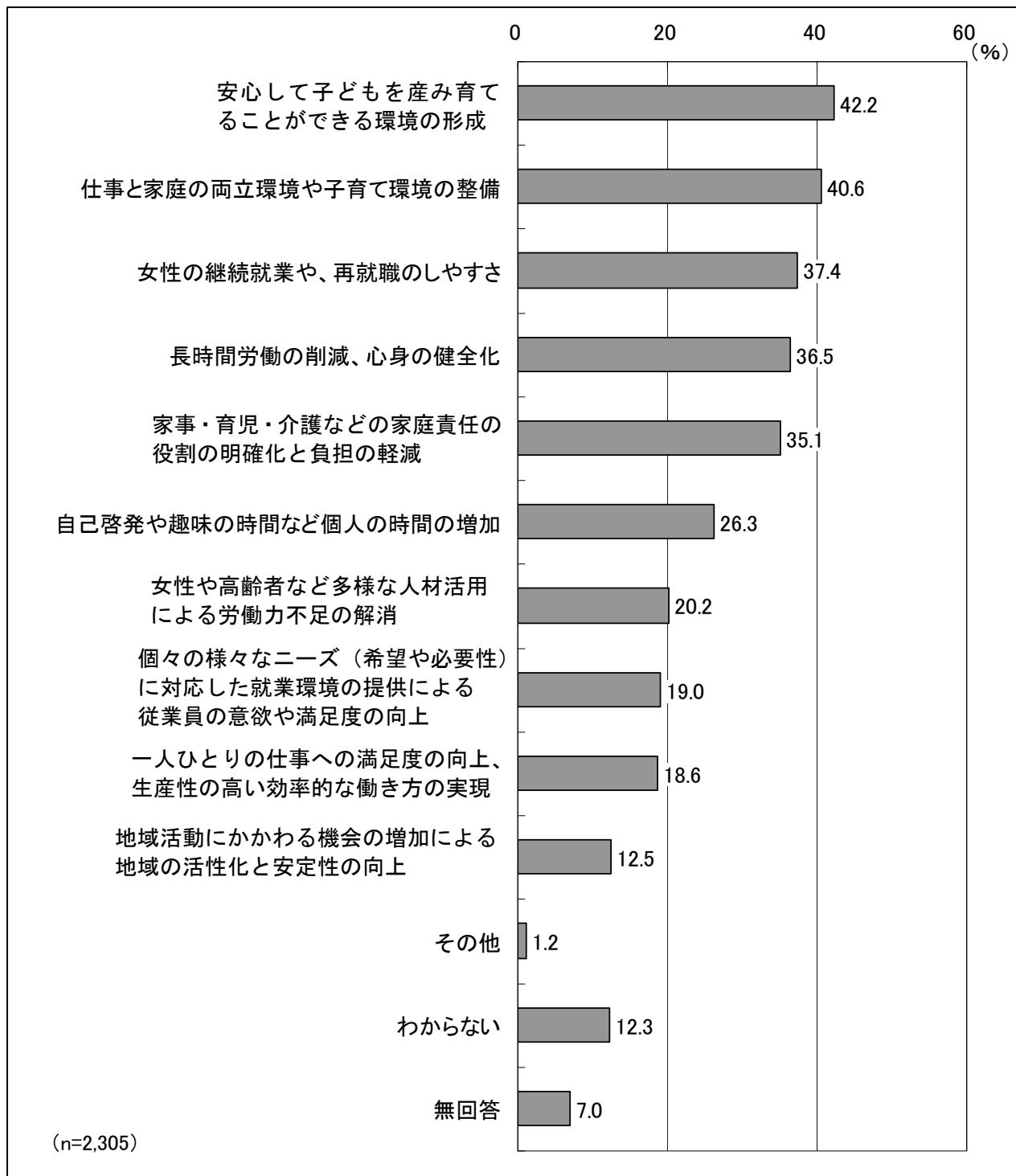


■性別／性別・年齢別／居住地区別



問42 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラス効果として考えられることは何ですか。(複数回答)

◆ワーク・ライフ・バランスの推進により考えられる効果：「安心して子どもを産み育てることができる環境の形成」が42%、「仕事と家庭の両立環境や子育て環境の整備」が41%



ワーク・ライフ・バランスの推進により考えられる効果として、「安心して子どもを産み育てることができる環境の形成」が42.2%、「仕事と家庭の両立環境や子育て環境の整備」が40.6%、「女性の継続就業や、再就職のしやすさ」が37.4%、「長時間労働の削減、心身の健全化」が36.5%、「家事・育児・介護などの家庭責任の役割の明確化と負担の軽減」が35.1%、「自己啓発や趣味の時間など個人の時間の増加」が26.3%となっている。

「安心して子どもを産み育てることができる環境の形成」については、女性が男性を約11%上回り、女性の15～19歳、25～29歳、30～34歳、40～44歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も30～40%の範囲を示している。

「仕事と家庭の両立環境や子育て環境の整備」については、女性が男性を約13%上回り、女性の25～29歳、30～34歳、40～44歳、45～49歳で60%以上を示している。また、居住地区別ではA地区、B地区、C地区、D地区で、概ね35～40%となっている。

「女性の継続就業や、再就職のしやすさ」については、女性が男性を約17%上回り、女性の25～29歳、40～44歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で35%以上を示している。

「長時間労働の削減、心身の健全化」については、男性が女性を約12%上回り、男性の25～29歳、女性の25～29歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、E地区で15%以上を示している。

「家事・育児・介護などの家庭責任の役割の明確化と負担の軽減」については、女性が男性を約6%上回り、男性の20～24歳、女性の25～29歳、40～44歳で55%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も30～40%の割合を示している。

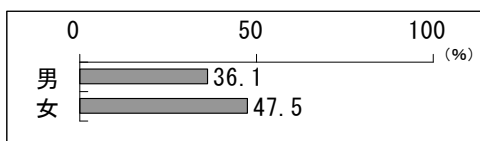
「自己啓発や趣味の時間など個人の時間の増加」については、男性が女性を約8%上回り、男性の25～29歳、50～54歳、女性の25～29歳で40%以上を示している。また、居住地区別では、C地区、E地区で20%以上を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

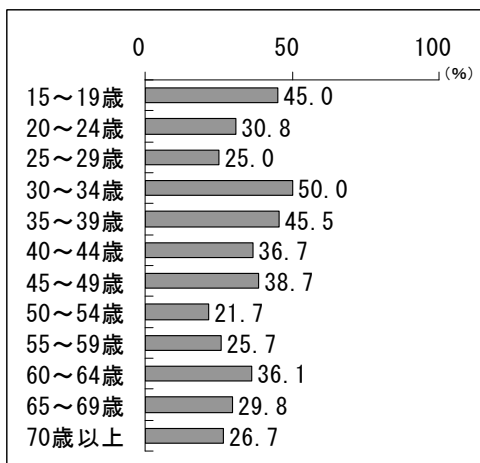
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□安心して子どもを産み育てることができる環境の形成

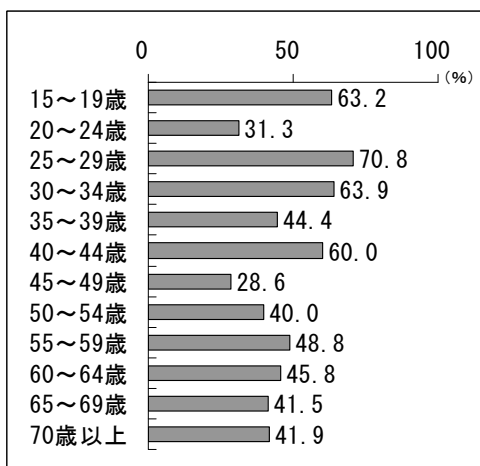
・性別



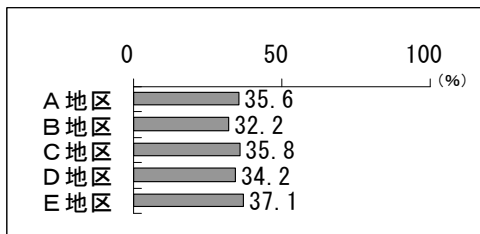
・男性×年齢別



・女性×年齢別

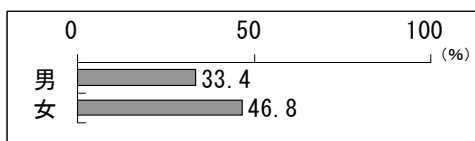


・居住地区別

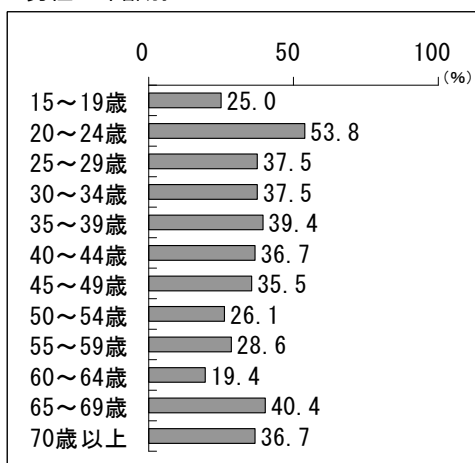


□仕事と家庭の両立環境や子育て環境の整備

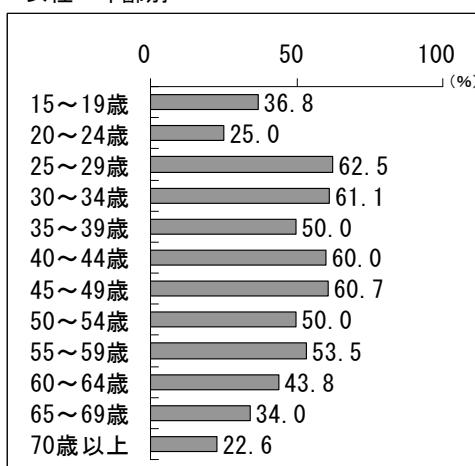
・性別



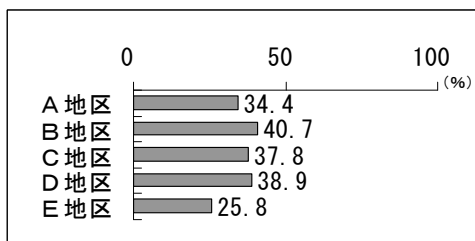
・男性×年齢別



・女性×年齢別



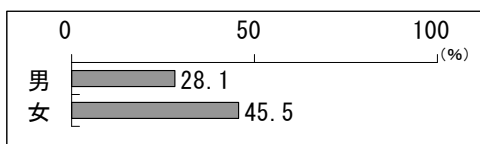
・居住地区別



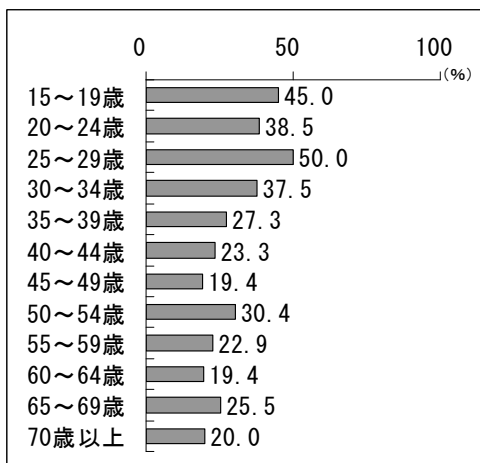
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□女性の継続就業や、再就職のしやすさ

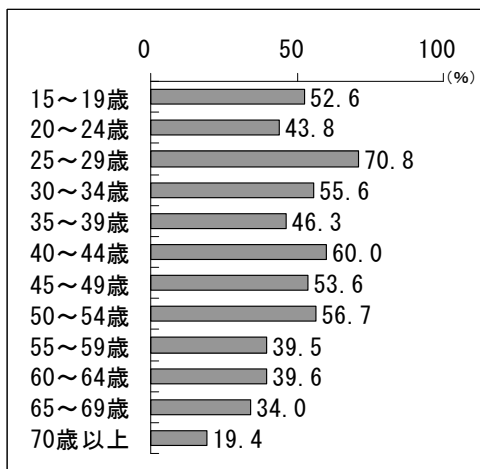
・性別



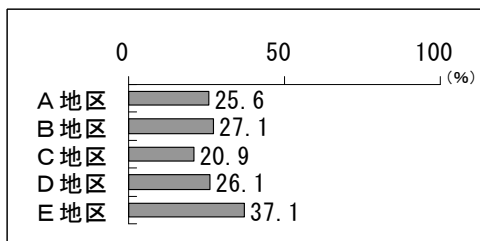
・男性×年齢別



・女性×年齢別

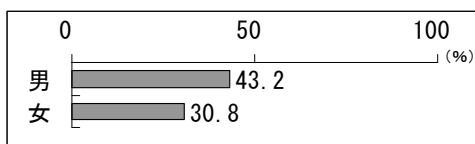


・居住地区別

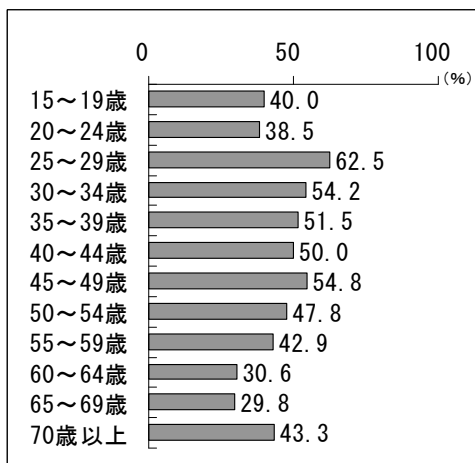


□長時間労働の削減、心身の健全化

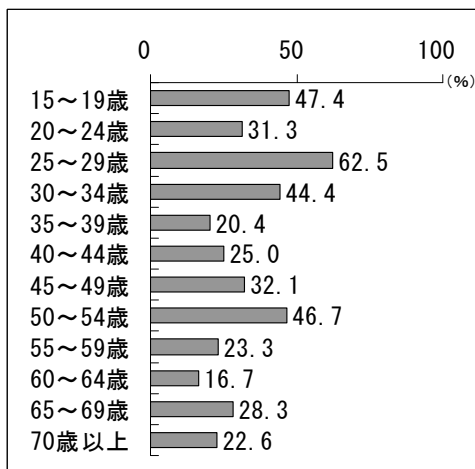
・性別



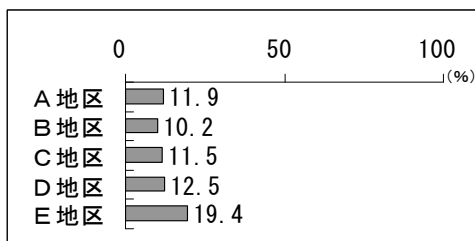
・男性×年齢別



・女性×年齢別



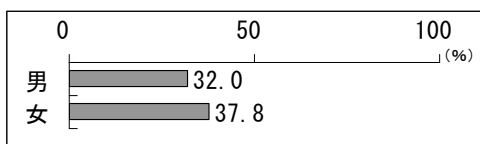
・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

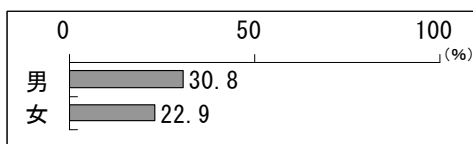
□家事・育児・介護などの家庭責任の役割の明確化と負担の軽減

・性別

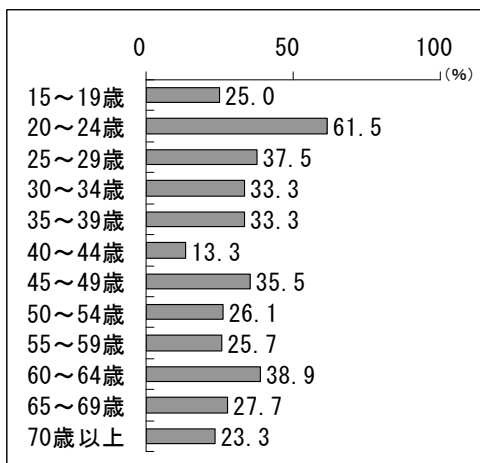


□自己啓発や趣味の時間など個人の時間の増加

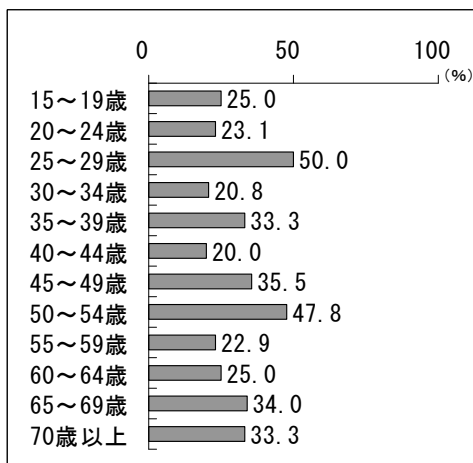
・性別



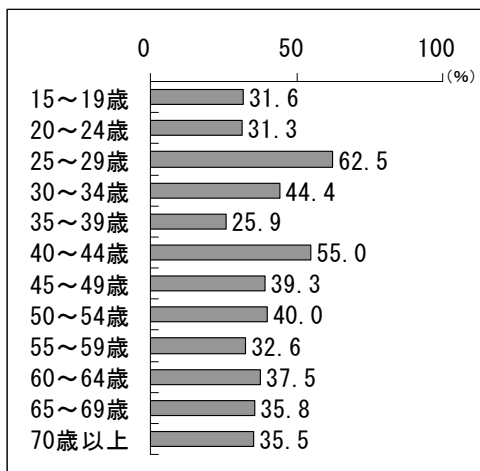
・男性×年齢別



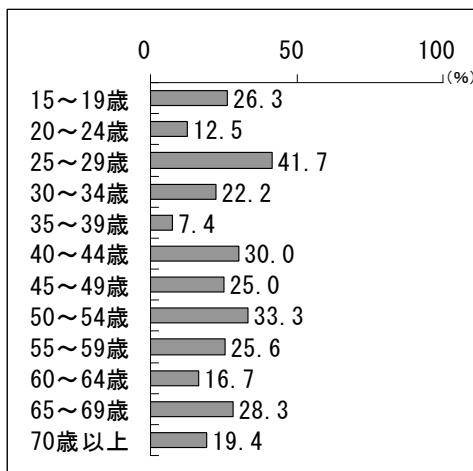
・男性×年齢別



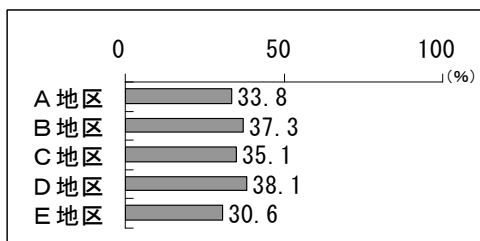
・女性×年齢別



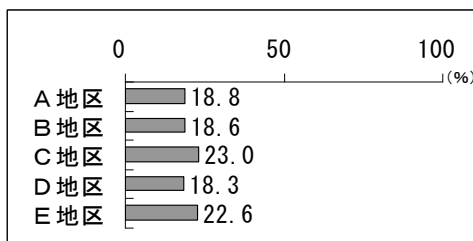
・女性×年齢別



・居住地区別



・居住地区別

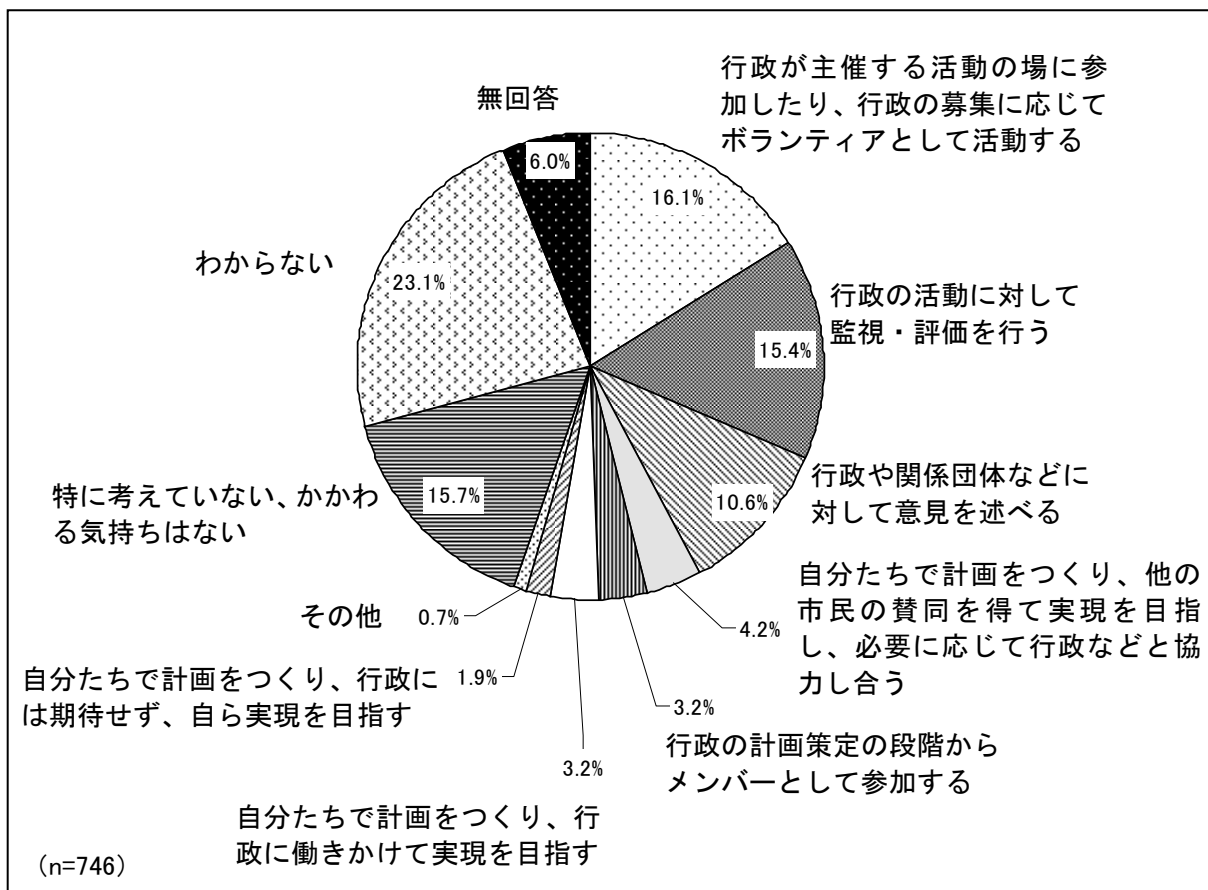


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(20) 市民参加

問43 よりよい社会の実現のために、あなたは今後、どのようなかたちで行政にかかわっていきたいと思いますか。

◆今後の行政への関わり方：「行政が主催する活動の場に参加したり、行政の募集に応じてボランティアとして活動する」が16%、「行政の活動に対して監視・評価を行う」が15%



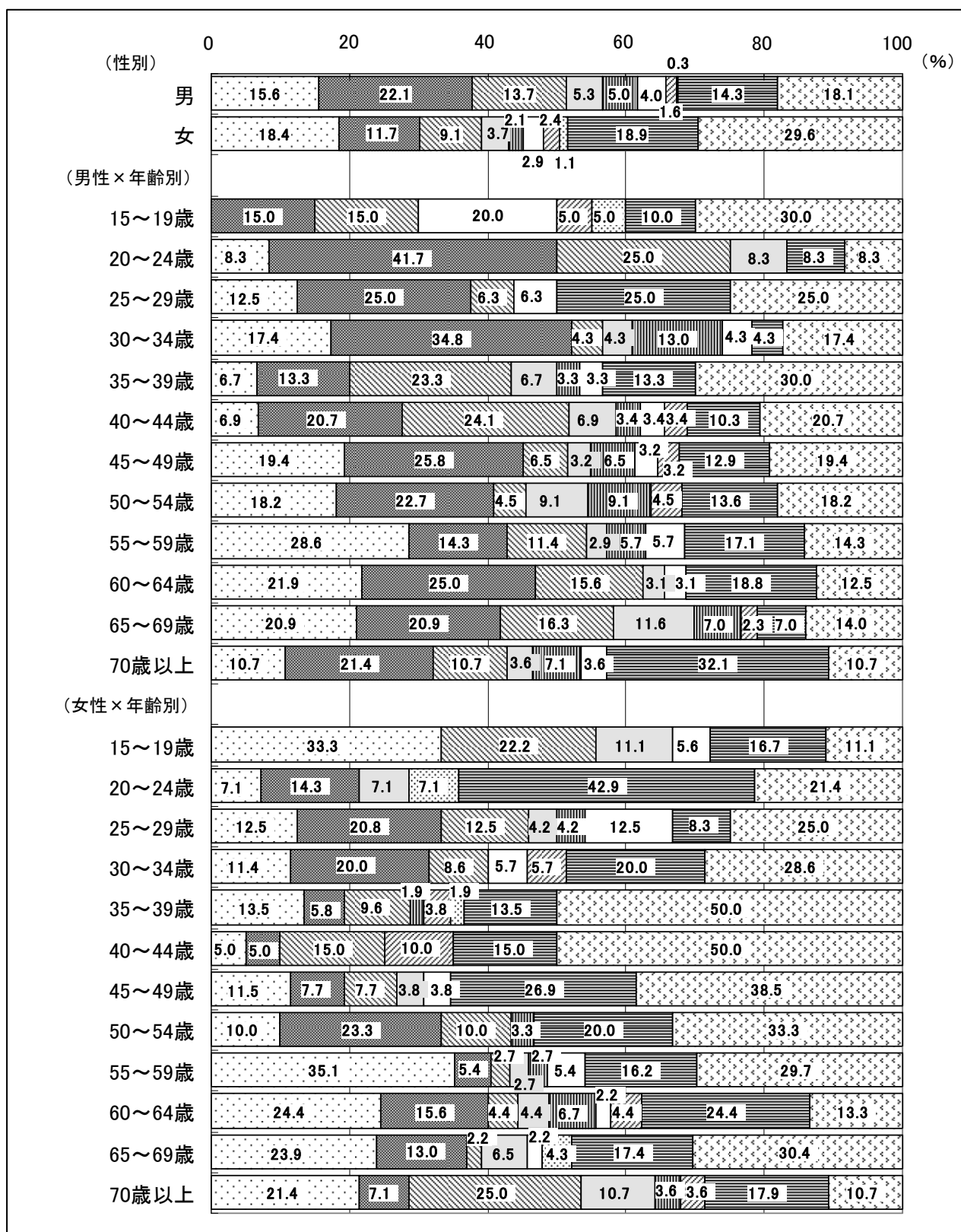
今後の行政への関わり方について、「行政が主催する活動の場に参加したり、行政の募集に応じてボランティアとして活動する」が16.1%、「行政の活動に対して監視・評価を行う」が15.4%となっている。また、「わからない」が23.1%、「特に考えていない、かかわる気持ちはない」が15.7%と高い割合を示している。

男性では、「行政や関係団体などに対して意見を述べる」、「行政の活動に対して監視・評価を行う」等の割合が高く、女性では、「特に考えていない、かかわる気持ちはない」等の割合が高くなっている。

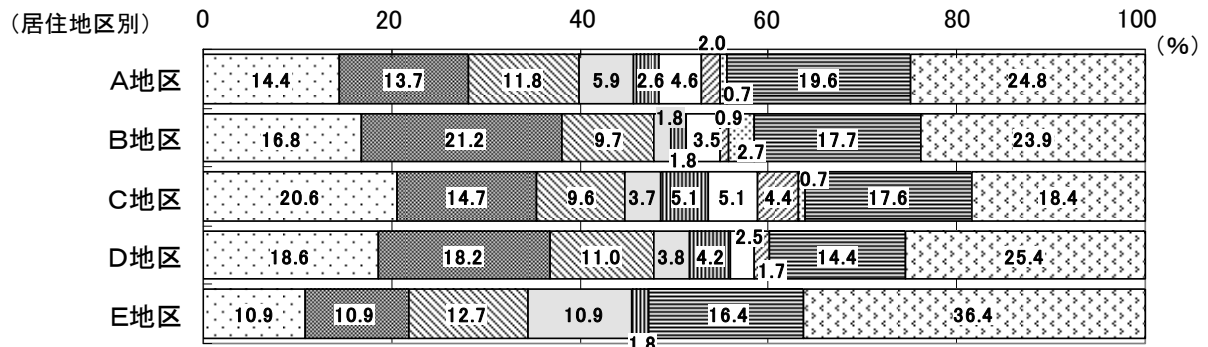
特に、男性の20～24歳では「行政の活動に対して監視・評価を行う」が41.7%、女性の20～24歳では「特に考えていない、かかわる気持ちはない」が42.9%、35～39歳、40～44歳では「わからない」が50.0%と比較的高い割合を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住地区別







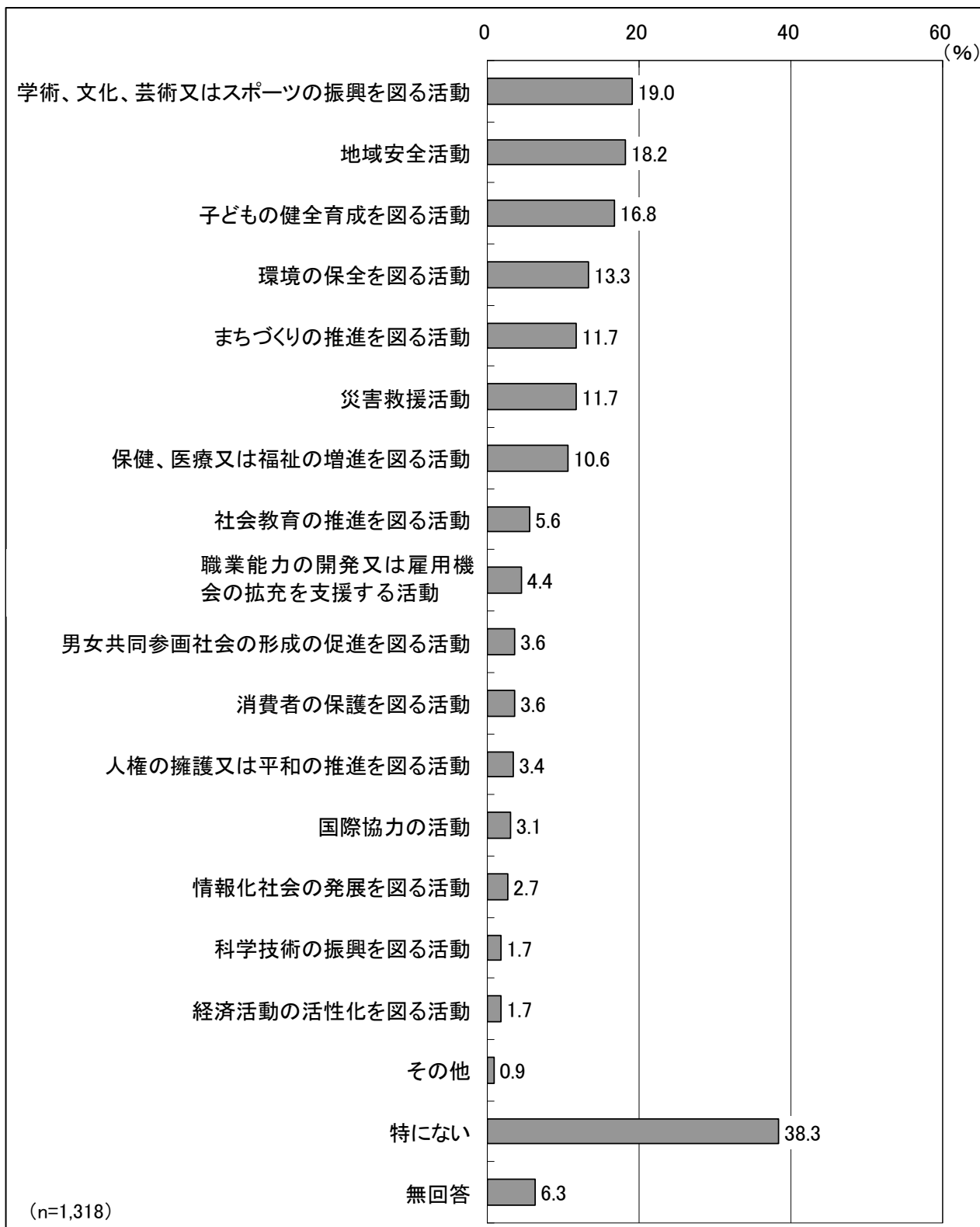
注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

- 行政が主催する活動の場に参加したり、行政の募集に応じてボランティアとして活動する
- 行政の活動に対して監視・評価を行う
- 行政や関係団体などに対して意見を述べる
- 自分たちで計画をつくり、他の市民の賛同を得て実現を目指し、必要に応じて行政などと協力し合う
- 行政の計画策定の段階からメンバーとして参加する
- 自分たちで計画をつくり、行政に働きかけて実現を目指す
- 自分たちで計画をつくり、行政には期待せず、自ら実現を目指す
- その他
- 特に考えていない、かかわる気持ちはない
- わからない

(21) 市民協働

問 44 次あげる活動の中で、あなたが参加していること、または参加が可能なものは何ですか。(複数回答)

◆参加している・参加可能な活動:「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」が19%、「地域安全活動」が18%、「子どもの健全育成を図る活動」が17%



市民協働の参加意向として、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」が19.0%、「地域安全活動」が18.2%、「子どもの健全育成を図る活動」が16.8%となっている。また、「特にない」が38.3%と高い割合を示している。

「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」については、男性が女性を約6%上回り、男性の15～19歳、25～29歳、70歳以上で30%以上を示している。また、居住地区別では、A地区で20%以上を示している。

「地域安全活動」については、男性が女性を約5%上回り、男性の30～34歳、55～59歳、65～69歳で30%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、C地区で20%以上を示している。

「子どもの健全育成を図る活動」については、女性が男性を5%上回り、男性の50～54歳、女性の25～29歳、40～44歳、45～49歳、55～59歳で25%以上を示している。また、居住地区別では、A地区で20%以上を示している。

「環境の保全を図る活動」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の55～59歳、女性の25～29歳で25%以上を示している。居住地区別ではC地区で15%以上を示している。

「まちづくりの推進を図る活動」では、男性が女性を約7%上回り、男性の30～34歳、65～69歳、70歳以上、女性の15～19歳で20%以上を示している。居住地区別では、A地区、B地区、C地区で10%以上を示している。

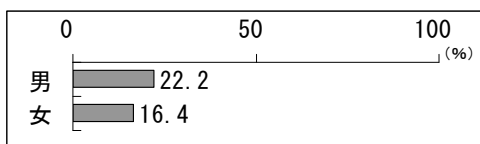
「災害救助活動」については、男性が女性を約8%上回り、男性の30～34歳で40%以上を示している。居住地区別では、A地区、C地区で10%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

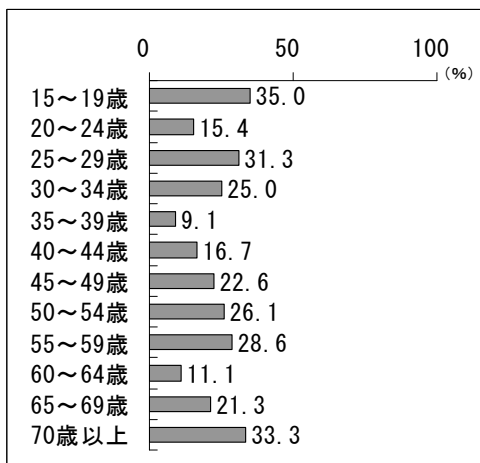
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目） ※「特になし」を除く

□学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

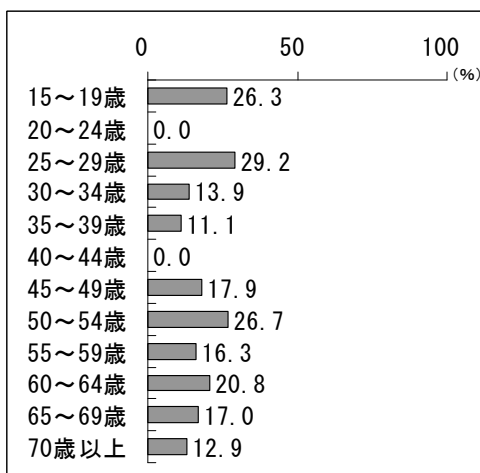
・性別



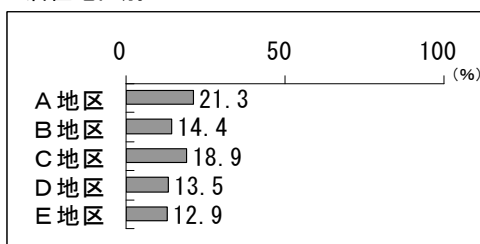
・男性×年齢別



・女性×年齢別

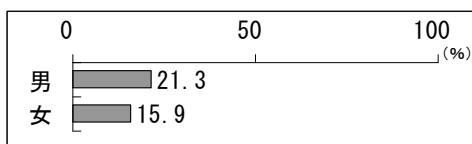


・居住地区別

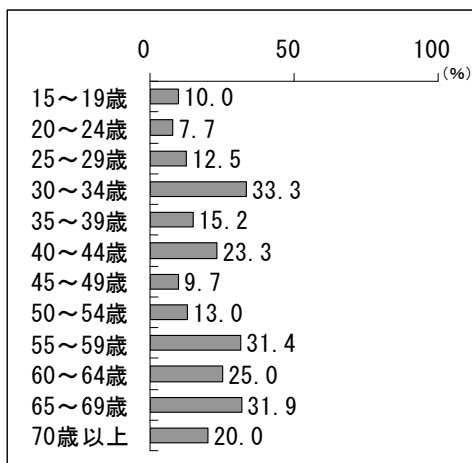


□地域安全活動

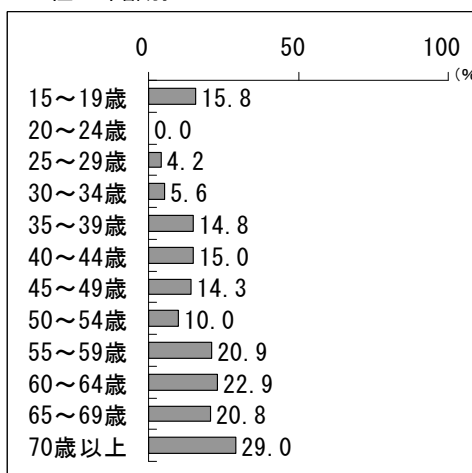
・性別



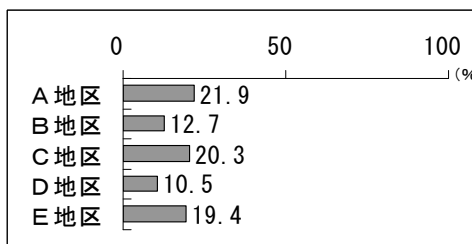
・男性×年齢別



・女性×年齢別



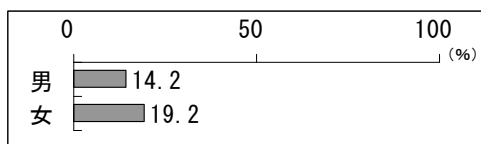
・居住地区別



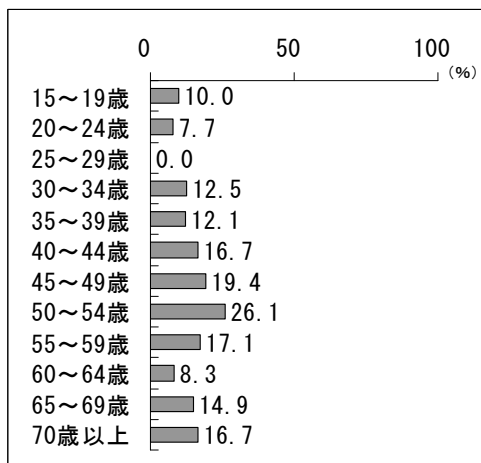
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□子どもの健全育成を図る活動

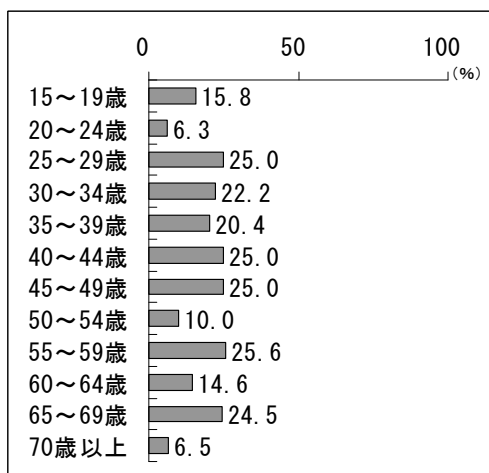
・性別



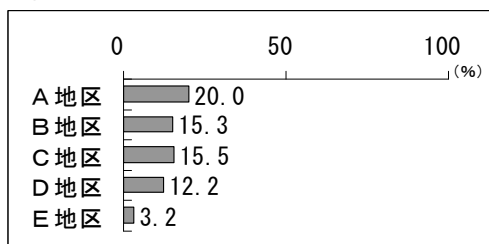
・男性×年齢別



・女性×年齢別

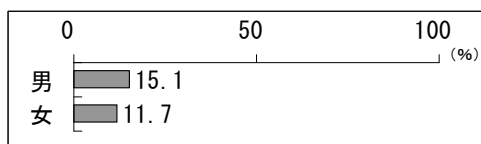


・居住地区別

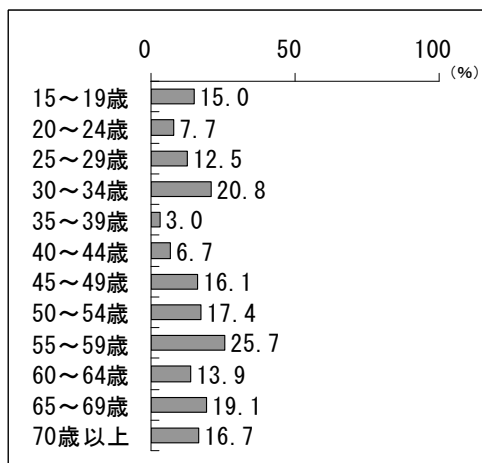


□環境の保全を図る活動

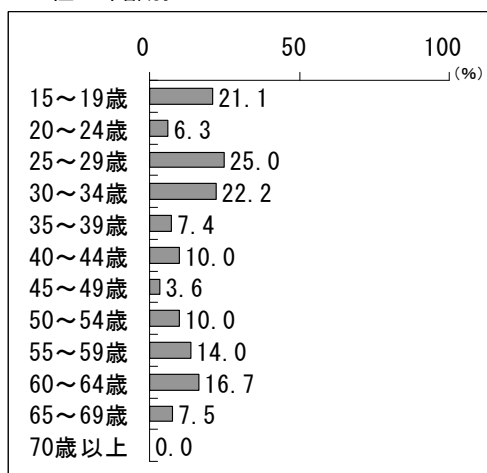
・性別



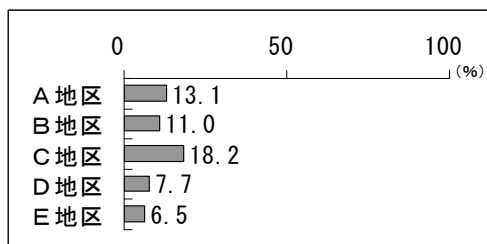
・男性×年齢別



・女性×年齢別



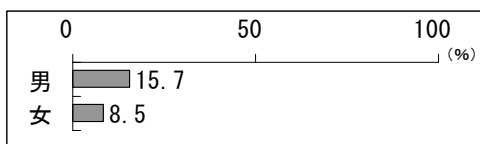
・居住地区別



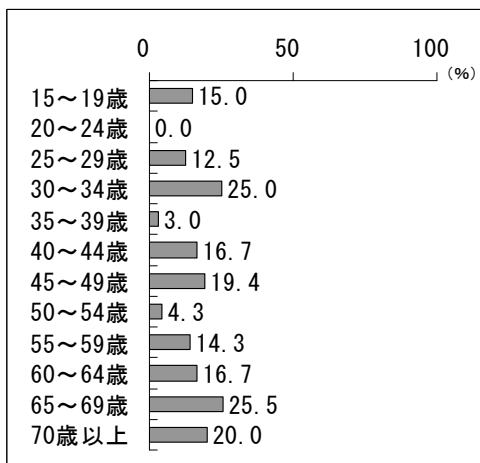
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□まちづくりの推進を図る活動

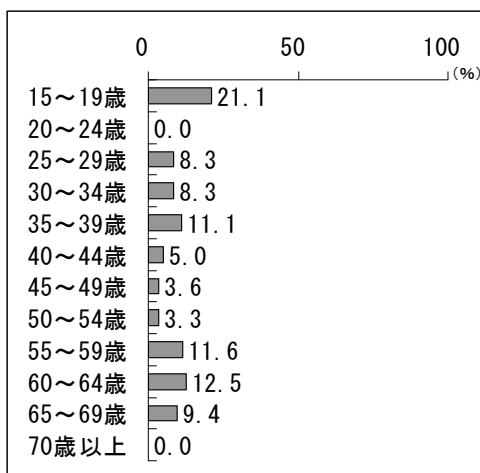
・性別



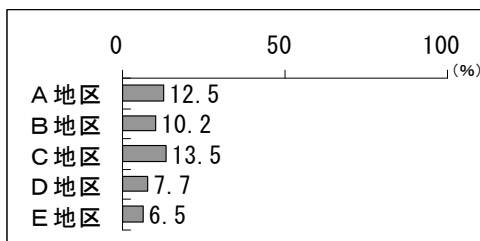
・男性×年齢別



・女性×年齢別

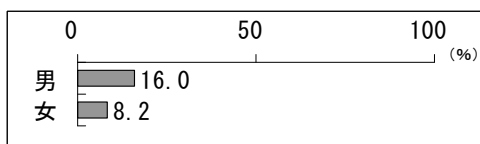


・居住地区別

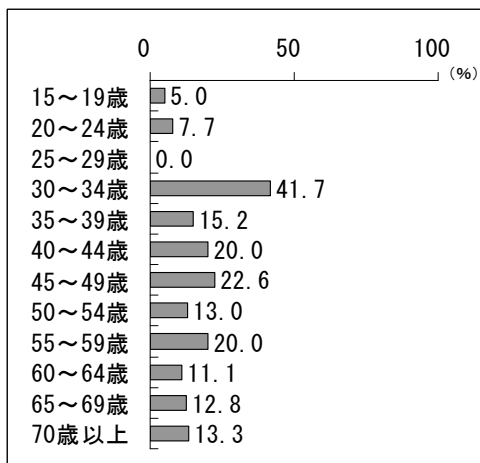


□災害救助活動

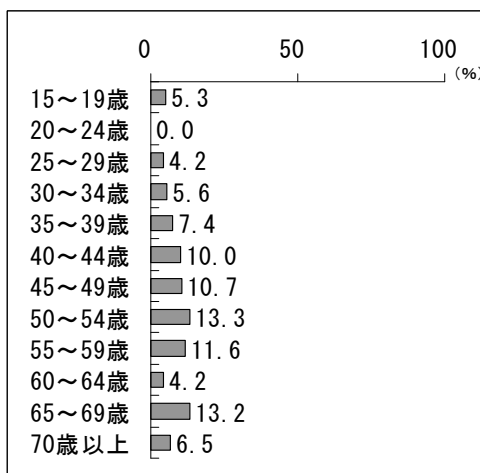
・性別



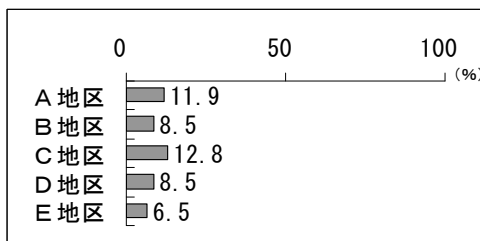
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

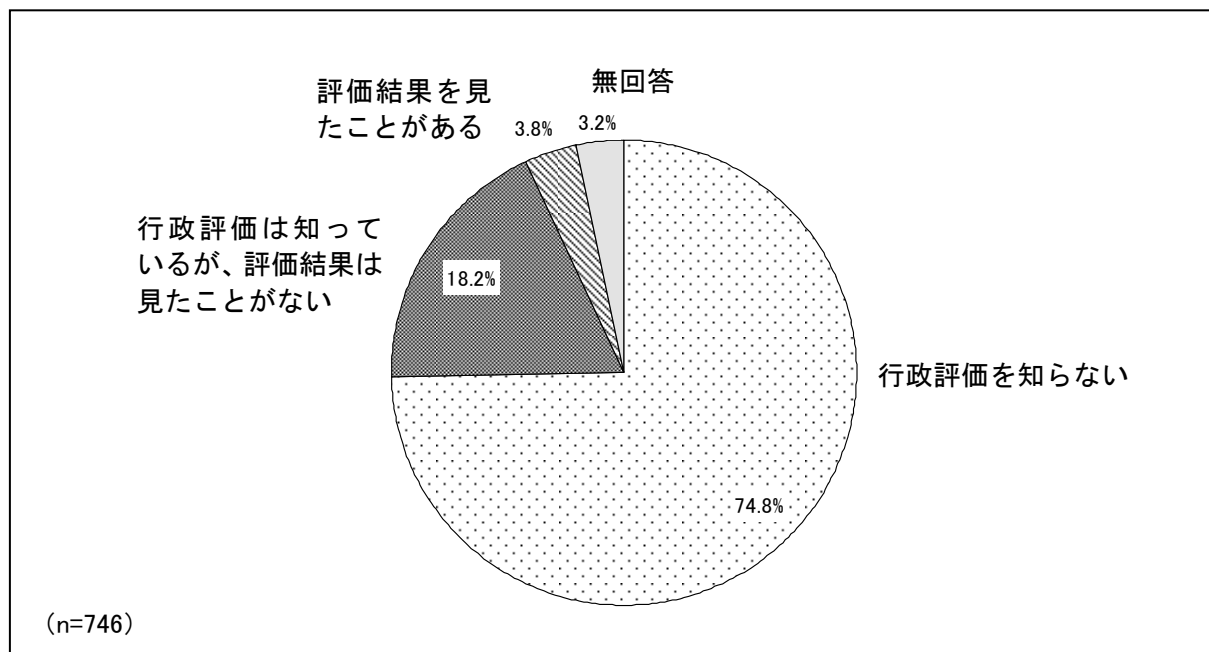


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (22) 行政評価

問 45 市では、平成 14 年度から行政評価制度を試行・導入しています。行政の評価の結果はホームページ、図書館などで公表されていますが、あなたは見たことがありますか。

◆行政評価について：「行政評価を知らない」が 75%



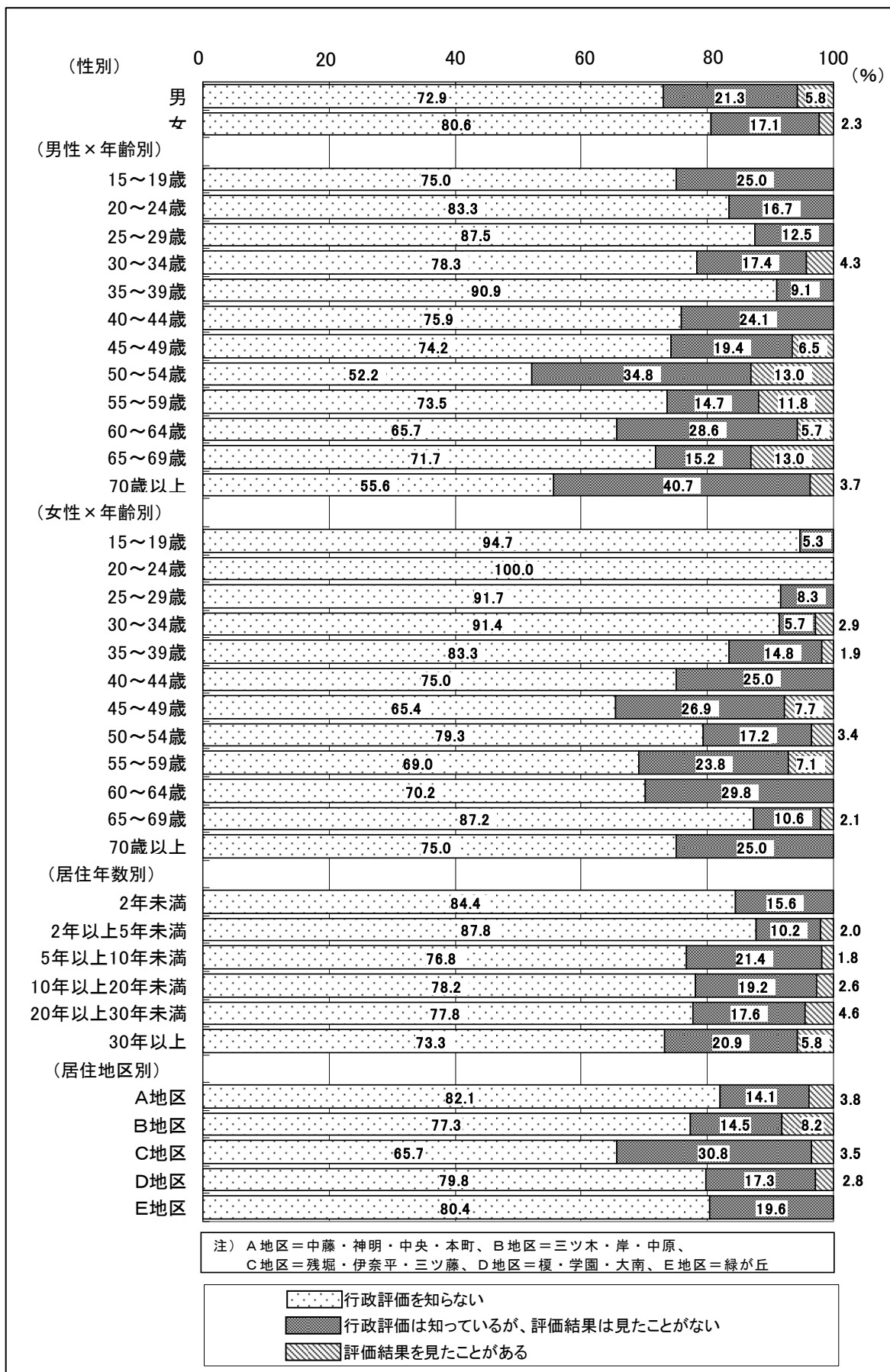
行政評価について、「行政評価を知らない」が 74.8%を占めており、行政評価の認知度は極めて低い結果となっている。また、「評価結果を見たことがある」は 3.8%となっている。

男性・女性ともに「行政評価を知らない」が 70%以上を示しており、女性が男性を約 8%上回り、男性の方が認知度が高くなっている。特に、男性の 35～39 歳、女性の 15～19 歳、20～24 歳、25～29 歳、30～34 歳では 90%以上を示している。

また、居住年数では、いずれの年数においても「行政評価を知らない」が 70%以上を示している。居住地区別では、A 地区、B 地区、D 地区、E 地区で「行政評価を知らない」が 75%以上を示している。

注) A 地区＝中藤・神明・中央・本町、B 地区＝三ツ木・岸・中原、  
C 地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D 地区＝榎・学園・大南、E 地区＝緑が丘

■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別

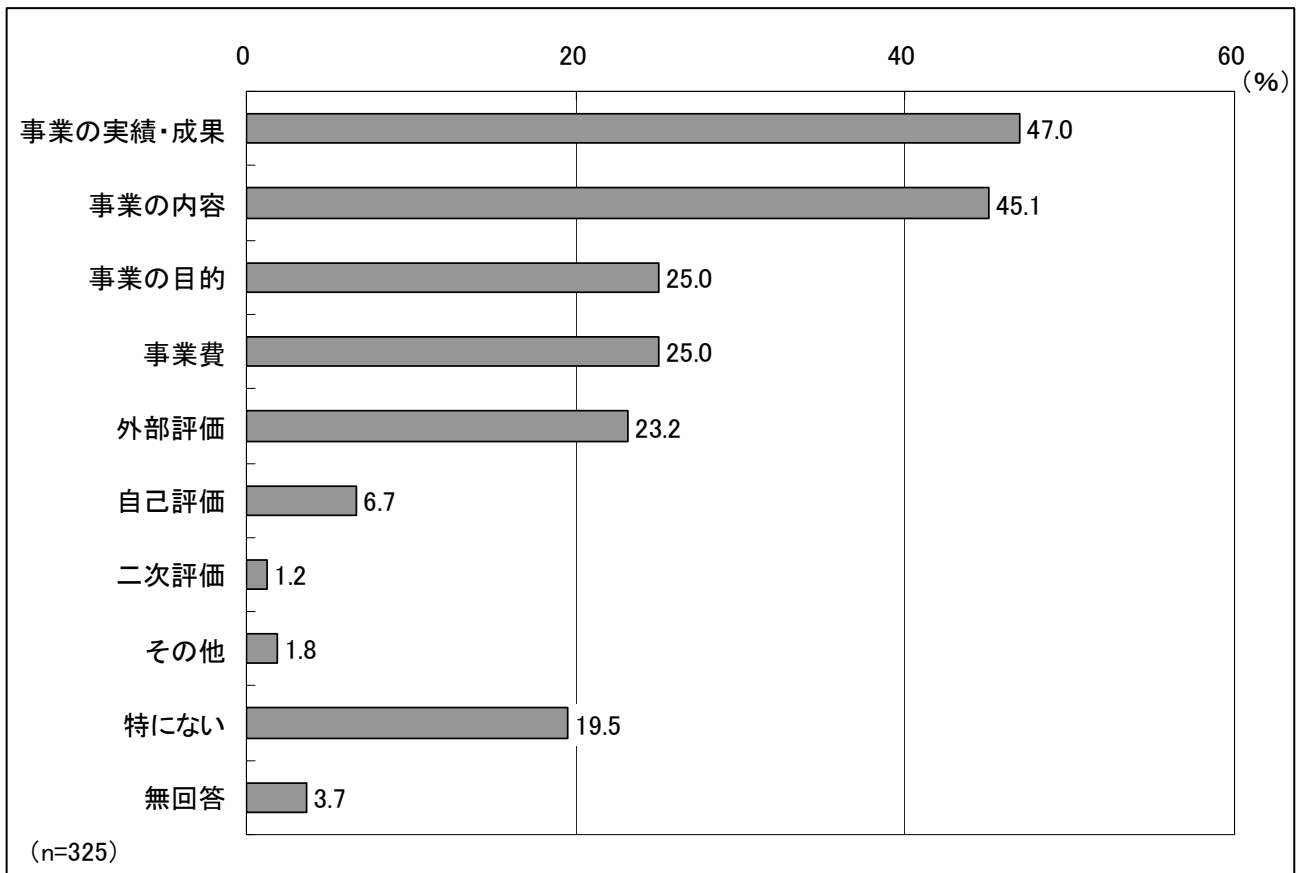




(問45で「1」、「2」とお答えの方に)

問46 行政評価制度において注目する項目は何ですか。(2つまで回答)

◆行政評価において注目する項目：「事業の実績・成果」が47%、「事業の内容」が45%



行政評価制度において注目する項目として、「事業の実績・成果」が47.0%と最も多く、次いで「事業の内容」が45.1%となっている。

「事業の実績・成果」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳、70歳以上、女性の30～34歳、65～69歳で65%以上を示している。また、居住年数別では、2年未満が70%以上を示している。居住地区別では、C地区で25%以上を示している。

「事業の内容」については、女性が男性を約5%上回り、男性の15～19歳、女性の25～29歳、40～44歳、65～69歳で80%以上を示している。特に、女性の25～29歳、40～44歳では、100%となっている。また、居住年数別では、2年未満、10年以上20年未満が55%以上を示している。居住地区別では、C地区で20%以上を示している。

「事業の目的」については、男性が女性を約14%上回り、男性の40～44歳、女性の70歳以上で55%以上を示している。居住年数別では、2年以上5年未満、30年以上が30%以上を示している。居住地区別では、C地区で15%以上を示している。

「事業費」については、女性が男性を5.5%上回り、男性の35～39歳、女性の25～29歳、30～34歳、50～54歳で65%以上を示している。特に女性の25～29歳では100%となっている。居住年数別では、2年以上5年未満で30%以上を示している。居住地区別では、C地区で10%以上を示している。

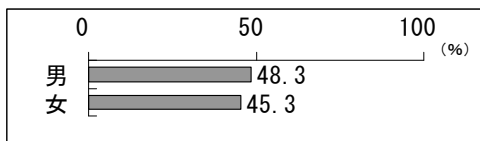
「外部評価」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、25～29歳、女性の25～29歳、40～44歳で50%以上を示している。特に女性の25～29歳では100%となっている。また、居住年数別では、2年未満が70%以上と突出した値となっている。居住地区別では、C地区が10%以上を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

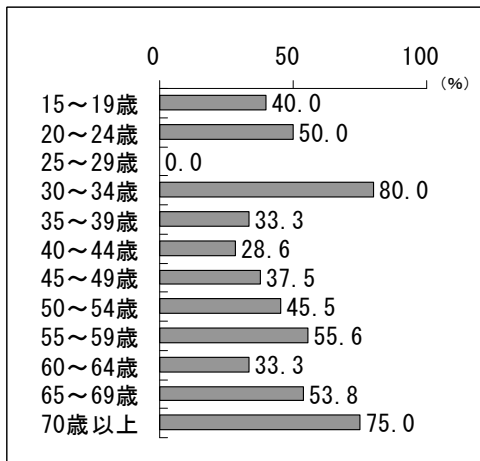
■性別／性別・年齢別／居住年数別／居住地区別（上位5項目）

□事業の実績・成果

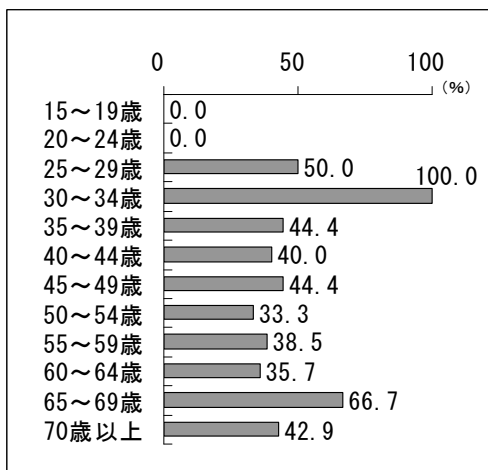
・性別



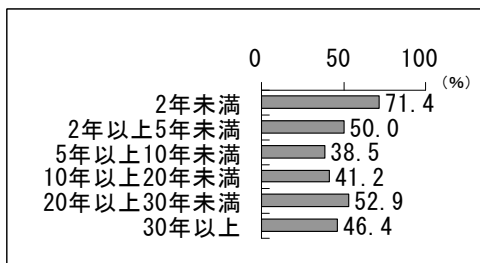
・男性×年齢別



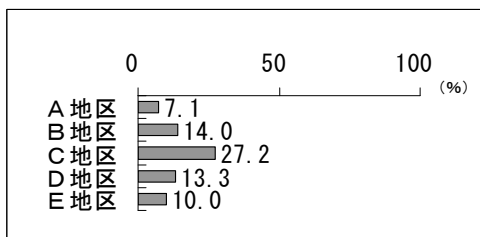
・女性×年齢別



・居住年数別

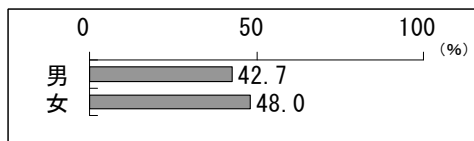


・居住地区別

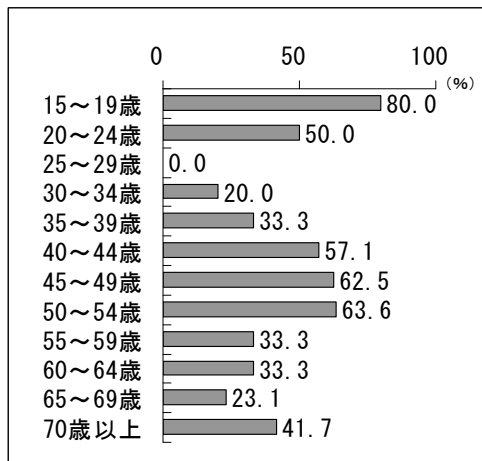


□事業の内容

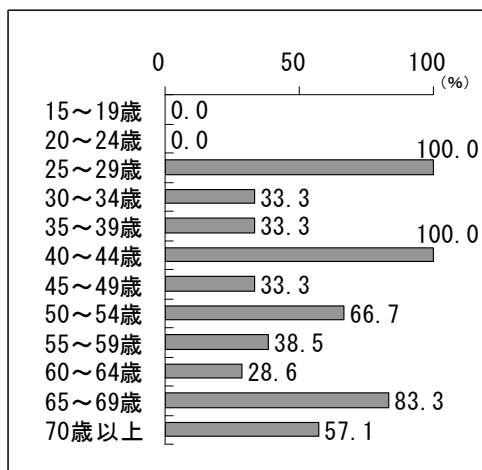
・性別



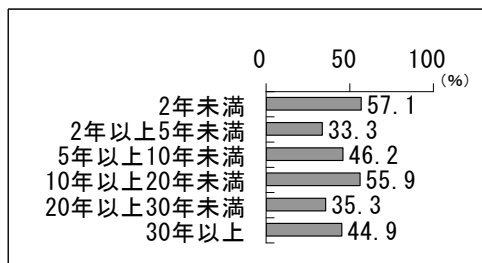
・男性×年齢別



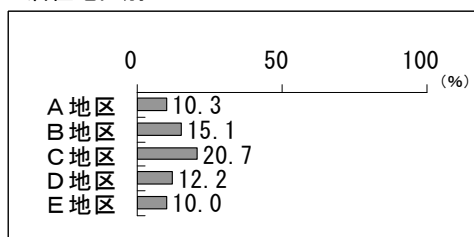
・女性×年齢別



・居住年数別



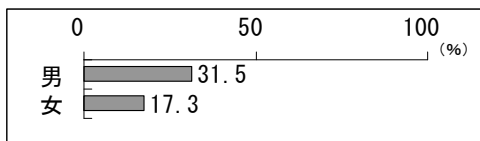
・居住地区別



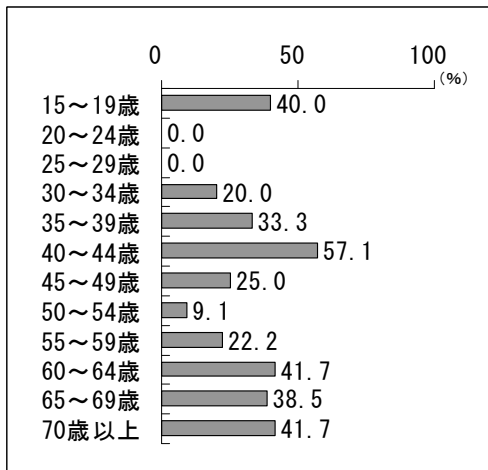
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□事業の目的

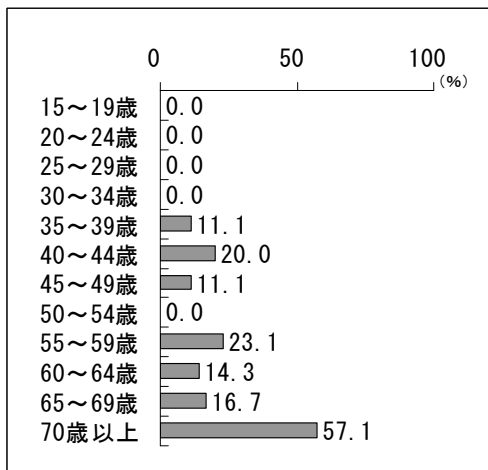
・性別



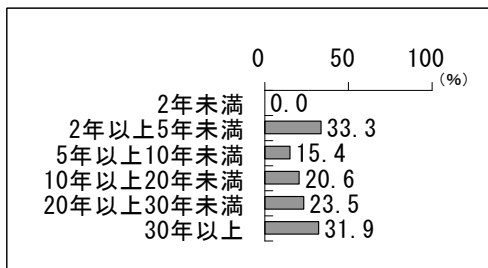
・男性×年齢別



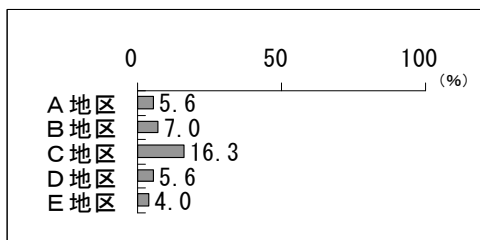
・女性×年齢別



・居住年数別

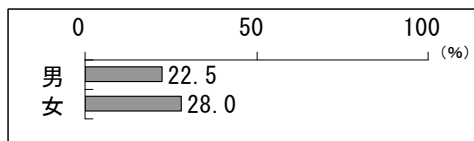


・居住地区別

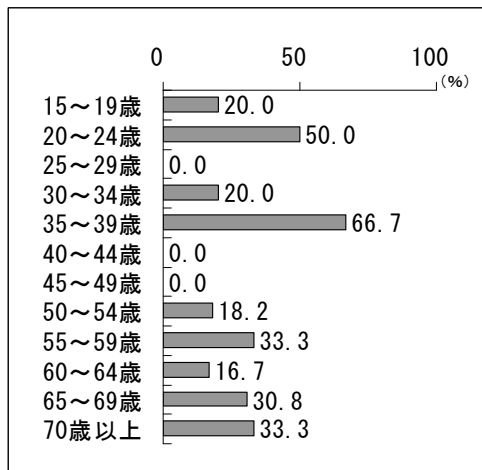


□事業費

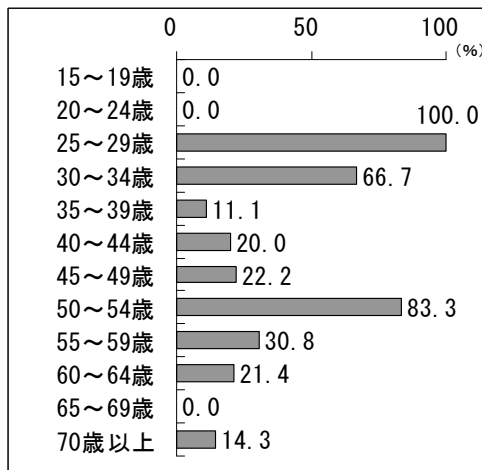
・性別



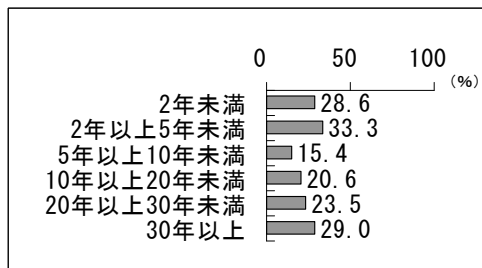
・男性×年齢別



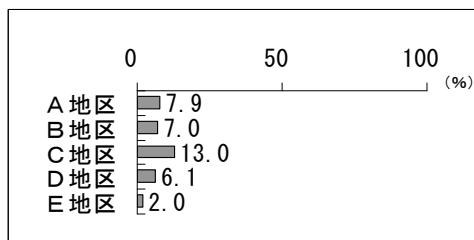
・女性×年齢別



・居住年数別



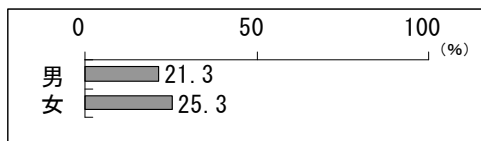
・居住地区別



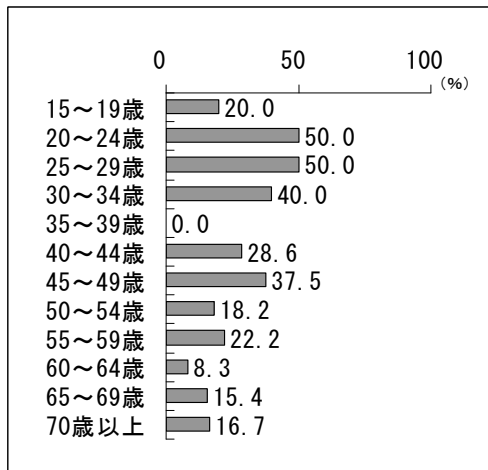
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□外部評価

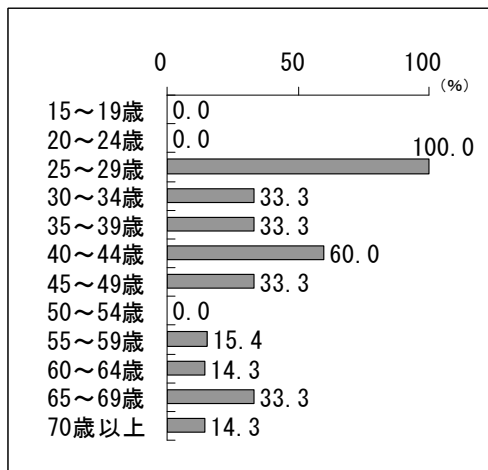
・性別



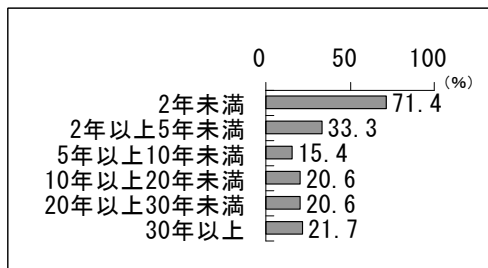
・男性×年齢別



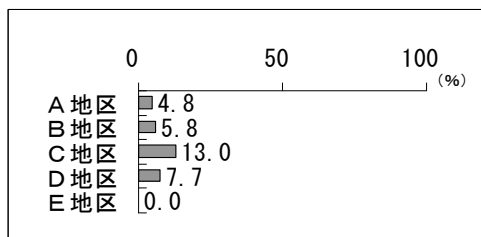
・女性×年齢別



・居住年数別



・居住地区別

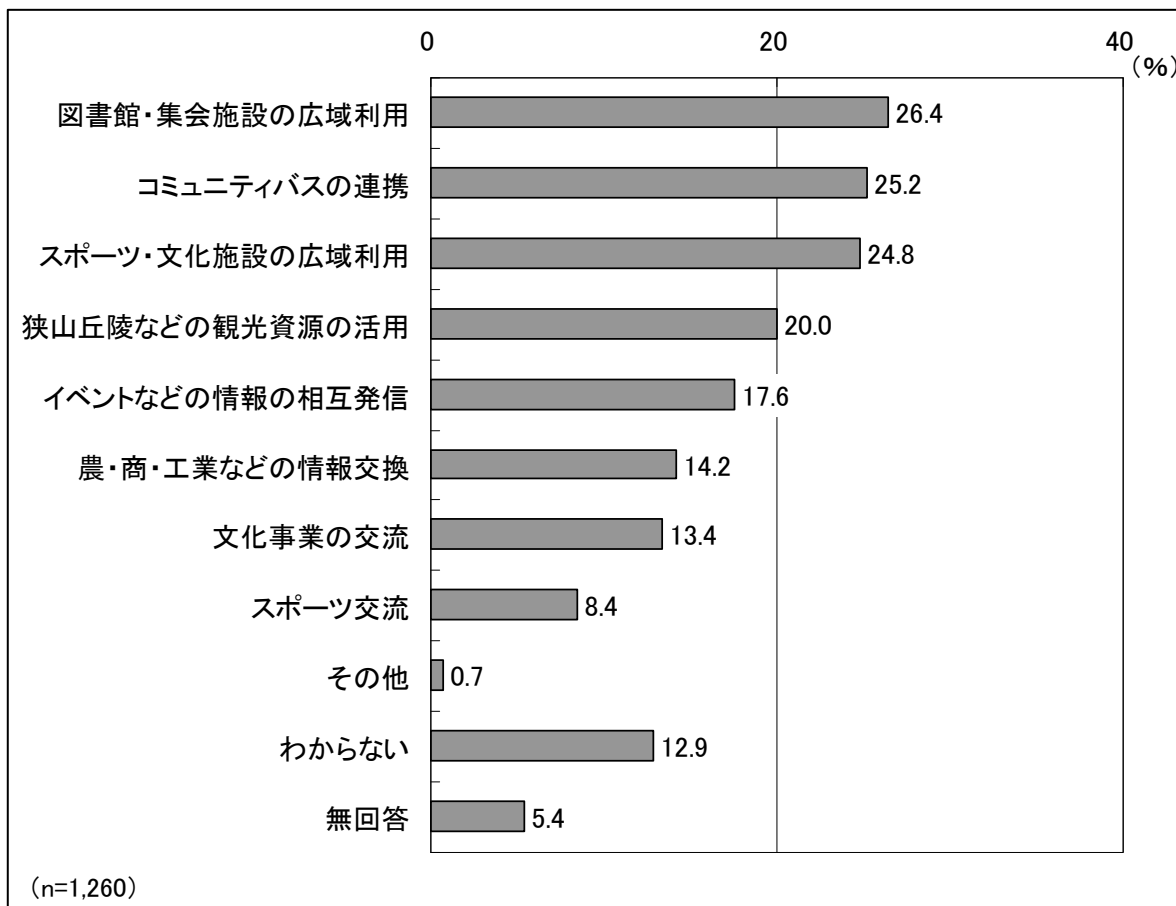


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(23) 広域行政

問47 現在、市では消防、ゴミ、病院、斎場など、周辺の自治体と相互に協力して行政サービスの提供を行う「広域行政」が進められています。今後、広域行政でどのような事業を行うべきだと思いますか。(2つまで回答)

◆広域行政で行うべき事業：「図書館・集会施設の広域利用」が26%、「コミュニティバスの連携」、「スポーツ・文化施設の広域利用」が25%



広域行政で行うべき事業について、「図書館・集会施設の広域利用」が26.4%、「コミュニティバスの連携」が25.2%、「スポーツ・文化施設の広域利用」が24.8%となっている。

「図書館・集会施設の広域利用」については、女性が男性を約5%上回り、男性の20～24歳、女性の15～19歳で30%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も概ね20～30%となっている。

「コミュニティバスの連携」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、30～34歳、女性の25～29歳で30%以上を示している。また、居住地区別では、D地区で30%以上を示している。

「スポーツ・文化施設の広域利用」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳、女性の45～49歳で25%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で20%以上を示している。

「狭山丘陵などの観光資源の活用」については、男性が女性を約5%上回り、男性の20～24歳、65～69歳で20%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も15～25%を示している。

「イベントなどの情報の相互発信」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の15～19歳、25～29歳で20%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね10～20%を示している。

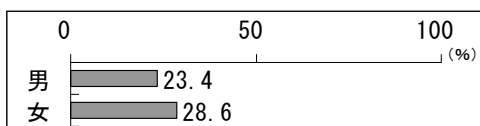
「農・商・工業などの情報交換」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の15～19歳、30～34歳で15%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね10～20%を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

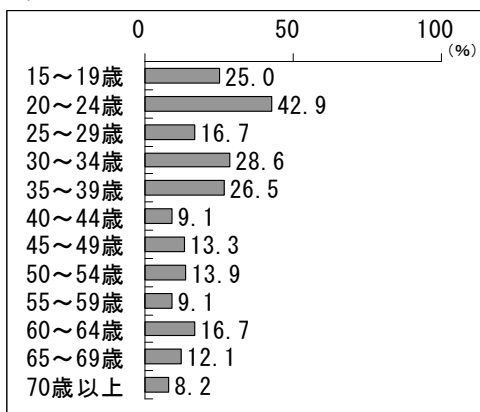
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□図書館・集会施設の広域利用

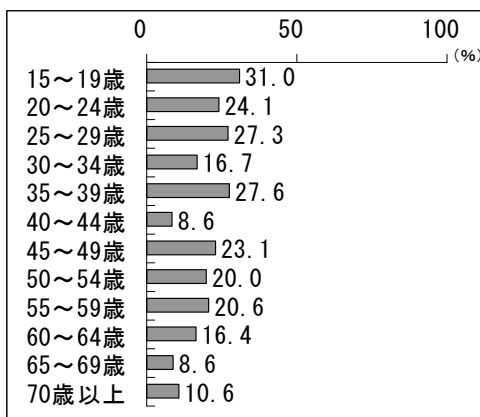
・性別



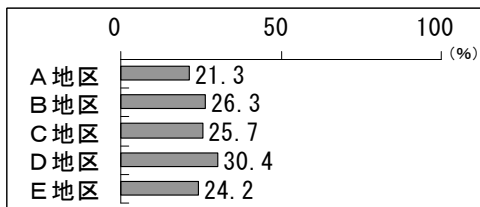
・男性×年齢別



・女性×年齢別

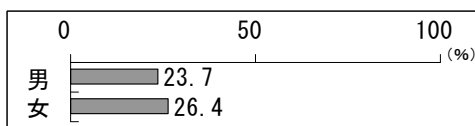


・居住地区別

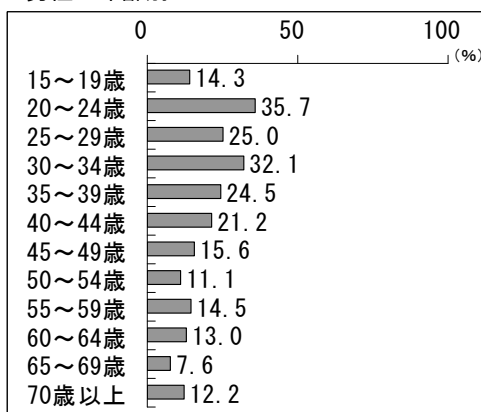


□コミュニティバスの連携

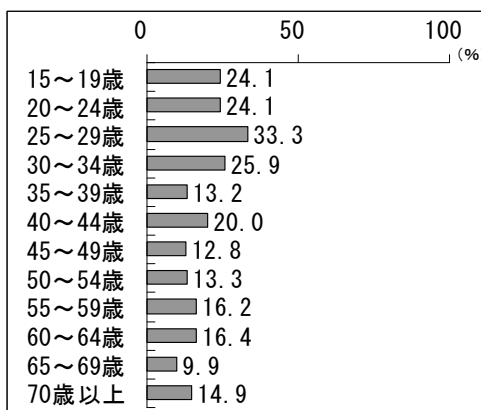
・性別



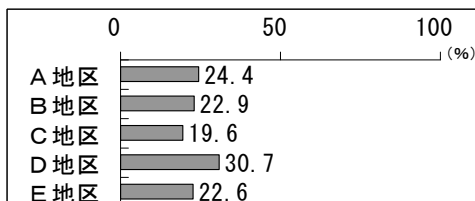
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

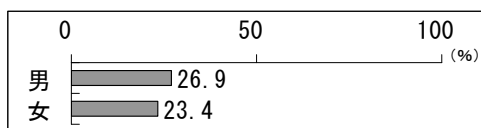


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

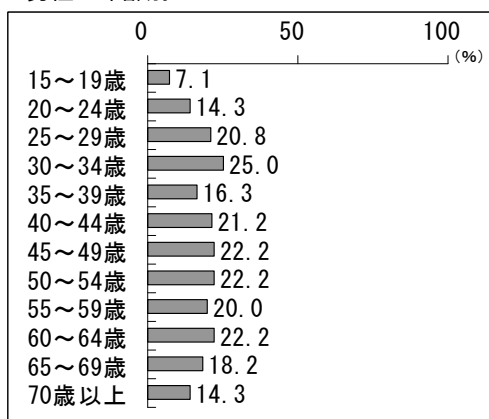


□スポーツ・文化施設の広域利用

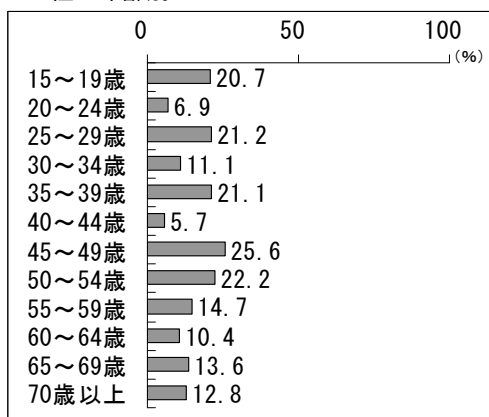
・性別



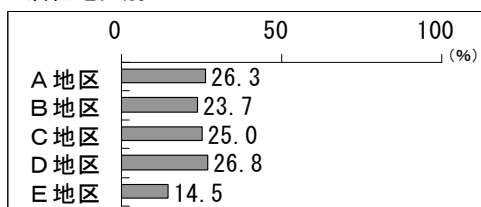
・男性×年齢別



・女性×年齢別

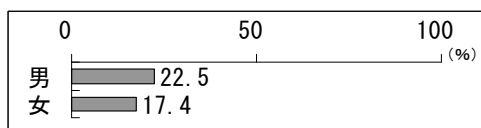


・居住地区別

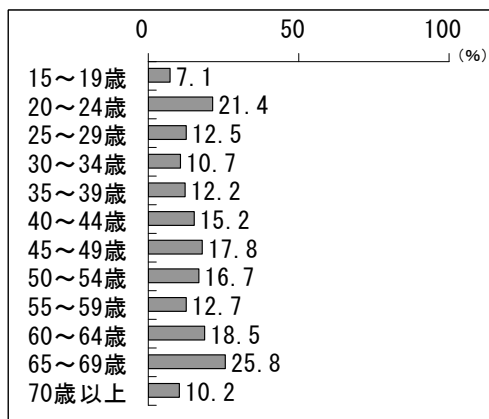


□狭山丘陵などの観光資源の活用

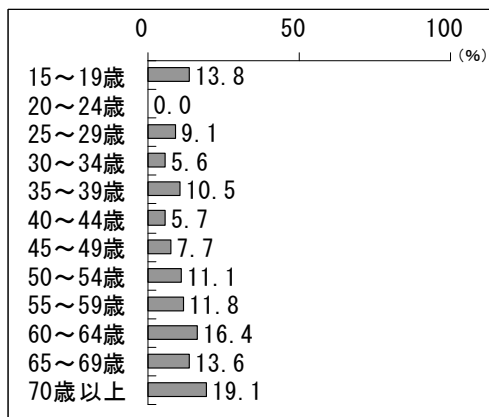
・性別



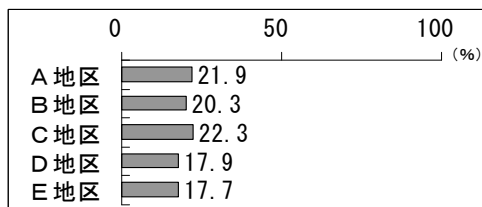
・男性×年齢別



・女性×年齢別



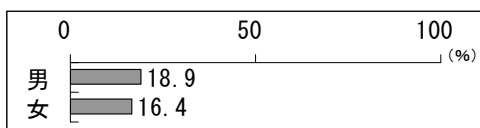
・居住地区別



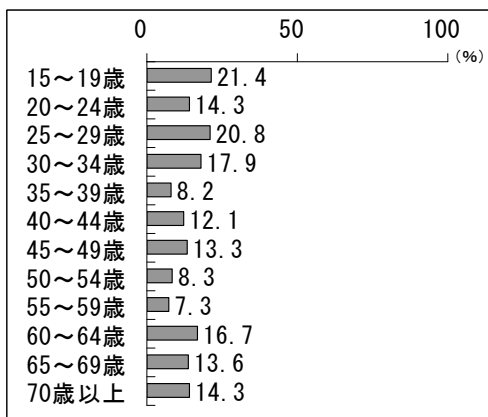
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□イベントなどの情報の相互発信

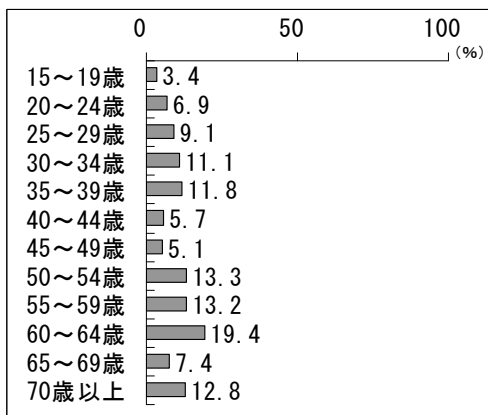
・性別



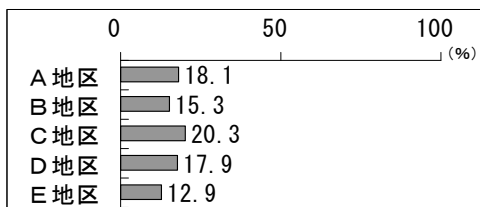
・男性×年齢別



・女性×年齢別

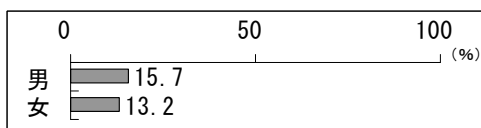


・居住地区別

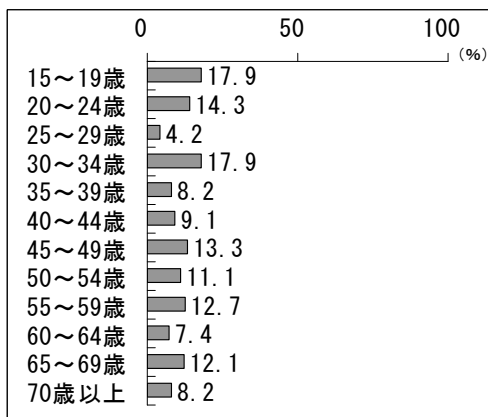


□農・商・工業などの情報交換

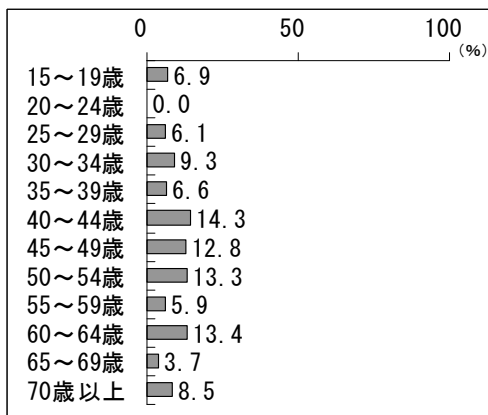
・性別



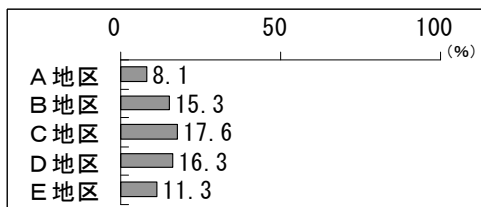
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

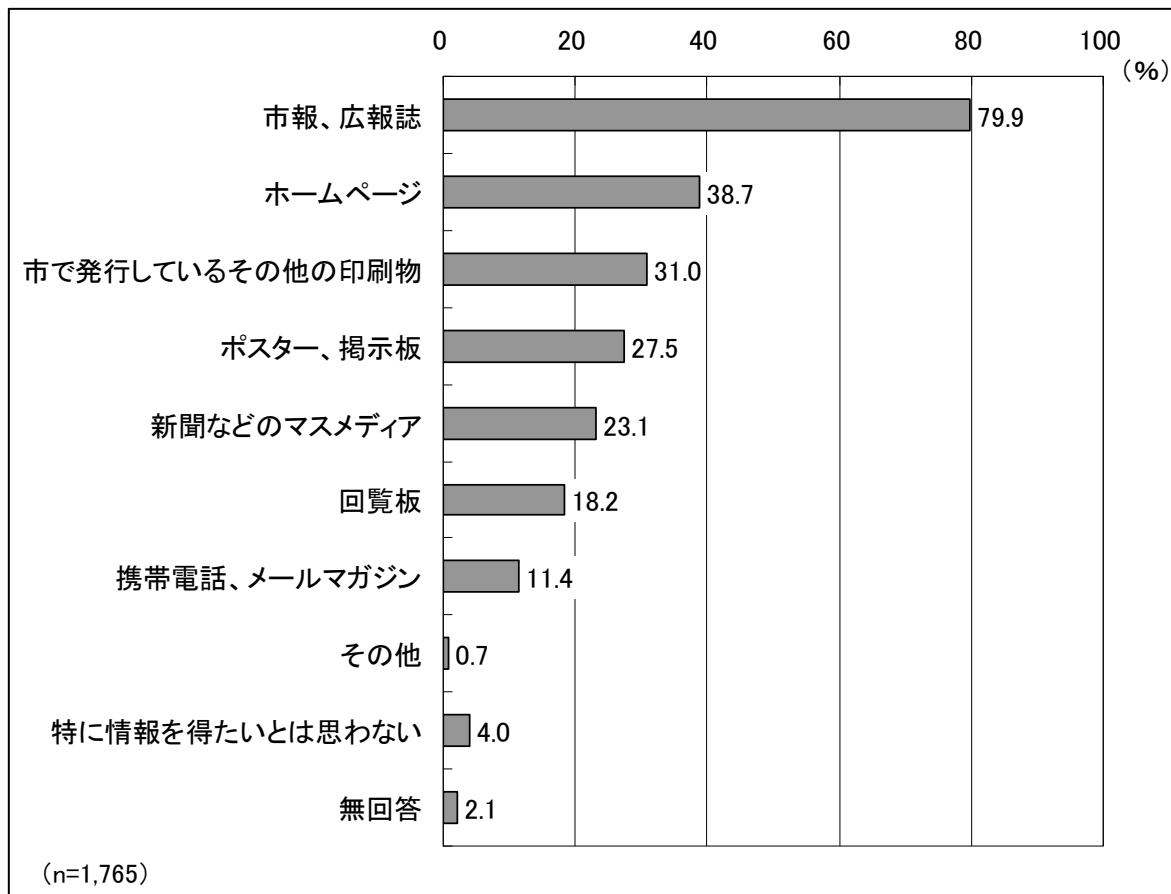


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (24) 情報公開

問 48 あなたは、市に関する情報公開について、今後どのような手段による情報公開のサービスの充実を求めますか。(複数回答)

◆情報公開のサービスの充実について：「市報・広報誌」が80%



情報公開のサービスの充実について、「市報・広報誌」が79.9%と最も多くなっており、次いで「ホームページ」が38.7%、「市で発行しているその他の印刷物」が31.0%、となっている。

「市報、広報誌」については、女性が男性を約8%上回っており、ほとんどの年齢で50%以上の割合を示している。特に、男性の60～64歳、65～69歳、女性の40～44歳、45～49歳、50～54歳では90%以上を示している。また、居住地区別では、いずれの地区も70%以上を示している。

「ホームページ」については、男性が女性を約10%上回り、男性の25～29歳、35～39歳で65%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で35%以上を示しているが、E地区については15%以下を示している。

「市で発行しているその他の印刷物」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の65～69歳、女性の70歳以上で45%以上を示している。また、居住地区別では、C地区で15%以上を示している。

「ポスター、掲示板」については、女性が男性を約9%上回っており、女性の25～29歳、40～44歳、70歳以上で40%以上を示している。居住地区別では、E地区で30%以上を示している。

「新聞などのマスメディア」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の15～19歳、20～24歳、70歳以上、女性の25～29歳で35%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も概ね20～30%を示している。

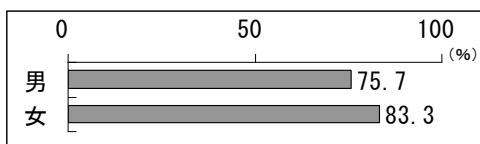
「回覧板」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の30～34歳、60～64歳、女性の55～59歳、65～69歳、70歳以上で25%以上を示している。居住地区別では、いずれの地区も20～30%を示している。

注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

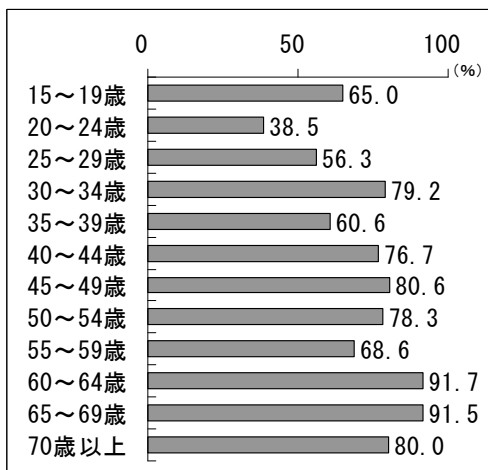
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位6項目）

□市報、広報誌

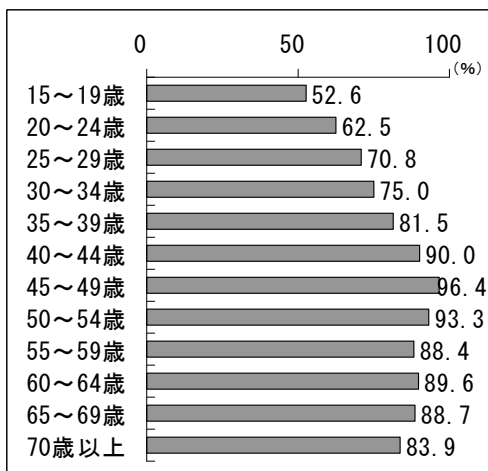
・性別



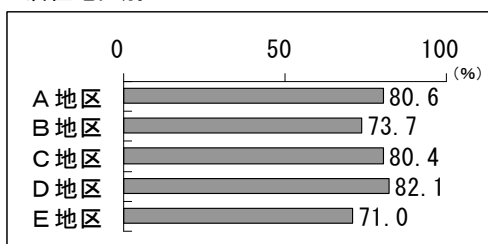
・男性×年齢別



・女性×年齢別

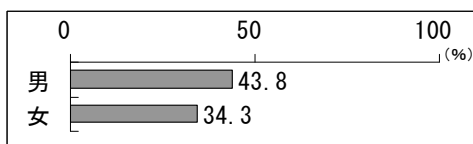


・居住地区別

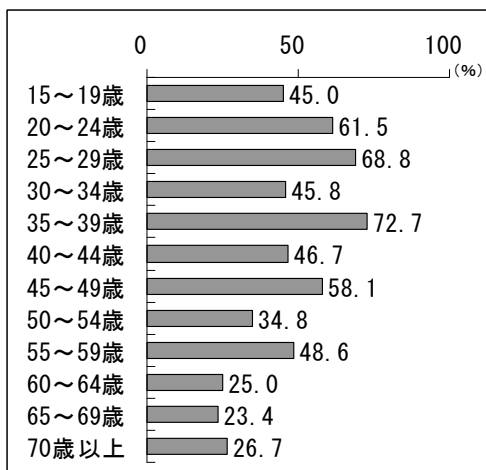


□ホームページ

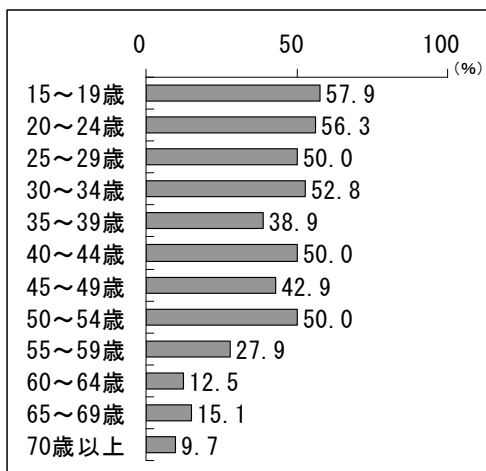
・性別



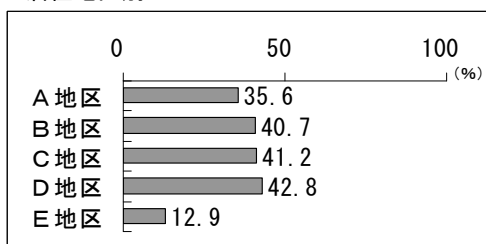
・男性×年齢別



・女性×年齢別



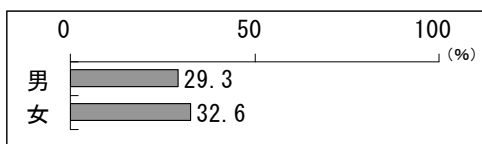
・居住地区別



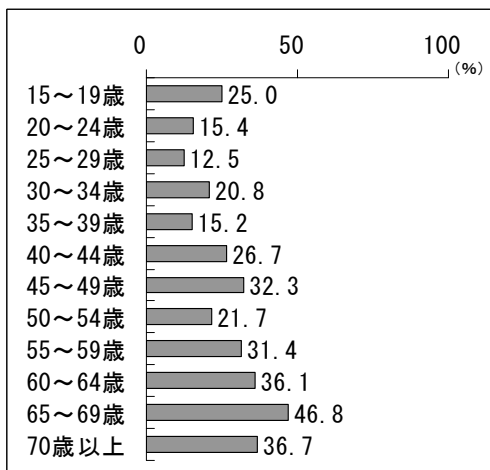
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□市で発行しているその他の印刷物

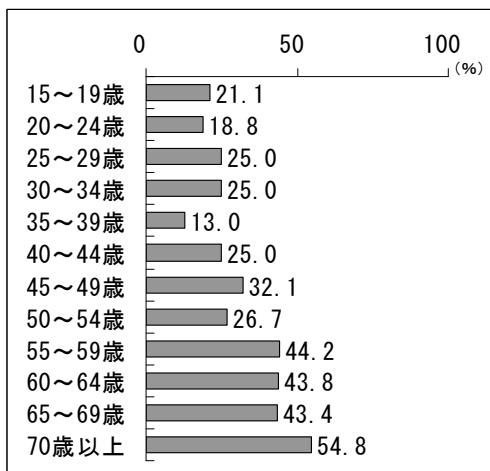
・性別



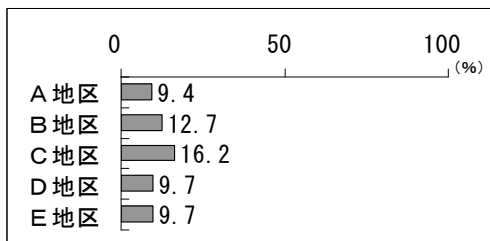
・男性×年齢別



・女性×年齢別

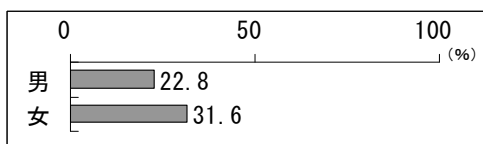


・居住地区別

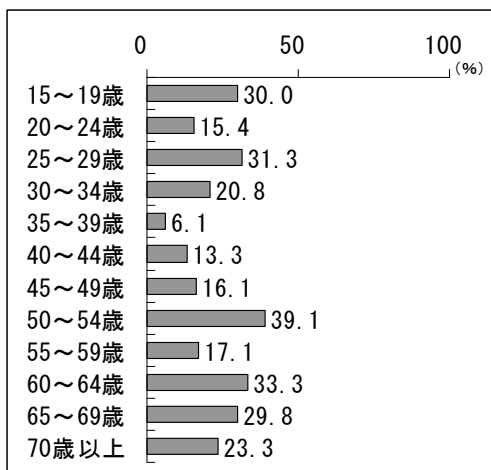


□ポスター、掲示板

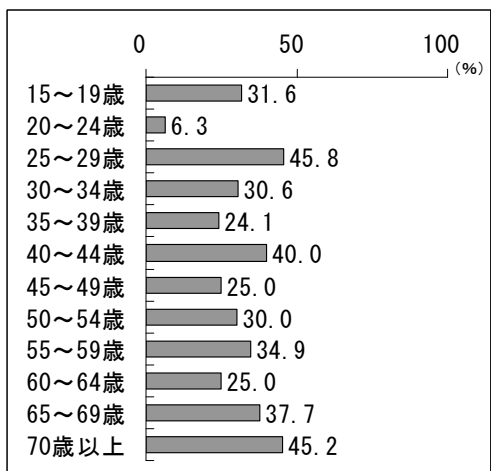
・性別



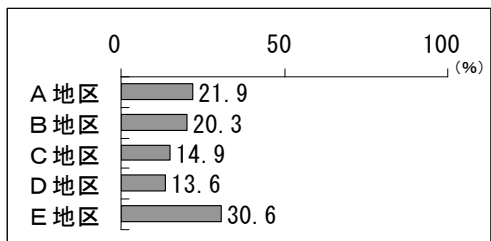
・男性×年齢別



・女性×年齢別



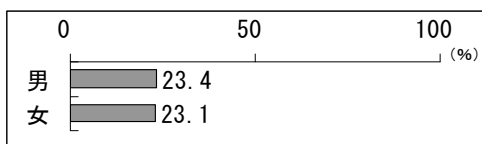
・居住地区別



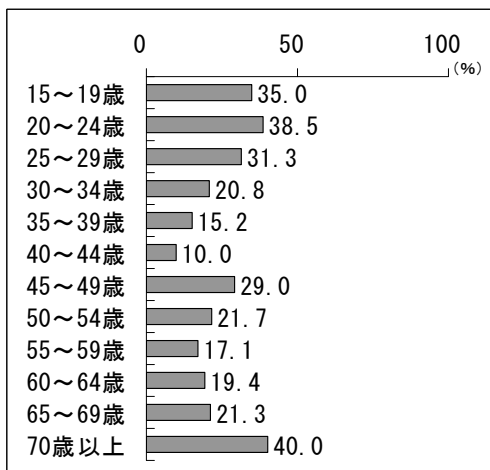
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□新聞などのマスメディア

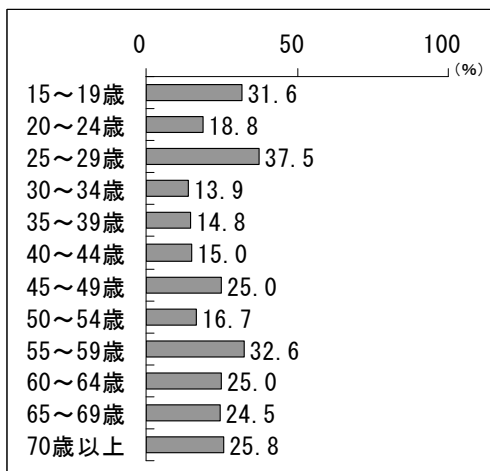
・性別



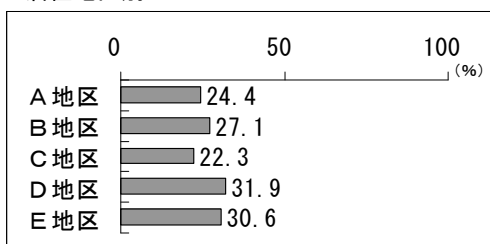
・男性×年齢別



・女性×年齢別

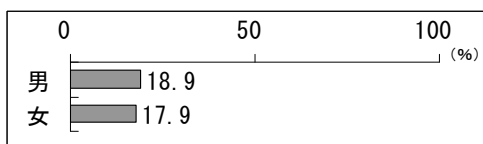


・居住地区別

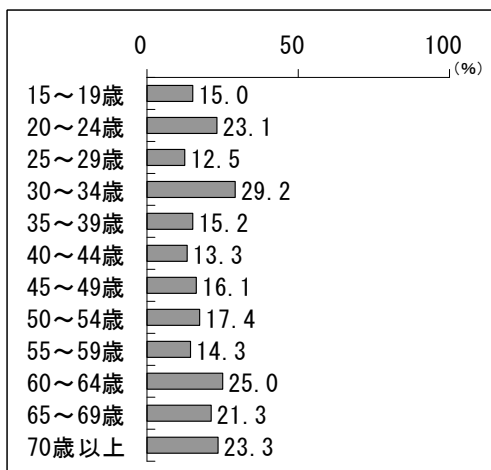


□回覧板

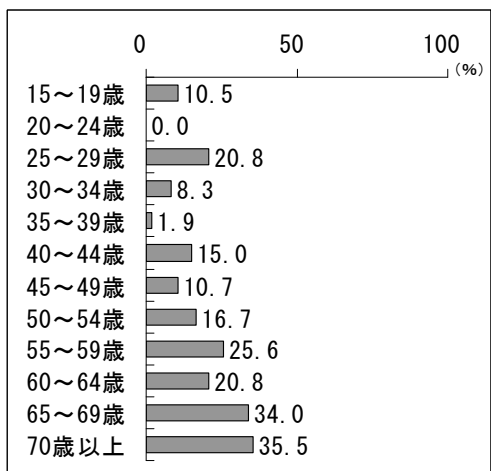
・性別



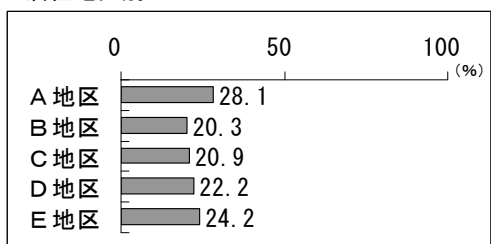
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別

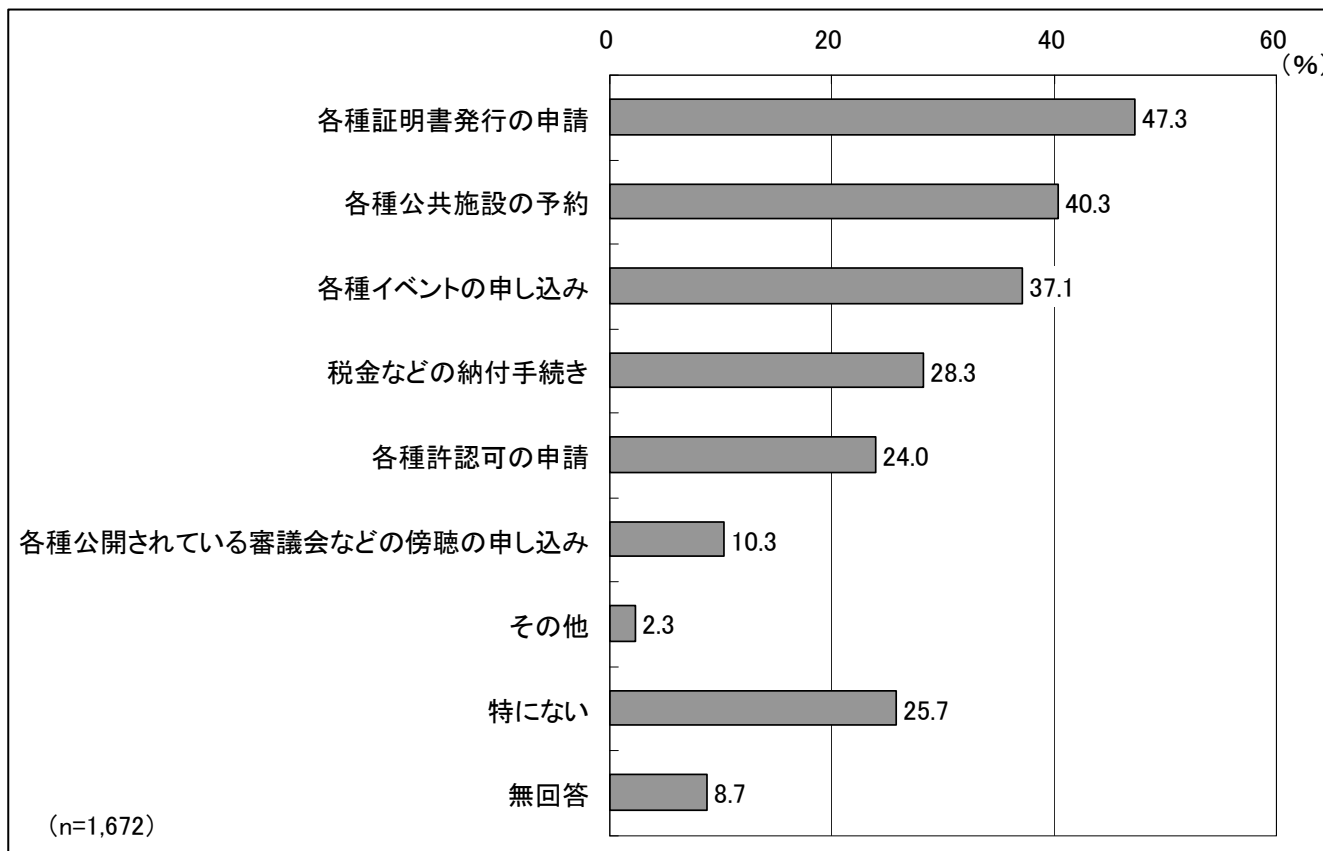


注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

(25) インターネット上での行政手続

問 49 インターネットを活用した行政手続において、今後どのようなサービスの充実を求めますか。(複数回答)

◆インターネットを活用した行政手続のサービスの充実について：「各種証明書発行の申請」が47%



インターネットを活用した行政手続のサービスの充実について、「各種証明書発行の申請」が47.3%と最も多く、次いで「各種公共施設の予約」が40.3%、「各種イベントの申し込み」が37.1%となっている。



「各種証明書発行の申請」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、25～29歳、35～39歳、女性の45～49歳で70%以上を示している。また、居住地区別では、D地区で50%以上を示している。

「各種公共施設の予約」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、35～39歳、女性の20～24歳、40～44歳で60%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、D地区で40%以上を示している。

「各種イベントの申し込み」については、男性・女性で大きな違いはなく、女性の25～29歳、30～34歳、45～49歳、55～59歳で50%以上を示している。また、居住地区別では、A地区、B地区、C地区、D地区で35%以上を示している。

「税金などの納付手続き」については、男性・女性で大きな違いはなく、男性の20～24歳、35～39歳、女性の25～29歳、30～34歳で45%以上を示している。居住地区別ではE地区を除き、概ね25～30%を示している。

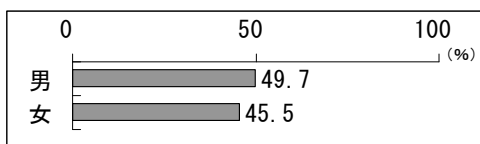
「各種許認可の申請」については、男性が女性を約7%上回り、男性の20～24歳、35～39歳で45%以上を示している。居住地区別ではA地区、B地区、C地区、D地区で20～30%を示している。

注) A地区＝中藤・神明・中央・本町、B地区＝三ツ木・岸・中原、  
C地区＝残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区＝榎・学園・大南、E地区＝緑が丘

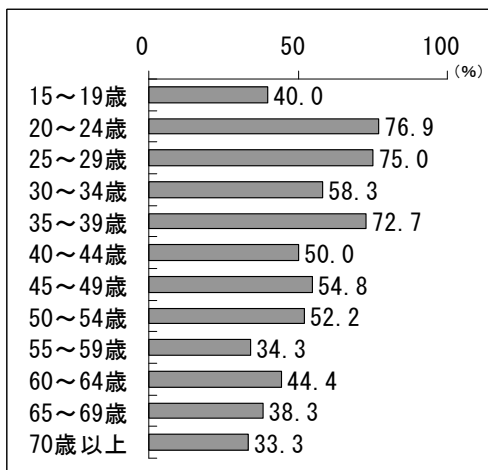
■性別／性別・年齢別／居住地区別（上位5項目） ※「特にない」を除く

□各種証明書発行の申請

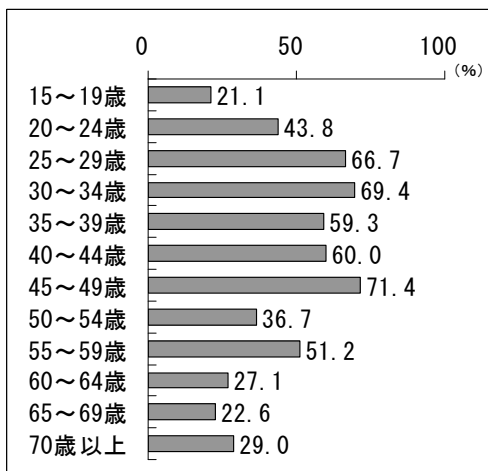
・性別



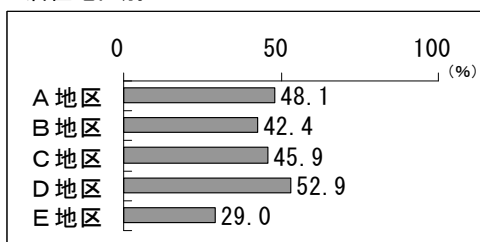
・男性×年齢別



・女性×年齢別

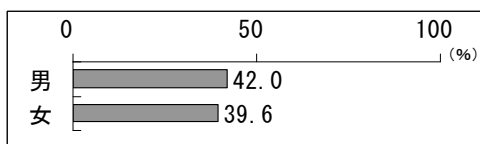


・居住地区別

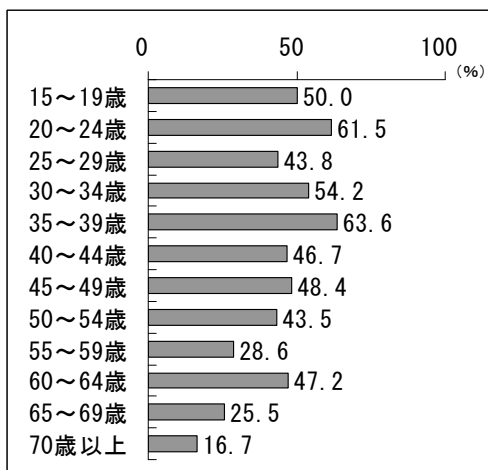


□各種公共施設の予約

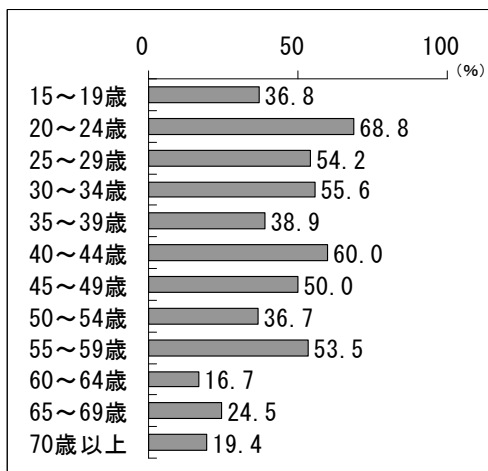
・性別



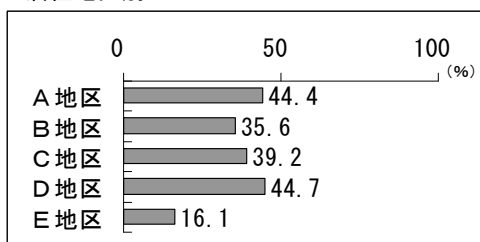
・男性×年齢別



・女性×年齢別



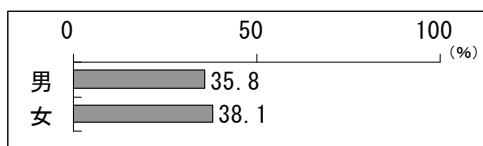
・居住地区別



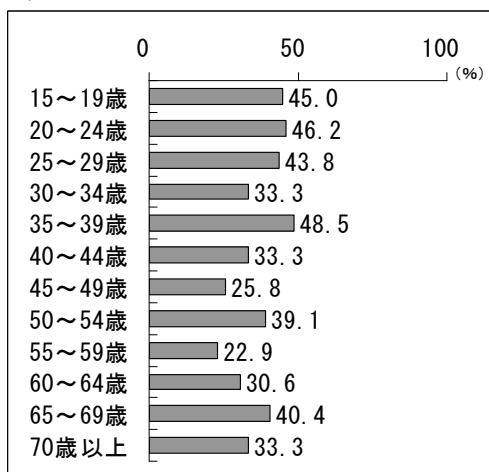
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

□各種イベントの申し込み

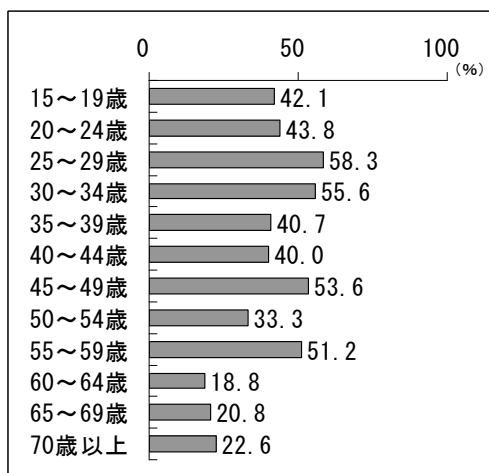
・性別



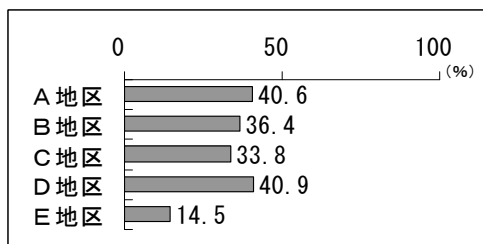
・男性×年齢別



・女性×年齢別

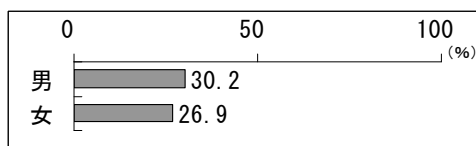


・居住地区別

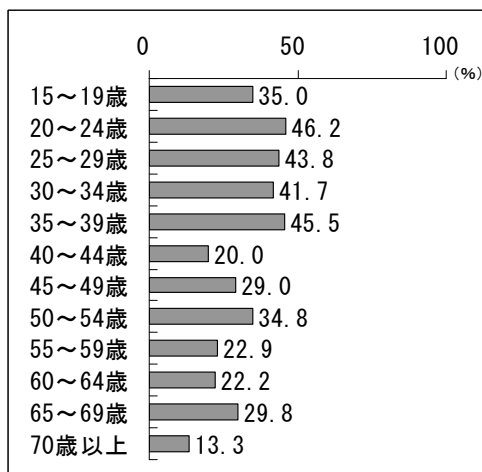


□税金などの納付手続き

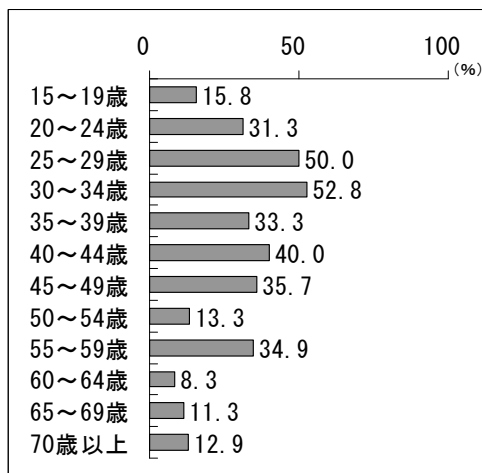
・性別



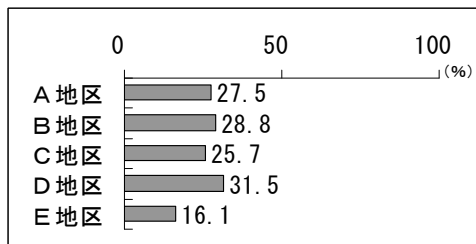
・男性×年齢別



・女性×年齢別



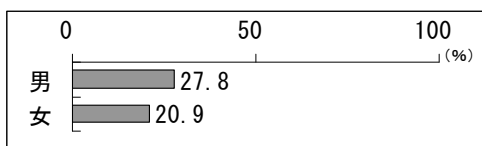
・居住地区別



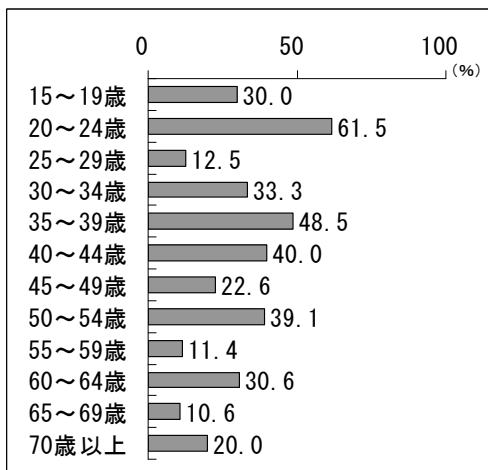
注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=櫻・学園・大南、E地区=緑が丘

□各種許認可の申請

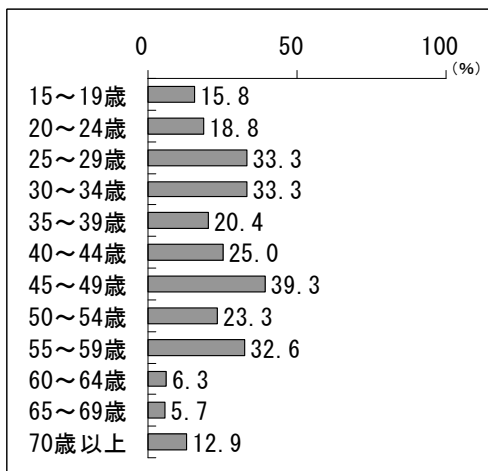
・性別



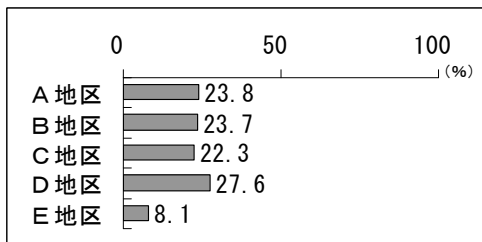
・男性×年齢別



・女性×年齢別



・居住地区別



注) A地区=中藤・神明・中央・本町、B地区=三ツ木・岸・中原、  
C地区=残堀・伊奈平・三ツ藤、D地区=榎・学園・大南、E地区=緑が丘

## (26) 自由意見

問 50 最後に、新たな長期総合計画策定にあたって、市政運営やまちづくりに対するご意見  
ご要望がありましたらご自由にお書きください。

## ○自由意見集計表

自由意見総件数：237件

番号	分類項目	件数(件)
1	モノレールの整備	43
2	交通環境の整備	25
3	行財政運営、サービスの向上	23
4	市のまちづくり全般	18
5	道路の整備	15
6	バス交通の整備	15
7	学校教育の充実	11
8	アンケートへの不満	10
9	各種施設の充実	8
10	地球・自然環境	8
11	公園・緑地の整備	7
12	子育て支援	7
13	横田基地軍民共用	6
14	少子・高齢化施策	6
15	生涯学習の充実	4
16	市民参加・協働	4
17	居住環境の整備	4
18	安全・防犯	3
19	保健・医療の充実	3
20	障害者福祉	2
21	ゴミ問題	2
22	雨水排水の整備	2
23	日産跡地利用	2
24	農業の振興	2
25	情報化の推進	1
26	商工業の振興	1
27	観光の振興	1
28	その他	4

○自由意見一覧（掲載順は地区別の分類後、年齢順としました。）

<p>●交通手段がとて不便に感じる。市内で電車やモノレールを利用出来るようにして欲しい。お年寄りにとって今の交通手段はとて不便だと思う。より良い地域社会を目指すのであれば、「長期」と考えるのではなく、1つでも多くのことを少しでも早く実現出来るようにして欲しい。武蔵村山市は周りの市と協力している姿勢が見受けられないから、もっと積極的にイベントなどの連携の催物をして欲しい。このアンケートのように、若者の意見も聞いて欲しい。大人が思っている以上に私達の年代（10代）は考えているという事を知って欲しい。大人が地域づくりを頑張るのではなく、若者にも多く参加できるボランティアなどを計画してもらいたい。出来そうな事を若者にもっと情報提供する必要があると思う。</p>	<p>（中藤、15～19歳、女）</p>
<p>●私は武蔵村山市に来て10年以上になりますが、とにかくすごく不便です。バスは時間通りに来ないし、車かバイクがないとダメな生活をしています。そして武蔵村山は評判が悪い気がします。高校生の時、「こんな町に引っ越したくなかった。」ってすごく思いました。今は慣れて来たので大丈夫ですが、何か悪い所ばかり表に出てきて良い所が裏になっている気がします。ダイヤモンドシティとか出来たりしているので、今後は緑を活かしたアスレチックなど子供も大人もみんなで楽しめる物を作った方が良いと思います。前にアド街で武蔵村山のランキングがやっていた時、ほぼランキングに入っているのがダイヤモンドシティの中のショップだけでした。それってむなしくないですか？あと、市役所の人（女）の態度が悪くてもう行きたくないと思った。</p>	<p>（中藤、20～24歳、女）</p>
<p>●市民税の軽減。</p>	<p>（中藤、25～29歳、男）</p>
<p>●地域活性化の為に、モノレールの導入を早く進めてもらいたい。</p>	<p>（中藤、30～34歳、女）</p>
<p>●モノレール導入の早期実現を願います。</p>	<p>（中藤、30～34歳、女）</p>
<p>●交通機関をもっとよくしてほしい。</p>	<p>（中藤、40～44歳、男）</p>
<p>●インターネットの時代ですが、家にパソコンがない、使えない事も考えて欲しい。最近、瑞穂斎場が大変混んで使用したくても一週間以上待たなくてはならないこともあるそうです。ぜひ火葬場と斎場を作って下さい。瑞穂に多額な使用料を払い続けるより、市内に作った方が市民のためだと思います。</p>	<p>（中藤、50～54歳、女）</p>
<p>●モノレールの早期貫通を目指してほしい。</p>	<p>（中藤、60～64歳、男）</p>
<p>●大規模な公園の開発と整備（自然環境の保全。）。この中に小動物園や水族館等を設置する。 ●市内歩道の整備と拡幅。歩道の真ん中に電柱があり、一人で歩くのがやつの所が多い。道路の拡幅が不可能なら電線を地下に埋め、人が楽しんで歩ける道の確保。 ●市の中心部の設定と開発。DMV等の導入（北海道等での路面電車）による市電を検討する。</p>	<p>（中藤、65～69歳、男）</p>
<p>●車を運転できません、一人になったらバスしか利用できません、時間通りに来てくれればいいのですが。</p>	<p>（中藤、70歳以上、女）</p>
<p>●初めてアンケートに回答することになって、73年も生きてきて知らない事がいっぱいあって恥ずかしく思いました。</p>	<p>（中藤、70歳以上、女）</p>
<p>●武蔵村山に引っ越してきて1年が過ぎます。地域は、モノレ</p>	<p>（神明、25～29歳、女）</p>

ールの駅が近く、スーパーなど買い物や外食できる場所がある区域なので今まであまり困った事はありませんが、やはり市内に駅がないと外から入ってくる人がいない為か少し淋しい雰囲気があります。静かな町でいいのですが、先の事を考えると退化してしまう気がします。駅をつくる、そして病院などの医療機関の充実と情報提供があると嬉しいです。	
●モノレール導入を早くお願いします。	(神明、25～29歳、女)
●自然が多く残っている所が気に入って家を買いました。開発などせず、緑を残して欲しいです。体験農園でなく、市民農園が有ったらいいな。神明地区に公園をつくってほしい。	(神明、30～34歳、女)
●モノレール早期開通。青梅街道の歩道が狭い。図書館の図書の実。子供が遊べる公園が少ない。あっても遊具が古かったり、ゴミが散乱していたり暗いところだったり、改善すべき。保育園の待機児童が多い。体育館に温水プールがあるといい。	(神明、35～39歳、女)
●古き良き時代の日本を見直すべき時期に来ていると思う。神明には子供が伸び伸びと遊べる公園が宅地化により無くなってしまいました。	(神明、40～44歳、男)
●早期モノレール延長の実施をお願いしたい。	(神明、40～44歳、女)
●小中一貫校についてはあまり意味がないと思う。市のはずれにつくっても通いきれないし、子供全体の学力の底上げが大切だと思います。でもやり始めたからには途中で止めることなく進んでほしいです。	(神明、50～54歳、男)
●今回初めて意識調査に参加させて頂きましたが、各設問が高度であり要求されている内容と自分のレベルに温度差を感じました。現状把握が出来てない寂しさを拭えません。行政として一考願えたらと思います。安全と安心な街づくりに向けた調査と思いますが、設問10に集約されている様に感じます。	(神明、55～59歳、男)
●狭山丘陵と農地の緑が武蔵村山市の特色だと思います。その緑を産・学・行の協力で、武蔵村山市だけでなく、市や県をこえて、知恵を出し合い、安全で安定した生活が出来る環境としてつくっていききたいものです。	(神明、55～59歳、男)
●モノレールの延進計画はどうなっているのか、市民には伝わってきません。市議会で議論されるのは良いが、実際に実施する意志はあるのか。積極的に取り組んでいる議員はいるのでしょうか。本当に市民のためを思って活動しているのか疑問に思う。努力が足りないのではないかと？市民の代表として選挙に当選したのだから、もっと活動をしてもらいたい。	(神明、55～59歳、男)
●1月1日付の市報で知りましたが、レジ袋利用抑制推進キャンペーン実施、マイバッグ市内全戸に配布と有りましたが、配布されておりませんでした。	(神明、55～59歳、女)
●市に早くモノレールを通してほしい。武蔵村山市と東大和市の境の道路を広げてほしい。プロパンガスを使用しているので都市ガスに早く変えてほしい。神明に小さな子供を安心して遊ばせる公園がほしい。	(神明、60～64歳、女)
●バス路線がまわり道すぎて、目的地になかなか着かない。	(神明、65～69歳、男)
●30数年村山に住んでおりますが、鉄道はなくても良いです。自然を大切に、子供の教育、しつけに力を入れて欲しいです。挨拶の出来る子に「いってらっしゃい。」と言ったら顔をじっと見て知らん顔。とても淋しかったです。	(神明、65～69歳、女)

<p>●子供や老人が安心して暮らせるまちづくりをして欲しい。その為に医療、福祉の充実、交通手段の確保、道路の整備等、たくさんの方が今以上に必要になってくると思う。税金を払っている割には、自分達の生活に還元されている実感が無い。本当に必要なら消費税アップも仕方ないと思うが、生活者が「自分達の町が住みやすい。」と実感できるようにして欲しい。不況で失業者がこれ以上でない様に、真剣に取り組んで下さい。</p>	<p>(神明、65～69歳、女)</p>
<p>●昨今では、裁判官への民間人登用を検討する時代になりつつあります。地方自治体においては、ボランティアとしての市政検討に参画させる工夫をしてはいかがでしょうか。市議会議員に意見反映が主体であります。市議会へ提出前の企画段階において、一般市民からの意見を反映することにより、より市民視線の対策を捻出することが容易となります。階層別の意見集約も意義深いのですが、特に、各種各業界等で活躍された様々な分野に造詣の深い方々が多い、定年後の階層から検討委員を指名しては如何でしょうか。これには、利害関係が絡む課題がありますので、現役からの採用は問題となりますので、定年後の完全にフリーとなり、かつ公平な判断のできる人材を選別すべきです。各種検討委員会を具体的に課題別に開催するには、市役所の職員も多忙となりますので、委員会開催の資料準備の段階から、ボランティアを採用する方法も考慮すべきでしょう。</p> <p>●国会でも問題になっている、老人介護に携わる関係者（臨時採用の介護者を含む）の処遇が、精神的・肉体的に重労働にも関わらず低賃金に抑えられているのが現実でありますので、早急に改善し他市町村の手本となり、当市在住を希望する「福祉都市」の現実を切に望むものです。</p>	<p>(神明、70歳以上、男)</p>
<p>●モノレール又電車交通機関を良くする事。</p>	<p>(中央、65～69歳、女)</p>
<p>●各自治会に「まちづくり…話し合いの場」を作ればもっと良い意見が具体的に出されるのではないのでしょうか。</p> <p>●山間部に住んでいますが、落ち葉が多量に道路に積もり、毎日迷惑しています。ほとんど毎日、ほうきを持ちますが、個人では処分に困惑しています。</p>	<p>(中央、65～69歳、女)</p>
<p>●まず、この用紙が返信用の封筒に入らないところでOUT。</p> <p>●イオンモールが出来てから道が混みすぎで、道路の改善もない。渋滞がある所はいつまでたっても直らない。作る時からわかっている事なのだから、手をつけるのが遅すぎる。</p>	<p>(中央、25～29歳、女)</p>
<p>●火事を知らせるサイレンの音を変えてほしい。</p>	<p>(中央、30～34歳、女)</p>
<p>●市に関する申請、手続きなど、市が関わっているものは無駄な手続きが多くややこしい。そして、結果の公開に時間がかかる。何事もシンプルにスムーズにできる様に工夫していかないと、ますます遅れた地域になってしまうと思う。</p>	<p>(中央、30～34歳、女)</p>
<p>●道路、宅地整備、狭い路地の幅を広げ、街灯の設置、市有地（未使用）の売却（宅地用に）をしてほしい。</p>	<p>(中央、35～39歳、男)</p>
<p>●こんな住みにくい所はないと思う。市に駅がないなんて信じられない。どこへ行くにも交通の便が悪すぎる。私はこんな市から早く出て行きたい。この市にいい所なんて1つもない。こんなアンケートをやってどうこの市が変わっていくかわからないし興味もない。</p>	<p>(中央、35～39歳、女)</p>



●モノレールの早期実現。 ●ミューを中心とした商業施設の充実。	(中央、45～49歳、男)
●立川市に住んでいましたが、市役所の対応の悪さが目立ちました。	(中央、45～49歳、男)
●東京多摩地区の市で交通網の悪さはNo.1。モノレールを伸ばし、日産跡地は毎日渋滞です。交通網を発展しなければ今後は人口も激減するし未来の希望もなくなります。モノレール、道路整備、日産跡地の利用方法を再検討する。	(中央、45～49歳、男)
●駅を作って欲しい。	(中央、45～49歳、女)
●残堀川等の河川の公園化（子供が遊べる川など）、川辺を散策できるように。犬のフンがすごく多いのでこまっている。	(中央、55～59歳、男)
●せっかく協力するのですから、もっとわかりやすい内容で、私達が市政に参加できているのだと充実感が残るようなアンケートにしてほしかったと思います。形ばかりであり誠意が伝わってこないし、うたえるものが感じられなくて残念に思います。アンケートに答える為の時間はとてもかかっているのに、書き終わった後、とてもむなしく感じました。もっとやさしくレベルダウンした言葉づかい等で工夫して、具体的に理解しやすく工夫していただければ幸いに思います。	(中央、55～59歳、女)
●モノレールの駅を村山にも造ってほしい。バスの本数の増加。	(中央、55～59歳、女)
●武蔵村山の学校におけるPTAは自治会毎で役員を決め、学校の各クラスで役員を決めることがないのに正直驚きました。旧地域名の付いた会館に集合する機会が多々ありましたが、無意味に食べたり飲んだりが多く、交流に必要な事というのわかりませんが、とても無駄だと思います。自治会の役員の集まりも必ず飲食があり、引っ越してきた当初は正直驚きました。子供も成長してしまったので、学校等の事柄から遠ざかりましたが、未だにこの事はひっかかります。	(中央、55～59歳、女)
●モノレールの早期開通を実現できる様に強く東京都に働きかけていただきたい。	(中央、60～64歳、男)
●多摩都市モノレールの市内導入を早期実現して下さい。	(中央、65～69歳、女)
●質問の量が多かった。村山にも東京ドームみたいなおつきいドーム作って下さい。それか、TV局とか。	(本町、15～19歳、女)
●とにかく交通が不便。東大和市や昭島市などのように市バス（MMシャトル）をどこでも100円とかにしたほうがいいと思う。バスの値段が高い。 ●図書館も大きなのを1つ作って欲しい。自習スペースも広くして、夜まで開放してほしい。 ●道路の横にある歩道が危ない。車のすぐ横を自転車で走らなきゃいけない所がいくつかある。（青梅街道あたり）せめてガードレールくらいつけてほしい。 ●多摩都市モノレールが早く武蔵村山市にきてほしい。	(本町、20～24歳、女)
●とにかく近くに電車が走っていない。駅がないと話にならない。活性化されるはずがない。バスの本数を増やしてほしい。	(本町、30～34歳、男)
●共同溝の新設に伴う電柱の除去を行い、旧青梅街道等の歩道の拡張をしてほしい。モノレールの早期開通（延長）を行うとともに、最寄り駅までのバスの遠回りしない運行と本数の増加。市の中心付近に、市民グラウンドや温水プール等の設置をして市民の健康増進に目を向けてほしい。無意味な道路舗装等の無駄	(本町、35～39歳、男)

遣いをなくしてほしい。サイクリングロードや市民の要望のあった場所への街灯の設置をしてほしい。産業祭（デエダラ祭）の場所がいつも泥だらけなのでもう少し砂利やアスファルト等で対策をしてほしい。市内でサッカー大会やHIPHOP ダンスの大会等のスポーツフェアを開催してほしい。	
●モノレールがなぜ市内に通らないのか市報で教えてほしいです。東大和には来ています。30年前の計画がまだ日々を要する理由を知りたいです。人の流れがよい市政運営町づくりに繋がる原点だと考えています。人は呼吸をしないといけません。町も呼吸をしないといけません。人の交流、人の流れが活性化に繋がります。お金の流れに似ています。私自身市議選に出馬する話があります。出馬しましたら、モノレールの件について話していきます。固定資産税の件にもふれていきます。	(本町、35～39歳、男)
●保育園待機児を0にする。 ●子供が病気でも割安で預かってくれる施設をつくる。	(本町、35～39歳、女)
●斎場を武蔵村山市で作ってほしい。	(本町、35～39歳、女)
●歩道の整備、自転車も歩行者も安心して通行できるようにしてほしいと思います。その他、緑が丘団地内の公園など、ゴミが散らかり放しで、見苦しいと思いました。きれいな街づくりに力を入れて欲しいと思います。	(本町、45～49歳、男)
●神明地区等の医師がいない。地域の医師不足で、特に小児科が無いので困っています。地域と一緒にしてくれる気持ちのある医師にいてほしい。	(本町、45～49歳、女)
●常に協力する体制でいます。新しい企画等があれば市報でどしどしと載せてほしいと思います。私の意見が届いてほしいという思いでアンケートに答えました。	(本町、50～54歳、男)
●笑顔で挨拶ができる、人との触れ合いを子供たちに伝えてください。高齢者、障害者、子供たち、新任人に「武蔵村山市に住んでいる。」という充実感を与えられる市役所から始めてほしいです。	(本町、50～54歳、女)
●1日も早くモノレールを箱根ヶ崎まで開通してほしい。三本榎歩行道路はとても狭く、1日も早く広くしてほしい。野山北公園の山道で樹などを剪定したり、枯葉をきれいにはいたり、もっと森の中を整理してほしい。このままだと荒廃するばかりだ。大型店舗で小売店が減ってしまい、高齢者には密着した小売店があった方がよいと思う。我が家の前に、清水の小川が流れているが、コンクリートの側溝ならいいが、景観を損ねるとい事で、木の側溝を使っているの、今や腐って両脇の土がどんどんくずれてしまい、我が家の庭もくずれていますので、対処をお願い致します。	(本町、55～59歳、女)
●1日でも早くモノレールを導入してほしいと思います。それによって武蔵村山市も元気で活気ある町づくりが出来るのではないのでしょうか？	(本町、60～64歳、女)
●恵まれた自然環境を保全しつつ、より活気のある安全で安心して暮らせるまちづくりを期待します。	(本町、65～69歳、男)
●中学生が喫煙している姿を見つけ注意をすると「依存症で止められない。」「親も知っている。」との答えにびっくりしました。この子の親は何を考えているのだろうか。親から教育しなければならない時代なのかと思った。健全な子供たちが育つ	(本町、65～69歳、女)

よう家庭教育、学校教育の充実を期待します。	
●小・中学生の固執、挨拶、登下校風紀の乱れ。喫煙、指導不足。街全体が暗い、街灯増量、安全確保。新青梅街道交通量増加、信号無視等。安全確保、事故防止策。期待しないが早期交通手段の充実。駅がない。モノレール延長、早期導入。	(三ツ木、15～19歳、男)
●自然が豊かなまちづくりに取り組んでもらいたい。市民の要望が多いようなら、モノレールの開通も早く実現できるように取り組んでもらいたい。自分は男女平等に賛成なので、市民の要望が多いにもかかわらず、市がなかなか政策に取り組まない様であれば市長を女性にするのも1つの手かも知れない。	(三ツ木、15～19歳、男)
●駅やモノレールの設置をして欲しいです。	(三ツ木、15～19歳、女)
●公務員の削減、行政のスリム化。行政に対して市民の信用はない。	(三ツ木、35～39歳、女)
●教育施設の耐震工事を市内全公立小・中校において早期に実現してほしい。緑を保全する地域と交通の為の地域と市内を分けて考え、豊かな自然環境を観光資源として観光収入を増やす。あるいは市民を増やす。教育内容を充実させる。(内容の見直し)無駄遣いを止める。小中一貫校の為の工事。給食センターを他市に建設する為の費用の負担。税金を納めるのは義務ですが(市民の)予算が市民の為ににならない使い方をされていると感じることが多々あります。今後の行政に期待します。	(三ツ木、40～44歳、女)
●安心、安全できる、住んでいてよかったと思える武蔵村山市を目指す。	(三ツ木、55～59歳、男)
●調査表の最後の方は難しく理解出来ませんでした。	(三ツ木、55～59歳、女)
●住んで良かった武蔵村山市を目指し、活気のある明るい街づくりをがんばって下さい。	(三ツ木、60～64歳、女)
●モノレールが生きているうちに開通して貰いたいです。数年前にアンケート調査があり、世帯全員の回答を提出してから長い年月を経っていますが、あまり進展しているように見えません。一つ、二つの市(町)に開通するために巨額の投資をするのは大変なことであるのは理解できます。都は2016年の五輪招待に熱心ですが(五輪にも意義があると思いますが)将来、永きに亘っての普段の生活に密着した公共交通の実現にも目を(費用を)向けて貰いたいと願います。	(三ツ木、65～69歳、男)
●昭和33年頃作成された都市計画道路の早期着手。	(三ツ木、65～69歳、男)
●武蔵村山市の強みを活かすことや行政・市民・関係機関の連携、市民にもわかりやすく情報を提供していくことが必要なのではないかと思えます。	(岸、20～24歳、女)
●早くモノレールを延長してほしい。岸はまったく不便だ。立川までバス代440円往復で880円もかかる。市内循環もワンコイン「100円」にすればもっと乗ろうという気にもなる。提案だが、かたくりの券を(市内の人用)を持っていれば「100円」ワンコイン制にしてほしい。そしたら気軽に温泉に行くしバスも乗る。いつも誰も乗っていない市内循環バスを見ると税金のムダを感じる。岸の人は、遠くても雨が降っても自転車で駅まで行っています。早くモノレールの整備を望みます。駅のない市なんて時代に取残されています。	(岸、20～24歳、女)
●しっかりと市民のことを理解してほしい。公務員の考え方と民間の考え方のズレがある。	(岸、30～34歳、男)

<p>●お金を取る時だけはしっかりして、払うときは難しい書類などでわかりにくい。</p> <p>●とにかく税金を無駄使いしないで欲しい。</p>	
<p>●私の家の前がゴミ置き場になっています。マナーを守ってくれない家庭があり、ごみが残されていたり（ゴミの日の間違い、分別されていない等で）、前日の夜にゴミを出していたりしてとても迷惑です。東村山市のように有料化しても良いので、各家庭の前に各自ゴミを出すようにしてもらいたいです。</p> <p>●最近住宅ばかり建っていますが、もっと緑地や農地を確保してほしいです。最低限の交通の便が守られていれば構わないので自然環境を守ってほしいです。</p>	(岸、35～39歳、女)
<p>●障害のある子供達が成長し、親のなきあとどうするのだろうかとの思いから、障害者のグループホーム建設に興味と関心があります。障害のある人の自立を目指した職場など、地域で障害者を見守っていける様な町づくりを希望します。</p>	(岸、50～54歳、女)
<p>●モノレール導入、横田基地の軍民共用化等の促進を図りつつ、市町合併を含めた広域行政を検討し、行政及び商工業等の活性化を図り、かつ人件費や箱物等の経費節減を考えるべきである。</p>	(岸、65～69歳、男)
<p>●名所をつくって観光客を集める。野山北公園のかたくりをもっと広く増やす。休耕地を借り上げて、彼岸花とかチューリップを広い範囲に咲かせる。蠟梅や水仙の山を作る等、これらを作ったら管理はボランティア団体をお願いする。</p> <p>●生涯学習施設（独立した）を建て、そこに行けば大人も子供も色々なものを作ったり学んだり、作品展示したりできるとよい。官と民が協力して現在ある歴史民俗資料館に学習室、工作室等を増設して使用してもよいのではないか。</p>	(岸、65～69歳、女)
<p>●子供にやさしい社会を作って下さい。</p>	(中原、15～19歳、男)
<p>●交通手段の充実。</p>	(中原、15～19歳、女)
<p>●私たちの家庭は共働きです。妻が子育てするにあたり、保育所になかなか入所できず家庭を支える事が大変困難な状態でした。無事に入所できましたが、2人目を考えるとまた困難な生活がくるのかと不安でなりません。保育所にもっと入所できる様に対策をして頂きたい。</p>	(中原、25～29歳、男)
<p>●とにかく道や公園が汚い。以前住んでいた市はとても道も公園もキレイで、公園の砂など汚れを指摘するとその日の内に交換するなど、とても対応が良かった。犬のフンが多くて歩くのが嫌。子供が安心して住める市にして欲しい。</p>	(中原、30～34歳、女)
<p>●「やります！！やります！！」とサギのようなことはやめて欲しい。現にやっていない。市議会議員は何もやらないで金をとっているのなら全員クビにしてほしい。高い税金を貧乏人からとるのだったらまともに市政を考えてほしい。こんなに他の自治体から遅れをとっている自治体はない。これから、本当に変える気があるのだったら、市民の民意を反映させた市政運営をやってほしい。</p>	(中原、30～34歳、女)
<p>●経済が悪化している時期に、長期計画を立てる事に危惧します。計画を実行するだけでなく、必要のない計画を白紙に出来る冷静な判断を持って欲しい。計画するにあたって、十分な調査をしてもらいたい。小中一貫校を作る計画より、小・中学校の耐震化をするべき。新しいものを作るだけでなく、今</p>	(中原、30～34歳、女)

あるものを生かすことも考えて欲しい。	
●新しい風（一般市民など数人でも良いので）、率直な意見を言える人を加えて話し合いや意見交流をしないと身近に感じられる変化や、今必要な事や物など早急に対処して欲しい事がなかなか伝わってこない気がします。そこが変わらないと何も変わらない気がします。	(中原、35～39歳、女)
●雨水再利用（家庭、事業所、学校等での貯留及び市の排水システム改良も含め）運動を推進して頂きたい。	(中原、40～44歳、男)
●学校教育について、興味があります。様々な情報提供を期待しております。	(中原、45～49歳、女)
●自然と環境を調和したまちづくりと交通機関（バス、モノレール等）を充実したよい町にしてほしいです。車社会を少しでも減らすことが前提です。	(中原、50～54歳、男)
●交通の便が悪いので、自家用車が手放せません。高齢になった時、買い物等どうしようかと心配しています。病院へ行くにも不便。モノレールはいつになったら着工するのでしょうか。	(中原、50～54歳、女)
●質問が同じ傾向で片寄っていませんか。きれいな街・武蔵村山も良いかもしれませんが中身も大切です。今の時代にあった質問にするべきです。例を挙げれば、税金の高い武蔵村山で有名です。子育てしている若い世代では大変です。税金を使うことを増やすより、使うのを行政が我慢する時代だと思います。	(中原、50～54歳、女)
●10年後20年後の市全体の見通しを分かりやすく掲示してほしい。日本全体のビジョンがなく先が見えない。 ●市においては市場がなく、消費生活者もスーパーを右往左往している。5ブロックに分けて市場があるといいと思う。 ●足がない。全国で市という名のつく町で駅がないのは唯一武蔵村山市のみとなっている。市内循環バスのみでは事足りない。都へもっと強気に働きかけてモノレールの延長を確保してほしい。 ●交番が少なすぎる。安心、安全を唱える前に治安の確保を優先すべき。	(中原、60～64歳、男)
●今後の市の発展の上でも、次世代を担う若年層の教育が最も重要だと思います。そのような視点から、全国学力試験等の市内における学校のレベルがどの程度等かはプライバシー以前に、市民レベルで認識しておくべきだと思いますので、出来るだけ公表してほしいと思います。	(中原、65～69歳、男)
●交通計画を整備し活力ある街づくりをする。 ●土地活用により市への財政が良くなるように働く。 ●教育の充実又は福祉へのサービス。 ●子供達の健全育成に心がける。 ●市民の一言に耳を向ける市政であってほしい。	(中原、65～69歳、女)
●武蔵村山は交通の便が悪い。モノレールが1日も早くできることを願っている。	(中原、65～69歳、女)
●モノレールをつけてください。 ●もっと自然などを増やしてください。	(残堀、15～19歳、男)
●市税の使い道を見直したほうが良いと思います。 ●道路の補修工事に関して、もっと適切な場所がある。 ●モノレール計画に関して、実現性があるとは現時点ではとても思えない。	(残堀、15～19歳、男)

●無駄な道路整備は交通渋滞になるだけだからやめてほしい。本当に必要な所はいっぱいあるので見極めて整備して下さい。	(残堀、20～24歳、男)
●交通機関を充実させて欲しいです。特に、電車の便がない分、バスを増やして欲しいです。	(残堀、25～29歳、女)
●残堀地区の道路拡張、並びに区画整理の早期実現を願う。	(残堀、30～34歳、男)
●モノレールを早く引いてほしい。 ●店が少なすぎて歩道が狭くて子育てがしにくい。	(残堀、30～34歳、女)
●近くに駅がなく不便。行動範囲が狭いので、ぜひ作って欲しい。子供達の安全を考え、防犯に力を入れて欲しい。公園やグラウンド（自由に使える場所）をつくらせて欲しい。ボール遊び禁止のところが多く、子供がのびのび遊べない。	(残堀、35～39歳、女)
●市民一人一人が安全、安心に過ごせるまちづくり。	(残堀、40～44歳、男)
●早急な鉄道整備。最近オープンしたイオンモールも駅があったらもっと賑わうはずです。広大な日産の跡地と西武線をつないで都内に出られる方法を整備して欲しいです。モノレールも進展がありませんが、この鉄道、駅の整備なくして市の発展はありません。大型商業施設が入るのは結構ですが、長期的に見てやっていけるのか不安です。にぎわいのある活性化した街づくりに参加できる機会があれば是非参加したいと思います。	(残堀、40～44歳、男)
●横田基地の軍民共用化。	(残堀、45～49歳、男)
●武蔵村山市に住んで20年になりますが、市がどこへ向かっているのかまるで見えません。何を目指しているのか全然分かりません。どんな市にしていくのかももっと具体的に出してください。	(残堀、45～49歳、男)
●各書類、証明書等、市役所へ行って手続き時の対応の仕方考えてください。	(残堀、55～59歳、男)
●少子化と高齢化社会に対する対策が一番と思われる。少子化については保育所の充実。現在職場は近くなのに子供を遠く他の市まで預けにしている人もいと聞きました（保育所利用の人が何人いるか把握は十分されていますか？）。保育所の充実を図ってください。高齢化で病院も長く入院できないしくみになっています。家庭でみるのが一番ですが、市には特養、老健が1つ位しかないので、そちらの方は足りないような気がします。実態調査をして検討して下さい。まず実態調査、そこから必要性のある項目を出し考える。	(残堀、55～59歳、女)
●我が家は2世帯住宅に住んでいます。1階は親、2階は息子一家です。玄関は一箇所ですが、ガス、水道、電気全ての公共料金はメーターが2個ずつあり、別々に支払っていますし、息子一家は2階部分のローンも支払っています。息子一家には4歳の子供がいます。来年度の保育園の申請をしたところ、親と同居の場合は問題外と言われました。同居とはいえ息子一家は2階で自立して生活しています。人から聞いた話によると玄関を2つつくれば、中での生活が全て一緒でも保育園の申請が通ると聞きました。2世帯住宅に住んでいても親に頼らずがんばっている若い人達の力になっていただけたら嬉しく思います。	(残堀、55～59歳、女)
●自治会の事が記されていますが、行政はどのような関わりを持つのか、補助金などの支出、使われ方を正確にチェックしているか。機能があるか、市報等で出してほしい。	(残堀、60～64歳、男)

<ul style="list-style-type: none"> <li>●交通機関の充実。</li> <li>●モノレールの早期開通。</li> <li>●横田基地軍民共用について近隣の市との話し合いを通しての実現へ。</li> </ul>	(残堀、65～69歳、男)
<p>●モノレールの誘致を早期にお願いしたい。宅地開発で緑地が失われ道路の整備が伴わない。農地転用の際に区画整備を行政も立ち入って欲しい。市内全体を見て、道路の整備が遅れている様に思う。残堀、大南地区で、車がすれ違えない等、昔の農道のままで住宅が急増し、朝晩の通勤時間は大変です。</p>	(残堀、65～69歳、女)
<p>●武蔵野市から転入して30年になりますが、行政の滞りを感じます。モノレール・体育館・競技場にしてもがっかりです。現在は車の運転で可能ですが、交通がとても不便です。どうしてあんな不便な場所なのか考えられません。まして温水プールもないなんてがっかりです。この不況の中、企業再生には時間がかかることでしょう。議員にもっと前向きになってほしい。単なる名誉に満足している感を受けます。何の進歩も感じられない市政にがっかりです。</p>	(残堀、65～69歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日でも早く、モノレールの早期開通。</li> </ul>	(残堀、70歳以上、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●立川駅行きのバスの本数を増やしてほしい。</li> <li>●残堀川の整備。</li> <li>●防犯のための見回りをしてほしい。</li> </ul>	(残堀、70歳以上、女)
<p>●一人一人の市民が、武蔵村山市民として関わられる中で、喜びや感動や大変さや楽しさやまとまりや色々なことで一市民なのだという武蔵村山市になれたらすばらしい。人は一人では生きていけない。優しいことは、強いこと。</p>	(伊奈平、15～19歳、男)
<p>●私自身、自然が好きなのもありますが、地域復興したいならやたらとショッピングモールを入れるだけでなく、せつかくある美しい自然をもっと強調すべきだと思う。里山民家や野山北公園なども素晴らしいと思います。そういう武蔵村山独自の特徴を売りにしなければ、万が一大きなショッピングセンターなどが無くなってしまったら、何も無くなってしまいます。デエダラ祭りや少年飛行兵に関する物もたくさんある、素晴らしい市なのですからもっと特徴にこだわって下さい。</p>	(伊奈平、15～19歳、女)
<p>●税金の支払いについて。高額だった為、分割の支払いを希望したが「基本的にはできない。払ったつもりで貯めておき、金額が集まったら払う。」よう指示された。また、支払いが遅くなると延滞料がかかるという。延滞料が発生するなら、なおさら分割にして払える分だけでも、なるべく早めに納付したい。窓口の担当者は知識もなく、税金で働いている市役所の役人の質を疑った。税金も払わないと言っている訳ではないのに、納得できない。</p>	(伊奈平、25～29歳、女)
<p>●武蔵村山市は市内に駅がなく孤立しているまちである。そのため最寄り駅までのバスの増便や新ルートを増設を望む。また市の財政基盤を安定化させるためにも、大企業の誘致などを行う必要がある。</p>	(伊奈平、25～29歳、女)
<p>●住宅街近くに建設が予定されている墓地については、景観が損なわれるため絶対に建設されては困ります。歩道の中に電柱が建っており、自転車で通るのにとっても邪魔です。横田基地を軍民共用にすると騒音がうるさくなる。むしろ現在より縮小し</p>	(伊奈平、25～29歳、女)

<p>て欲しい。体育館が岸の方角にあり、自宅からは遠い。もっと近くにあり、手軽に利用できればと思う。主要道路の流れ方(作り方)が使い勝手が悪い(伊奈平の文明堂の交差点やその東側、村山病院薬局の近く、他にもある。)。伊奈平にあるごみ処理施設から排出される空気はどの程度汚染されているのか。身体に影響がないか心配。市民税の有効な使い方をして欲しい(無駄をなくして市民に還元して欲しい。)</p>	
<p>●工業指定ゾーンに墓地を建てるのは景観や交通に支障があると思われる。旧日産の跡地の有効利用を望む(宗教系の団体以外の誘致。)</p>	(伊奈平、30～34歳、男)
<p>●地方出身の私からみた武蔵村山は市の名が付く駅がなく、警察署もなく、車を持たない私にとってバスの不便なこと(本数が少なく態度も悪い。)。それでもしかたなくバスを利用していますがとても不満です。近くのバス停にMMバスが通っていましたが、時間通りに全く来ず、本数も少なすぎ利用したくてもできない始末。今月からはルートが変更になったのでこれからは使うことはないと思います。なんだか市全体が諦めたような活気のない町、モノレールも来ないのだろうという感じです。都内の人でさえ東村山との区別もつかず場所もわからない様子です。不満だらけですが、私はここが嫌いではありません。緑がたくさんあり、治安も良いと思います。ですがそれを生かしてないと感じています。なので「キライ」ではなくとも「残念」なのです。せっかくのこの豊かな緑をもっと生かさなくては宝の持ち腐れです。ただ緑があるだけではただの田舎町です。整備し、公園のようにするなり人々の憩いの場、集いの場にすればここに住みたい、行ってみたいと思われると思います。何か作るより、今あるものを有効に使う方が現実的で市民の為になると思うのですがどうだろうか。未来に期待するより今出来ることをした方がいいと思います。「市民憲章」のようになれば日本一の市になると思います。理想を掲げるだけでなく、完全、最高の状態でなくても一步一步進めれば人も結果もついてくると思います。</p>	(伊奈平、30～34歳、女)
<p>●昔からモノレールの整備についての話は出ているにもかかわらず、いつ反映してくれるやらわからない。色々な意見があったとしても結局は上の人達がいい様に自分達に十になる事しかやらない。 ●小・中一貫校も同様で、まず現在の学校の耐震強度の補強をすべきではないか。 ●アンケートをとって実際に生かされているのか。</p>	(伊奈平、35～39歳、女)
<p>●武蔵村山市は電車が走っていないので早期にモノレールの駅をつくってほしい。</p>	(伊奈平、35～39歳、女)
<p>●児童手当の増額、延長、税金の減額、市のクーポン券。</p>	(伊奈平、35～39歳、女)
<p>●警察、消防署、火葬場、ゴミ焼却場等が無く、ましてや鉄道の駅も無いでは市民として満足がいく生活を送っているとは言えないのではないか。</p>	(伊奈平、45～49歳、男)
<p>●市(行政)は、もっと魅力ある市にするために努力してほしい。そうすれば人口も増え、活力ある市になると思う。</p>	(伊奈平、45～49歳、男)
<p>●モノレール、横田基地民間開放早期実現。レクリエーション施設の充実、市民総合体育館の駐車場が不足。車が置けなけれ</p>	(伊奈平、45～49歳、男)



ば不自由。	
●不審者の情報がよく流れてきます。安全な生活を送れるようにしてほしいと思います。子供を育てている親にとってはすごく心配です。	(伊奈平、45～49歳、女)
●夜間（救急）の受け入れが出来る病院。 ●赤ちゃんを安いお金で出産できるような病院。 ●武蔵村山周辺の色々な病院のMAPを作ってほしい（診察時間や休診日込で。）。	(伊奈平、50～54歳、女)
●武蔵村山市に越してきて1年5ヶ月です。長期総合計画策定という取り組みがあることを初めて知りました。一番不便に思うことは交通です。最寄りの駅迄行くのに車で送ってもらうか、タクシーです。工場も数多くあり、通勤の事等を考え、もう少しバス等増やしてほしいと思います。	(伊奈平、50～54歳、女)
●子供の声が聞こえる町を育てて欲しいと思っております。	(伊奈平、55～59歳、男)
●現在、会社の通勤は車を利用しているが交通事情が悪すぎる。定年となり高齢者となったときの移動に不安を感じる。廃棄物処理について土日の持込を可能にしてほしい。持ち込み場所をごみ収集カレンダーに地図を記入してほしい。武蔵村山市民の優れた能力を活用するための各種職業能力登録制度を設けて市民を高齢者・障害者支援ボランティアプロジェクトを立ち上げる。市民の能力を活用しよう。	(伊奈平、55～59歳、女)
●軍民共用に積極的だが、伊奈平地区や残堀地区はメリットだけではなく、デメリットも多い。新型インフルエンザやエボラ等にいち早くさらされる危険もある。道路も、今以上に混雑する等、デメリットもある。自分たちだけの利益を考えるより、周囲の市町村と意見を合わせることも大事。地球温暖化防止のためにも、新しいターミナルは必要ない。もっとエコに力を入れる市政を全面的に出すほうが良い。	(伊奈平、70歳以上、男)
●都心との交通機関を充実させて、その上に大学、研究所等を誘致すべき。	(伊奈平、70歳以上、男)
●教職員のレベルアップをして欲しい。	(三ツ藤、15～19歳、男)
●モノレールは、いつになったらできるのか。バスが通っているとはいえ、土日は道が混んでいて時間が読めない。ジョイフルとかイオンがあるのは便利だけど回り道がないので違う所に行きたくても時間がかかる。	(三ツ藤、20～24歳、女)
●交通機関の発展なくして市の発展は無い。モノレールの早期開通と横田基地の軍民共用化で発展すべきである。	(三ツ藤、30～34歳、男)
●武蔵村山の知名度を上げて、緑の多い、住みやすく交通の便も良くしてもらいたいです。	(三ツ藤、30～34歳、男)
●とにかく駅を作らなければ市の発展はないと考えます。地域の発展のためにはいろいろな企業を誘致し、新しい風を入れることが必要だと思います。他の市より最近転入してきましたが、良くも悪くも古い町だと思います。市民のニーズを聞き入れ、早期に対応してほしいと思います。例えば、市役所の窓口はどこの市でも日曜は開いています。男女共同参画推進をするのであれば、各種手続きが平日のみというのは無理があります。まずは、市役所関係の身内からの改革が必要なのではないのでしょうか。	(三ツ藤、30～34歳、女)

<ul style="list-style-type: none"> <li>●自転車のすれ違いが大変危険であるため、日産通りの歩道を広げてほしい。</li> <li>●三ツ藤からの立川駅行きバスの増加。</li> <li>●モノレールが具体的に今後、どこを通るのか、市報に載せてほしい（それによって、永住地を決めるため。）。</li> </ul>	(三ツ藤、30～34歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●駅が市内にないため、自家用車を利用することが多いが、環境問題が重視される社会において、納得できない。公共交通として路線バスを利用する事もあるが、本数が少ないうえ、遠回りルートしかないので利用価値が極めて低い。鉄道、モノレールの整備を求めるが、まずは路線バスの本数を増やし、ルートを見直すこと。ルートの増強などの整備を速やかに検討するべきと考える。</li> </ul>	(三ツ藤、30～34歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●用紙と封筒のサイズを同じにして下さい。</li> </ul>	(三ツ藤、35～39歳、男)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●早期モノレール、電車の開通。緑豊かな街並み作り。特産物、建物などをひろめていく。</li> </ul>	(三ツ藤、35～39歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共の交通手段が不便すぎて生活しづらいです。</li> <li>●歩道が狭くて車道を歩く人、自転車も車をよけずに車道を走っています。とても危険です。</li> <li>●市政に対し意見する機会がこれまで全くありませんでしたが、この様な形で伝えられ良かったです。</li> </ul>	(三ツ藤、35～39歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●犯罪も増え、イオンモールむさしのミューのおかげで唯一の交通手段の車利用も不便になり、だからといって駅まで遠い。開発されて住みやすくなると言われて住んでいるのに何十年も全く変わらない。</li> </ul>	(三ツ藤、35～39歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政目線ではなく、市民の目線に合った施策づくりを第一に考えていただきたい。長期計画策定にあたっては、中期ビジョンと将来的なビジョンを明確にし、市民参加型を指向されてはと思う。市内勤務だけでなく、市外労働者の比率は今後増加傾向にあると考えられる事から、そうした市民への対策も講じる必要がある。</li> <li>●陸の孤島のイメージからの脱却も重ねてお願いしたい。都心部で働く労働者(朝6時代前半スタート:1.5～2時の通勤時間)への配慮があまり感じられない。武蔵砂川駅7時間の電車では間に合わない。せめて15～20分前に乗車可能であればと思います。市内循環バスの駅到着時刻の早期化を希望。</li> </ul>	(三ツ藤、45～49歳、男)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の職員数を1/3に減らす。</li> </ul>	(三ツ藤、50～54歳、男)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●村山は交通機関が限られているので、もっと交通機関が充実して欲しいと思います。道路の段差が激しく、自転車での移動が危ない。もっと歩道が広がってほしいと思います。</li> </ul>	(三ツ藤、50～54歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●武蔵村山市は駅のない市として有名です。早くモノレールを延長し、わが市にも駅をとりたい。私たちが生きているうちに実現されるのは夢でしょうか。</li> </ul>	(三ツ藤、55～59歳、女)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●モノレールの早期整備。</li> <li>●武蔵村山市に、東京に今まで以上に力をかけて下さい。</li> </ul>	(三ツ藤、60～64歳、男)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●特色あるまちづくりを推進して欲しい。</li> <li>●狭山丘陵を利用した自然環境公園、遊び場を整備し、他市より人を集めることのできる施設等をつくる。</li> <li>●交通網の充実。新青梅街道を拡幅し、モノレールの延伸を実現化する。</li> </ul>	(三ツ藤、60～64歳、男)

●各自治会交流を充実する。	
●モノレールの早期実現化。 ●横田基地民間共用の実現。	(三ツ藤、65～69歳、男)
●問10の生活環境の諸項目を見ると、立川市など近隣市に比べて劣る項目が多々あります。近隣諸市での施策も是非参考にされて改善、向上に努めていただきたい。	(三ツ藤、70歳以上、男)
●自分達が住んでいる町に対して将来に希望や夢を感じるまちづくりが理想である。盛りだくさんではなくても、1つでも2つでも大きな希望や夢が持てる市民になって住めたら良い。	(三ツ藤、70歳以上、男)
●バスの台数を増やして欲しいです。駅までの交通機関の充実。	(榎、30～34歳、男)
●駅を早くつくって欲しいです。武蔵村山には駅がないので進学塾がありません。子供を進学塾に通わせるために隣の市まで車で送り迎えを3年間しました。私学受験が少ないので学力が低下しているのではないのでしょうか。	(榎、40～44歳、女)
●モノレールはあれで完了ですか。時たま利用しますが自転車で行っても置き場が狭いし、遠い。車で送ってもらおうと人の手が必要だし、武蔵村山まで伸びてきたら本当に便利だと思います。頑張って実現できる様にしてください。 ●残堀川の工事が済んできれいになって良かったなと思いますが、あの近くに布団やゴミ、自転車などたくさん集まっています。きれいになくなったなと思っても、すぐ大量に集まってしまい、景観が汚いです。ゴミ捨て場にならないような、何か工夫ができないのでしょうか。	(榎、55～59歳、女)
●税金をクレジットカードで払えるようにしてほしい。 ●公園を設備してほしい(ブランコとすべり台と鉄棒を完備してほしい。) ●小中学校に冷暖房を付けてください。 ●防犯ブザーを全小学生へ配布。	(榎、70歳以上、男)
●こどもの監視センターの設置(防犯ブザーが鳴ると所在地が分かり、子供と話することができるシステム。)	(榎、70歳以上、男)
●早くプレス工場を住宅地区より動かす。 ●この調査票が入らない封筒がおかしい。	(榎、70歳以上、男)
●もっと公園や空き地等、子供たちが伸び伸びと安全で安心して遊べる場所を増やした方が良いと思います。理由は最近の子供達の遊びは、家で友達とゲームするなど、インドアな遊びが増加していると思います。インドアな遊びは一定の子としか関わりが無く、将来色々な人と交流があった時に上手く対応出来ないと言う人が必ずいると思います。しかし、小さい頃から公園や空き地などで遊んでいると、色々な人に出会い一緒に遊ぶことによって、お金では買えない、とても大切な事を学び将来自分の苦手なタイプの人が出来てもうまく対応できると思います。それだけで、いじめを少しでも減らす事が出来ると思うので、武蔵村山市を便利な町にする事も良いと思いますが、その前に今の子供達にもっと大切な事を学ばせた方が良いのではないのでしょうか。	(学園、15～19歳、男)
●私は雨天の時医療センター入口からバスを使い、玉川上水駅に行くのだが、バスがなくなってしまったため行けなくなりとても困っている。	(学園、15～19歳、男)

<p>●私の場合は学生ですので交通はバスを利用しますが、1時間に2本程度だと雨の日に学校へ向かうちょうど良い時間のバスがありません。特に交通面ではバスの運営の改善を行ってほしいです。</p>	<p>(学園、15～19歳、女)</p>
<p>●交通手段を充実して欲しいです。バスの本数を増やす。</p>	<p>(学園、20～24歳、女)</p>
<p>●モノレールはいらないと思う。あったら便利だろうけど。赤字になるだけ。やるならバス。地域密着型も良いけども目的地までの時間がかかりすぎる。使いやすい、わかりやすいシステムにしてほしい。電光掲示板を使って次は何分後に来るのかわかるようにしたり、その情報をインターネット、携帯電話で確認できるようにしたり。誰でも、簡単、すぐわかるバス交通を期待しています。</p>	<p>(学園、25～29歳、男)</p>
<p>●武蔵村山に引っ越してきてまず交通の不便さに驚いた。立川に出るまでの大変さ、市役所というのは市の中心にあると思っていたのに、どこからバスに乗ればいいのかよくわからず、便の少なさにも驚いた。立川に出るにあたって、モノレールを利用した時に駅に駐輪所があまり無く、公共の駐輪場がないのでどこに置いたらいいのか悩んだ。震災時には主要通路はほぼ使えなくなるらしいが、私たちはどこの道路を使えばいいのかを知らせてほしいです。</p>	<p>(学園、25～29歳、女)</p>
<p>●昨年、他市から転居してきましたが、学童や保育園の設備があまり良くないと思います。建物自体の古さ、耐震性などはもちろんですが、トイレ、ガラス扉など傷んでいるところが多く見られます(特に学童のトイレは男女一緒なのはどうかと思います。)。小中一貫校ができるそうですが、それよりも現状を見て、建て直しや補修、改築などしたほうが良いと思います。また学童の終了時間も18:00と早く、フルタイムでは時間的に厳しくもう少し時間延長できるところはないかと思います。今も急いで迎えに行っているので安心して預けられるところが出来てほしいです。一度、学童、保育園等視察でもされて、早急に対策を検討していただきたいです。</p>	<p>(学園、30～34歳、男)</p>
<p>●ずいぶん長くモノレールの導入と言っているが、実現するとは思えない。どこを通すつもりなのか。早くあきらめた方が良い。公営住宅は贅沢な作りだと思う。駐車場もあるが、車を所有できる収入があるなら援助は必要ないのではないかと。入居基準を見直すべき。住宅街の道路では子供が良く遊んでいる。親も一緒になって遊んでいる。道路は遊ぶ所ではないという指導をすべき。歩きタバコ、ポイ捨ての禁止徹底。</p>	<p>(学園、30～34歳、男)</p>
<p>●保育所の充実。働く事を希望している母親が増えているのに対し、市はそれについていってない。保育所に関しては、早めの対策を願いたい。</p>	<p>(学園、30～34歳、女)</p>
<p>●公園を整備して欲しい。カルチャーセンターを充実させて欲しい。モノレールを所沢駅まで延ばしてほしい。</p>	<p>(学園、30～34歳、女)</p>
<p>●日産跡地の再開発を活性化させて欲しい。モノレールの早期延長をお願いします。</p>	<p>(学園、35～39歳、男)</p>
<p>●武蔵村山市の小中学生の学力が低すぎるのが心配です。父母の様子を見ていても、極端に教育意識が低いようには見えないのに不思議に思います。学力は基盤が大事です。公園や文化事業の充実に力を入れて頂きたい。</p>	<p>(学園、35～39歳、女)</p>

●国立音大も近いので、音大生による子供向けクラシックコンサートなどはいかがでしょうか。私たち親も「家庭力」をつけるように頑張ります。	(学園、35～39歳、女)
●モノレールが市内全部に延長されるよう期待します。	(学園、45～49歳、女)
●市の中心地が欲しいと思います。計画的に道路を整備し、自転車、車、徒歩、車いす、何を使用しても歩きやすい町づくりが充実して欲しいと思います。	(学園、45～49歳、女)
●意識調査は市民の3%の意見等であるため、参考にしつつより良い計画を策定していただきたい。	(学園、50～54歳、男)
●モノレールの1日でも早い導入。 ●三越の撤退は大変残念。市に駅がない事が大きなデメリットになっている。 ●武蔵村山市の民生費の比率が他市に比べて多いと聞いています。バランスを考えてほしいと思います。	(学園、50～54歳、女)
●このアンケートのことで、量的に多すぎて答えるのに負担がかかります。内容が難しすぎて、よく分からない部分が多いです。	(学園、50～54歳、女)
●税金の無駄遣いをしないでほしい。 ●パート職員の時給が高すぎる。 ●小・中の学力が悪すぎるので土曜日にも補習させるのと体力もつけてほしい。 ●給食費を払わない親が多いなら親に弁当・給食を選ばせてきちんとお金を払ってほしい。	(学園、55～59歳、男)
●こちらへ移り住んでまだ半年なので、様子が良くわからずアンケートに印をつけているところもありますが、概ね質問項目に答えているつもりです。	(学園、60～64歳、女)
●住宅開発による営利目的の樹木の伐採は、市政の力で止めさせて頂きたい。生活保護の受給に厳正な審査を望みます。これから暑い季節になりますが、真夏の深夜、浴室の窓を開けての入浴や換気扇のつけっぱなし。ごみのポイ捨てや、ごみ置き場に車で運搬してきたの投げ捨て。たばこの吸い殻や犬の糞の放置。等々、一寸した自覚や気づかいで防げるのですが、モラルの欠如の無さが目立ちます。課題が山積みしている現状の中、市報にて注意を促して下さるとありがたく思います。	(学園、65～69歳、女)
●武蔵村山市民として40年位になるが、ことにあたって総てにおいて「なるようになる。」の平々凡々で、進んで情熱を持って市民全体が盛り上がるの意見や行動がないように思う。モノレール導入に至っては、何の進展もない。責任のある人達も情熱を持って都に日参してでも交渉に至る位の行動が欲しい。そして、市民に呼び声をかけ市民全体の盛り上がりや署名運動に走る位の事が欲しいと思います。東京都で唯一の鉄道交通の無い事を、声を大にして叫び、訴えれば少しは都も心が動くのではないか。旧青梅街道、新青梅街道に100枚ノボリを掲げてみてはどうか。行動を起こしてほしい。市民の署名運動でも、行動情熱。	(学園、70歳以上、男)
●市の図書館の充実をお願いしたいです。現在は午後5時に閉館してしまう館が多くて、学校(大学)から帰宅後の利用がほとんどできません。欲しい資料があっても借りに行けないのが現状です。1つでもよいので、夜も利用できる図書館があると	(大南、15～19歳、女)

嬉しいです。専門書等も置いていただけたらと思います。	
●交通事故が頻発している道や交差点の整備を進めてほしいと思います。また、公共施設、特に小中学校の校舎の耐震工事を進めてほしいと思います。	(大南、15～19歳、女)
●教育、医療、福祉、雇用、商業娯楽施設を充実させ、徹底的に市のイメージ戦略を図っていくべきだ。将来的には立川市との合併も視野に入れるべきである。あと、この調査票は折り曲げずに封筒に入れられるサイズにしてください。	(大南、20～24歳、男)
●東京都の中で駅がないので多摩モノレールの延伸上北台～箱根ヶ崎間（新青梅街道や国道16号）などの整備をしてほしい。また、市内バスを東大和市のように100円均一で利用できるようにすることや、イオンモールから玉川上水、また各地区～玉川上水、武蔵砂川上北台までのバスの本数を可能な限り増やしてほしい。 ●武蔵村山市には医療機関が少ないので増やしてほしい。特に外科・消化器科（大腸・肛門）等。 ●循環器内科などを増やす（クリニックや武蔵村山病院の拡大）などを進めてほしい。 ●市役所や緑が丘出張所などの窓口を土日や時間外（夜8時）までの延長をお願いします。	(大南、20～24歳、男)
●立川に追いつけ追い越せ。	(大南、20～24歳、男)
●駅をつくりましょう。東京都下において、駅の無い田舎と言われているので。	(大南、25～29歳、男)
●公園が他の市と比べて古い、汚い。	(大南、25～29歳、女)
●バスの終バス時間の延長、ダイヤ増。 ●商業施設の充実、イオンモールの充実、交通手段の整備。 ●生涯学習、ポスター、ホームページでの積極的告知。	(大南、25～29歳、女)
●府中市にある子供家庭支援センター「たち」のようなものを村山にもつくってほしい。	(大南、25～29歳、女)
●武蔵村山市は交通機関（電車）の便が悪いと思う。電車で埼玉西武ドームに行きたいと思っても、武蔵砂川からわざわざ狭山まで出て乗りかえて西武ドーム行きに乗って行かなければならないので大変不便である。武蔵砂川から西武ドーム方面行きの電車などの路線があると非常に便利になると思う。あと、駅に無料で置ける自転車置き場があっても良いと思う。小川駅（小平市）、東大和市駅（東大和市）などでは、自転車置き場（無料の）が充実しているのに、武蔵村山市はそういう所が不便で困っている。それから治安も良いとは言えない市であると思う。夜、コンビニや道路に不良やチンピラがたむろっている姿を良く見かける。武蔵村山市に武蔵村山警察署をもうけて、治安の安全にむけて、力をそそいでもらいたいものである。良い街、誰もが安心して快適な生活が送れる様な街に発展する事を願っています。	(大南、30～34歳、男)
●ヘリコプターなどの騒音にストレスが溜まるのでどうかして下さい。	(大南、30～34歳、女)
●コンビニでも払える税金の通知にして欲しい。仕事をしているので平日はなかなか払えないので、休みをとらなければいけなくなる。 ●大量雇用ができるような大型の職場を作って欲しい（コール	(大南、30～34歳、女)

<p>センターや作業系の仕事等。)。そうすれば人も集まるし、私もわざわざ都内まで働きに行く必要もなくなる。どっかの派遣会社とタッグを組んで大型センターつくればいい。</p> <p>●定期的に横田基地内へ入れる日などを作り（一定地域で良いので）横田基地内で買い物とかできるようにしてほしい（横田基地にもお金が入るし、入ることで武蔵村山にも横田から少しお金をもらえるようにするとか。）。</p> <p>●いい加減な市長ではダメだと思います。タレント議員のようにバリバリ活動して市の発展に協力的な人でないとダメ。</p> <p>●武蔵砂川駅辺りに止まっているコミュニティーバスが邪魔です。</p>	
<p>●歩道、自転車道の危険を感じないようにしてほしい。ガードレールや街灯の設置をしてほしい。</p>	(大南、30～34歳、女)
<p>●何をすることも財源であるため、横田基地の民間使用を可能にして商業の充実を図り、税収のUPを図る。</p>	(大南、35～39歳、男)
<p>●子供がボールを蹴ったり投げたりできるような広い広場があれば、コンビニなどにたむろしたりするだけでなく、遊んだり発散できるのではないかな。</p> <p>●公園も小さい子でも遊びやすくしてほしい。今は中学生など占領してしまっていることが多い。</p> <p>●電車を通すのは難しいとしても武蔵砂川駅まで行きやすくなればいいと思う（太い道が1本通るなど。）。</p> <p>●歩道を広くしてほしい。自転車が走るにも狭いと歩道を走ってみたり、車道を走ってみたり非常に危ない。</p>	(大南、35～39歳、男)
<p>●以前、車上荒しにあったのですが、暗かった場所に街灯をたてていただいたので、夜でも大変明るくなりました。安全の為に、暗い道路などに街灯があればいいと思います。あと昼間も夜中も騒音が激しい車やオートバイが通る為、睡眠を妨げられる事がしばしばあります。できることなら、道路を整備していただいて、少しでもそのような車輦は減れば、住みよくなるのではないかと思います。</p>	(大南、35～39歳、女)
<p>●区画整理されていない大南地区は夕立などの雨が降ると道路に水が溢れ出ます。通行人や子供達が自動車に水をかけられたり、大変困っています。細い道路なのに車の往来も多く、歩いても自転車に乗っていても、常に危機感を感じます。少しずつでもいいので、改善されていけばいいなと思っております。</p>	(大南、35～39歳、女)
<p>●まだ住んで4年くらいですが、東京都の中でもさほど大きくない市なのにいろいろ頑張っていると思います。子育ての面、福祉、病院、温泉などなかなか充実しているのではと思います。</p> <p>●ベビーカーなどで歩道を歩いてみると歩道が狭かったり凹凸があったりと時々不便に思うので道路、歩道の整備が充実してくれたら嬉しく思います。</p>	(大南、35～39歳、女)
<p>●鉄道のない市だけに足となる公共バスの本数、路線を増やしてほしい。1時間に1本だけだと大変不便だし、乗り継ぎ等上手く行かないと車でわずか15分程でも平日の子供や年寄りには1時間～1時間30分もかかり、無駄である。</p>	(大南、40～44歳、男)
<p>●私は障害を持っており、2年前に当市に戻ってきました。村山団地に高齢の母が住んでいます。一緒に住みたいのですが入居条件が合わず現在別に住んでいます。この条件を緩和するこ</p>	(大南、40～44歳、男)

とで同じような状況の人たちが武蔵村山に住めるようになり、市民の一人としていろいろな面で寄与できると思います。	
●少子高齢化が問題になっているが、通学路の幅を広げたり、お年寄りが安心して暮らせる市政にしてもらいたい。日産がなくなって財政はよくないが、村山ミューもできたので、子供の医療費助成・児童手当は、所得制限無く全員に受け取れるようにしてもらいたい。	(大南、45～49歳、男)
●幸せを実感できるようなまちづくりに頑張ってください。協力できることがあれば相談には応じたいと思います。	(大南、45～49歳、男)
●大規模農地の活用の設問でその他の「植物公園」と書いた件について。56haとはどの程度の広さかイメージ出来ませんが、農地のままでも良いと思うものの、やはり後継者等の問題で継続させていくことが難しいのかなとも思います。現在の地球環境問題を考えてみた時に、今後大きな天災に遭遇することも有り得るので建造物を造る事には賛成出来ません。従って工業・商業用地等に利用することにも反対です。ショッピングセンター等は充実されてきていますが、精神的に癒される場所が少ない気がします。1年中楽しめる植物(花や木々)を植え、浅めの小川があったり安全な遊歩道(お年寄りや子供に優しい)があったり、少しばかりの小さい山もあったりと、のんびり過ごせて心の和む(癒される)場所、そう考えるとやはり植物公園が良いと思います。植物公園であれば地球にも優しいし、二次的に災害時の避難場所にも利用できるのではどうかあと考えています。小さい子供やお年寄りにとって楽園のような場所で周辺には交番も設け、駐車場完備にして駐車料金を払えば入園料は無料とか、何かしらのサービスを付けて、また行きたいと思う場所になれば最高ですね。きれいな花を見て文句を言う人はいないと思うし、毎年きれいな花が咲けば、行く末は観光スポットになるかもしれませんよね。欲を言えば小さくてもいいので屋外会場(コンサートやイベントが楽しめる)もあればいいかなあとと思います。障害者の人達をも気軽に連れて行けたら言うことなしです。	(大南、45～49歳、女)
●日産の跡地に大きな公園を設けて欲しい。かたくりの湯の市民の入湯料をもっと安くして欲しい。	(大南、50～54歳、男)
●駅がない市などありえないと思います。早期にモノレールなどを。市として自慢できるものが何もない。何かを作るべきです。大南の道路が狭すぎます。美術館をつかって欲しい。	(大南、50～54歳、男)
●昨年度までやっていた誕生日健康診断をやってほしい。	(大南、50～54歳、女)
●こんな長い質問に答えるのは8年ぶりです。今後の市行政に役立てられれば幸いです。自分の意見に少しでも耳を傾けていただけると経験なんて一般人にはないですものね。大南三丁目に住んでいます。市内循環バスが狭い道を通っています。車も同じです。安心して通れる道が欲しい。立川基地のヘリコプター、飛行機の音がうるさい。病気や災害の方々のために頑張ってくださいるのはありがたいのですが、もう少し静かな時間がほしいです。行政の方々良い「市」の運営を心がけてください。	(大南、50～54歳、女)
●モノレールの早期開通。高齢者の長期入院が可能な病院がほしい。市による健康診断の充実。	(大南、55～59歳、男)



<p>●とにかく市というからには鉄道(モノレール)の導入を行い、市といわれる基盤にして欲しい。地域性か地理的か町が汚い。ゴミがあらゆる所に捨てられ、散乱している(捨てられやすい環境なのかも知れない)。政策が旧家からのしがらみで一環していない。大気を汚す工場もある。道が狭く事故も多い。強力な指導力で整理してもらいたい。緑、文化、歴史もあるのだから、交通の便を向上させるべきである。モラルも向上させれば良い都市になると思う。老後の事も健康維持のため、例えば生産緑地を良く調査し、本当に農業を行っていない人(税対策のみと思われる人を多く見かける。)の土地等は市民農園等で広く開放して欲しい。一石五鳥にも六鳥にもなる(今は老人向きのみ。家族で子供達も楽しめるように。)</p>	(大南、55～59歳、男)
<p>●環境保全に車の利用を減らす社会、自転車利用を増やし、健康を増進させる町にしてほしい。</p>	(大南、55～59歳、男)
<p>●玉川上水駅の駐輪場が少なく、料金が高すぎる。大南地区の方は総合体育館に行くのが遠すぎる。まだ一回も行ったことがないので処理場辺りに施設を作って欲しい。</p>	(大南、55～59歳、男)
<p>●図書館の開館時間の延長(夜7:00くらいまで。)</p>	(大南、55～59歳、男)
<p>●市内に高校や大学等多数あるので、視聴覚教室の公開してもらい、映画、演劇、音楽等、文化事業を身近にしてほしい。</p>	(大南、55～59歳、女)
<p>●モノレールの件です。自宅から玉川上水まで遠いです。出来ればもう少し近く何とかなればと思います。交通機関が「まずい」と思います。長く武蔵村山市に実家も今現在も住んでいます。住む所としては、とてもよく、満足しています。仕事で他の市に住んでいますが、やはり武蔵村山に帰ってくると「ホッ」とします。</p>	(大南、55～59歳、女)
<p>●道幅が狭く、非常に危険。</p>	(大南、60～64歳、男)
<p>●子供、障害者、老人など弱者に対する行政サービスを充実して欲しい。</p>	(大南、60～64歳、男)
<p>●このアンケートは広い分野に渡っていて設問が多すぎる。もう少し簡略したアンケートにしてほしい。アンケートに答えて、市の政府に反映されるのでしょうか。特に四小・二中の小中一貫など特定の学校にだけ多額の予算が費やされています。村山の小中の施設や文化的予算が他区・他市と比べて少ないし、給食センターの給食に質などいくらでもお金を使うところはあると思います。次の世代を担う子供や教育に予算をお願いします。</p>	(大南、60～64歳、女)
<p>●天災(台風等)、人災(公害等)の影響の少ない市なので、思いっきり開拓をしてほしい。例えば、地域農家を主とした一か所集中型の大農家を作り、仕事のない人、リタイアして、かつ意欲のある高齢者を募り、地場産の野菜、みかん、りんご、梨、ぶどう等の果物を生産して10年先、20年先を見込んで武蔵村山市に発展のある、潤いのある市にして欲しい。それには行政の援助、補助を惜しまずしてほしい。</p>	(大南、60～64歳、女)
<p>●高齢社会により少しでもお手伝いできたらと考えております。60歳以上の人でも介護の勉強ができる方法があるのか、どこに行けばよいのか、情報が欲しいです。</p>	(大南、60～64歳、女)
<p>●運動施設の充実を各地区にいつでも利用できるように(体育館、プール、練習場など、昼・夜間も。)</p> <p>●武蔵村山の名を各地に広める活動。「街一番」。</p>	(大南、65～69歳、男)

<p>例：市民の人で子供が生まれたら記念樹を名前と桜の木で50～70年で大きくなる市民の森作り。公園、スポーツ場、記念会場など。</p>	
<p>●30年以上も村山市に住みながら、今まで一度もこの町に魅力を感じたり、興味を持ったことがありませんでした。他市への興味の方が大きく、いつか生活の基準を移したいと思いながら、なんとなく現在に至っています。一人一人が村山市に住んでいて良かったと実感し、市を愛し、信頼できるような、質の向上ができるような村山市の個性を出した市政運営、まちづくりに期待しています。暗いイメージでなく、活気ある笑顔あふれる町になるといいです。市民一人一人の意識向上を目指して、退職し、今は村山の良いところ探しをして、楽しんでいます。</p>	<p>(大南、65～69歳、女)</p>
<p>●市民総合体育館に行くのに足の便が悪く、特に高齢者では車も運転できず、不便を感じている。</p>	<p>(大南、65～69歳、女)</p>
<p>●このアンケートの集計等、処理が大変なものと存じます。よろしく願い申し上げます。</p>	<p>(大南、65～69歳、女)</p>
<p>●武蔵村山市に住んで30年過ぎましたが市の行政を問われてもなかなか回答ができなく、今回は大変勉強になりました。もっと市のことを知り、住みよい武蔵村山市と思えるようになりたいと思います。</p>	<p>(大南、65～69歳、女)</p>
<p>●市の老化を防ぐため、以下の取組が必要である。 1. 工場誘致の税優遇、誘致活動 2. 子育て補助（出産、義務教育、医療費補助など） まず若者が他地域から喜んで集まってくるような町づくりをすることが、市政の将来を見つめた最優先施策と思います。それは税収増に繋がり、市財政を豊かにすることに繋がることでしょう。</p>	<p>(大南、65～69歳、女)</p>
<p>●横田基地の軍民共同使用化や近隣市町村との協力、将来の大きな郊外町づくりの計画。 ●市会議員の削減、市の職員の削減に協力すること。 ●各避難広場中心に防災組織を作る。今の自治会の防災では、全員が参加していない。 ●避難広場を多くつくること。また、その避難場所を中心に行うこと。</p>	<p>(大南、70歳以上、男)</p>
<p>●私は自転車で散歩を兼ねてよく出かける。最近、目につくのは農地を開発し宅地化が進められている。これも時代の流れかとも思いますが、それに伴う道路の整備が感心しない。前もって開発建設の許可の申請があると思います。できてしまってから道路を云々言っても難しくなると思います。是非お願いします。いろいろ見ていると狭い道や行き止まりの道が市内にたくさんあります。緊急、災害の際はどうなるのか等、考えてしまいます。</p>	<p>(大南、70歳以上、男)</p>
<p>●インターネットの利用による種々の市政運営は利便性があると思いますが、年齢差による老人はインターネットを不得意としているので、窓口業務の便利さを望む方も多いため忘れないうでほしい。</p>	<p>(大南、70歳以上、女)</p>
<p>●市民にとって、くつろげる場所は自宅です。その自宅で日常的に上空を自衛隊横田基地等のヘリコプターが飛び、騒音と墜落の危険を感じながら生活しているのは安全、安心、文化的な</p>	<p>(大南、70歳以上、女)</p>

環境でないので、是非、早急な改善を強く望んでおります。	
●まず、この意識調査のアンケートをなぜ2,000名にしたのか知りたい。15歳以上というのは分かるが、6万人もの市民がいるのだから、全員に関わらせないといけないと思う。いつ引越すか分からない人達ばかりだが、傍観者をつくらせない運動をしなくてはいけないと思う。武蔵村山だろうが、アメリカだろうが、ヨーロッパだろうが、なんだろうが、そこで根を張る事をしなければ、何も変わらない。東京には武蔵村山市という面白い町がある。そうでないと住んでいる甲斐がない。	(緑が丘、25～29歳、男)
●緑が丘出張所は、以前より対応が少し良くなりましたが、何回も腹が立つ思いをしてきました。それが嫌で市役所まで行きます。	(緑が丘、60～64歳、女)
●都の住宅には不満があり、市の方でも住みよい住宅等(空地)建設してほしい。	(緑が丘、65～69歳、女)
●封筒が小さくて入りません。次のアンケートのときはもっと大きい封筒を用意してください。	(緑が丘、70歳以上、男)
●これからは高齢者が益々増える中で高齢者が住みよい街づくりにしてほしいです。	(緑が丘、70歳以上、男)
●現在、市内バス等運行経路に偏りあり(市役所中心で)交通整備の再確認をお願いします。	(緑が丘、70歳以上、男)
●歩道の整備。高齢者は5mmの段差でも躓いて転びます。段差のない歩道にして下さい。	(緑が丘、70歳以上、女)
●他の市政をもっと勉強すべき。独善的すぎる。視点が市民の側にない。役所からの都合で一方的な情報の伝達、市民の参加を促す情報が欲しい。市の広報課は行動基準を民間優良企業から学んでほしい。	(無回答、無回答、無回答)



## 第 3 章 資料編

---



# 武蔵村山市民意識調査

## ご協力をお願い

日ごろ、市政運営につきまして、ご理解とご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

市では、現在、将来都市像「緑輝く快適ステージ ふれあい文化都市 むさしむらやま」の実現に向け、武蔵村山市第3次長期総合計画に基づき、施策・事業を行っているところです。この第3次長期総合計画は、平成22年度をもって満了することから、平成32年度を目標年度とした第4次長期総合計画を策定することといたしました。

また、男女共同参画社会の形成の促進に係る施策を具体的に展開していくための指針となる武蔵村山市男女共同参画計画（男女Y.O.U・Iプラン）が、平成21年度をもって満了することから、新たな計画を策定することといたしました。

これらの策定にあたっては、市民の皆様のニーズを的確にとらえた施策の展開を図ろうと考えております。そのため、「市民意識調査」を行い、皆様の日ごろ考えていること、感じていることをお聴きし、それらのご意見を踏まえて、よりよい計画づくりを行いたいと考えております。

そこで、市民意識調査の対象として、市内にお住まいの15歳以上の方2,000名を無作為に選ばせていただいたところ、あなたからご意見をいただくこととなりました。

なお、お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしません。

質問の量も多く、答えにくい部分もあるかと存じますが、日ごろお考えになっていることをありのままにお答えくださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。お忙しい中お手数をおかけいたしますが、是非、最後までご回答くださいますよう、重ねてお願いいたします。

平成21年1月

武蔵村山市長 荒井三男

### 【ご記入にあたってのお願い】

1. アンケートのご回答は、必ずあて名にあるご本人がお書きください。
2. 各項目について、お気軽に感じたままをお答えください。
3. 回答項目のうち、あてはまると思われるものの番号に○を付けてください。
4. ○の数は、(○は1つ)(○は3つまで)といった( )内の指定に合わせて付けてください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、( )内にその内容を具体的にお書きください。

調査票をご記入いただけましたら、恐縮ですが同封の返信用封筒（切手は不要）で、**2月22日（日）まで**に郵便ポストに投稿してください。住所・名前はお書きにならないで結構です。

この調査票についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

### 【問い合わせ先】

武蔵村山市 企画財務部 企画政策課

電話：042（565）1111（内線372）

# 武蔵村山市民意識調査票

## 回答者の属性

問1 あなたの性別はどちらですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- |     |
|-----|
| 1 男 |
| 2 女 |

問2 あなたは、何歳ですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 1 15～19歳 | 5 35～39歳 | 9 55～59歳  |
| 2 20～24歳 | 6 40～44歳 | 10 60～64歳 |
| 3 25～29歳 | 7 45～49歳 | 11 65～69歳 |
| 4 30～34歳 | 8 50～54歳 | 12 70歳以上  |

問3 あなたは、武蔵村山市に住んで何年になりますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- |            |              |              |
|------------|--------------|--------------|
| 1 2年未満     | 3 5年以上10年未満  | 5 20年以上30年未満 |
| 2 2年以上5年未満 | 4 10年以上20年未満 | 6 30年以上      |

問4 あなたがお住まいの地区は次のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- |       |        |        |
|-------|--------|--------|
| 1 中藤  | 6 岸    | 11 榎   |
| 2 神明  | 7 中原   | 12 学園  |
| 3 中央  | 8 残堀   | 13 大南  |
| 4 本町  | 9 伊奈平  | 14 緑が丘 |
| 5 三ツ木 | 10 三ツ藤 |        |



問5 あなたのお住まいは次のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

1 持ち家（一戸建て）	6 都営住宅
2 民間分譲マンション	7 市営住宅
3 公団住宅（※）・公社住宅（分譲）	8 社宅・寮
4 公団住宅（※）・公社住宅（賃貸）	9 間借り・住み込み
5 民間賃貸住宅	10 その他（ ）

※ 公団住宅：日本住宅公団（現、都市再生機構）が供給した住宅

問6 あなたの職業は次のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

1 自営業	4 公務員	7 主婦
2 自由業	5 パート・アルバイト	8 内職
3 会社員・団体職員	6 学生	9 無職
		10 その他（ ）

(問6で「1」～「6」とお答えの方に)

問6－(1) あなたの勤め先または通学先はどこですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

1 武蔵村山市内
2 武蔵村山市以外の多摩地区
3 東京 23 区
4 その他（ ）

(問6で「1」～「6」とお答えの方に)

問6-(2) あなたは、勤め先または通学先までの交通手段として何を利用していますか。

次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 JR
- 2 西武線
- 3 モノレール
- 4 路線バス
- 5 市内循環バス
- 6 公共交通を利用しない

問7 勤め先または通学先まで、「公共交通を利用しない方」及び「公共交通を利用する方の最寄駅（もしくはバス停）まで」の交通手段は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 自家用車
- 2 バイク、原付
- 3 自転車
- 4 徒歩
- 5 その他 ( )

### 市の将来像

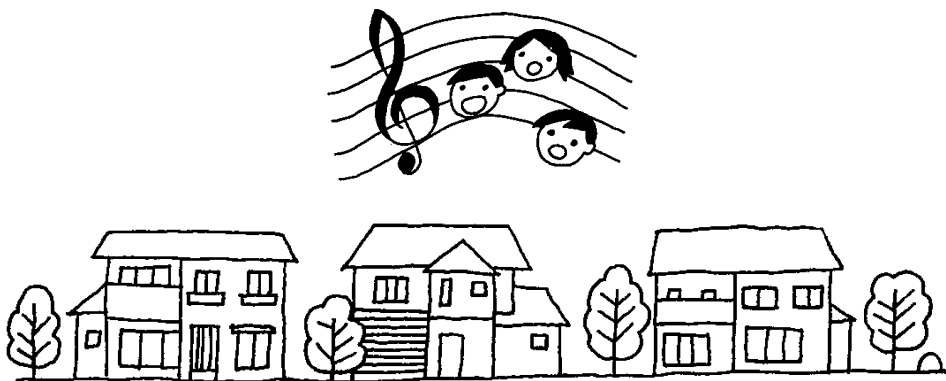
問8 あなたは、今後武蔵村山市がどのように発展するのが望ましいと思いますか。次の中から2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 生活環境と自然環境が調和したまち
- 2 文化と教育のかおりあふれるまち
- 3 安全安心で健やかなまち
- 4 地域コミュニティの充実した潤いあるまち
- 5 自立性の高い秩序あるまち
- 6 現状のままでよい
- 7 その他 ( )
- 8 わからない

**生活環境の満足度**

問9 武蔵村山市での生活・暮らしについて、あなたはどのように感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不満である
- 5 不満である



問 10 あなたの暮らしをとりまく身近な生活環境について、あなたはどのように感じていますか。次の（１）～（２５）のそれぞれについて、あてはまる回答の番号を１つずつ選んでください。（○はそれぞれに１つ）

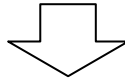
		満足している	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	どちらかといえば不満	不満である
安全さ	(1) 地震・火災などからの安全さ	1	2	3	4	5
	(2) 道路・交通の安全さ	1	2	3	4	5
	(3) 犯罪・風紀などの防犯	1	2	3	4	5
便利さ	(4) 日常の交通の便利さ	1	2	3	4	5
	(5) 日常の買物の便利さ	1	2	3	4	5
快適さ	(6) 公園や緑地の状況	1	2	3	4	5
	(7) 子どもの遊び場の状況	1	2	3	4	5
	(8) 雨水などへの対策	1	2	3	4	5
	(9) 公害（騒音・振動・悪臭など）への対策	1	2	3	4	5
	(10) ごみ処理の状況	1	2	3	4	5
	(11) 道路の整備状況	1	2	3	4	5
保健・医療	(12) 病気になったときの医療機関	1	2	3	4	5
	(13) 生活習慣病の検診などの保健事業	1	2	3	4	5
	(14) 休日・夜間などの救急診察	1	2	3	4	5
教育・福祉	(15) 子どもの教育施設や福祉施設	1	2	3	4	5
	(16) 教養を高める機会	1	2	3	4	5
	(17) スポーツ・レクリエーション活動の場や機会	1	2	3	4	5
	(18) 保育サービスなどの子育て環境	1	2	3	4	5
	(19) 高齢者や障害者への福祉サービスや施設	1	2	3	4	5
行政	(20) 市報やホームページなどの広報	1	2	3	4	5
	(21) 市長への手紙、おたよりボックスなどの市への要望などを伝える方法	1	2	3	4	5
	(22) 市役所の利用のしやすさ	1	2	3	4	5
	(23) 情報公開などの開かれた市政	1	2	3	4	5
	(24) 女性をとりまく環境	1	2	3	4	5
	(25) 市民参加・市民協働	1	2	3	4	5

**市のまちづくり施策**

問 11 武蔵村山市は住みよいまちづくりを目指して、さまざまな施策に取り組んでいますが、あなたが特に力を入れて欲しいと望まれることは何ですか。次の中から要望の強いものを5つまであげて、高い順に番号を記入してください。(高い順に5つまで番号で)

分 野	施 策
活力にあふれた にぎわいのある まち	(1) 都市核（まちの中心）の形成
	(2) モノレールの導入
	(3) 農業の振興
	(4) 商工業の振興
	(5) 観光の振興
	(6) 横田基地の軍民共用化
四季の彩りに いだかれる 快適なまち	(7) 地球環境・自然環境の保全
	(8) 景観・街並みの形成
	(9) 道路の整備
	(10) バス交通の整備
	(11) 公園・緑地の整備
	(12) 住宅・宅地の整備
	(13) 雨水排水の整備・充実
	(14) 廃棄物処理とリサイクルの推進
	(15) 防災・消防対策の充実
	(16) 交通安全・防犯対策の充実
	(17) 消費者生活の安定と向上
健康でぬくもりの あるまち	(18) 健康づくりの推進
	(19) 保健・医療の充実
	(20) 高齢者福祉の充実
	(21) 障害者福祉の充実
	(22) 子育て支援の充実
	(23) 社会保障制度の適切な運用
ともに学び ふれあう 創造性を育む まち	(24) 生涯学習の充実
	(25) 学校教育の充実
	(26) スポーツ・レクリエーション活動の充実
	(27) コミュニティの振興・市民相互の交流促進
	(28) 男女共同参画の推進

構想実現に向けて	(29) 市民参加の推進
	(30) 効率的で健全な行財政運営
	(31) 周辺市町村との連携強化
	(32) 情報化の推進
その他	(33) その他 ( )



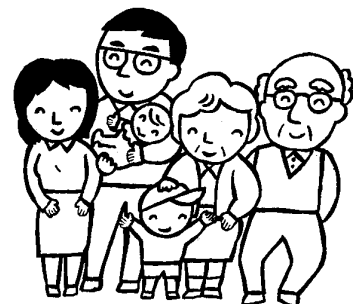
5つ選んで優先順位の高い順に番号を記入してください

1 位	2 位	3 位	4 位	5 位

### 土地利用

問 12 あなたは、今後、武蔵村山市内の土地利用をどのように推進していくべきと思いますか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

<p>1 戸建住宅など低層の住宅地</p> <p>2 マンション等の中高層住宅地</p> <p>3 店舗が多く品揃えが豊富で賑やかな商業地</p> <p>4 積極的な企業立地を図った工業地</p> <p>5 生産緑地地区などの農地保全を図った土地利用</p> <p>6 緑地を保全した緑豊かな土地利用</p> <p>7 その他 ( )</p>
---



**都市基盤整備**

問 13 あなたは、今後、どのような都市基盤整備を推進していくべきと思いますか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- 1 モノレールの早期開通
- 2 バス路線の増加・充実
- 3 自動車道の整備
- 4 段差解消などバリアフリー化の推進
- 5 歩道の整備、歩車道の分離、車両の交通規制などの交通安全対策
- 6 新しい都市計画道路の整備
- 7 身近な生活道路の整備、道路の拡幅
- 8 比較的小規模な公園の整備 (街区公園)
- 9 比較的大規模な公園の整備 (総合公園)
- 10 雨水排水の整備
- 11 土地区画整理事業 (※)
- 12 その他 ( )
- 13 わからない

※ 土地区画整理事業：ある一定の区域（施行地区）において、公共施設（道路・水路・公園等）の整備改善と宅地の利用増進を図るために行われる事業

問 14 あなたのお住まいからどこまでの交通手段を円滑にしてほしいですか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 駅 (駅名： )
- 2 市役所
- 3 緑が丘出張所
- 4 市民総合体育館
- 5 村山温泉かたくりの湯
- 6 都立野山北・六道山公園 (里山民家など)
- 7 その他の公共施設 (施設名： )
- 8 その他 ( )

**大規模農地の活用**

問 15 残堀・中原地区には、広大な市街化調整区域内農地約 56ha（大規模農地）があり、優良農地として保全されていますが、今後のまちづくりの進展に伴い、開発等が必要となった場合、どのように活用したらよいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。（○は1つ）

- 1 横田基地の軍民共同使用に関連する施設の整備
- 2 物流拠点の整備
- 3 大規模商業施設の整備
- 4 先端技術産業の誘致
- 5 住宅の開発
- 6 その他（ ）

**定住意向**

問 16 あなたは、今後も武蔵村山市に引き続き住みたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。（○は1つ）

- 1 住みたいと思う
- 2 住みたいと思わない
- 3 わからない

（問 16 で「1」とお答えの方に）

問 16-（1）あなたが住みたいと思う理由は何ですか。次の中から主なものを2つ選んでください。（○は2つまで）

- 1 家や土地を持っているから
- 2 隣近所の間人間関係がよいから
- 3 地域に愛着があるから
- 4 生活に便利だから
- 5 市に発展性があり、将来に期待できるから
- 6 通勤・通学に便利だから
- 7 緑が多く、自然環境がよいから
- 8 子育てをする環境がよいから
- 9 高齢者・障害者にも生活しやすいから
- 10 その他（ ）



(問16で「2」とお答えの方に)

問16ー(2) あなたが住みたいと思わない理由は何ですか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 借家・借地だから
- 2 隣近所の間人間関係がうまくいかないから
- 3 地域に愛着がないから
- 4 生活に不便だから
- 5 市に発展性がなく、将来に期待できないから
- 6 通勤・通学に不便だから
- 7 自然環境がよくないから
- 8 子育てをする環境がよくないから
- 9 高齢者・障害者には生活しにくいから
- 10 その他 ( )

#### 産業振興

問17 あなたは、市の産業振興として次のうちどれが重要だと思いますか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 特産品づくりや後継者の育成など都市農業の振興
- 2 地域ブランド認証制度(※)を充実し、市内で生産される商品の付加価値を高めること
- 3 市民農園や直販所の整備など市民と農業の交流機会の充実
- 4 消費者ニーズに対応した商店街の整備・振興
- 5 既存企業・工場の育成・支援
- 6 工場の誘致
- 7 中小企業の経営安定化への支援
- 8 大学や研究所等の誘致
- 9 観光イベントの充実
- 10 他の自治体との産業交流
- 11 その他 ( )
- 12 わからない

※ 地域ブランド認証制度：武蔵村山市内にある魅力ある商品を武蔵村山地域ブランドに認証し、これを広く他の地域に発信、供給して、武蔵村山地域ブランドのブランドイメージの定着と向上を図る事業

**環 境**

問 18 よりよい環境づくりのために、あなたは、市として特にどのような分野に取り組むべきだと思いますか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| 1 家庭・事業所等の省エネ対策      | 12 史跡・文化財など歴史的環境の保全           |
| 2 川や大気などの汚染対策        | 13 環境に配慮した市民活動や企業活動への支援       |
| 3 家庭・事業所等から出るごみの減量   | 14 環境に関する情報の収集と提供             |
| 4 リサイクルの推進           | 15 環境学習・環境教育の推進               |
| 5 省エネやリサイクルに率先して取り組む | 16 市民・事業者・行政が協力して取り組むための体制づくり |
| 6 水辺環境の保全            | 17 その他 ( )                    |
| 7 雨水利用など水循環対策        | 18 特にない                       |
| 8 公園や緑地など身近な緑の保全     |                               |
| 9 自然環境の保全            |                               |
| 10 自然の動植物の保護         |                               |
| 11 美しい街並みの保全整備       |                               |

**安全安心（防災、消防、防犯、交通安全等）**

問 19 安全安心なまちづくりを行う上で、あなたが市に特に力を入れて欲しいと思うことは何ですか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1 身近な避難場所・避難所の保全・整備                  |  |
| 2 建築物の耐震化、狭隘道路の解消                    |  |
| 3 情報連絡体制の充実                          |  |
| 4 高齢者や障害者などの災害弱者への対策                 |  |
| 5 防災訓練などの実施                          |  |
| 6 空き巣などの窃盗犯罪への対策                     |  |
| 7 ひったくり、暴行など路上犯罪への対策                 |  |
| 8 子どもに対するいたずらや暴力への対策                 |  |
| 9 痴漢などの性的犯罪への対策                      |  |
| 10 交通安全教育、交通安全運動の強化・充実               |  |
| 11 市道の隅切や防護柵、道路反射鏡、道路照明灯などの交通安全施設の整備 |  |
| 12 その他 ( )                           |  |
| 13 特にない                              |  |

### 消費生活

問 20 消費者支援のために、行政としてどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 市民の多種多様な相談に対応できるような消費者相談サービスの充実
- 2 商品・サービスの質や販売方法についての消費生活情報の収集・提供体制の強化
- 3 消費者教育講座や消費生活展の開催などによる消費者の教育と啓発活動の強化
- 4 多様な消費者団体の組織化や活動の支援
- 5 ホームページ、広報誌等による食品衛生情報の提供
- 6 消費者・事業者・行政による情報・意見交換会の開催
- 7 その他 ( )
- 8 わからない

### 高齢者施策

問 21 本格的な高齢社会に向けて、あなたはどのような施策が重要だと思いますか。あなたのお考えに近いものは何ですか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- 1 高齢者にやさしい交通機関や施設、道路・歩道の整備
- 2 高齢者に配慮した住宅の確保・整備
- 3 高齢者の雇用・就業機会の確保
- 4 高齢者に対する医療制度
- 5 寝たきりや認知症にならないための予防対策
- 6 寝たきりや認知症に備えた財産の保全などの対策
- 7 ホームヘルパーなどの在宅サービス
- 8 特別養護老人ホームなどの施設サービス
- 9 生涯を通じた健康づくり
- 10 高齢者と若い世代との交流の促進
- 11 その他 ( )
- 12 わからない

### 障害者施策

問 22 今後、障害のある人の自立のための支援として、市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- 1 誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備
- 2 公営住宅への障害者優先入居や障害者向け住宅の整備などの住宅施策の充実
- 3 障害者の雇用・就業機会の確保
- 4 職業紹介や訓練、就労した後の指導や支援の充実
- 5 災害時の障害者救援対策や、緊急時の対応の充実
- 6 障害の種類や程度に応じた障害児教育の充実
- 7 授産施設等への支援や、障害者がつくった作品などの常設展示即売場の開設
- 8 点字、手話などのコミュニケーション方法の普及・充実
- 9 障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発
- 10 相談窓口や、障害者のためのネットワークづくりなどの情報提供の充実
- 11 スポーツ・文化活動を通じた障害者の社会参加の充実
- 12 ボランティアの育成と活動の支援
- 13 その他 ( )
- 14 わからない

### 子育て施策

問 23 あなたが安心して子育てを行うためには、市は特にどのようなことをする必要あると思いますか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 公園など子どもにとって魅力のある遊び場の確保
- 2 ファミリー・サポート・センター (※) の充実
- 3 病後児保育の充実
- 4 子育てに悩む親への相談業務の充実
- 5 保健所・医療機関などについての情報提供
- 6 保育所・一時保育・ショートステイなど未就学児に対する保育サービスの充実
- 7 児童館・学童クラブなど、学童への子育て支援サービスの充実
- 8 子育てサークルなど、自主グループの育成
- 9 男性の育児参加を進める活動の促進
- 10 子どもの医療費助成・児童手当など、子育てをする世代への経済的支援
- 11 その他 ( )
- 12 わからない

※ ファミリー・サポート・センター：働く人々の仕事と子育てを支援するために、地域において育児の援助を受けたい人で行いたい人を会員として登録し、援助活動の調整等の事業を行うもの。

**社会保障制度**

問 24 現在、社会保障給付費が増加しています。あなたは社会保障制度（年金・医療・介護保険など）の今後についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。（○は1つ）

- 1 保険料負担（支払）を許容できる範囲にとどめるためには、受けるサービスの水準の抑制も仕方がない
- 2 保険料負担（支払）を増やしてでも、受けるサービスの水準は維持、向上させるべき
- 3 その他（ ）
- 4 わからない

問 25 あなたは、ご自身の老後生活において、社会保障制度をどのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。（○は1つ）

- 1 社会保障制度を中心にして、個人年金や貯蓄を組み合わせる
- 2 社会保障制度にはできるだけ頼らず、個人年金や貯蓄を中心に考える
- 3 ほぼ全面的に社会保障制度に頼る
- 4 その他（ ）
- 5 わからない

### 生涯学習

問 26 あなたは、生涯学習をより一層充実させるためには、市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- 1 学習活動に関する情報をいろいろな媒体を通して提供する
- 2 学習するための施設の充実
- 3 講座や教室の内容の充実
- 4 土日や夜間の講座の充実
- 5 高齢者・女性・勤労者・青少年といった対象ごとの講座の充実
- 6 祭りや催し物など市民の親睦が深められるような場の充実
- 7 小・中学校の施設の開放
- 8 学習相談窓口の充実
- 9 学習の成果を発表できるような場づくり
- 10 異世代交流を促進するような講座を増やす
- 11 学習の成果を地域や社会に還元できるようなしくみづくり
- 12 スポーツ・レクリエーションの機会の充実
- 13 その他 ( )
- 14 わからない

### 教育

問 27 子どもたちの教育をより一層充実するためには、市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 子どもたちの基礎的な学力の向上  | 9 教職員の研修の充実                 |
| 2 子どもたちが相談できる体制づくり | 10 学校施設・設備の充実               |
| 3 子どもたちの体力・健康の向上   | 11 特別な教育支援の必要な子どもたちの教育環境の充実 |
| 4 不登校などの子どもへの対応の充実 | 12 休日の活動機会の充実               |
| 5 クラブ活動の充実         | 13 学習の指導者として市民登用            |
| 6 1クラスの児童生徒数の削減    | 14 外国人などとの交流機会の充実           |
| 7 人に対する思いやりの心の育成   | 15 その他 ( )                  |
| 8 自然や福祉など体験学習の充実   | 16 わからない                    |

コミュニティ・交流

問 28 現在、地域における自治会の加入率は低下しており、災害時の防災面や日常の防犯面等における地域力の欠如が問題となっています。

あなたは、自治会についてどのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 とても重要である
- 2 どちらかといえば重要である
- 3 あまり重要でない
- 4 全く重要でない
- 5 わからない

問 29 あなたのご家庭は、地域の自治会に加入していますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 加入している
- 2 加入していない
- 3 わからない

(問 29 で「2」とお答えの方に)

問 30 あなたが自治会に加入しない理由は何ですか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 仕事や子育てなどで忙しく時間がない
- 2 自治会に関心がない
- 3 自治会に関心はあるが、活動の内容に魅力がない
- 4 隣近所とのつきあいがわずらわしい
- 5 加入者とうまく打ち解けることができない
- 6 いずれ役員・当番を務めることとなり、面倒である
- 7 近い将来、転居や市外への転出が予想される
- 8 自治会が何を行っている組織なのかわからない
- 9 加入の仕方がわからない
- 10 会費を負担したくない
- 11 その他 ( )





問 34 「男女共同参画社会」とは、性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性や能力が十分に発揮でき、男女がともに支え合う社会のことです。

男女共同参画社会の実現に向けて、あなたが市に対して特に力を入れて欲しいと思う施策は何ですか。次の中から主なものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- 1 市政への女性市民の参画・登用の促進（審議会など）
- 2 情報ネットワークづくりのための女性センター等活動拠点の充実
- 3 地域活動などにおける女性リーダーの育成
- 4 男女平等、男女共同参画などに関する相談窓口の充実
- 5 学校教育の場での男女平等（共同参画）教育の推進
- 6 保育所、学童クラブなどの子育て支援施設
- 7 健康診断等の健康対策
- 8 男女平等（共同参画）を進める PR 事業、広報誌の発行などの活動
- 9 男女平等（共同参画）に関する講座、学習会等の開催
- 10 高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスによる女性の負担軽減
- 11 その他（ )
- 12 特になし

問 35 あなたは、DVについて、どう思われますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

◆DV（ドメスティック・バイオレンス）とは…

夫（妻）や恋人など身近な人からの女性（男性）への暴力のこと。

暴力の種類は殴る、蹴るなど身体的な暴力だけでなく、言葉などで精神的に追い詰める精神的暴力など多岐にわたります。

2001年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が施行され、2004年12月に改正・施行されています。

- 1 DVは人権を侵害する行為である
- 2 どんな理由があっても暴力はふるうべきではない
- 3 暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある
- 4 精神的暴力はDVではない
- 5 暴力をふるう相手とは別れたらいい
- 6 暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対応が必要な問題だ
- 7 夫婦間の暴力でも警察や行政等が積極的にかかわるべきである
- 8 その他（ )
- 9 わからない

問 36 あなたは、DVについて、経験したことや見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- 1 命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある
- 2 医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある
- 3 医師の治療が必要ない程度の暴力を受けたことがある
- 4 身近に暴力を受けたり、ふるったことのある当事者がいる
- 5 身近な人から相談を受けたことがある
- 6 身近にはないが、そうした話を聞いたことがある
- 7 テレビや新聞などで、問題になっていることは知っている
- 8 その他 ( )
- 9 暴力を受けたことを見聞きしたことはない

(問 36 で「1」～「5」とお答えの方に)

問 36- (1) これまでDVについて誰かに打ち明けたり、相談をしたことがありますか。  
次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- 1 警察に連絡・相談した
- 2 公的な相談窓口や電話相談に相談した
- 3 民間の機関(弁護士など)に相談した
- 4 医師・カウンセラーに相談した
- 5 家族に相談した
- 6 友人・知人に相談した
- 7 その他 ( ) に相談した
- 8 どこ(誰)にも相談しなかった

(問 36- (1) で「8」とお答えの方に)

問 36- (2) 相談しなかったのはなぜですか。次の中から主なものを3つ選んでください。

(○は3つまで)

- 1 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 自分にも悪いところがあると思ったから
- 4 相談するほどのことでもないと思ったから
- 5 他人を巻き込みたくなかったから
- 6 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 7 世間体が悪いから
- 8 そのことについて思い出したくなかったから
- 9 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力をうけたりすると思ったから
- 10 相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思ったから
- 11 どこ(誰)に相談したらよいかわからなかったから
- 12 その他( )
- 13 わからない

問 37 女性に対する暴力について、次の相談機関の中で、知っているものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- 1 東京ウィメンズプラザ
- 2 東京都女性相談センター
- 3 男女共同参画センター(緑が丘ふれあいセンター内)
- 4 市役所母子相談
- 5 市役所人権相談
- 6 保健相談センター
- 7 警察・交番
- 8 民間の相談機関(弁護士会、シェルター(※)など)
- 9 その他( )
- 10 知らない

※ シェルター：配偶者等から暴力の被害を受けた女性等を一時保護する施設

問 38 DVをなくすために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- 1 暴力防止のための啓発を進める
- 2 被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する
- 3 相談機関を充実させる
- 4 被害者を保護する体制を充実する
- 5 被害者が自立して生活できるように支援する
- 6 暴力をふるう加害者への対策を進める
- 7 その他 ( )
- 8 わからない

問 39 あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて、どの程度知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

◆ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは…

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動を、自らが希望するバランスで展開できる状態です。

なお、以下の質問における用語の意味は次のとおりとします。

○「仕事」

自営業、家族従業者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤（フルタイム）、パート、アルバイト、嘱託などは問わない。

○「家事」

家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買物など）、育児、介護・看護など

○「プライベートな時間」

趣味・娯楽、地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、スポーツなど

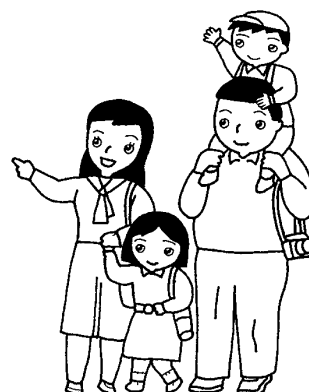
- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- 3 言葉も内容も知らない

問 40 生活の中での、「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 「仕事」優先
- 2 「家事」優先
- 3 「プライベートな時間」優先
- 4 「仕事」と「家事」優先
- 5 「仕事」と「プライベートな時間」優先
- 6 「家事」と「プライベートな時間」優先
- 7 「仕事」と「家事」と「プライベートな時間」を両立

問 41 生活の中での、「仕事」、「家事」、「プライベートな時間」の優先度について、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 「仕事」優先
- 2 「家事」優先
- 3 「プライベートな時間」優先
- 4 「仕事」と「家事」優先
- 5 「仕事」と「プライベートな時間」優先
- 6 「家事」と「プライベートな時間」優先
- 7 「仕事」と「家事」と「プライベートな時間」を両立



問 42 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラス効果として考えられることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- 1 家事・育児・介護などの家庭責任の役割の明確化と負担の軽減
- 2 女性の継続就業や、再就職のしやすさ
- 3 自己啓発や趣味の時間など個人の時間の増加
- 4 地域活動にかかわる機会の増加による地域の活性化と安全性の向上
- 5 長時間労働の削減、心身の健全化
- 6 女性や高齢者など多様な人材活用による労働力不足の解消
- 7 一人ひとりの仕事への満足度の向上、生産性の高い効率的な働き方の実現
- 8 安心して子どもを産み育てることができる環境の形成
- 9 仕事と家庭の両立環境や子育て環境の整備
- 10 個々の様々なニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境の提供による従業員の意欲や満足度が向上
- 11 その他（ )
- 12 わからない

#### 市民参加

問 43 よりよい社会の実現のために、あなたは今後、どのようなかたちで行政にかかわっていきたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- 1 行政や関係団体などに対して意見を述べる
- 2 行政の計画策定の段階からメンバーとして参加する
- 3 行政が主催する活動の場に参加したり、行政の募集に応じてボランティアとして活動する
- 4 自分たちで計画をつくり、行政に働きかけて実現を目指す
- 5 自分たちで計画をつくり、他の市民の賛同を得て実現を目指し、必要に応じて行政などと協力し合う
- 6 自分たちで計画をつくり、行政には期待せず、自ら実現を目指す
- 7 行政の活動に対して監視・評価を行う
- 8 その他（ )
- 9 特に考えていない、かかわる気持ちはない
- 10 わからない

## 市民協働

問 44 次にあげる活動の中で、あなたが参加していること、または参加が可能なものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- |                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 保健、医療又は福祉の増進を図る活動      | 10 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動     |
| 2 社会教育の推進を図る活動           | 11 子どもの健全育成を図る活動           |
| 3 まちづくりの推進を図る活動          | 12 情報化社会の発展を図る活動           |
| 4 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 | 13 科学技術の振興を図る活動            |
| 5 環境の保全を図る活動             | 14 経済活動の活性化を図る活動           |
| 6 災害救援活動                 | 15 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動 |
| 7 地域安全活動                 | 16 消費者の保護を図る活動             |
| 8 人権の擁護又は平和の推進を図る活動      | 17 その他 ( )                 |
| 9 国際協力の活動                | 18 特にない                    |

## 行政評価

問 45 市では、平成 14 年度から行政評価制度を試行・導入しています。行政の評価の結果はホームページ、図書館などで公表されていますが、あなたは見たことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- |                            |
|----------------------------|
| 1 評価結果を見たことがある             |
| 2 行政評価は知っているが、評価結果は見たことがない |
| 3 行政評価を知らない                |

(問 45 で「1」又は「2」とお答えの方に)

問 46 行政評価制度において注目する項目は何ですか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 事業の目的    | 6 二次評価    |
| 2 事業の内容    | 7 外部評価    |
| 3 事業費      | 8 その他 ( ) |
| 4 事業の実績・成果 | 9 特にない    |
| 5 自己評価     |           |

### 広域行政

問 47 現在、市では消防、ゴミ、病院、斎場など、周辺の自治体と相互に協力して行政サービスの提供を行う「広域行政」が進められています。今後、広域行政でどのような事業を行うべきだと思いますか。次の中から主なものを2つ選んでください。(○は2つまで)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 スポーツ交流         | 6 イベントなどの情報の相互発信 |
| 2 文化事業の交流        | 7 農・商・工業などの情報交換  |
| 3 図書館・集会施設の広域利用  | 8 コミュニティバスの連携    |
| 4 スポーツ・文化施設の広域利用 | 9 その他 ( )        |
| 5 狭山丘陵などの観光資源の活用 | 10 わからない         |

### 情報公開

問 48 あなたは、市に関する情報公開について、今後どのような手段による情報公開のサービスの充実を求めますか。次の中からすべて選んでください。(○はいくつでも)

- |                   |
|-------------------|
| 1 市報、広報誌          |
| 2 ホームページ          |
| 3 携帯電話、メールマガジン    |
| 4 回覧板             |
| 5 ポスター、掲示板        |
| 6 新聞などのマスメディア     |
| 7 市で発行しているその他の印刷物 |
| 8 その他 ( )         |
| 9 特に情報を得たいとは思わない  |



**インターネット上での行政手続**

問 49 インターネットを活用した行政手続において、今後どのようなサービスの充実を求めますか。次の中からすべて選んでください。(○はいくつでも)

1 各種イベントの申し込み	6 各種公開されている審議会などの傍聴の申し込み
2 各種公共施設の予約	7 その他 ( )
3 各種許認可の申請	8 特にな
4 各種証明書発行の申請	
5 税金などの納付手続き	

**自由意見**

問 50 最後に、新たな長期総合計画策定にあたって、市政運営やまちづくりに対するご意見ご要望がありましたらご自由にお書きください。


質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。



# 武蔵村山市民意識調査 報告書

平成 21 年 9 月

編集・発行／ 武蔵村山市企画財務部企画政策課  
〒208-8501 武蔵村山市本町一丁目 1 番地の 1  
電話 (042) 565-1111 (代)